

秘妙
傳術
圍碁
圖解

特257

262

始



特257
262

八段高部道平著



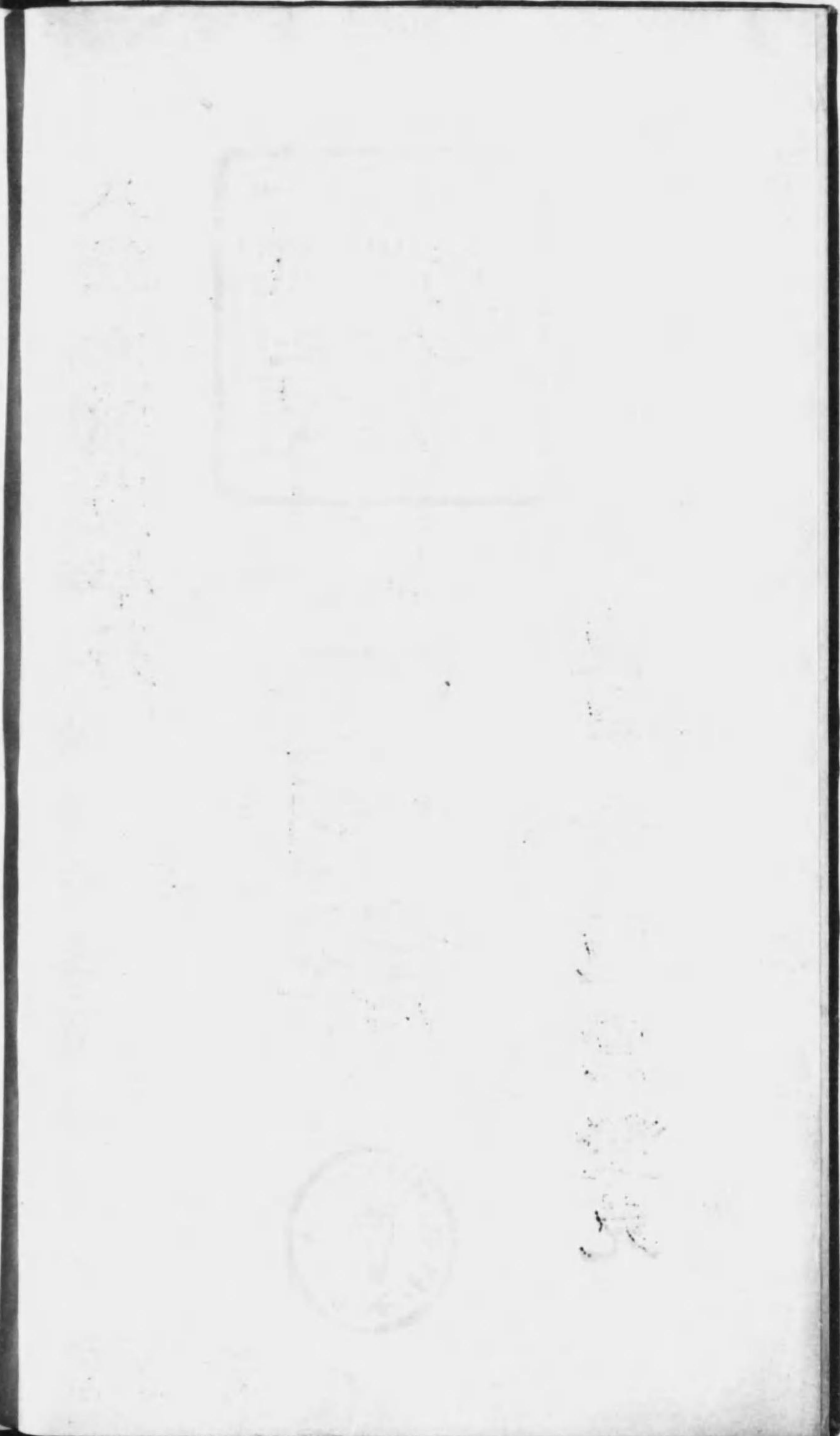
秘妙
傳術
圍碁圖解

東京金竜堂發兌





影近の生先平道部高 段 八



妙術圍碁圖解

八段 高部道平 著

碁を圍む人々の中に、兩道の分れがある。一は入門から教師に就いて習ひ、順序正しく布石、定石などの、平和的手段を専らとし。俗に品のよい花魁碁と稱され、風格は先づ君子と云つた態度で、大器晩成を樂しむ人。

一は獨學我流で押し通し、盲滅法に力一杯打ち廻す、されば碁の原理構成には暗いけれど、力戰襲撃を専らとする、従つて腕力に長じ、相手の石さへ見れば、奮取本位の、即戰即勝を好む人。

それは一寸極端の例であるが、その前者が力の疎い未完成で「碁は多年やつて居るが、中々上達しない、自分ながらも呆れた」と云ふ、歡聲を漏らして居る。

この歡聲は蓋し、敗局多々に因る悲觀であらう。何となれば、後者に出會つて一局の経過の中に、幾度となく勝負所の絶好の機會に間誤つき、とんでも無い所に石を打ち忽ち慘敗苦杯。

實際、みぢめな三敗、にがい九敗では、笑いや洒落ごとちやあない、如何に上品な君子でも、一寸焦れもし、歡聲も出るだらう。最後の榮冠は勝つにあり、全力を傾倒して、碁道の原理を研究すべきである。

ところで本書妙傳圖解は、題名が如實に語る如く、古來幾多の先哲の妙手を傳へ、名局の實戦に現れた奇手を解剖し、玄妙不思議な手筋と手所の、攻防を圖解したもので圍碁の精魂、決勝點とも云ふべき、急所の秘術である。

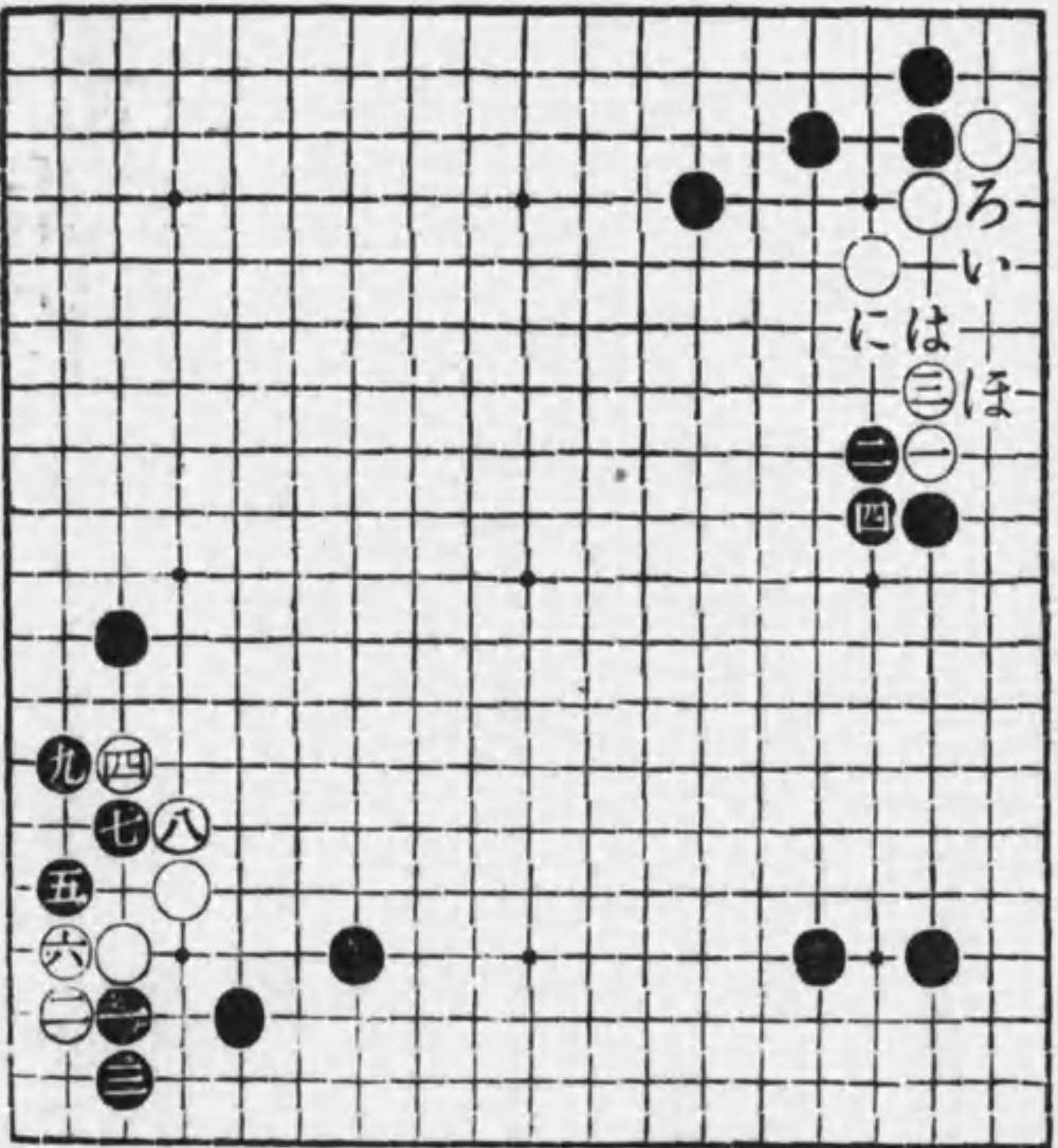
凡そ天下萬物の成果に、其性能を彩輝する際、精魂發揚の要領ある如く、碁には局面打開の驚異的妙術がある。即ちその鮮やかな手際である絶妙の手法、輕妙の快勝手所を、自分が多年蒐集して、研究の上批判を施し、圖解説明したもので、これが昔

なら門外不出の秘傳書、一子相傳の虎の巻であるが、碁道の秘寶を獨占するを潔とせず、一般同好の士に割愛して、碁には、かうした妙境のある事を公開し、研究者の指導とするものである。解説は達意と簡明を旨とし、碁の小學生たる初心者にも、容易に會得出来るように説明した。無論實力養成本位の編纂で、八門遁甲の妙術を、五百種から集めて、力量を體得せしめる爲に、内容を豊富にした。

たゞ碁道認識のために、名人上手の實戦名局を、解説したものを參考とした。中に素人で力碁の強かつた、當時碁界に勇名高踏の一怪僧が、時の名人に他流試合を申込み、ために斯界は騒然としたが、名人の快諾を得て對局した、前古未曾有の血戦秘譜を公開した、それらの中より絶讚の戦法を擧げて、上達活用の資料とした。

最後に、圖の説明を読む事は、後廻しにして、先づ圖を見て、自己の判断を下し、どうしても判らぬとき、説明に頼ることにして頂き度い、それは興味ある自力認識の研究法だからである。

本圖は相先で左側黒一と
 三は白四に以下黒九と、白
 の根様を奪つて味方黒九一
 子を強化、何と巧い手所。
 白四を右側一なら以下黒
 四で、殊に下方黒九二子在
 る時、黒地強化擴大。そし
 て—
 黒(い)と以下いろは順黒
 (ほ)迄の巧い手段がなほあ
 る。



妙術圍碁圖解

八段 高部道平 著

碁を圍む人々の中に、兩道の分れがある。一は入門から教師に就いて習ひ、順序正しく布石、定石などの、平和的手段を専らとし。俗に品のよい花魁碁と稱され、風格は先づ君子と云つた態度で、大器晩成を樂しむ人。

一は獨學我流で押し通し、盲滅法に力一杯打ち廻す、されば碁の原理構成には暗いけれど、力戦襲撃を専らとする、従つて腕力に長じ、相手の石さへ見れば、奮取本位の、即戦即勝を好む人。

それは一寸極端の例であるが、その前者が力の疎い未完成で「碁は多年やつて居るが、中々上達しない、自分ながらも呆れた」と云ふ、歎聲を漏らして居る。

この歡聲は蓋し、敗局多々に因る悲觀であらう。何となれば、後者に出會つて一局の経過の中に、幾度となく勝負所の絶好の機會に間誤つき、とんでも無い所に石を打ち忽ち慘敗苦杯。

實際、みぢめな三敗、にがい九敗では、笑いや洒落ごとちやあない、如何に上品な君子でも、一寸焦れもし、歡聲も出るだらう。最後の榮冠は勝つにあり、全力を傾倒して、碁道の原理を研究すべきである。

ところで本書妙傳圖解は、題名が如實に語る如く、古來幾多の先哲の妙手を傳へ、名局の實戦に現れた奇手を解剖し、玄妙不思議な手筋と手所の、一攻防を圖解したもので圍碁の精魂、決勝點とも云ふべき、急所の秘術である。

凡そ天下萬物の成果に、其性能を彩輝する際、精魂發揚の要領ある如く、碁には局面打開の驚異的妙術がある。即ちその鮮やかな手際である絶妙の手法、輕妙の快勝手所を、自分が多年蒐集して、研究の上批判を施し、圖解説明したもので、これが昔

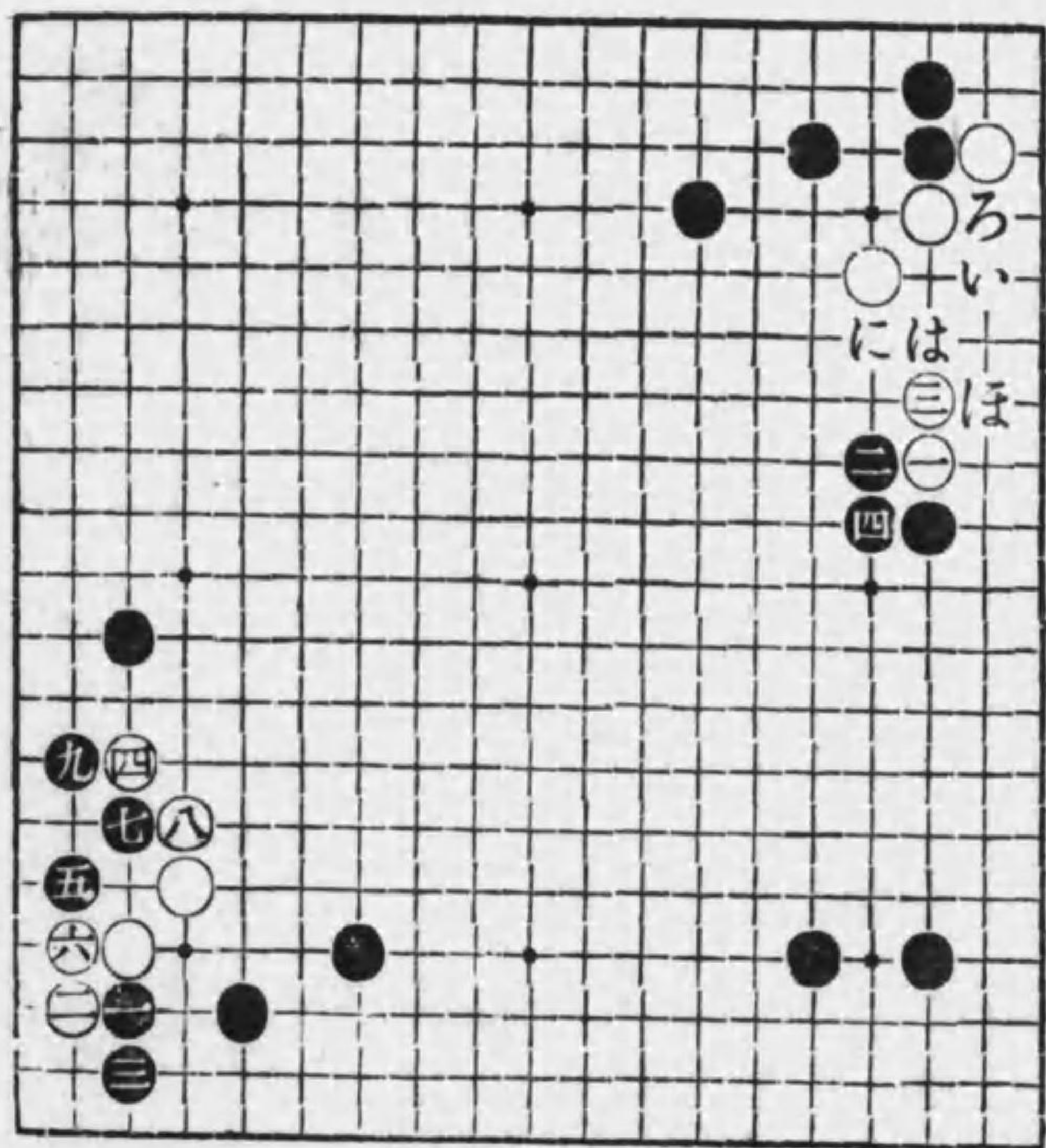
なら門外不出の秘傳書、一子相傳の虎の巻であるが、碁道の秘寶を獨占するを潔とせず、一般同好の士に割愛して、碁には、かうした妙境のある事を公開し、研究者の指導とするものである。解説は達意と簡明を旨とし、碁の小學生たる初心者にも、容易に會得出来るように説明した。無論實力養成本位の編纂で、八門遁甲の妙術を、五百種から集めて、力量を體得せしめる爲に、内容を豊富にした。

たゞ碁道認識のために、名人上手の實戦名局を、解説したものを參考とした。中に素人で力碁の強かつた、當時碁界に勇名高踏の一怪僧が、時の名人に他流試合を申込み、ために斯界は騒然としたが、名人の快諾を得て對局した、前古未曾有の血戦秘譜を公開した、それらの中より絶讚の戦法を擧げて、上達活用の資料とした。

最後に、圖の説明を読む事は、後廻しにして、先づ圖を見て、自己の判断を下し、どうしても判らぬとき、説明に頼ることにして頂き度い、それは興味ある自力認識の研究法だからである。

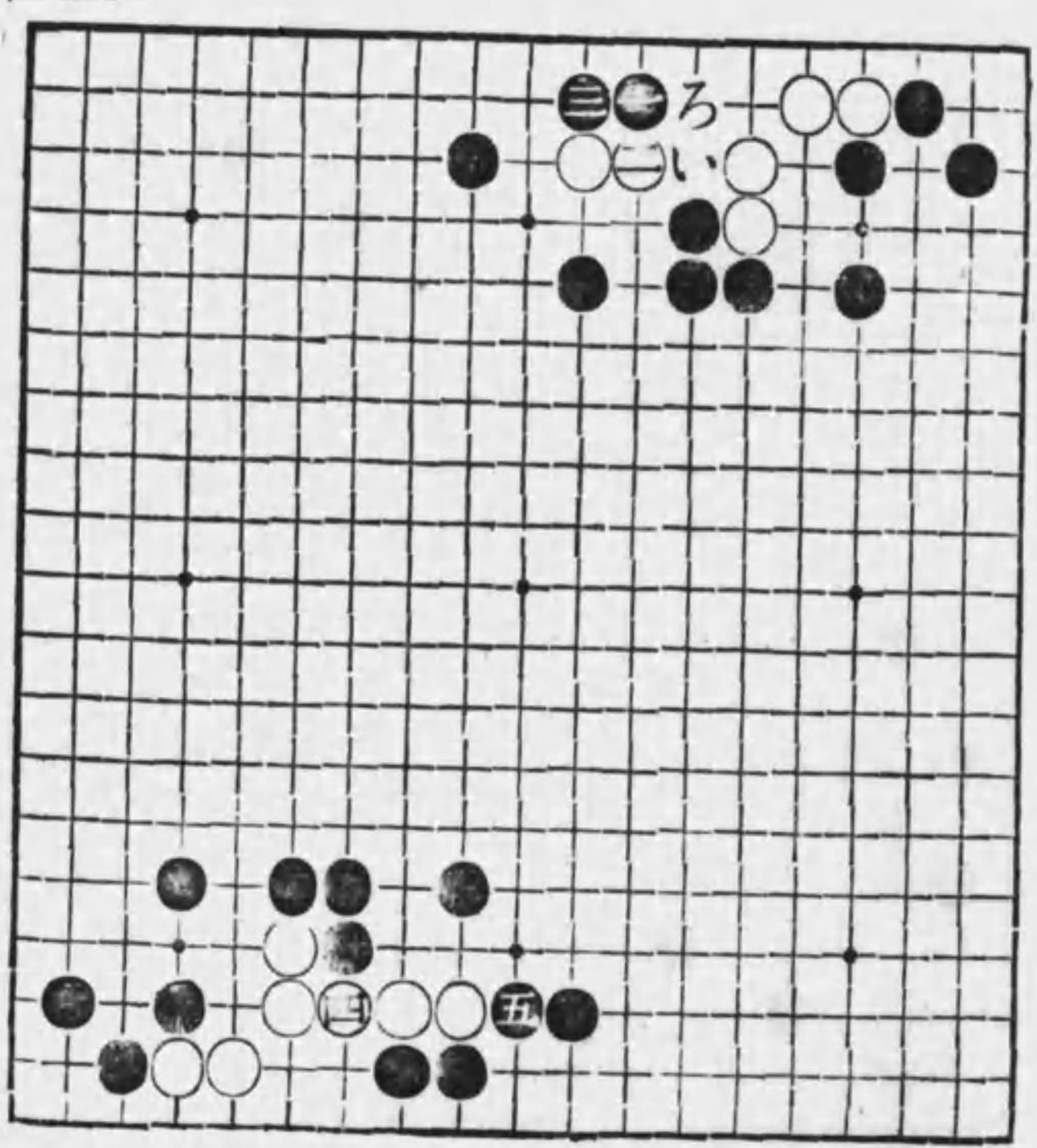
本圖は相先で左側黒一と三は白四に以下黒九と、白の根様を奪つて味方黒九一子を強化、何と巧い手所。白四を右側一なら以下黒四で、殊に下方黒九二子存在の時、黒地強化擴大。そして――

黒(い)と以下いろは順黒(ほ)迄の巧い手段がなほある。



黒一と三が白の痛い弱點である。そして下圖白四に黒五で白全滅。されば上圖に戻つて、黒一の前白三に必要である。黒三を(い)だと白(ろ)で黒は輕勿。

黒一と三が巧妙の手所である。



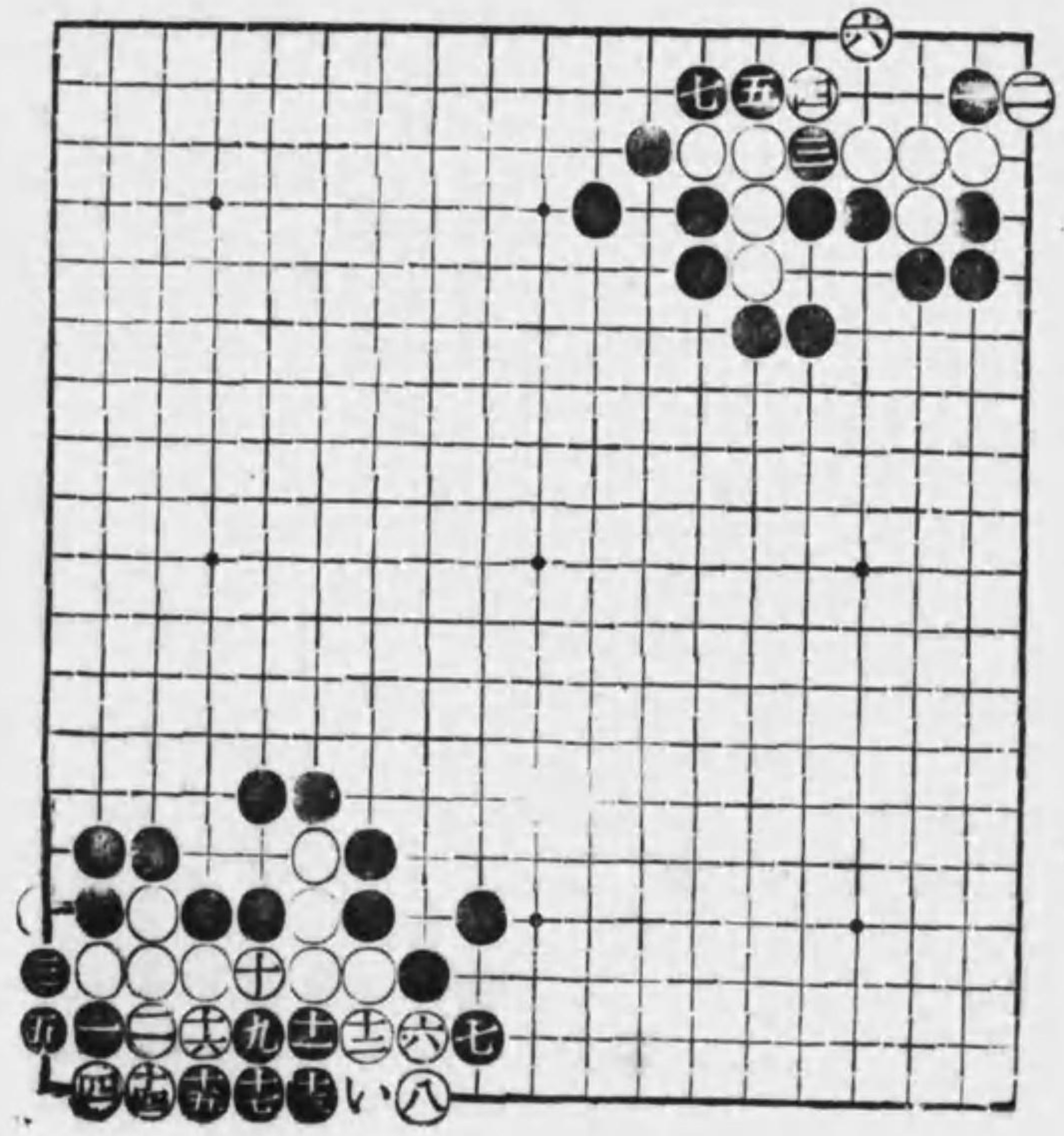
上圖無一以下七は白四子を取つて大きい手所。

白六は其他に無い應手と判る筈。

轉じて下圖白二は以下黒十七で、白全滅である。

即ち次に白(い)なら、黒直に十七の所。

で五目ナカデの白取られと解る筈。

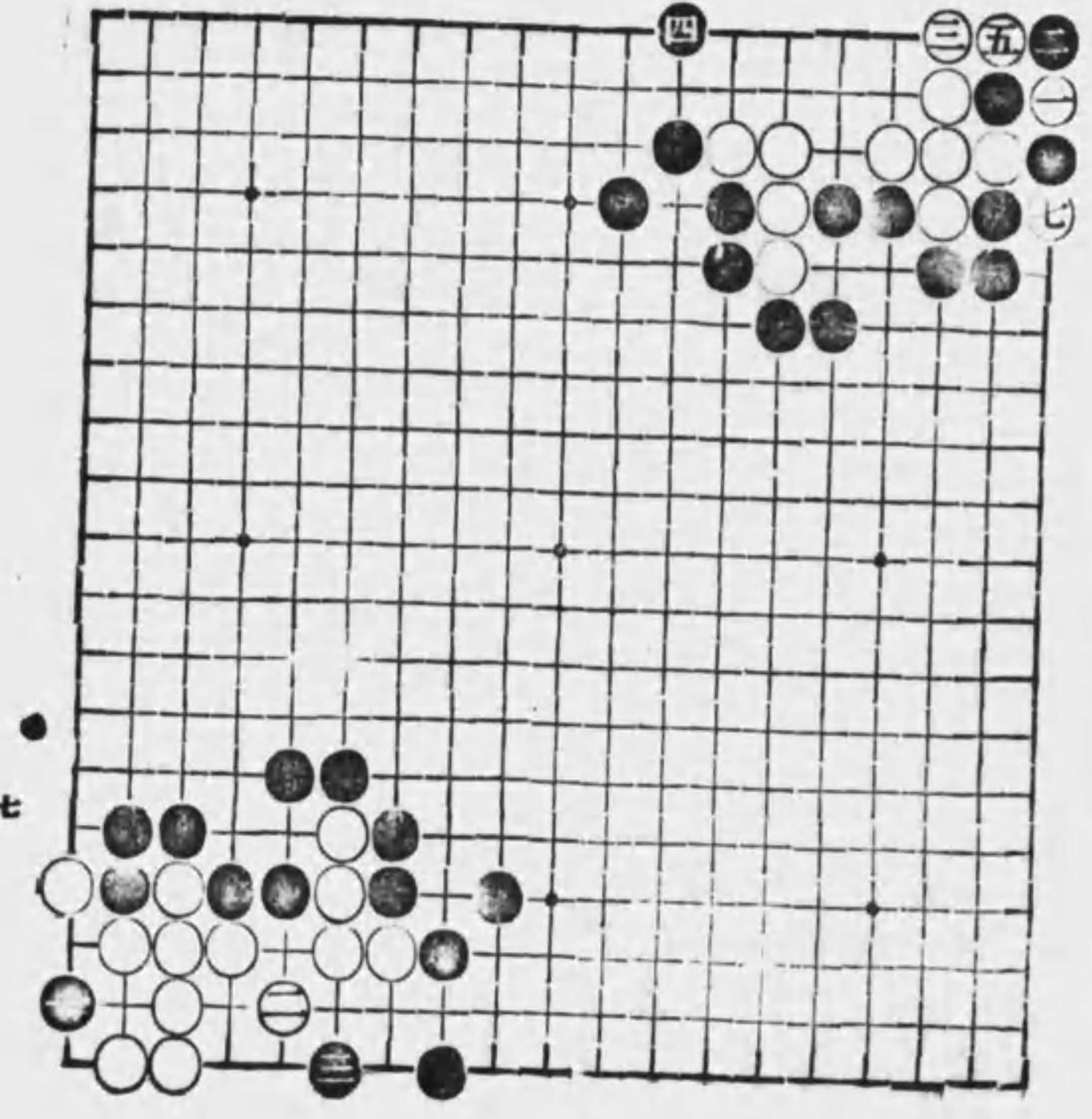


なほ前圖の續行であつて上圖白一と三に、黒四が白奪取に絶妙の手所。

とは白五に黒六を一、そして白七と黒四子打抜。

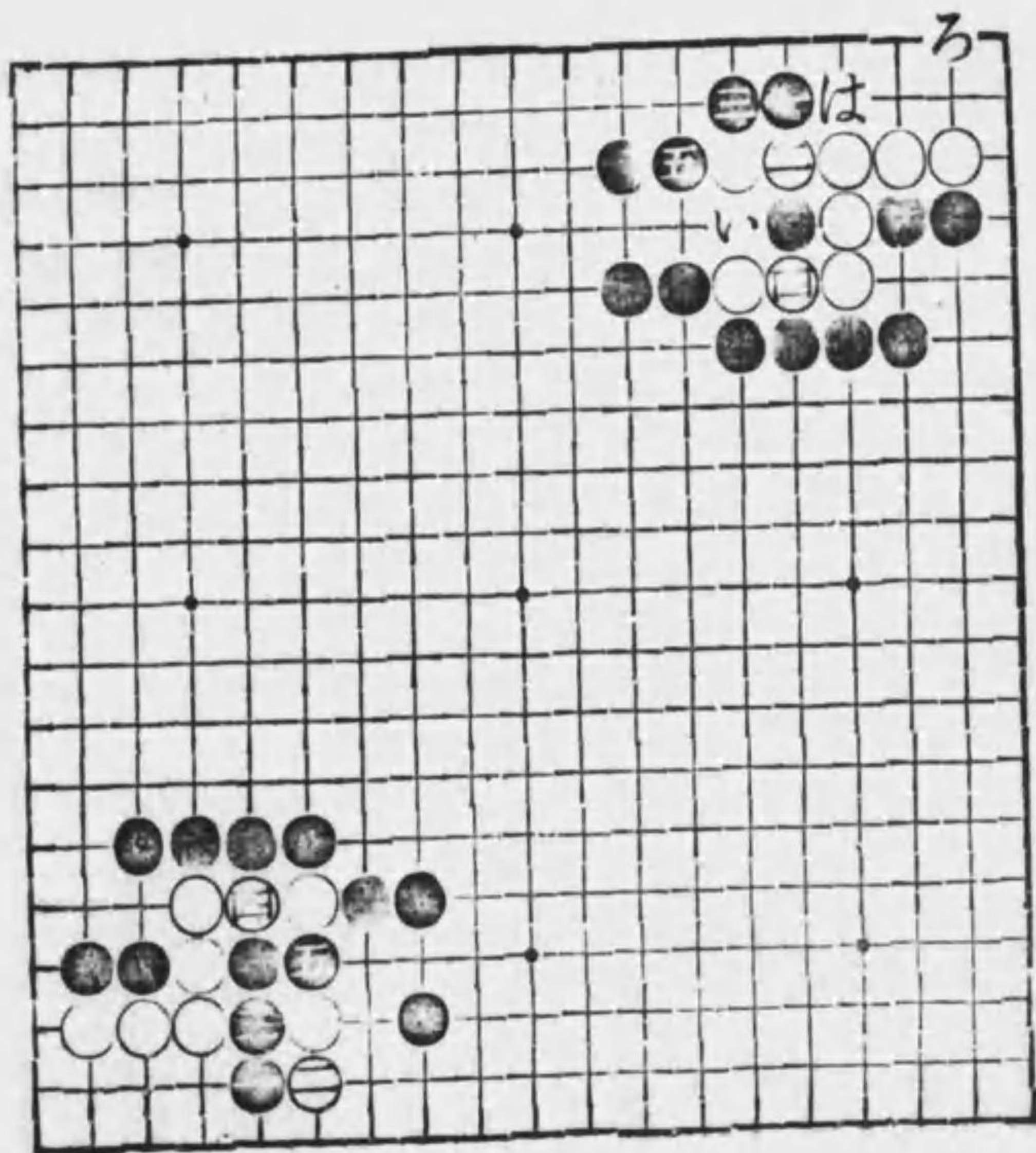
だが—
更に下圖黒一と成つて、

白二に黒三、白に活計なし。



上圖、黒一以下五まで白
取れ。即ち次に白(い)なら
黒(ろ)。また白(い)を(は)
なら黒(い)。と判る筈。

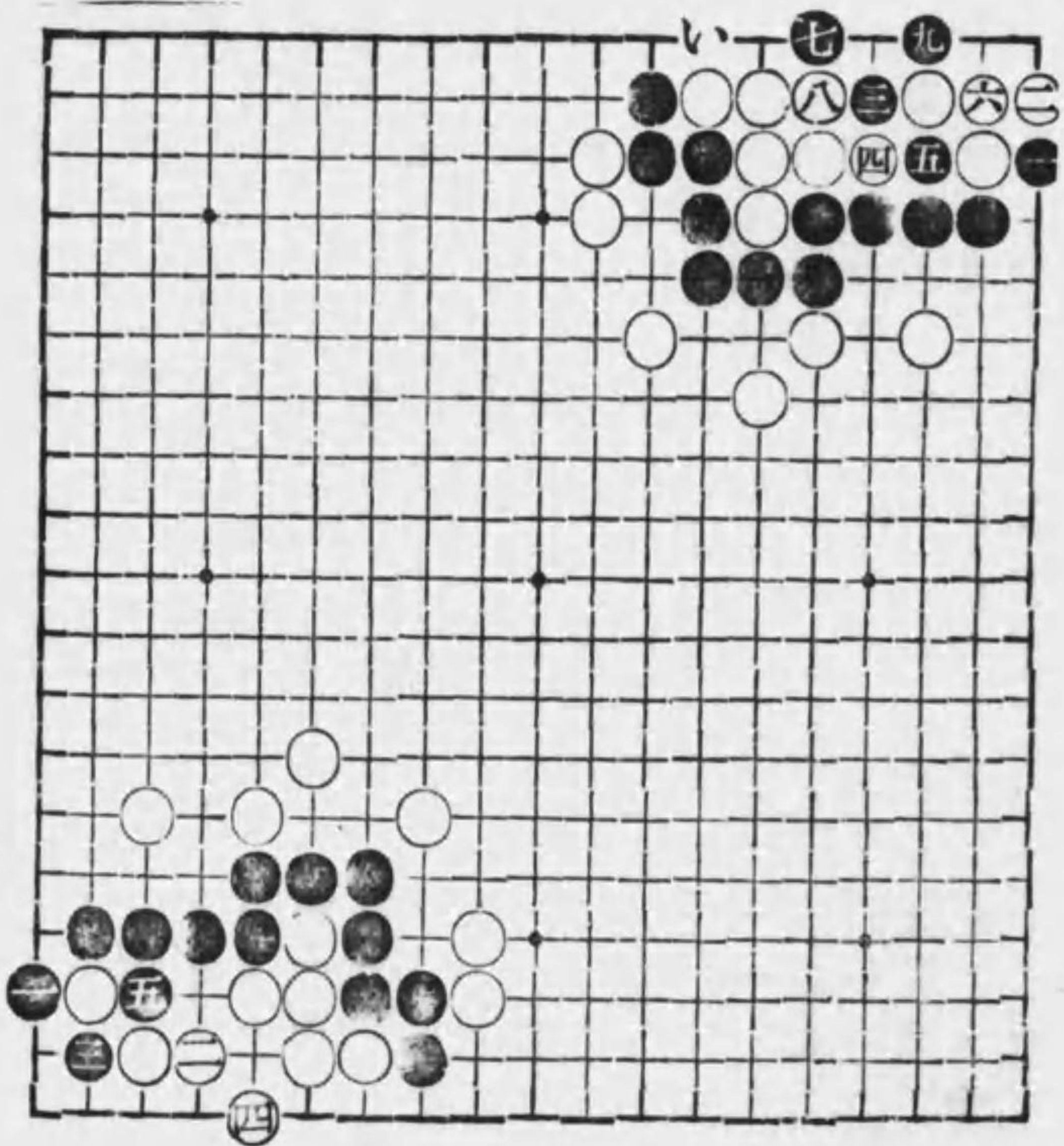
下圖黒一に白その二でも
黒五と成つて、要するに黒
先一に白絶望。



上圖、黒一が以下黒九と
劫である妙手。

白八を九なら黒(い)で左の
白六子は無論のこと白全滅
である。と解る筈。

下圖は白劫を避け平和の
解決。即ち上圖の劫争、
白に悪い時。要するに黒一
が旨い手所。



上圖、黒一は以下白四と成つて問題の無い白活きである。

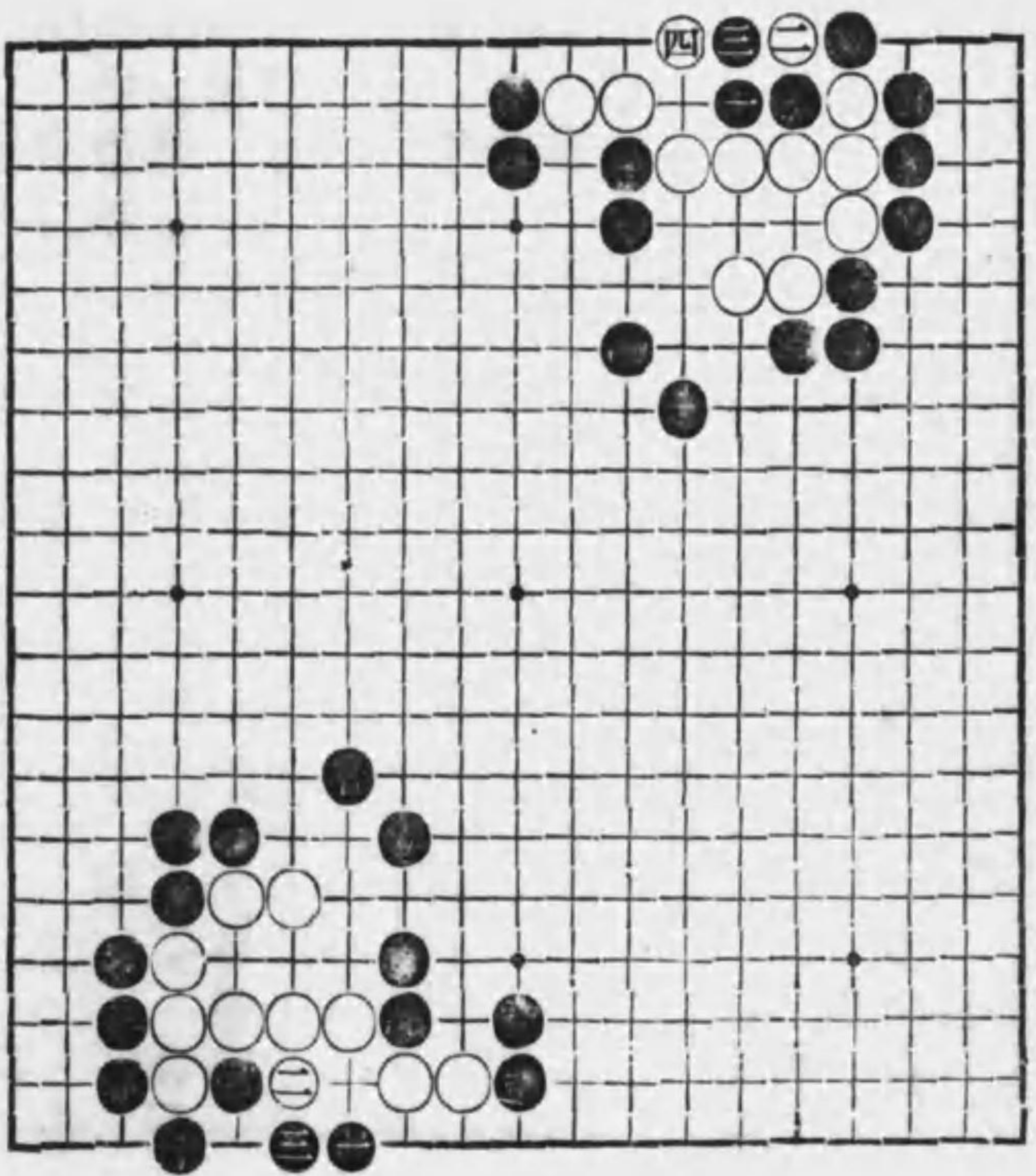
下圖黒一が以下黒三で劫。

白二を三なら黒二で無條件

白全滅。

下圖黒一が妙手である。

一寸黒一を見損じるもの。



上圖、白一に黒二で兩全の應手。

黒二を五だと白二で黒取ら

れ。白三を六なら――

夫れが下圖、即ち兩全の次

第である。

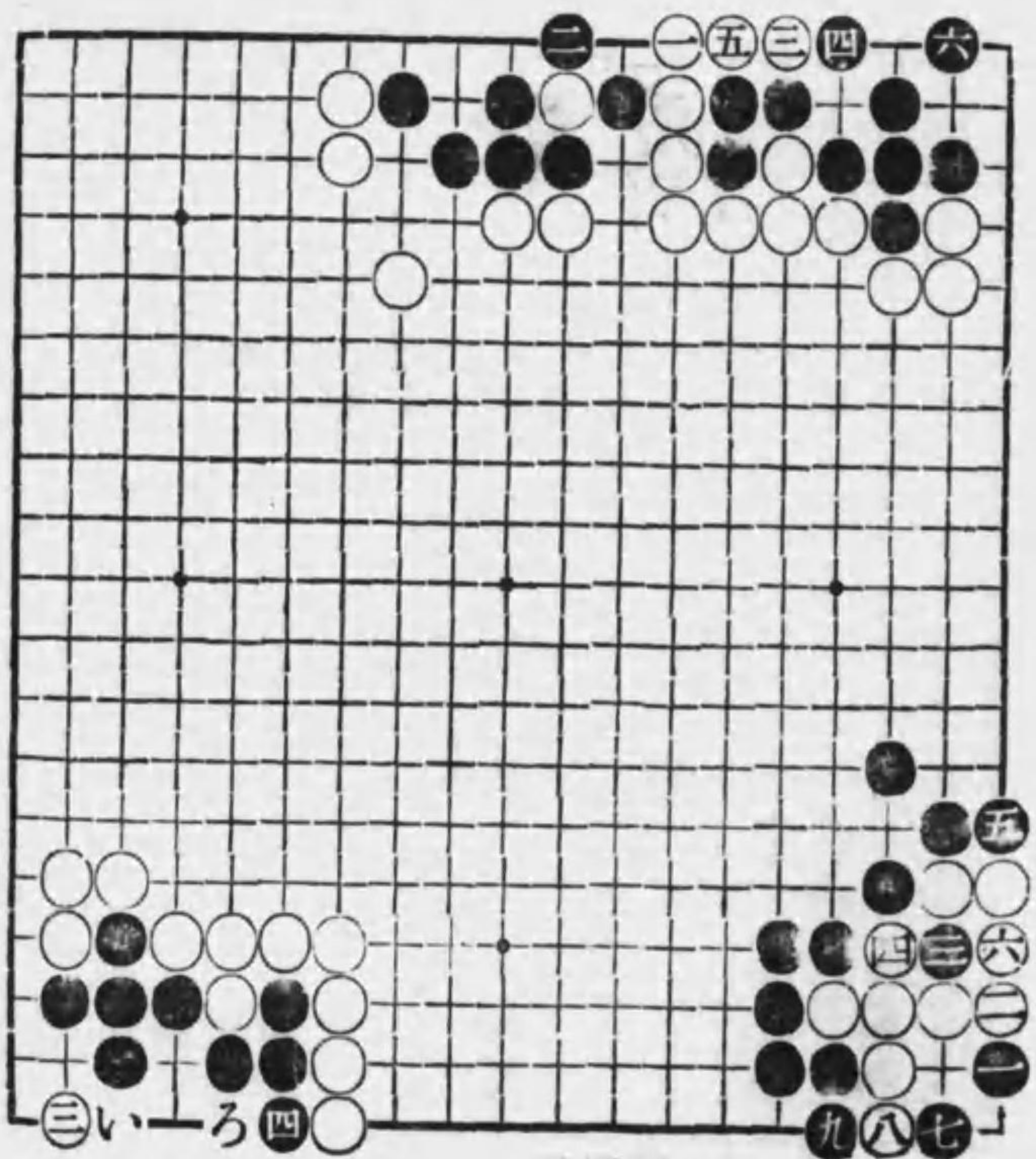
黒四を(い)だと、白(ろ)で

黒自滅。

下圖右の黒一以下九まで

は、黒侵分に巧い殊に黒三

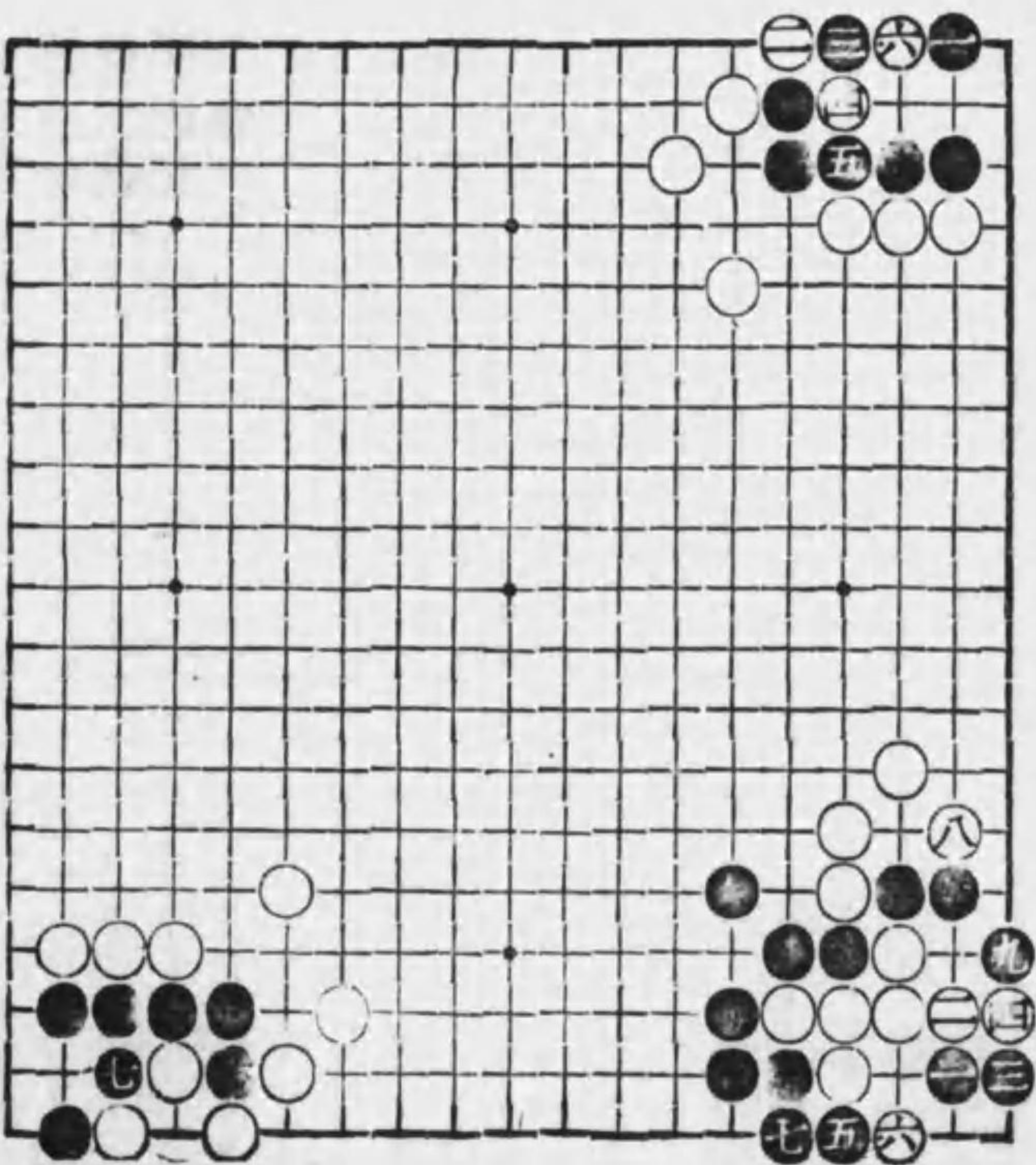
の手所。



下圖右の黒一より九までは、殊に黒一が攻合勝ちに妙。

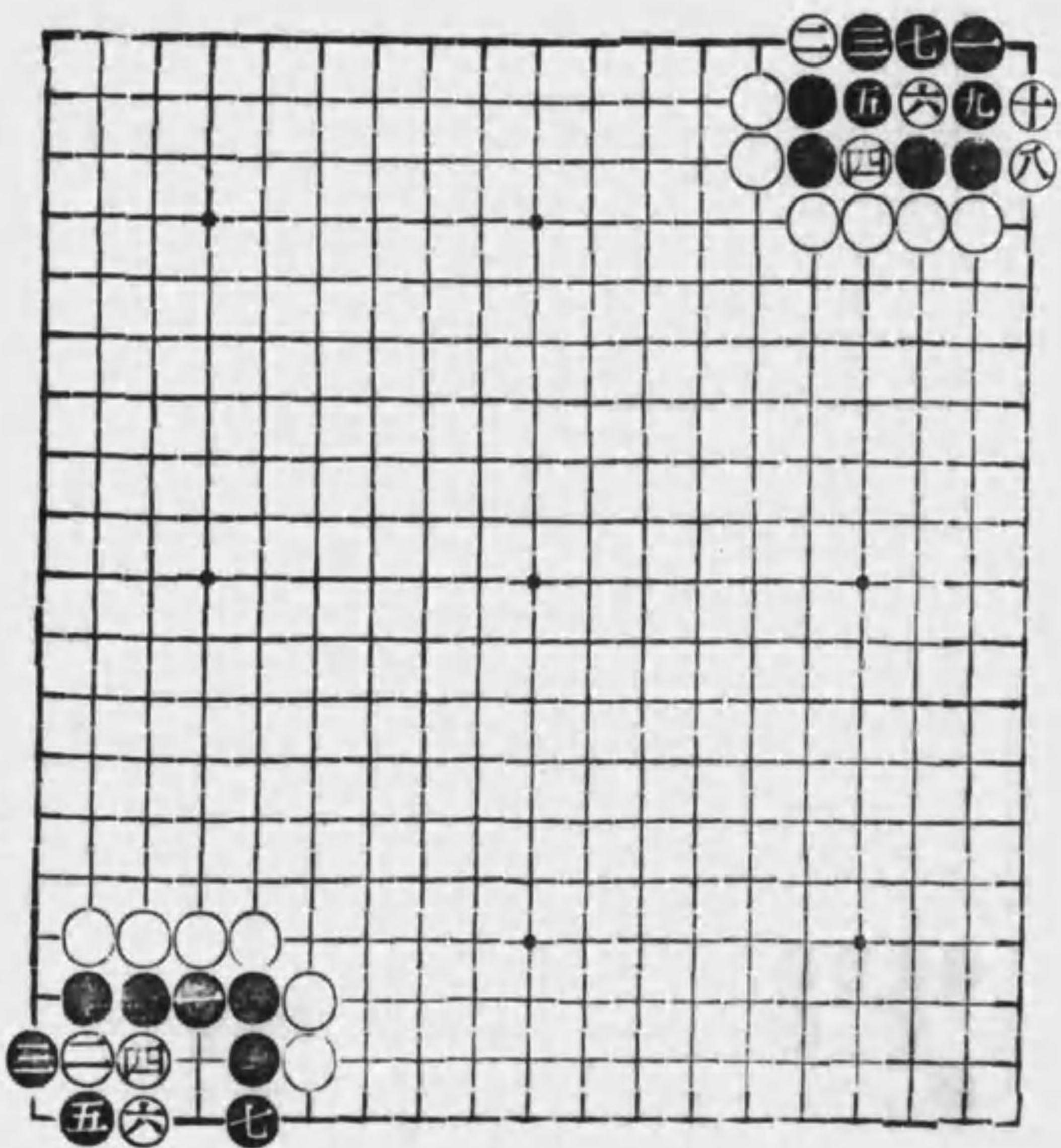
上圖、黒一は安全第一の活點である。そして白二以下六なら、轉じて――

下圖左の黒七。即ち黒一が安全第一の次第である。但し次圖の如き周圍にあつては――



一一

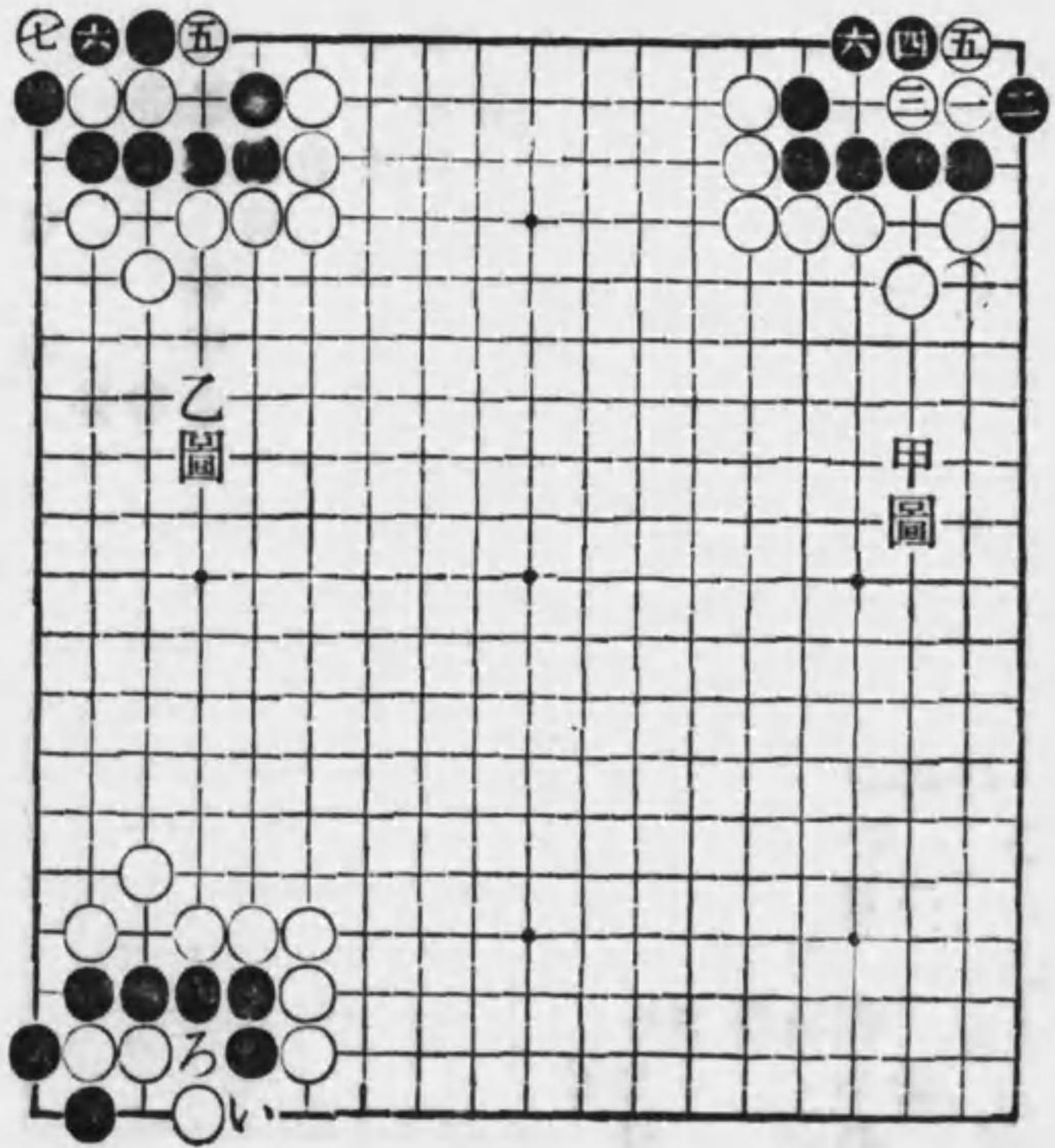
上圖、即ち本圖の如き場合、黒一だと以下白十と黒取られ。されば下圖黒一の他は無い。處で黒七を他に打ち、なほ容易に黒は取られぬ。といふ黒に高等戦術もある。とは黒他を二手打ち黒得の理合。と悟られる筈。



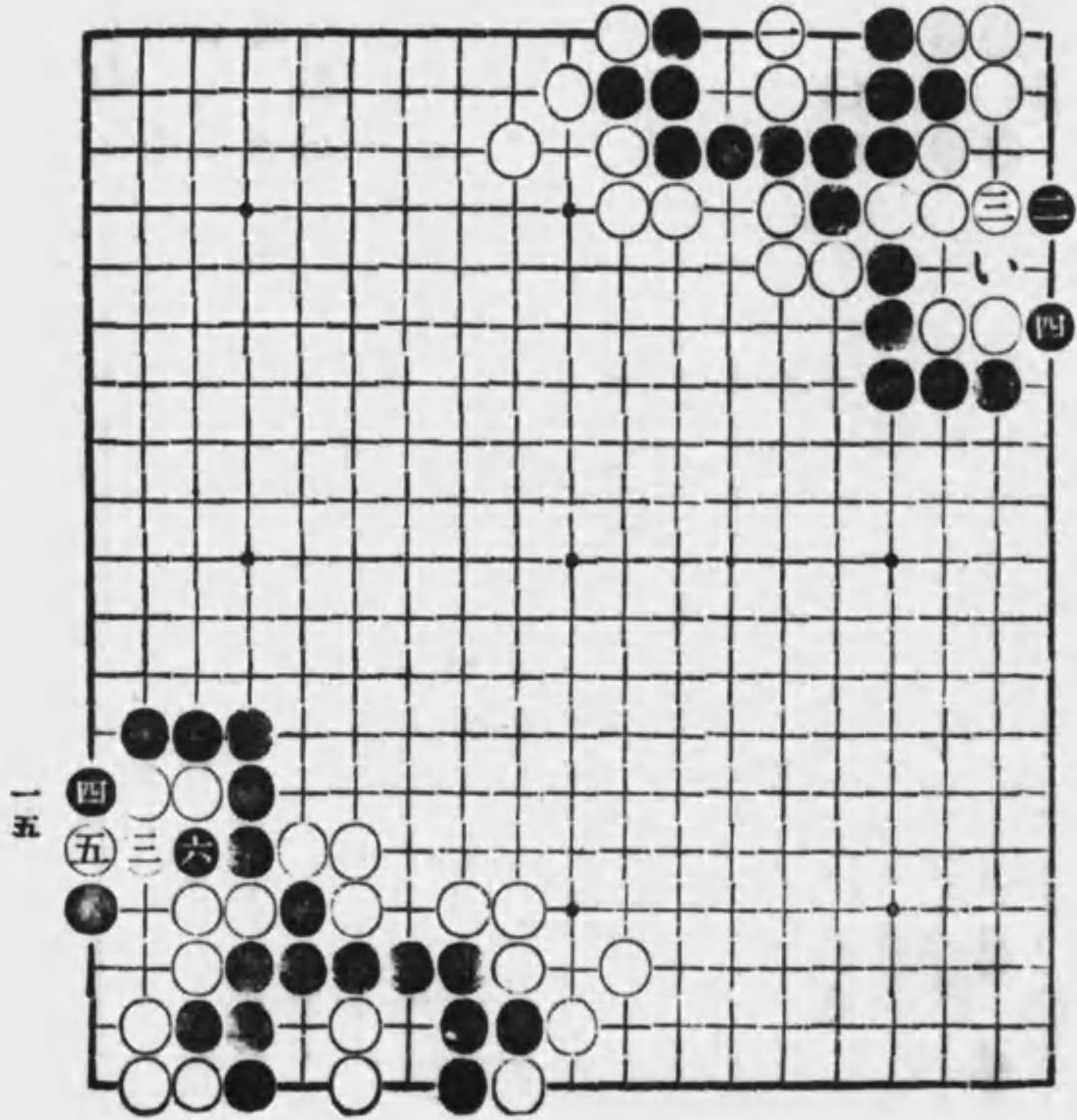
一二

甲圖、この周圍なら、白一に以下黒六と黒セキ活きである。

白五を乙圖五なら黒六が妙。即ち黒六は捨石、そして白七に黒八を六と取返し。それが下圖であつて、次に白(い)なら、黒(ろ)等で黒活きの次第である。



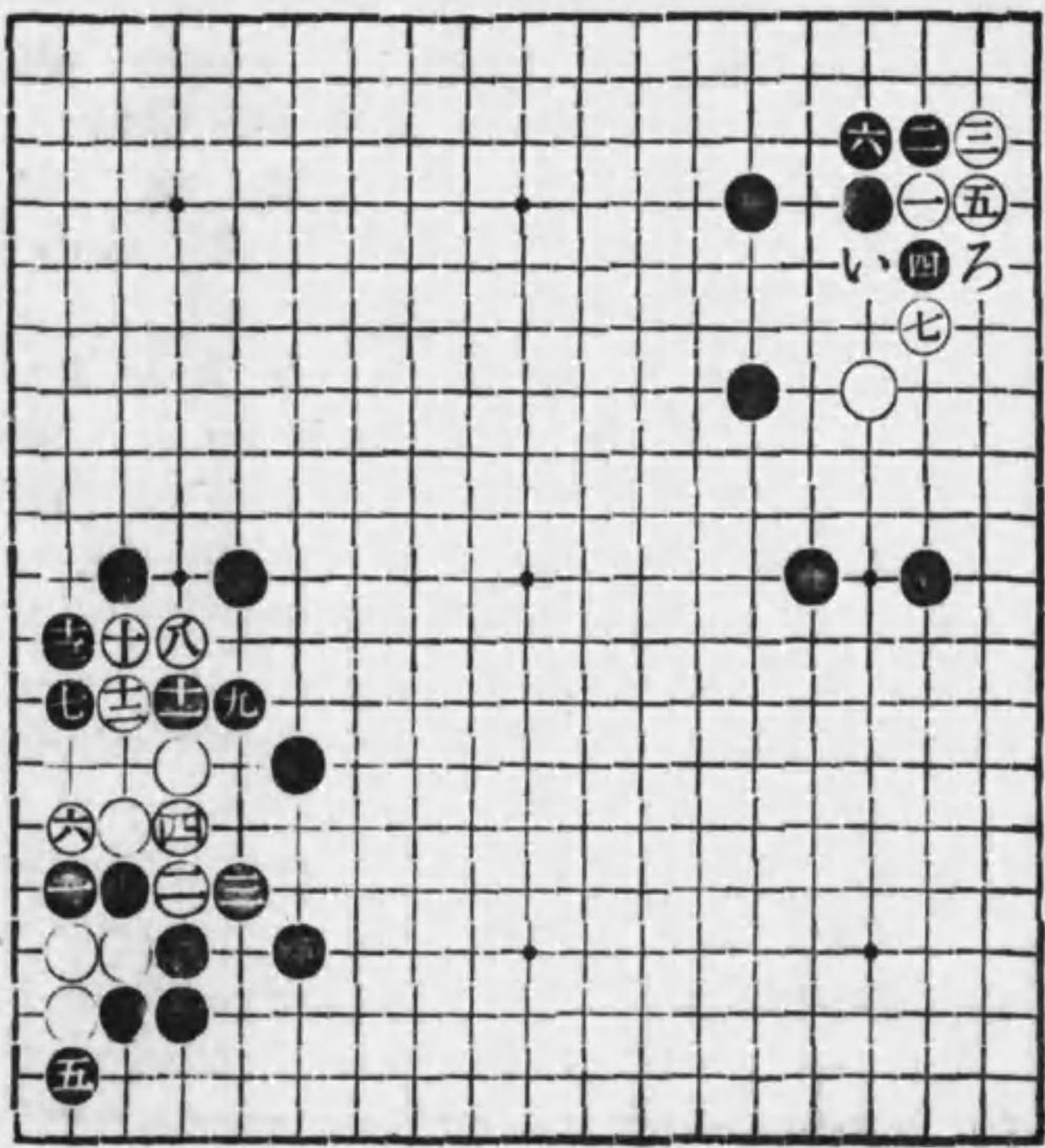
上圖、白一は向見ずの黒の活點奪い。といふのは以下黒四で自己が全滅。白三を下圖三でも黒六と成つて同様の態。上圖黒二が白の痛い急所である。されば白一で(ろ)と用心。黒も一と活き。此處は平和郷。



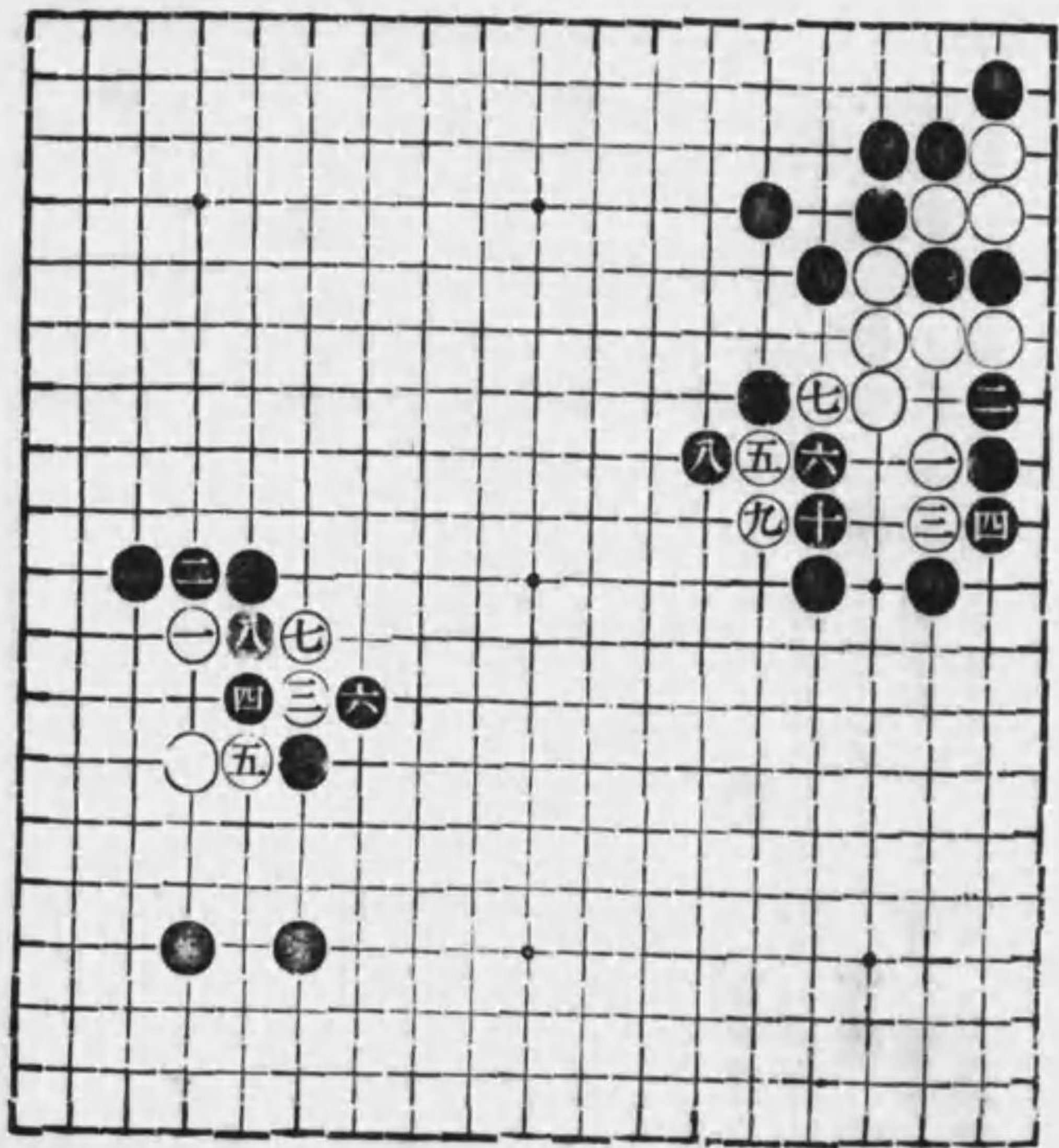
右側白一と三は碁基によく見られる手段であらう。そして白七の時、手輕に黒(い)白(ろ)。此れが黒拙い手所。

黒巧い手所は左側黒一以下十三。の黒三が何ともいえない黒快味の一手。

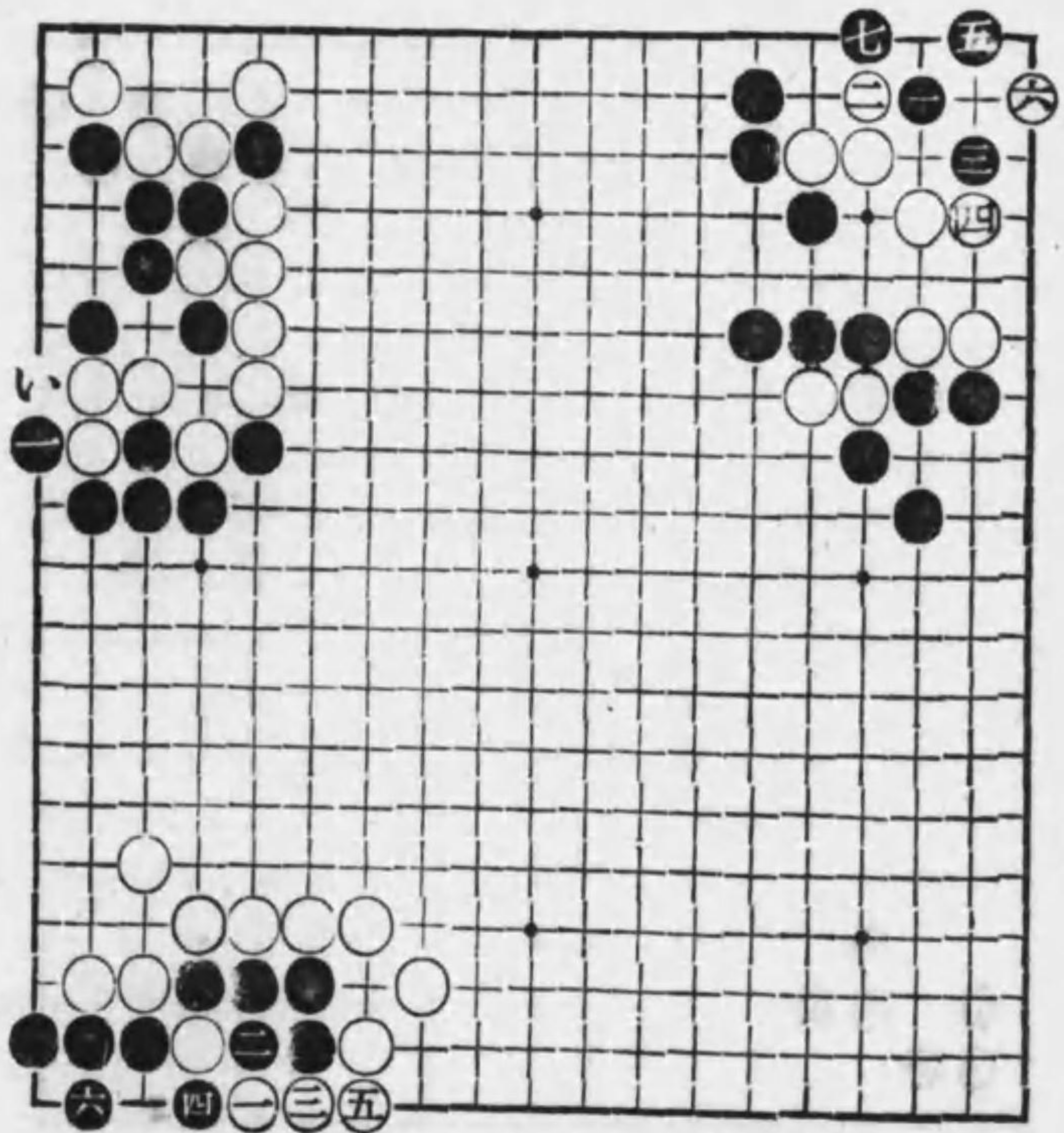
要するに黒一と捨石の夫れが妙。



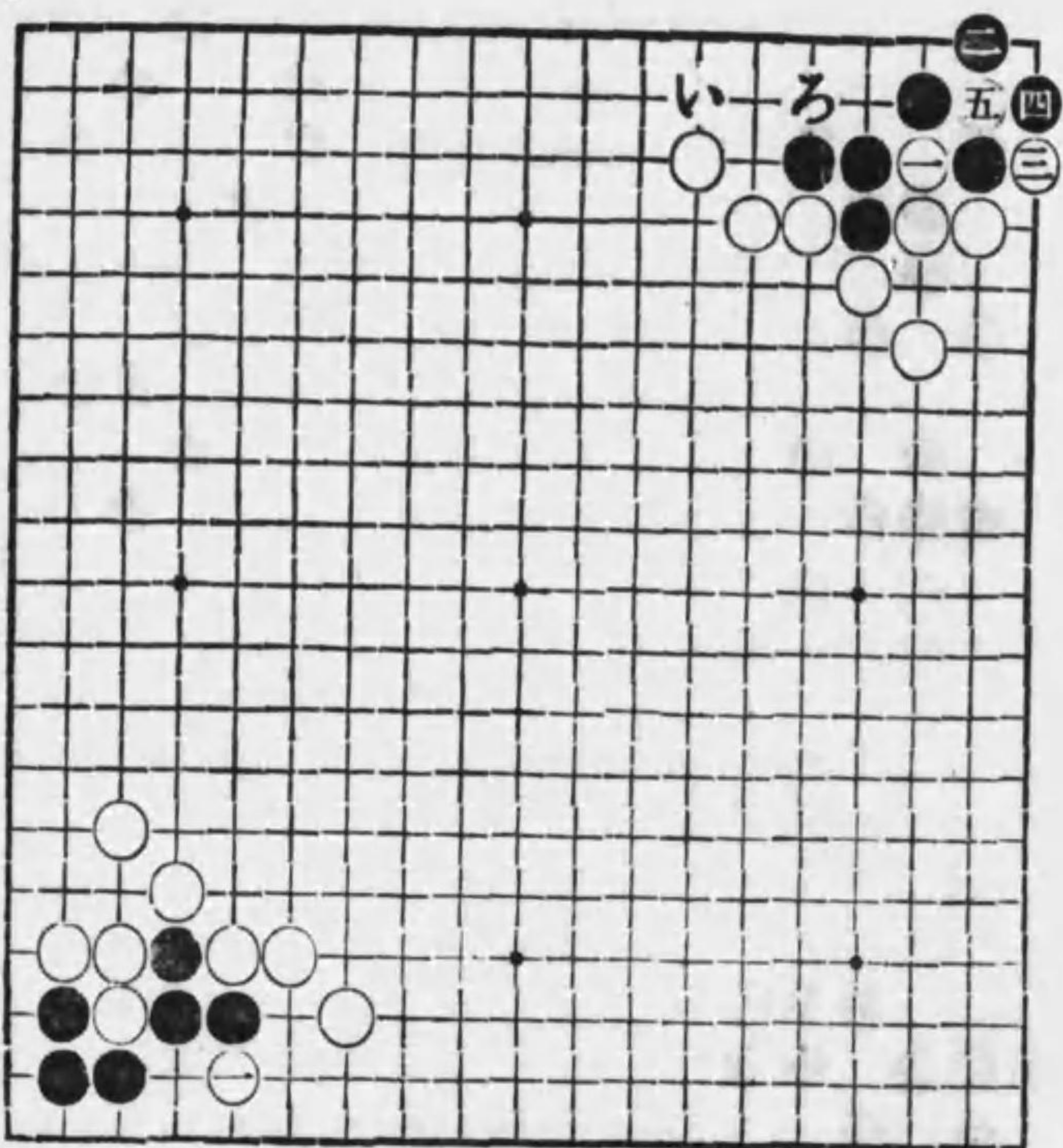
なほ右側、黒八と十が名調子巧い手所であつて——その要領は左側黒六と八にも見られ、凡そ一局の勝策がそれ等。黒六を七だと白六で、黒敗因の手所。處で前圖左側また本圖右側も白大惡果の一例。白に何とか活計はあらう。



上圖、右は黒一以下七で
 巧い劫争の手所である。
 上圖、左は黒一で白が(い)
 とは来られぬ、黒一が渡り
 の一手。と解る筈。
 下圖、白一以下黒六は侵分
 にも巧い、白一が妙。
 即ち黒二を三だと、白五で
 黒全滅である。



上圖、白一は以下黒四と
 黒劫争の他は無い、白一が
 甚だ妙。
 即ち黒二を五だと、それが
 下圖であつて、白一に黒活
 計は無い、この白一も妙。
 更に上圖白一を(い)だと
 黒(ろ)。
 そして白一は黒五で黒確
 實活居。此手順は白拙い手
 所である。

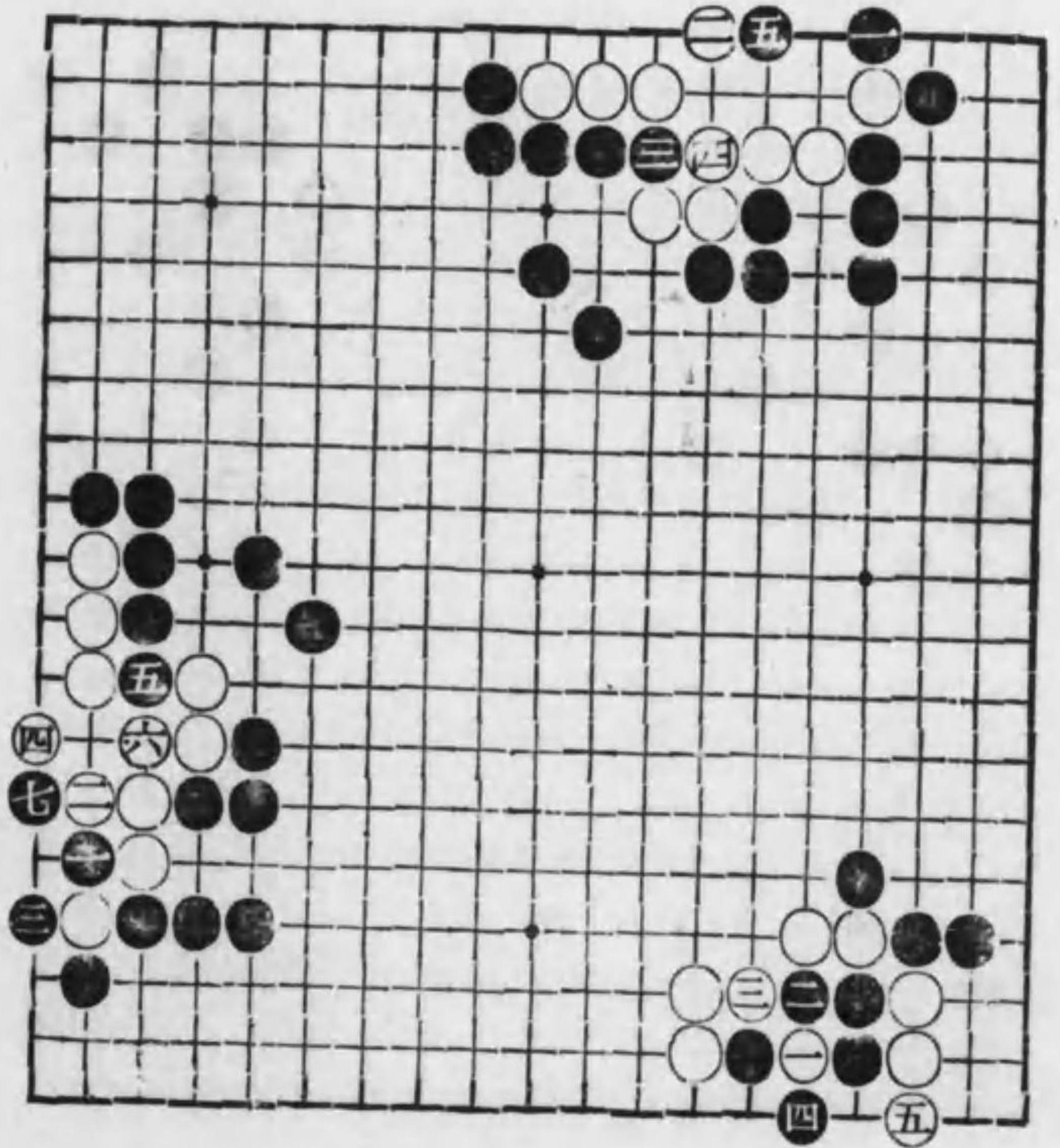


上圖、黒一は以下黒五と白奪取に妙。

左側、黒一と三だと、以下黒七までの劫争黒は拙い手所。

要するに上圖黒一に白は絶體絶命である。

下圖、白一より五までは白一が巧い早取りの攻合法。



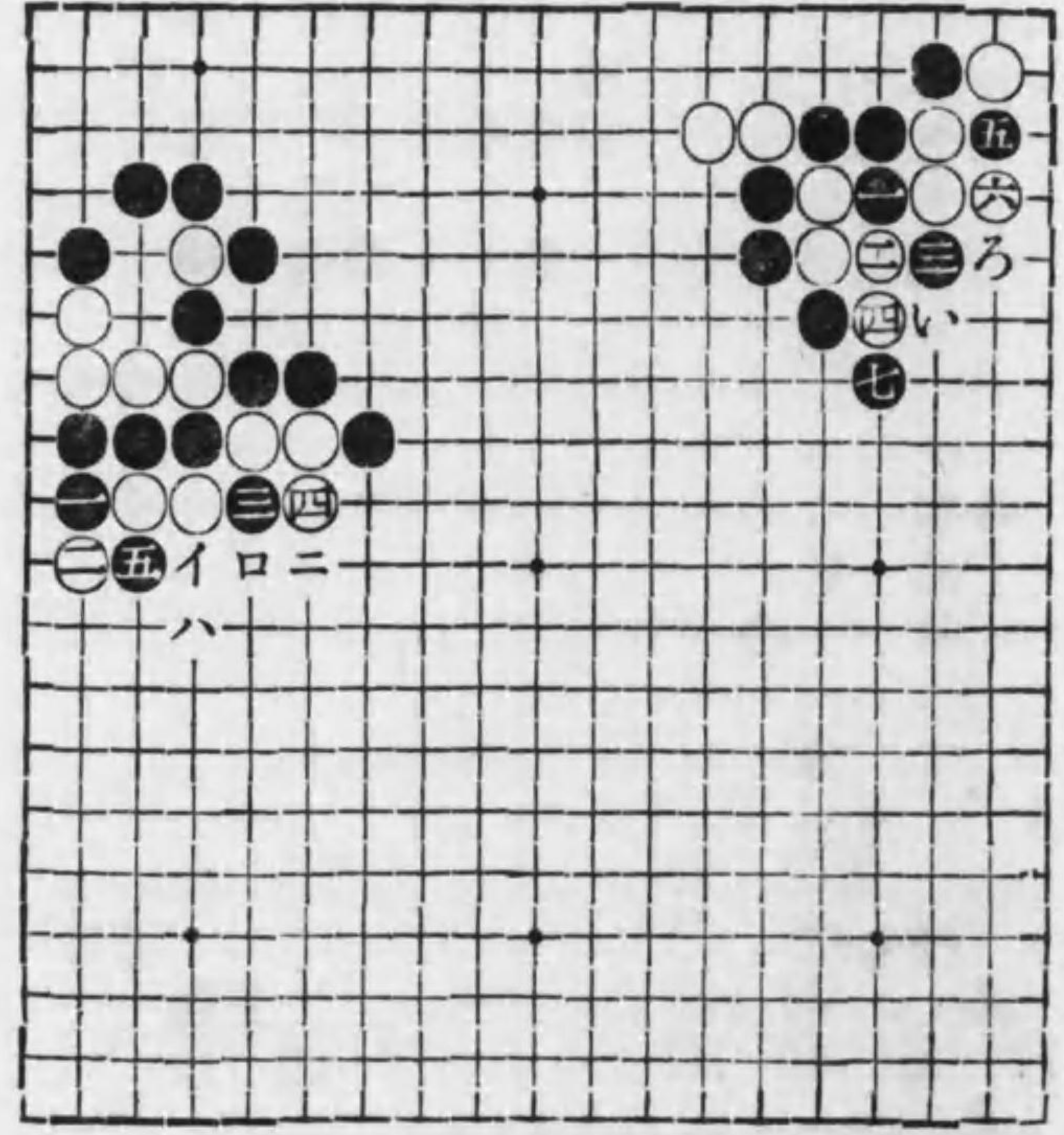
右圖、黒五が用意周到の手所。

次に白六なら黒七、黒七に白(五)黒(ろ)とらふ要領である。

左圖黒五も右圖五と異曲同工の手所。

即ち黒五に白(イ)黒(ロ)白(ハ)、黒(ニ)と征。

征の黒悪い時は黒一の手段は無。

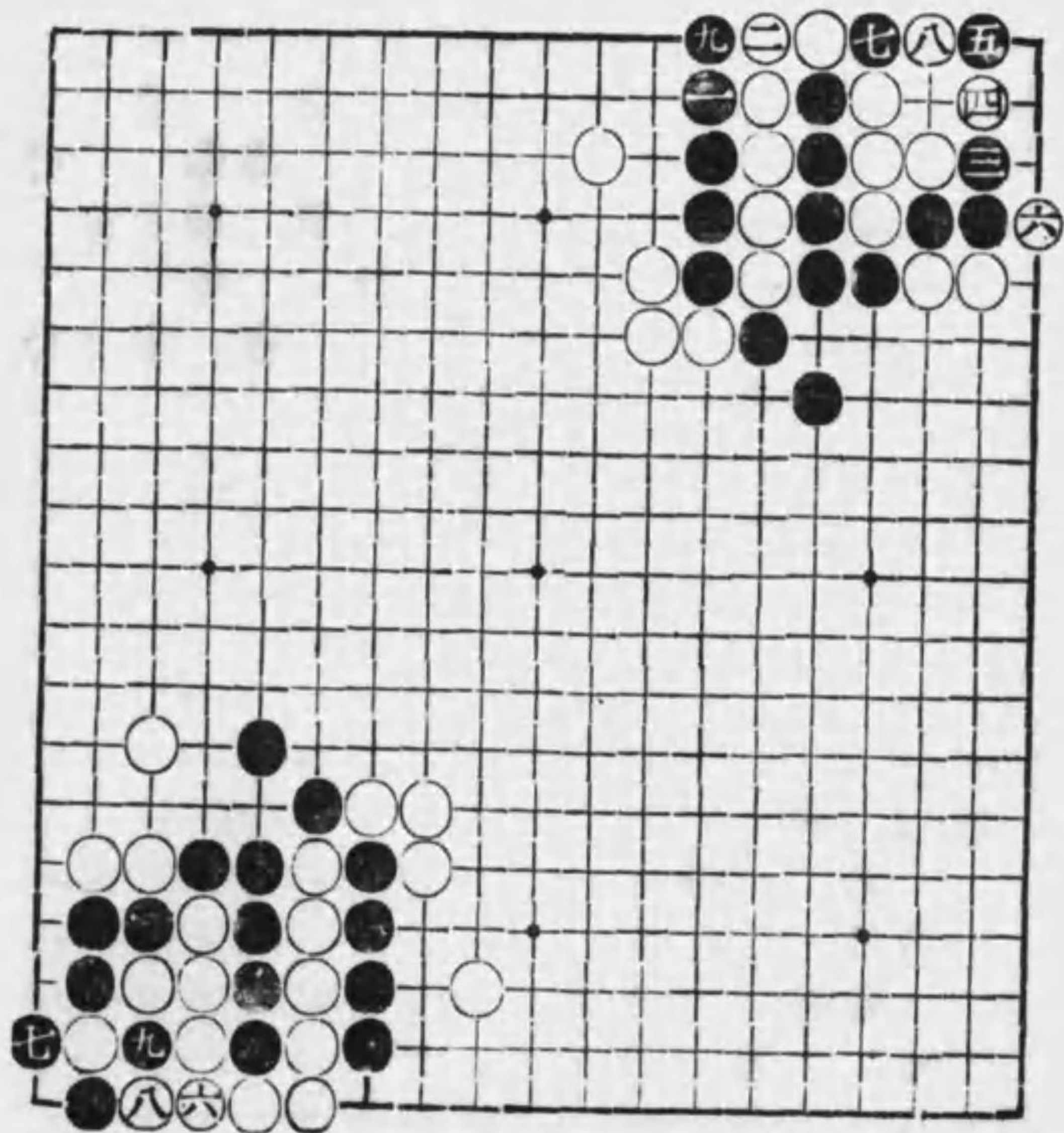


上圖、黒五が就中絶讃の妙趣である。

とは以下黒九に、白七には粘げない。

白六を下圖六だと黒九と劫争、それも百目といふ大問題。

白は一舉大破局である。即ち斯様な大劫争に白は適當の劫立てもあるまい事情。

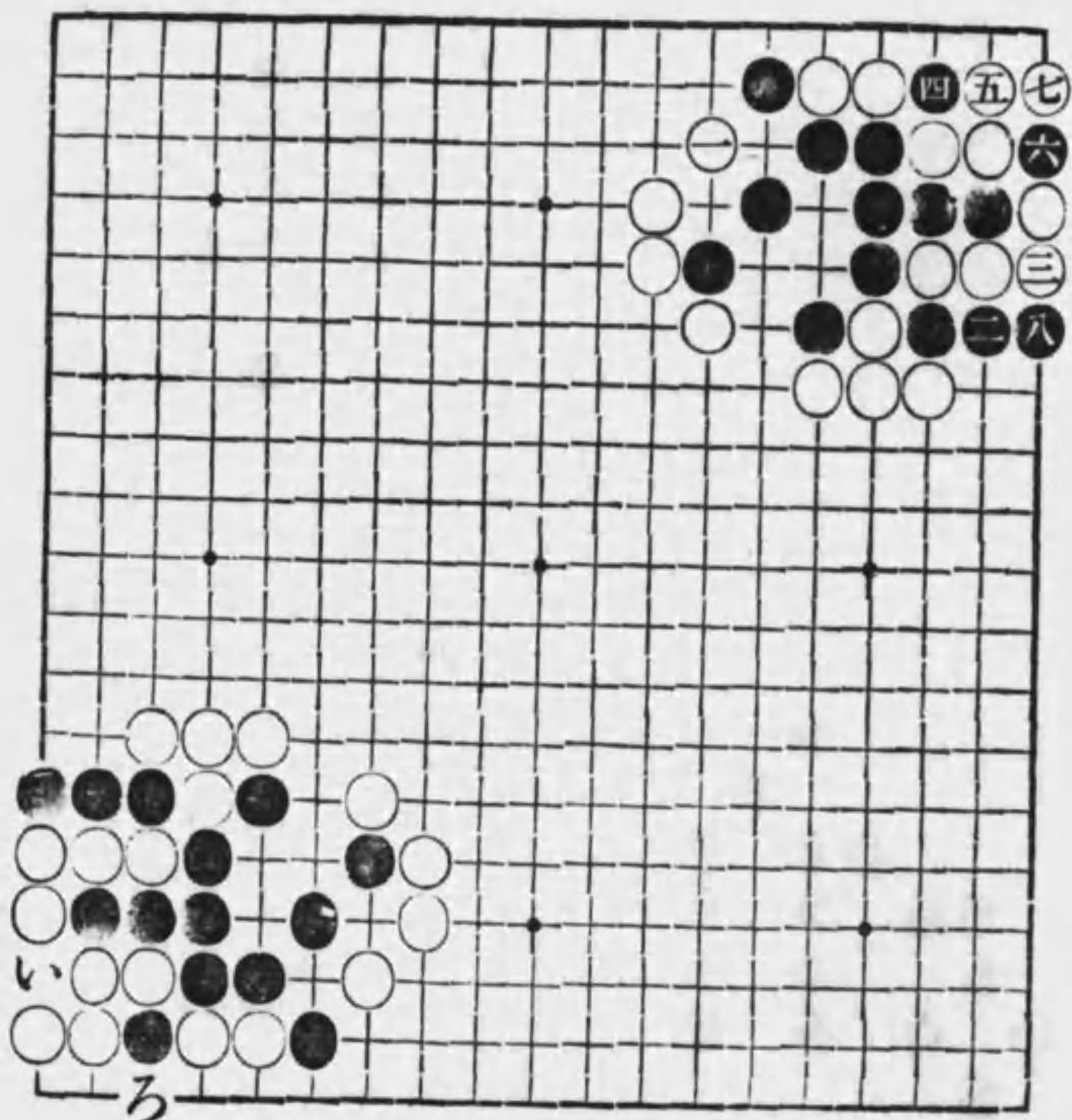


上圖、白一は向見ずの黒塵殺の計——

とは以下黒八と成つて、夫れが下圖、下圖白(五)だと黒(ろ)。といふ白悪果。

即ち黒四と六が巧い手順。斯様な手所は數多いのである。

次圖にもその一例を示さう。



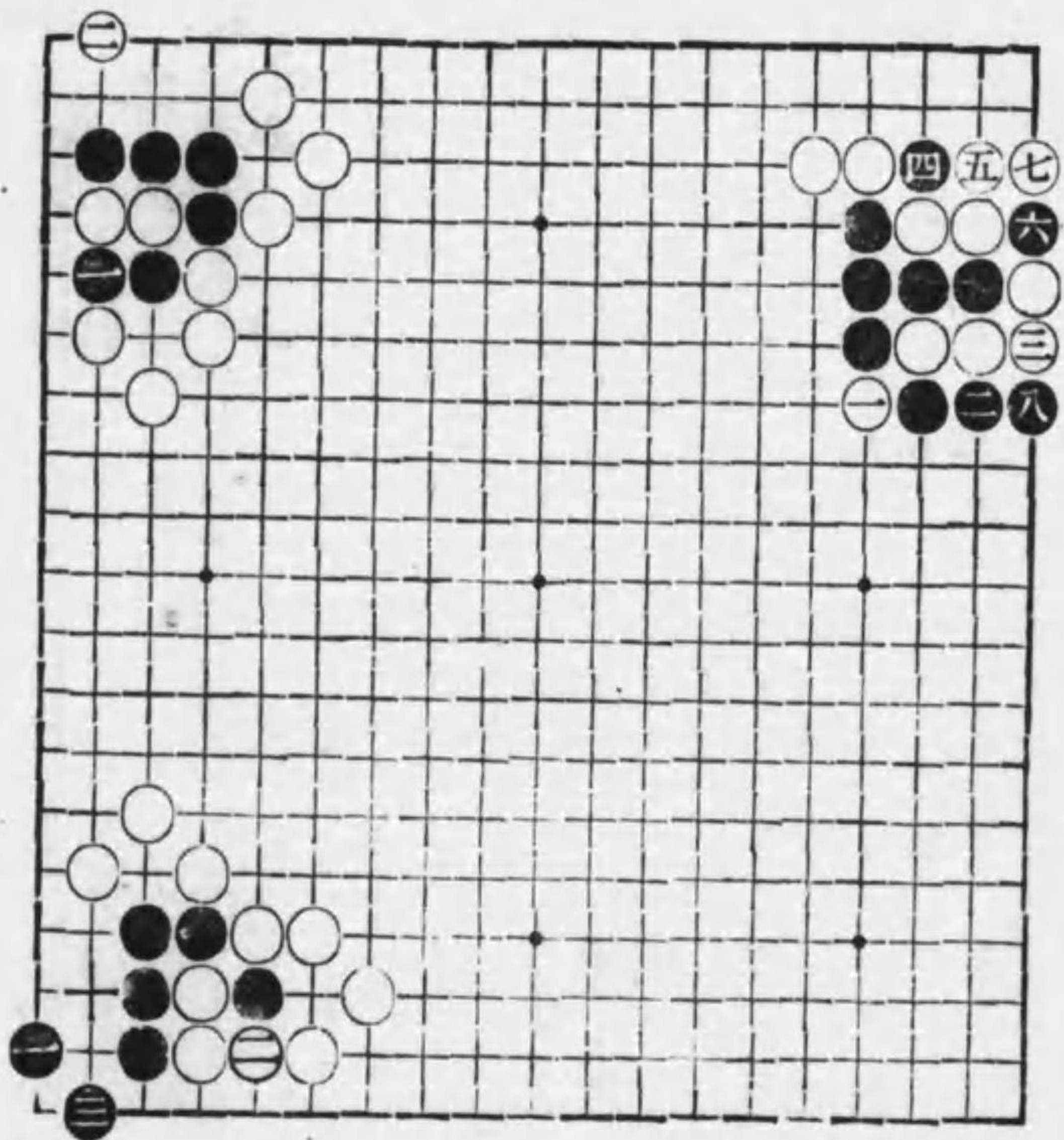
上圖右、白一と切つても
以下黒八と成つて。と判る
等。

此れも前圖と同様黒四と
六が巧い手順。

黒四の顔に、六と白が粘
げば——と待望大望であ
る。

上圖左、黒一は自滅の拙
手。下圖黒一が絶妙である
黒活きの手所。

無論黒三を見越し。

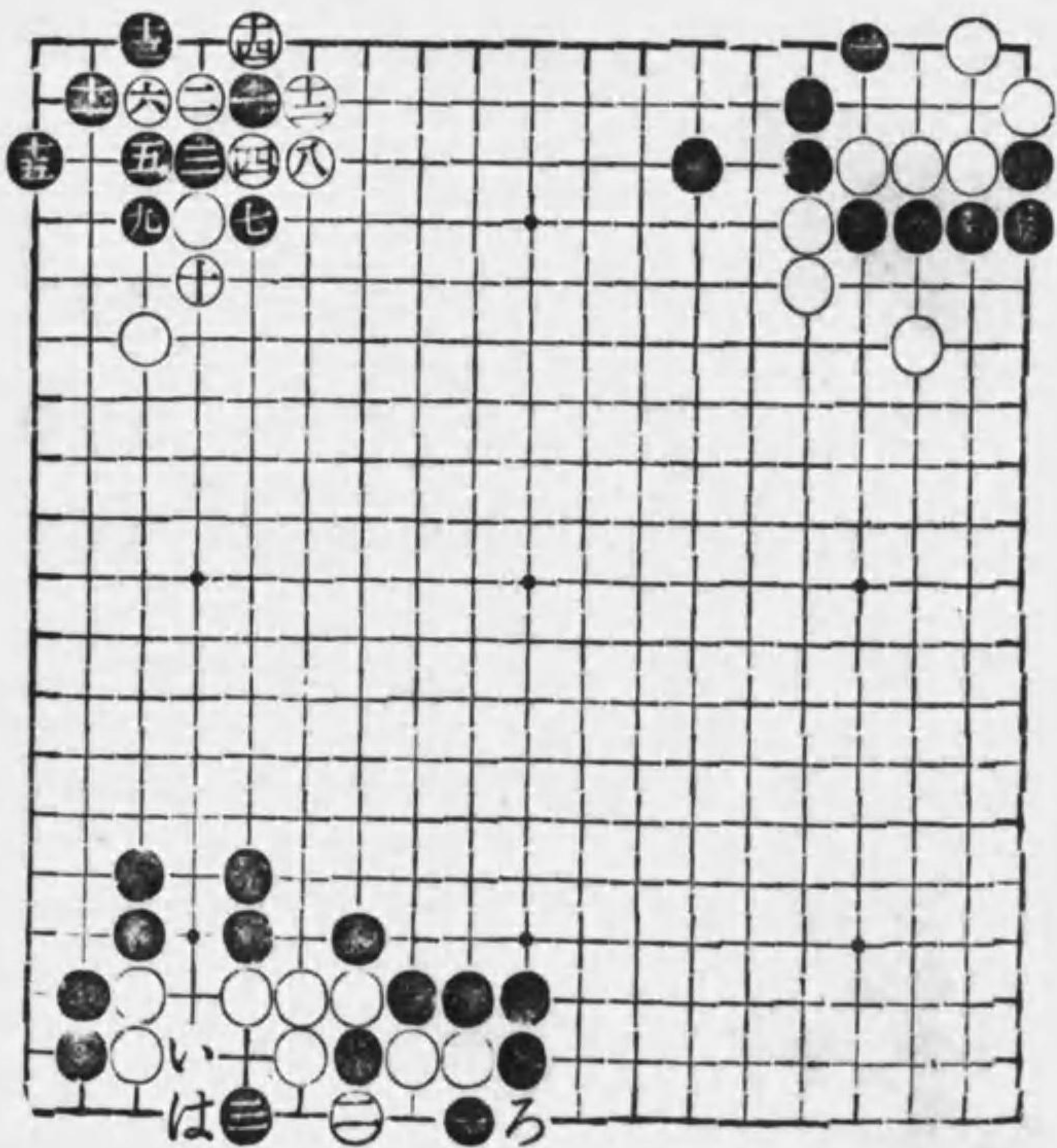


上圖右、黒一は其一手で
攻合いも黒勝ちの巧い手所
である。

上圖左、黒十五の活點は
周囲の違ふ際にもよく出る
要領。と要領だけを覺えら
れ度い。

下圖、黒三は次に白(5)
なら黒(ろ)。また白(い)
を——

(は)なら黒(い)。と白奪取
に妙。

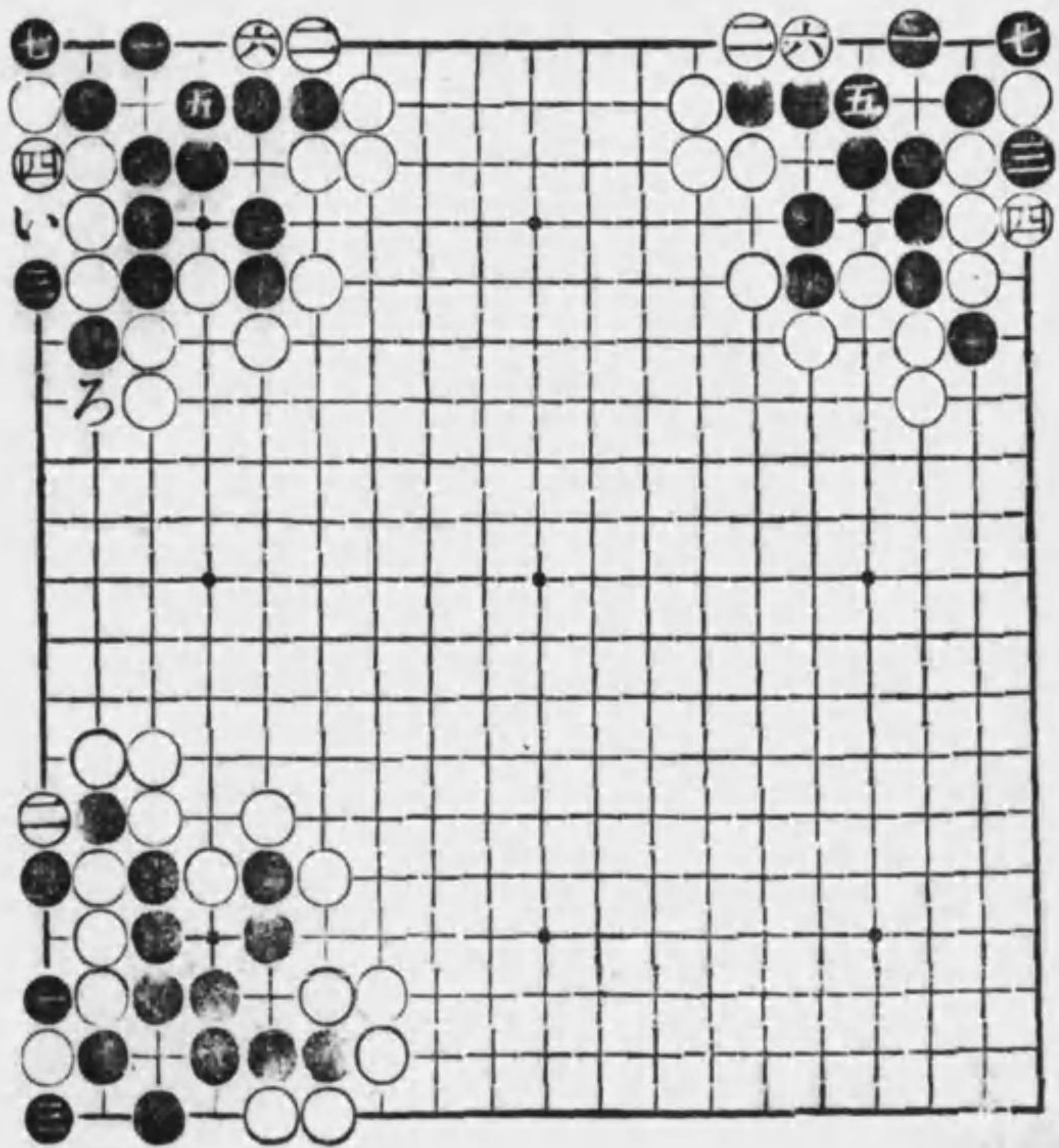


上圖右、黒三と打込み、
以下黒七と劫争活計は拙い
要領。

即ち上圖左の黒三が殊に
巧い、黒劫勝ちの時黒(い)
と一擧白五子打抜。

白四を(ろ)なら、轉じて
下圖、黒無條件明朗黒活。

處で次圖に奇想天涯の現
はれ——



奇想天涯とは、先づ上圖

黒一と三が絶妙の手所——

即ち以下白八と黒四子打

抜の後が下圖であつて、更

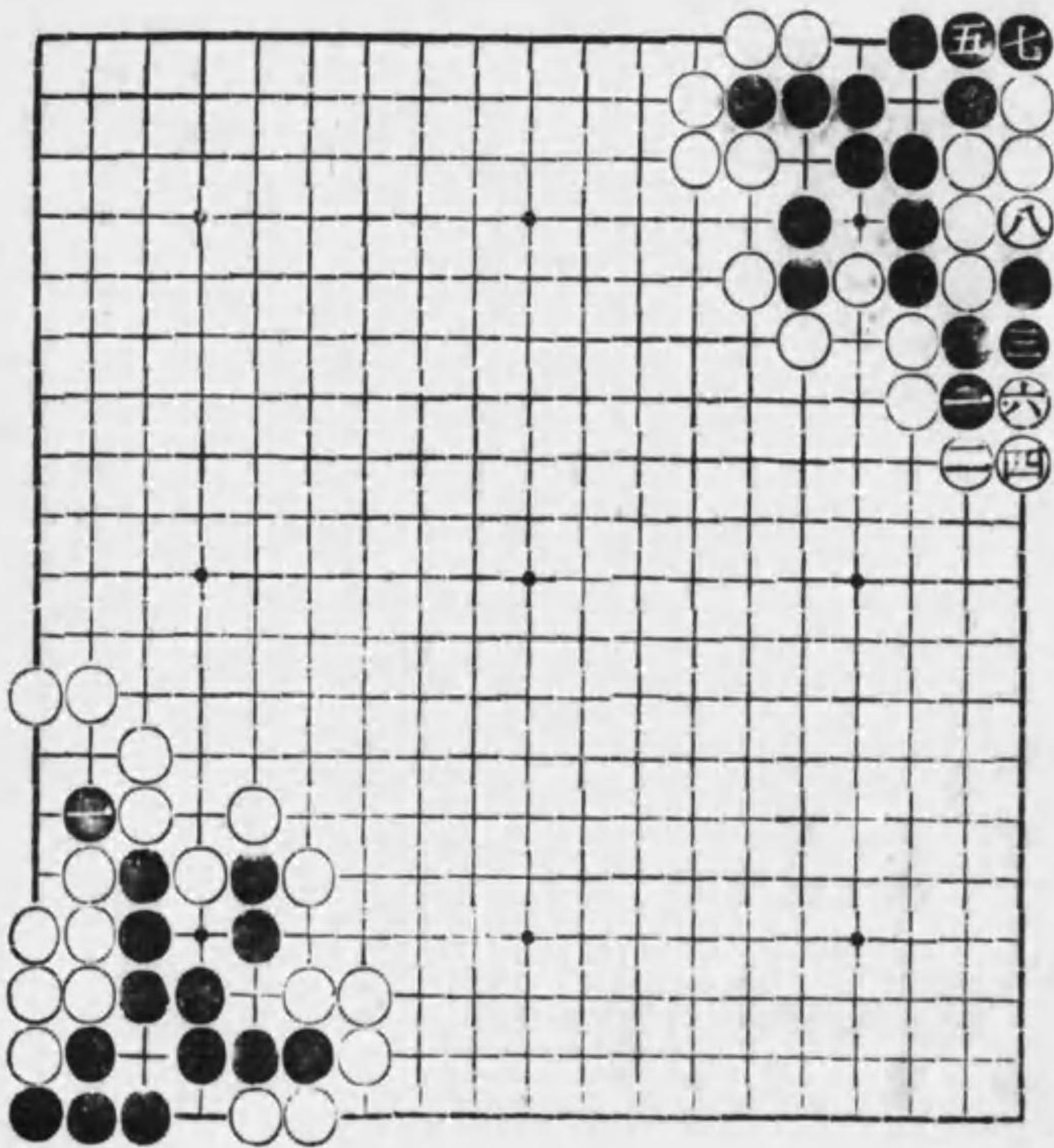
に黒一と黒に切られ。

實戦なら、白は一驚感嘆

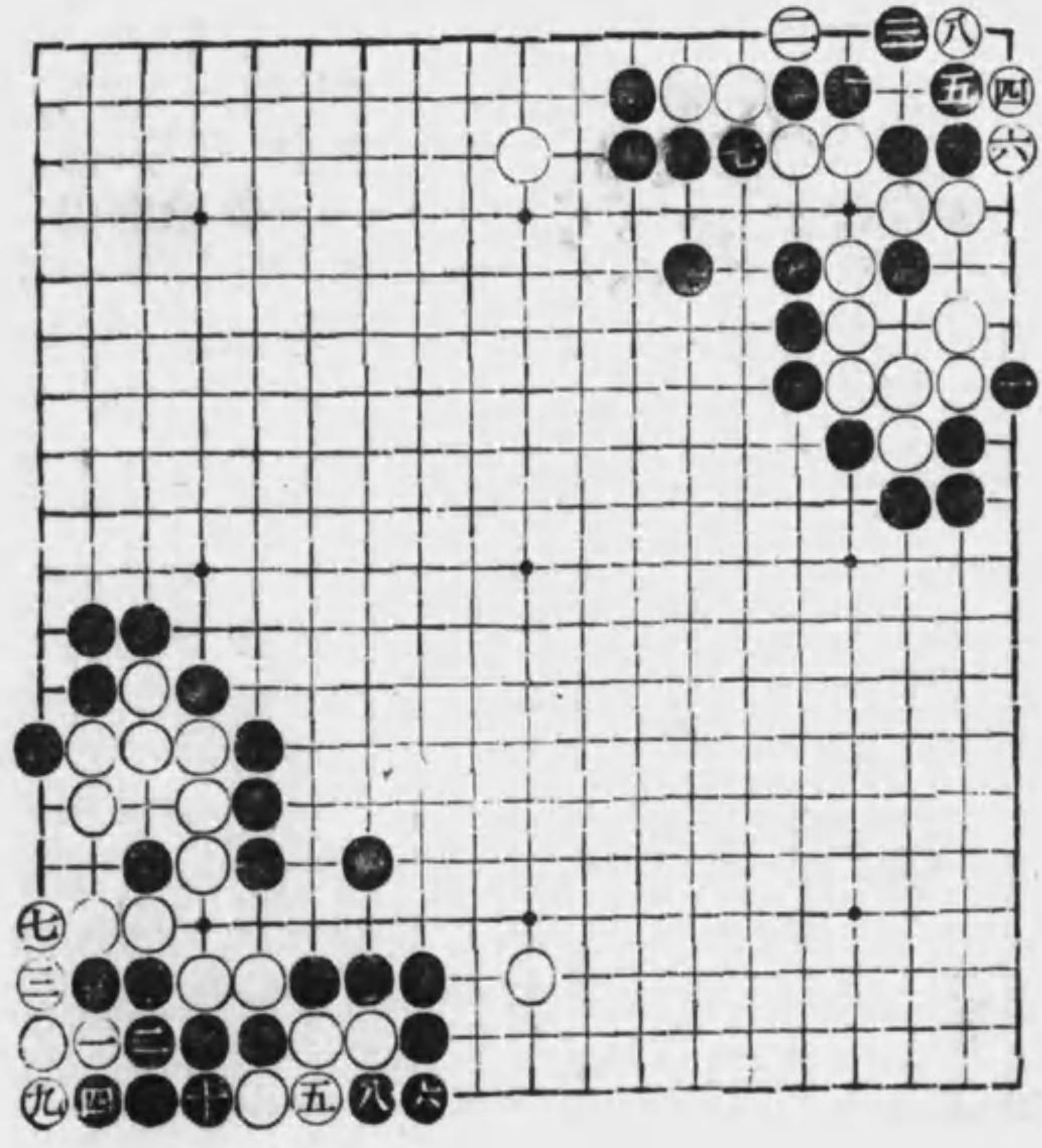
黒に貴想恐入る。などの情

景も観られやう。

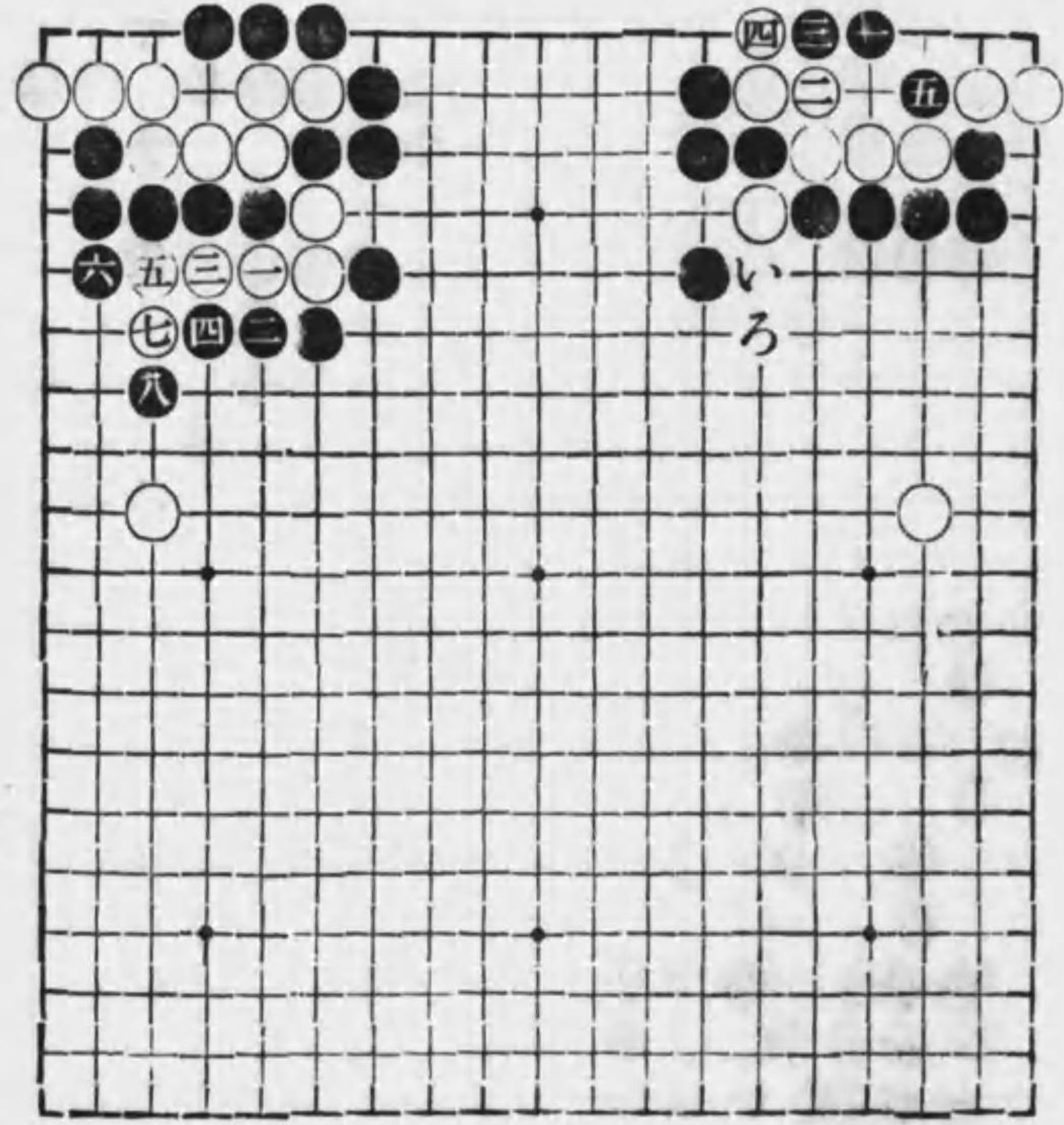
なほ次圖に同様の一題。



上圖、黒一で七だと、白一で白活。
 白二を七だと、黒五で白全滅。
 等で以下白八と劫争、白四が妙。
 とは黒五を六だと白五で黒悪果。と解る筈。
 また、黒五を七だと、下圖に移つて——なほ白三に黒四は以下黒十の後白五の上。此れは黒大悪果。

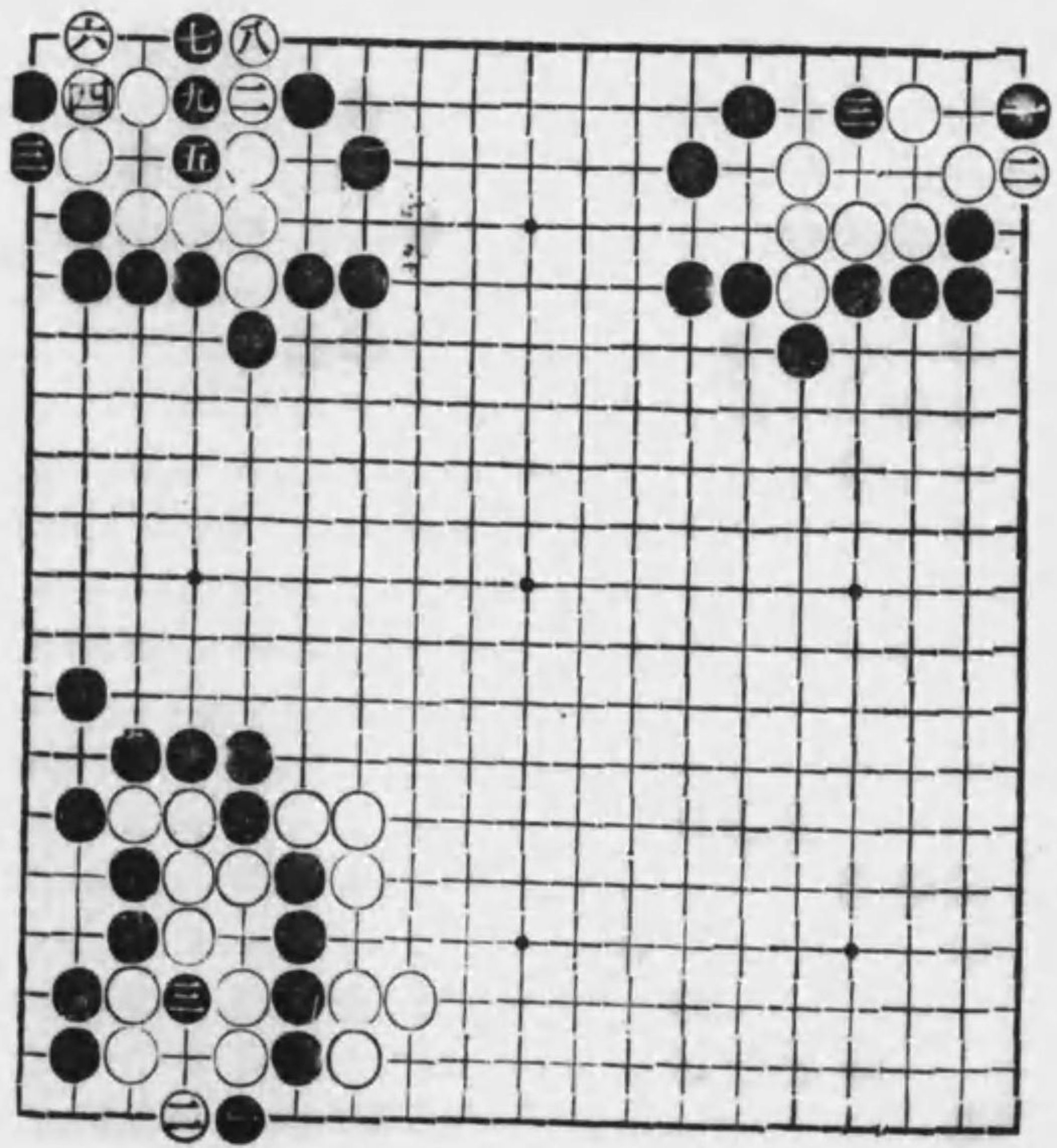


上圖右、黒一は以下黒五と白を取れ、黒一が白の痛い急所。
 また白四を五なら黒四でそして白(い)等は、黒(ろ)。その白二子は逃げられない。とは——
 上圖左の白一より黒八まで。一寸参考に成らうといふもの。先づ常識手所。



上圖右、黒一は白二に黒
 三で巧い白奪取の場所。
 白二を上圖左の二でも以
 下黒九で白を取れ。要する
 に右の黒一が簡明に白奪取
 に妙。

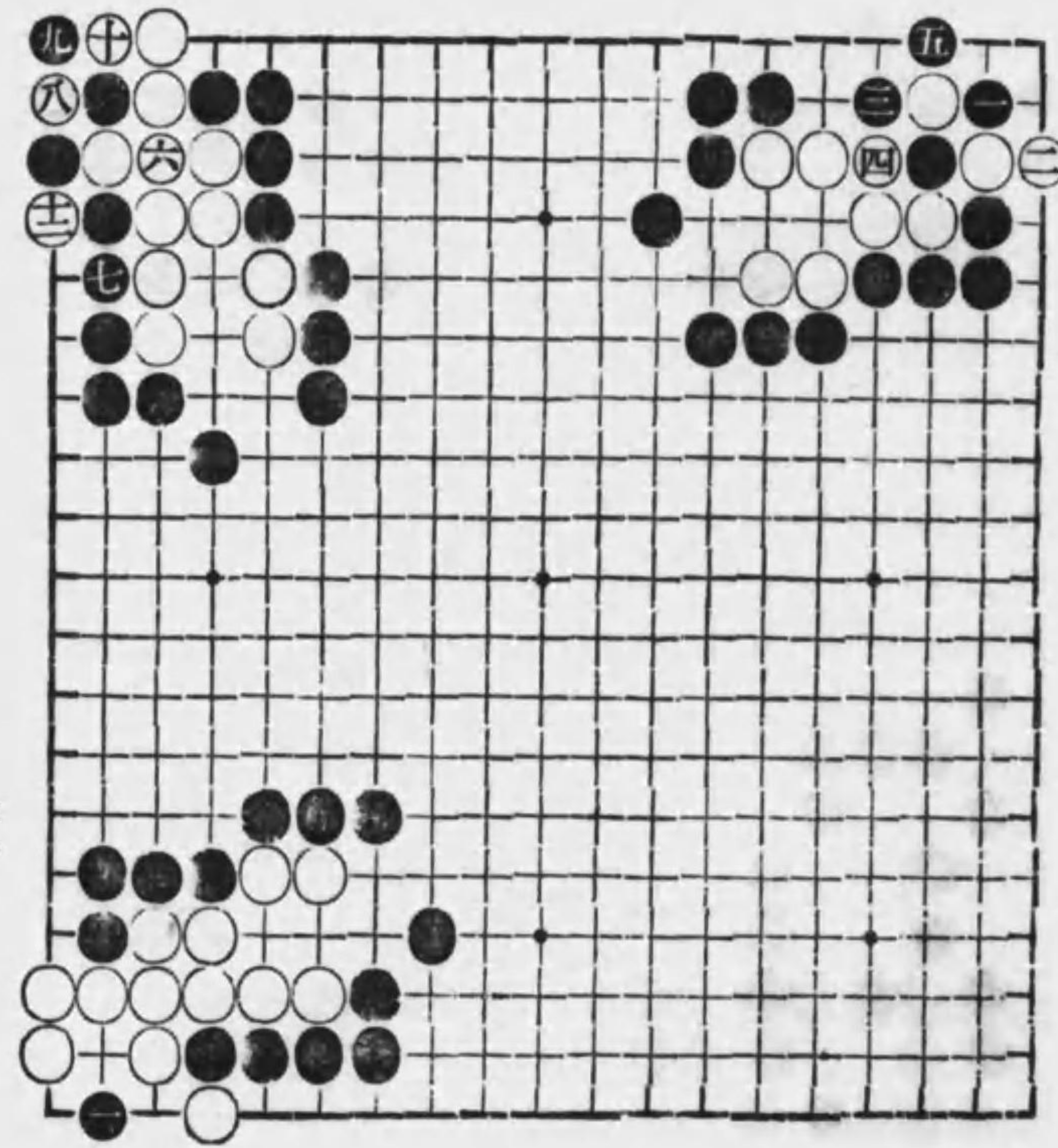
下圖黒一は白二に黒三、
 黒一が成巧の前提。されば
 白二は――
 三でセキか劫。と後は判
 る筈。



三〇

上圖右、黒一以下五まで
 は巧い手所。そして上圖左
 に移つて――白六だと大變
 とは以下白十に黒十一は
 八の所、と成つた黒四子打
 拔が白十二。

だが夫れまでが下圖白丸
 黒丸、其時更に黒一。で白
 全滅の次第。
 等は一局の中、よく含ま
 れる白悪果。されば上圖左
 白六は七で劫。



三一

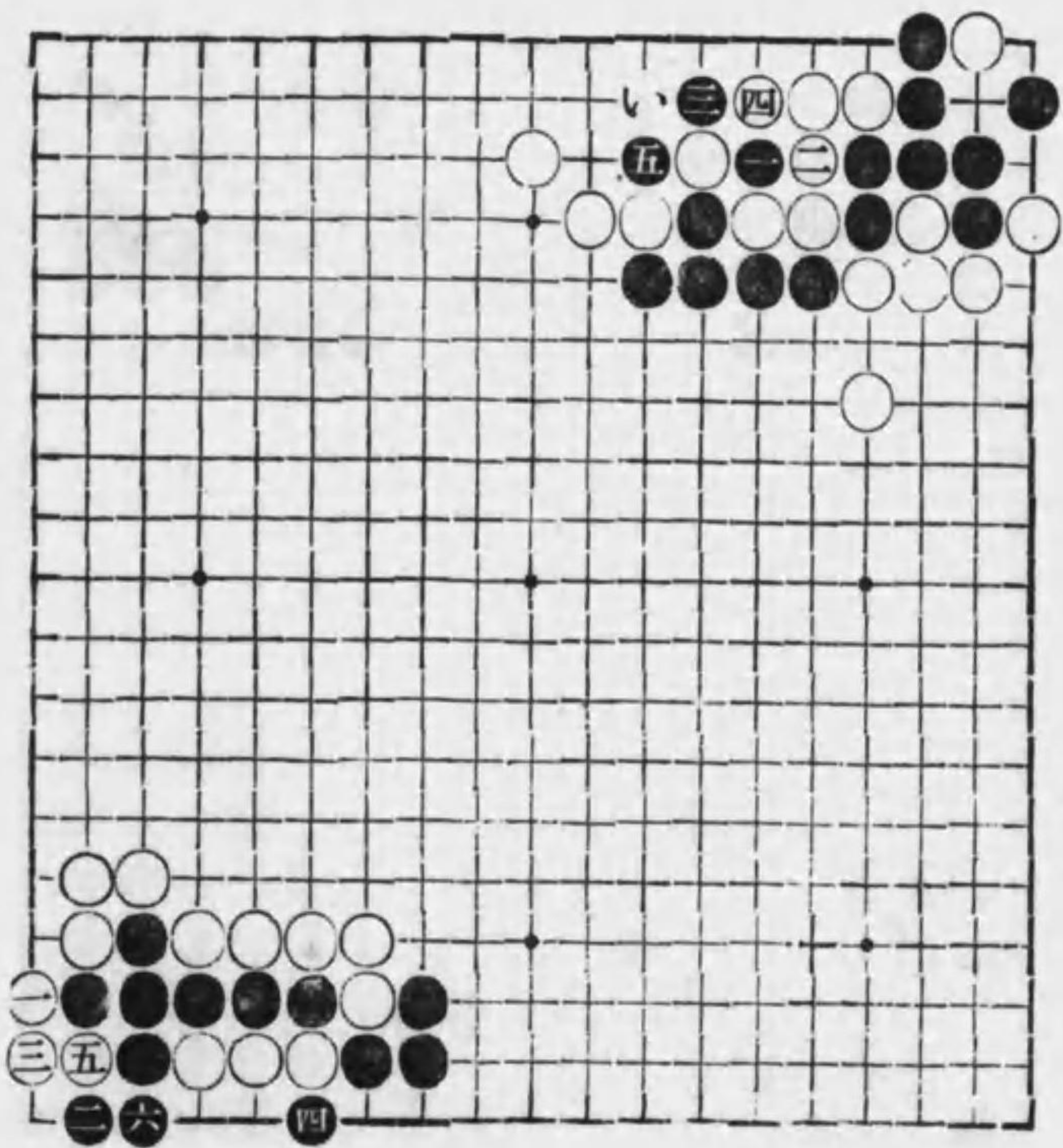
上圖、黒一より五までは殊に黒三が妙。

白四を五だと、黒四で白大悪化。

要するに黒五と成つては白(い)と劫争の他は無い。

下圖、白一に黒二が以下黒六までの黒安全第一。

黒二を三だと白六で黒悪果。と判る筈。

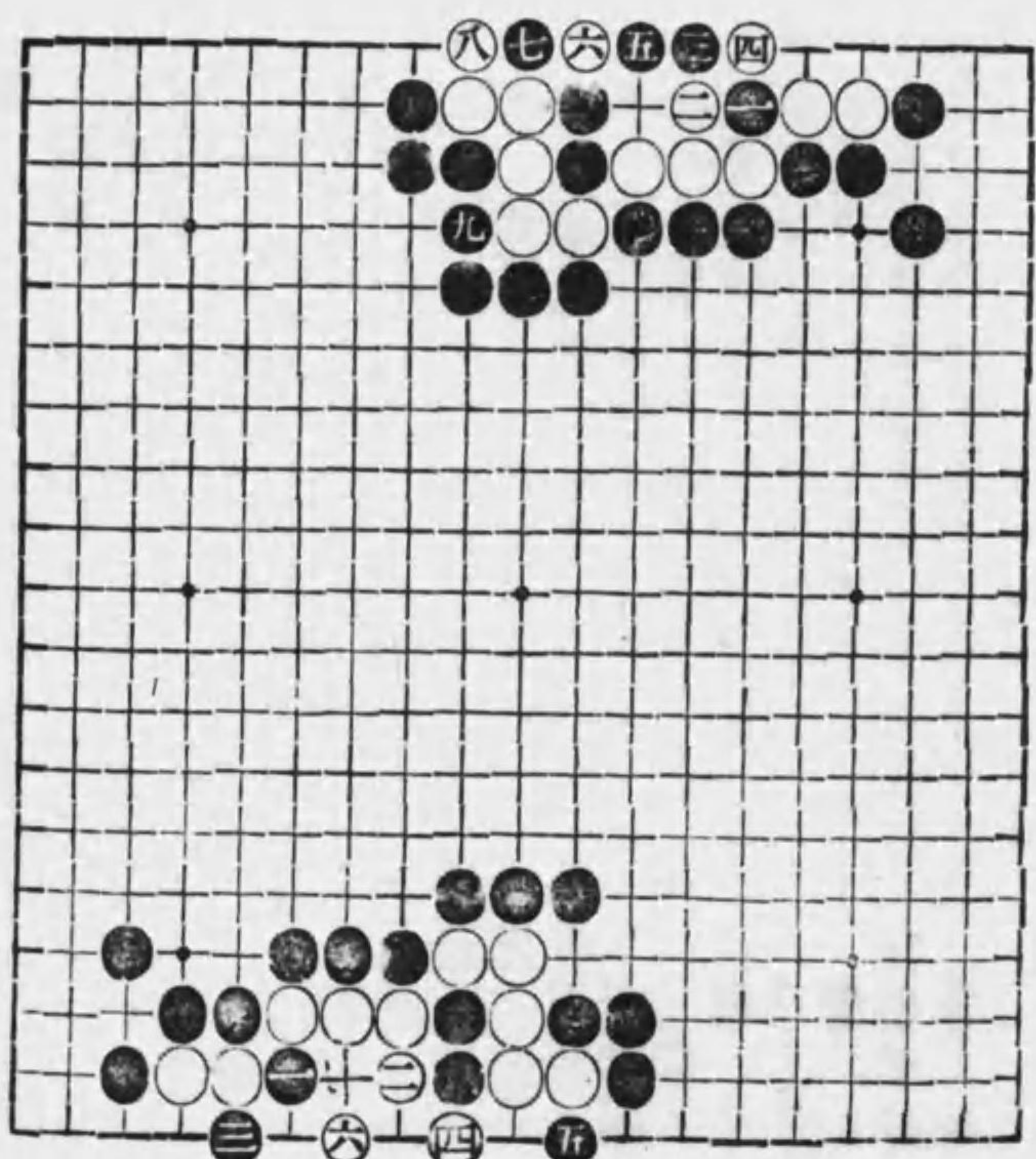


上圖、黒一は妙。黒一に白二は以下黒九の時、白六と劫争。

それに黒三を六だと無條件左の白五子を取られ。等で――

白二は下圖二が無事。といつでも以下白六まで、黒一に萬止むを得ない手所である。

なほ白六を(い)は黒六で劫争惹起。



上圖、白四を五は黒四。

また白六も絶對必要。そして黒七は――

白二子取。白八も四に黒

二子取。それが下圖白丸黒

丸まで。

次いで黒九白十。に黒

(い)は要するに同様の事を

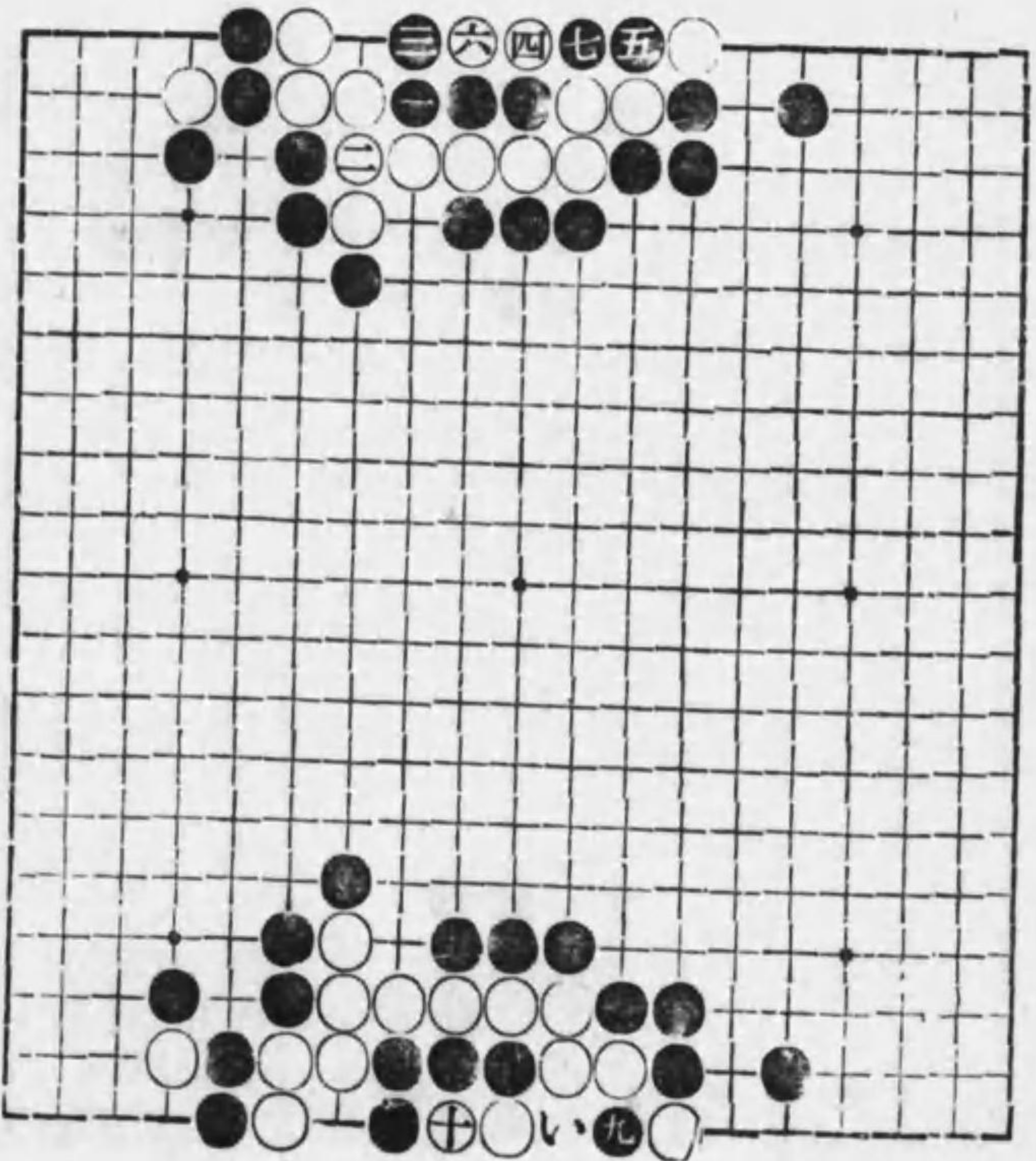
繰返し、白は長生、取れな

い。

が黒敗局にそれを繰返し

無勝負に妙。

無勝負に妙。



上圖、黒一に白二は以下

黒九と劫争惹起。

で白悪い時は下圖白二の

他は無。

が黒一は白四と成つて先

手得、假りに黒五目位の敗

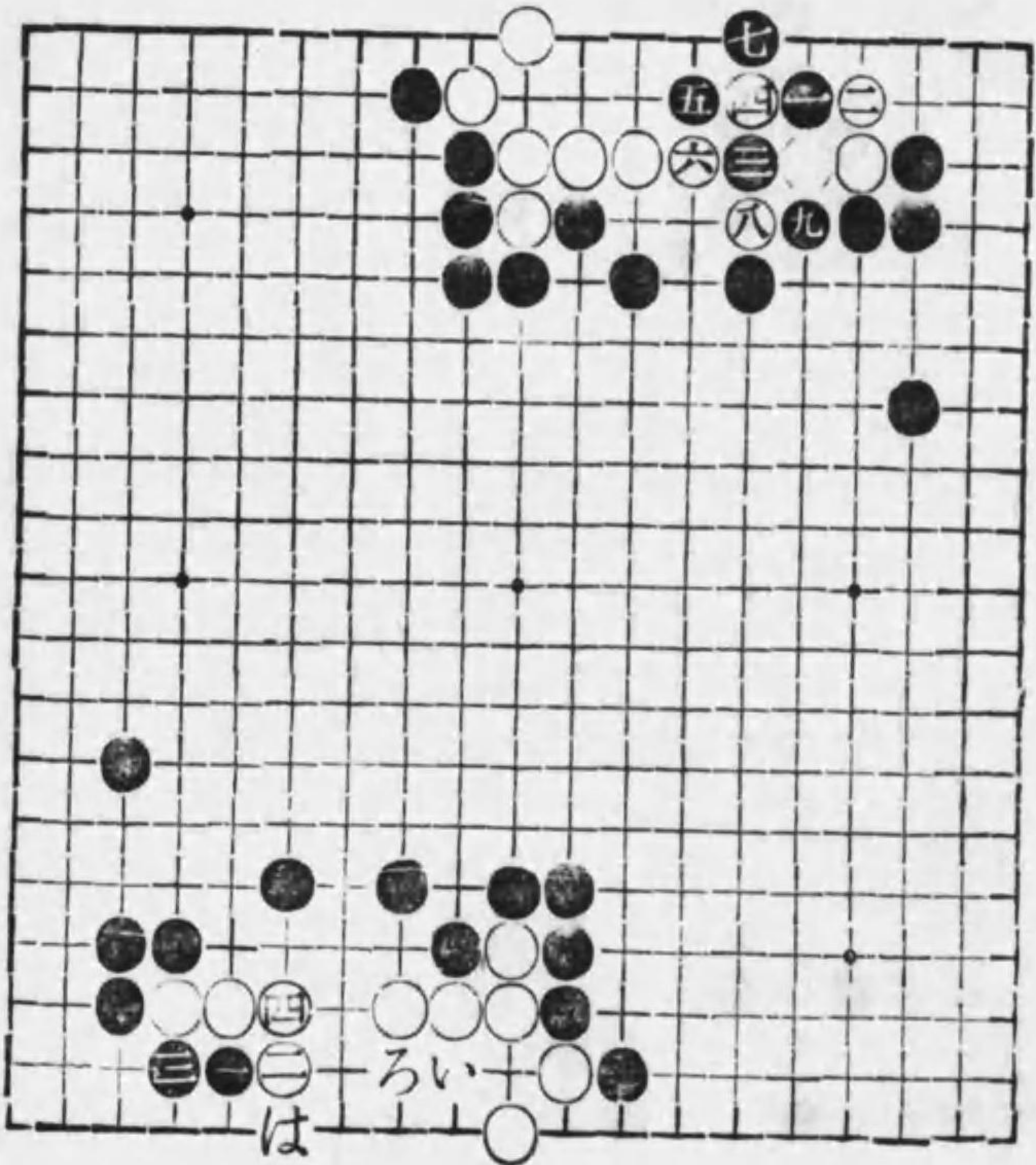
局なら逆轉黒勝ちの巧い手

所。

白四を手抜なら――黒

(い)白(ろ)そして黒(は)。

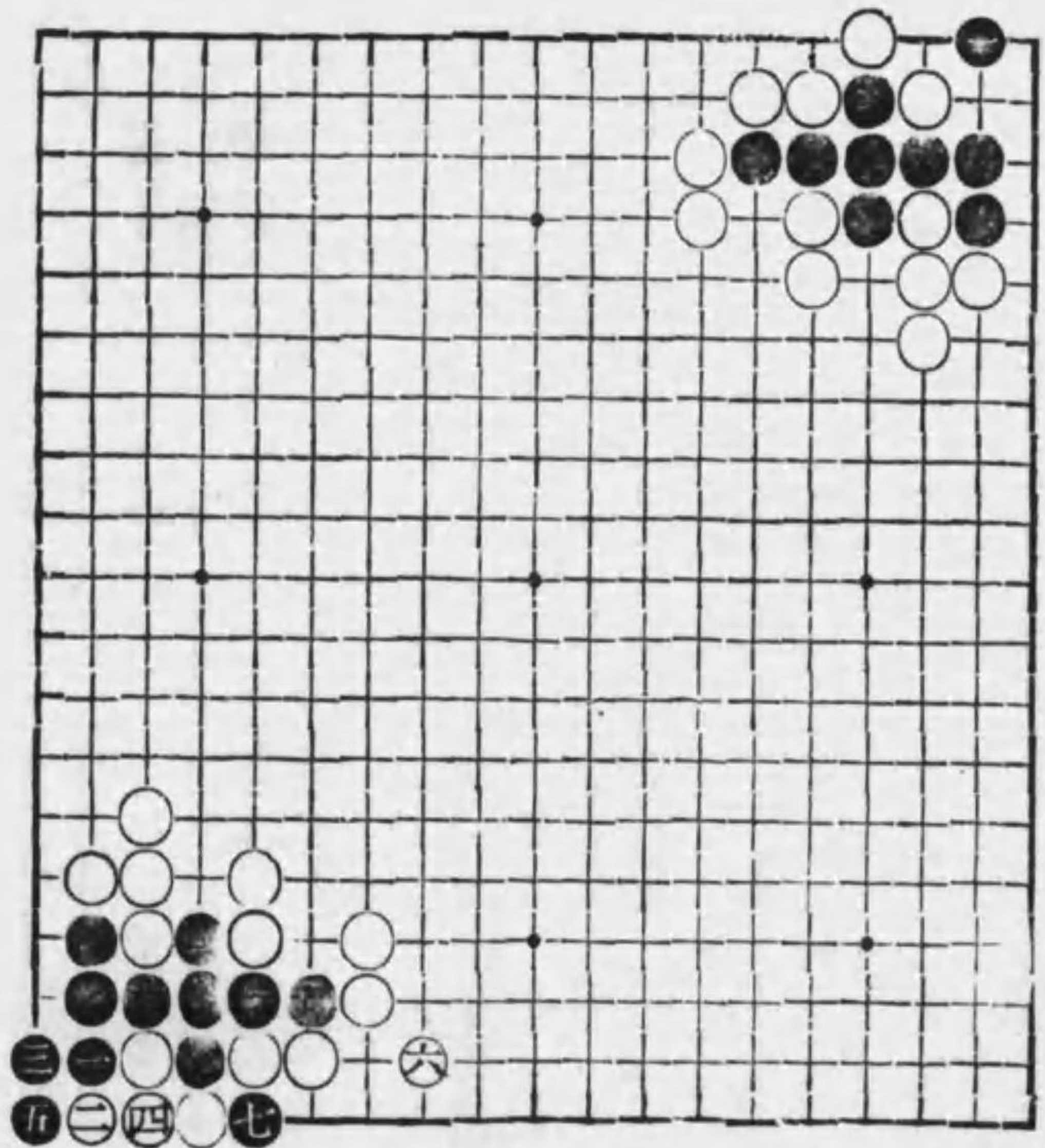
で白に危険展開。



上圖、黒一が確實の活點である。

下圖黒一は白二の時一應四に劫を取るが、此れは別とし、次に黒三で活き？

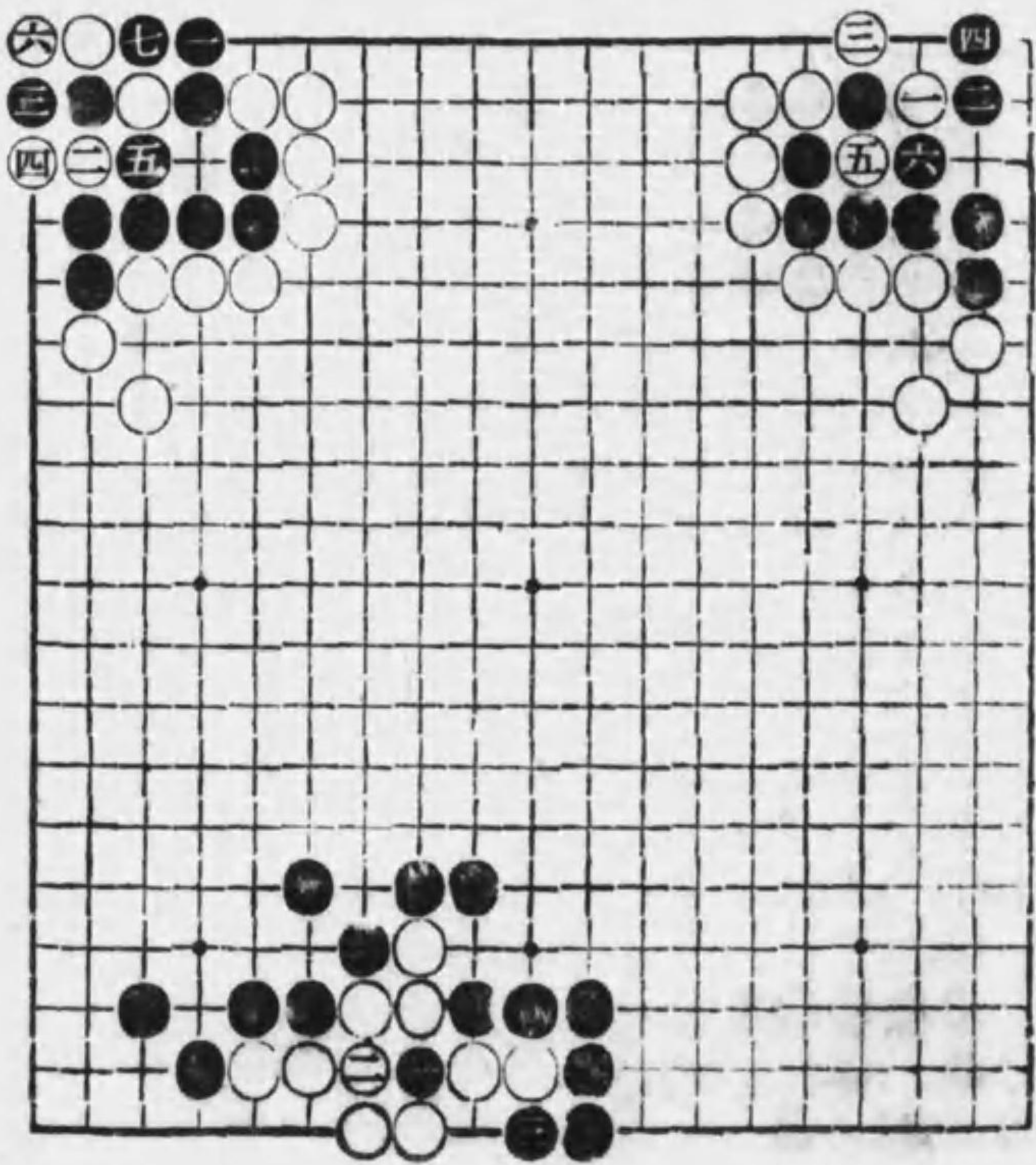
活きられないのである、黒七の次に白四の所。と。と覺えられよ。即ち本圖黒一は拙い自滅の不明。



上圖右、黒二は絶對安全とは白五を六でも黒五と解る筈。

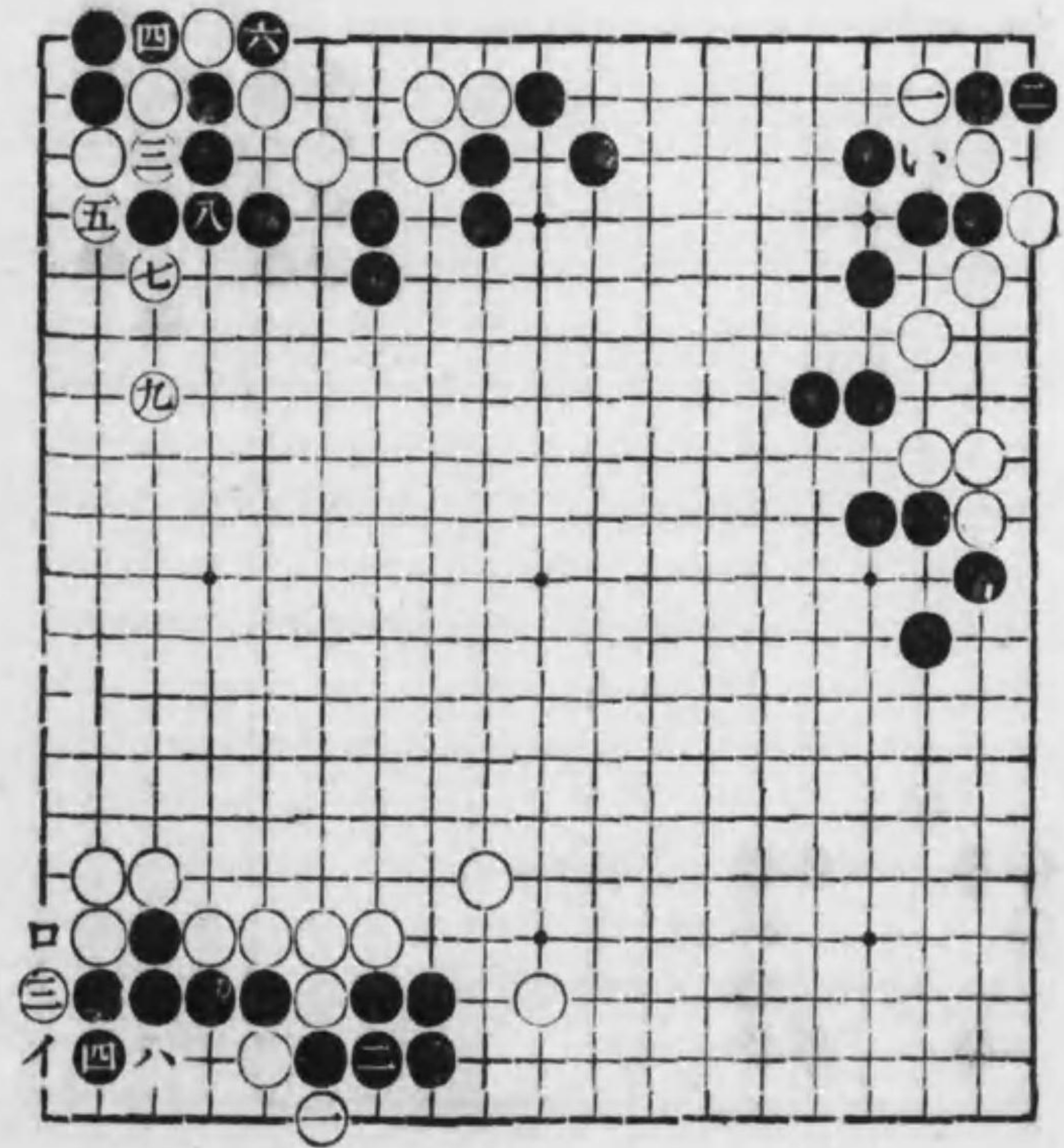
また白三を四なら、左圖に移つて更に黒一より七まで、黒七が其他に無い要領その要領も常識の手所である。

下圖黒一は、白奪取に妙黒一に白活計は無し。



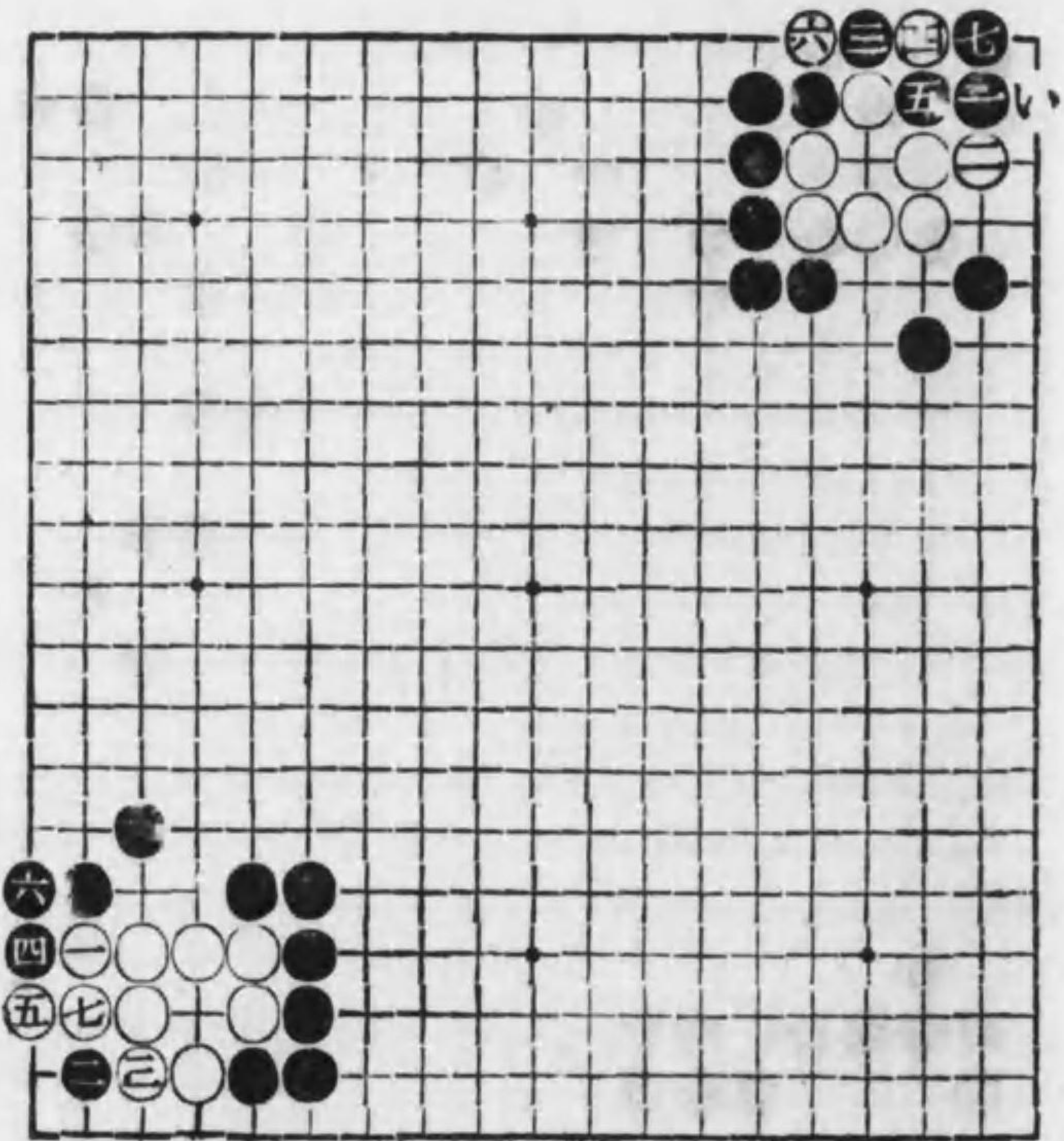
上圖右、白一に黒二を
(い)だと、白二で劫争だか
ら、劫を避けるに黒二が妙
併し白一も左圖に移つて
白三以下九まで、白巧い變
化である。

下圖、白三に黒四を即ち
(イ)だと、白四黒(ロ)白
(ハ)。
で判る黒悪化の劫争惹起
である。



上圖、黒一は以下黒七と
成つて、次に白(い)と劫の
他は無い、白の急所。
されば下圖白一と白は必
要。

そして黒二が以下に観る
黒先手得の場所である。
が夫れは劫立て侵分等に
用ひ。と知られよ。



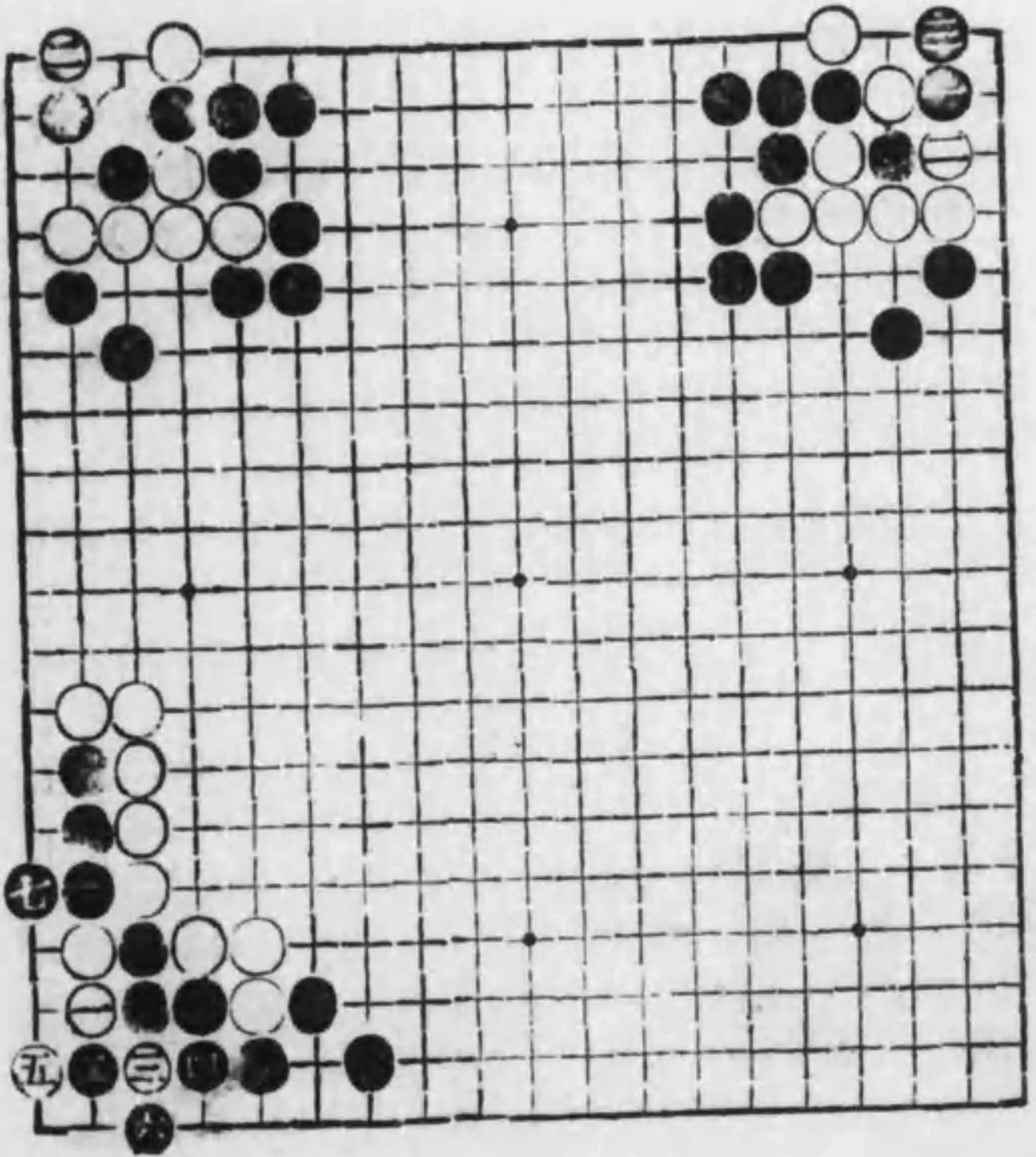
上圖右、黒一は巧い手所である。

が白二を左圖二だと、無條件には白を取れない劫争である。

されば本圖白二も旨い手所。

下圖、白一以下七は黒の地中で甘い、儲け仕事。

で白一の前、黒一と黒は必要である。



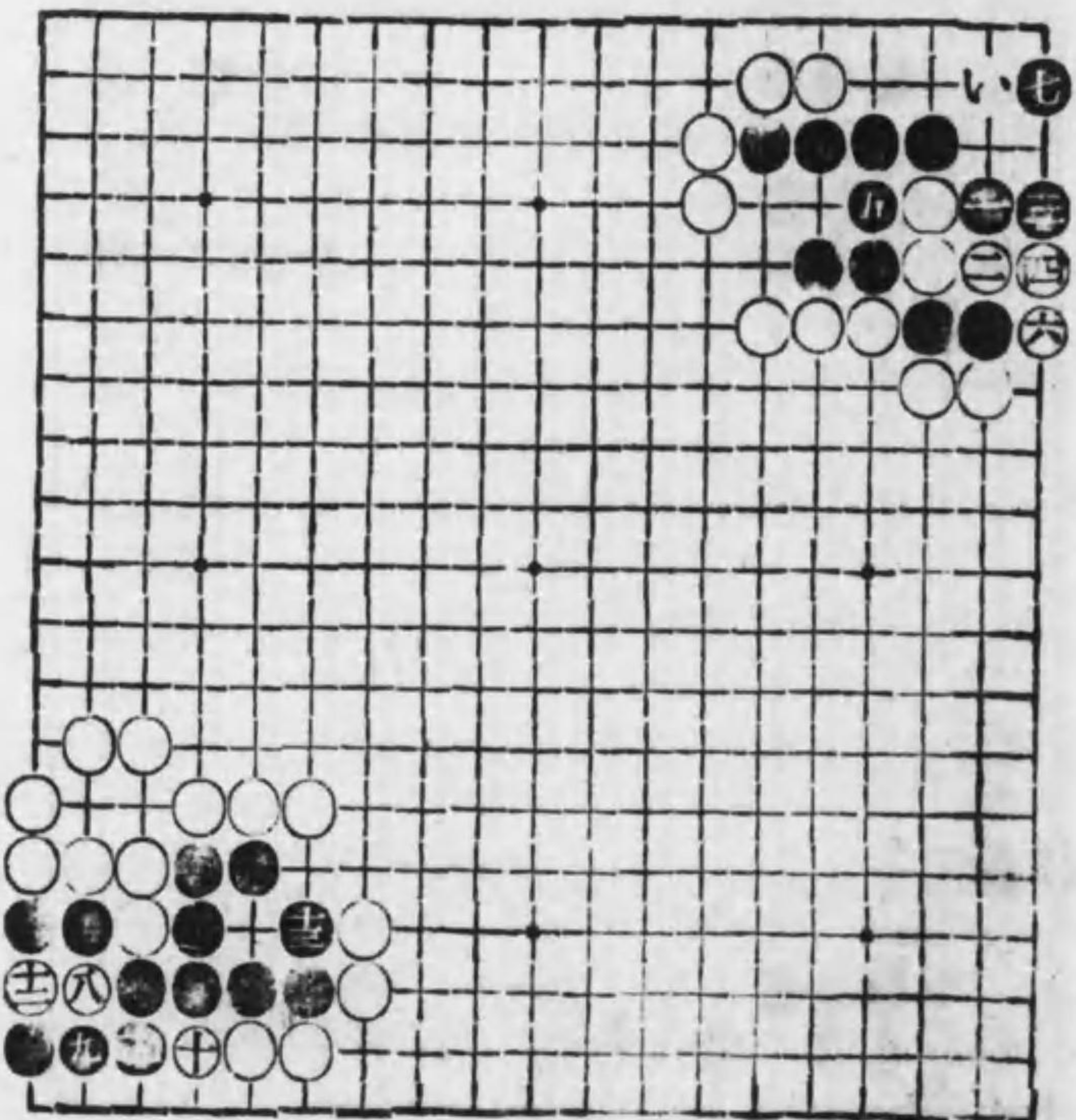
一〇

上圖、黒三が妙。即ち白四を六なら、黒(い)で夫れが活點。と解る筈。また黒七が絶妙で下圖を觀られよ——

白八に黒九で以下黒十三まで。

以上は黒三と七の精妙に因るもの。

なほ上圖黒七を(い)だと白七で黒自滅。



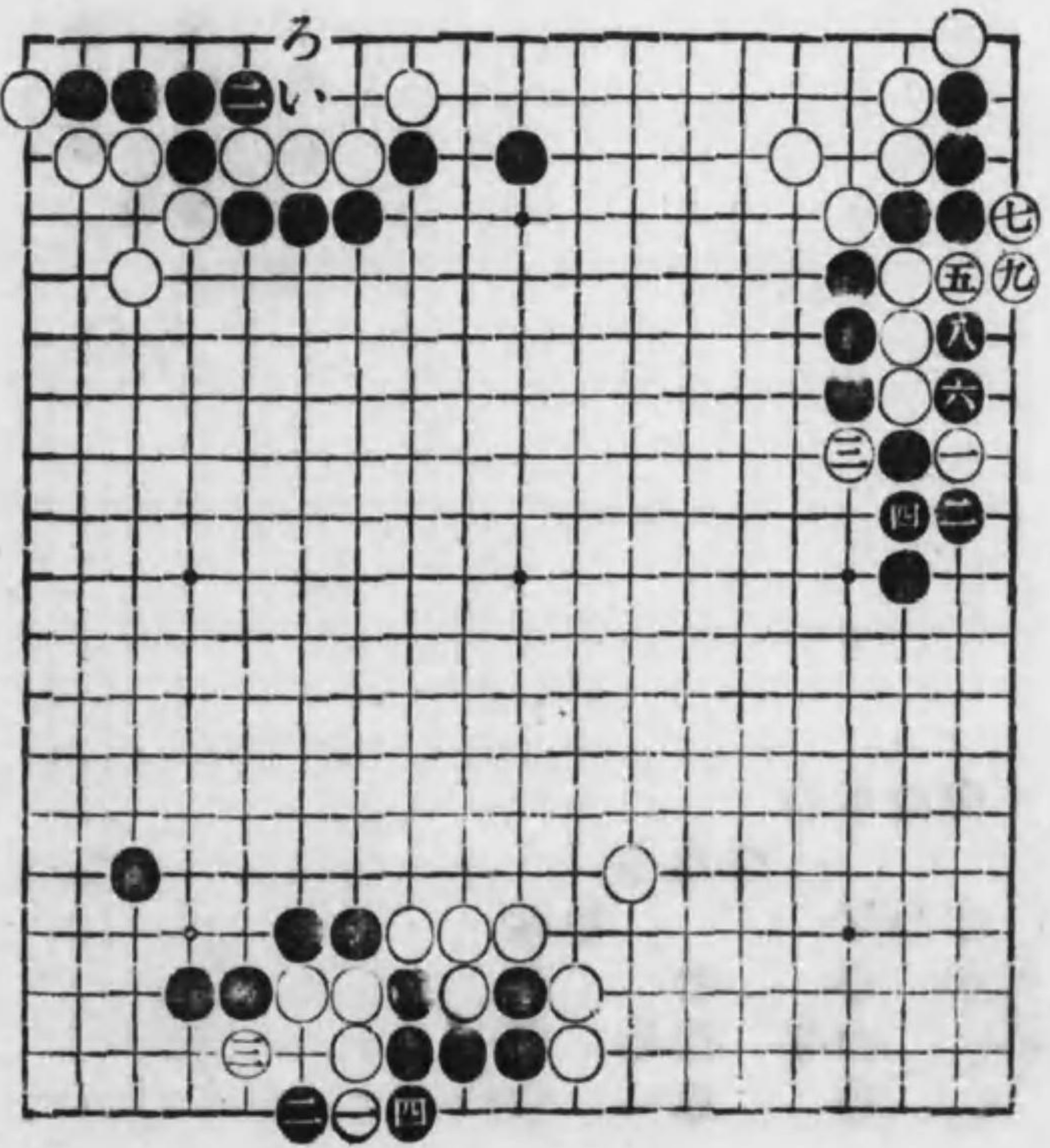
一四

上圖右、白一に黒は以下
白九と成つて黒失敗の場所
である。

されば黒二は左圖二が、
次に白(い)なら、黒(ろ)
と要するに黒勝ちの場所。

下圖、白一に黒二。また
白三に黒四。

等の要領も常識の場所
である。

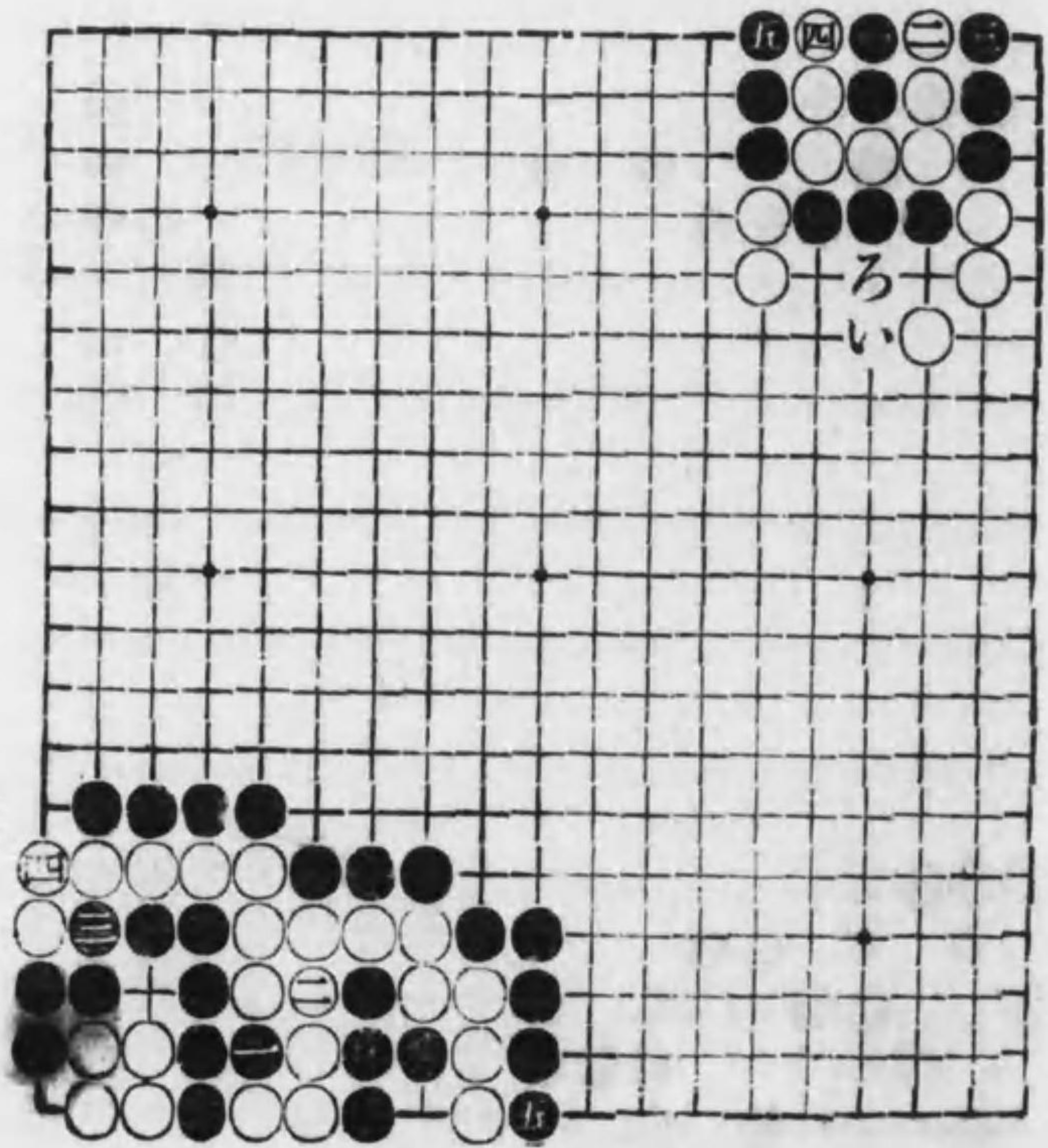


上圖、黒一が以下黒五で
早取りの攻合法。

黒一を(い)だと、白(ろ)
で黒大失策。

下圖黒一と三も攻合ひに
必要の場所。

そして黒五を不必要と見
たら強い。即ち大きな
成巧に自然と心も弛み、
無駄手を重ね。等で敗局に
もならう。

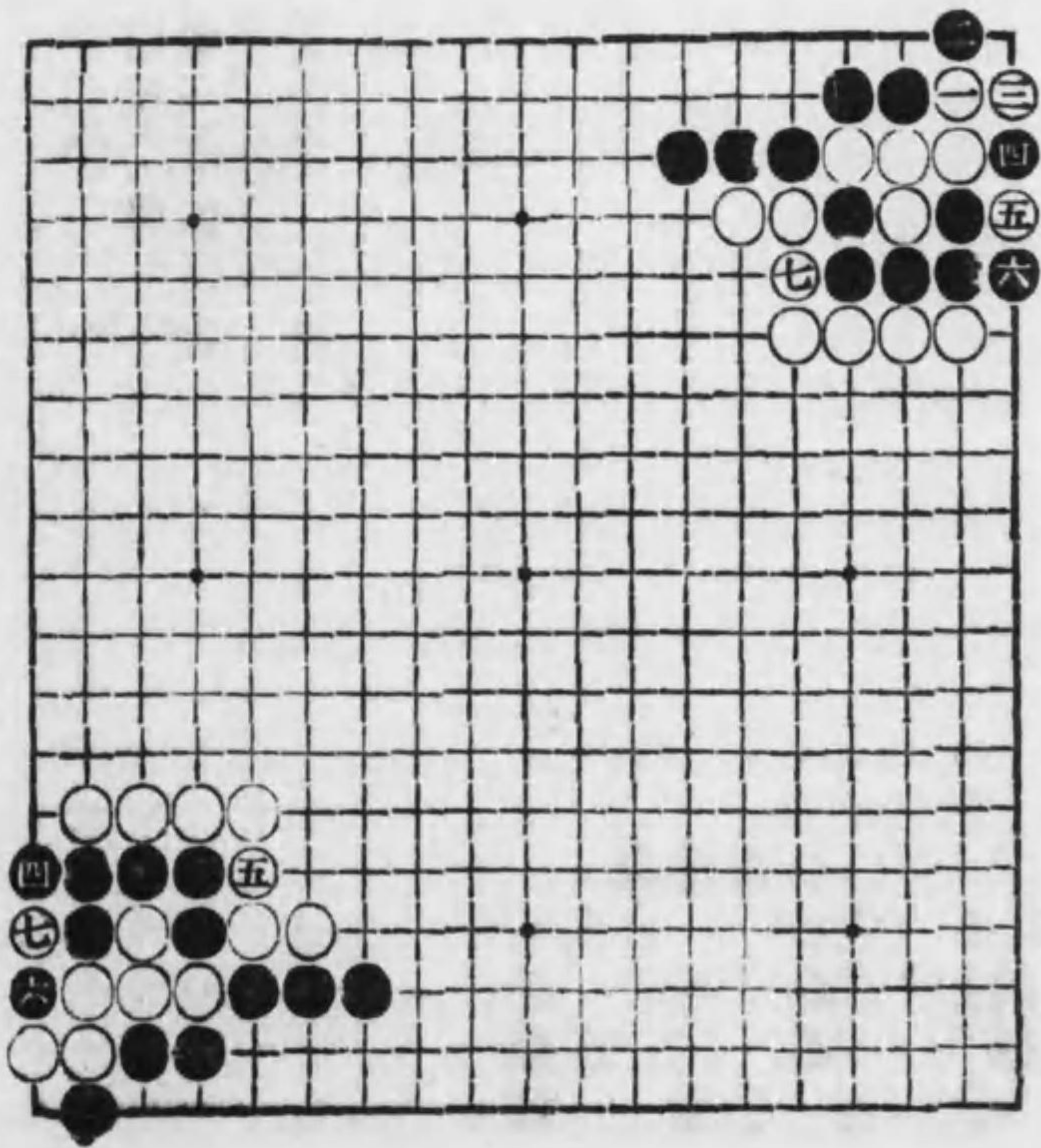


上圖、白一と三に黒二以下六まで殊に黒四が、即ち白七に黒八を四と先手劫取りに妙。

下圖黒四だと以下白七で白先手劫取。

何と上圖の黒四は巧い手所。

等も一局の中、多く出る要領である。



四四

上圖黒一に——白二を

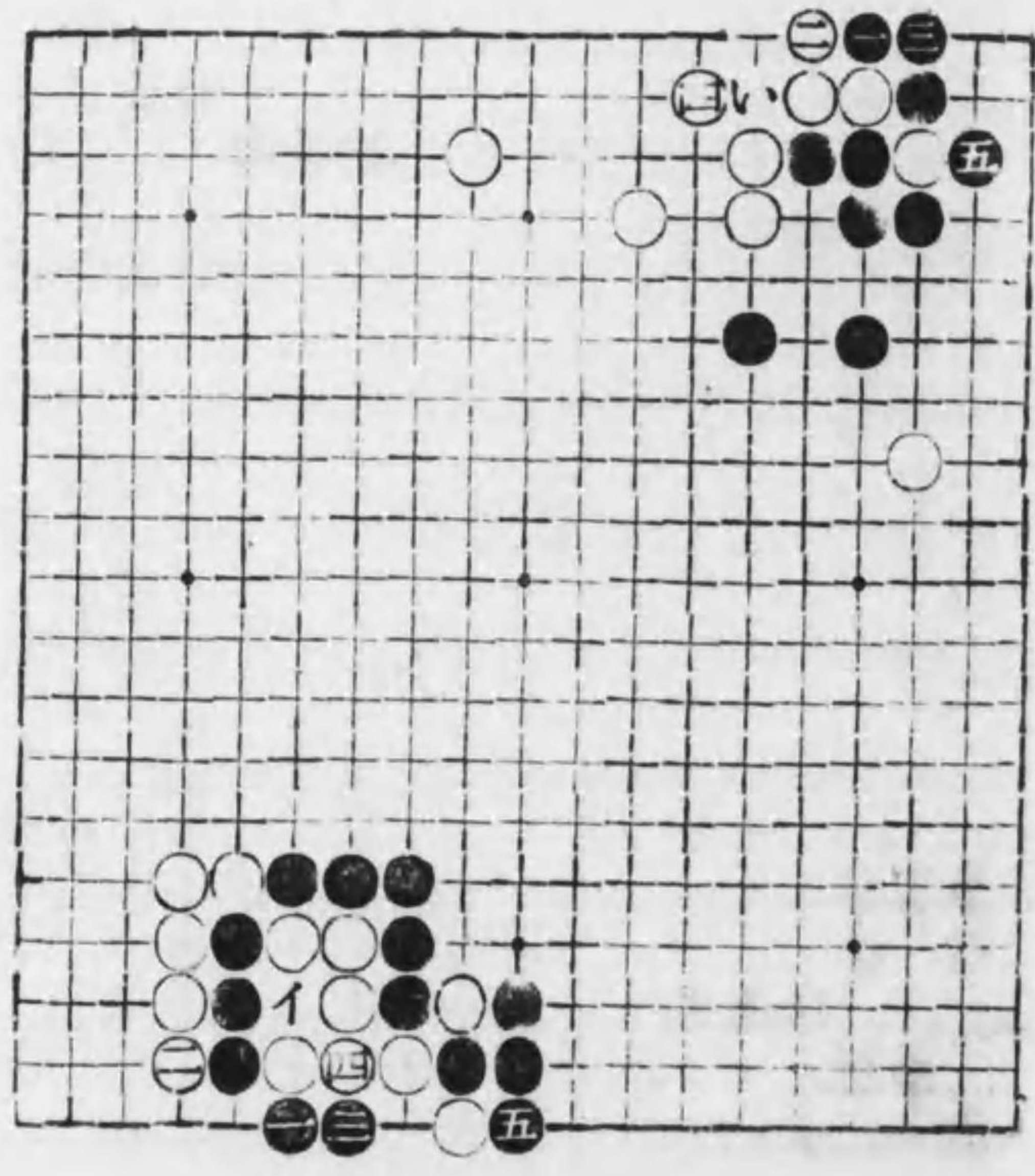
(イ)だと、黒甘い白後手の先手得。

斯様白二が以下黒五と、白旨い先手の要領である。

下圖、黒一は以下黒五で黒成功に妙。

なほ白二を三なら、黒(イ)。

黒(イ)に白四とは粘げな



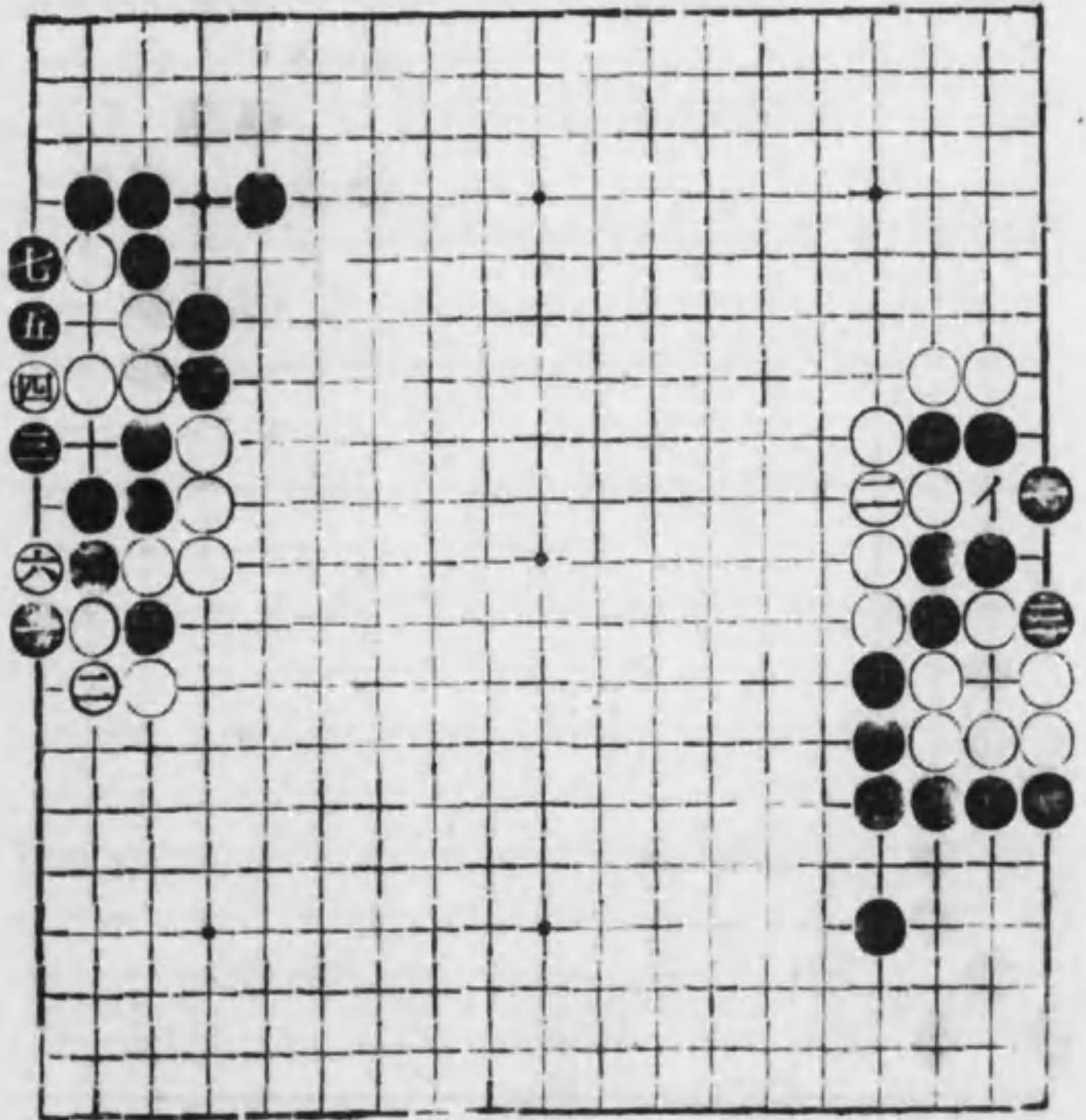
四五

左側、黒一と三が、白四を五でも黒四で黒勝ちに妙である。

黒一を三だと、白六で黒不結果。と以下の推移は判る筈。

右側、黒一が白二に黒三即ち巧い手所である。

黒一を(イ)だと、白二で黒拙い自滅の手所、寸前尺魔のわけ。

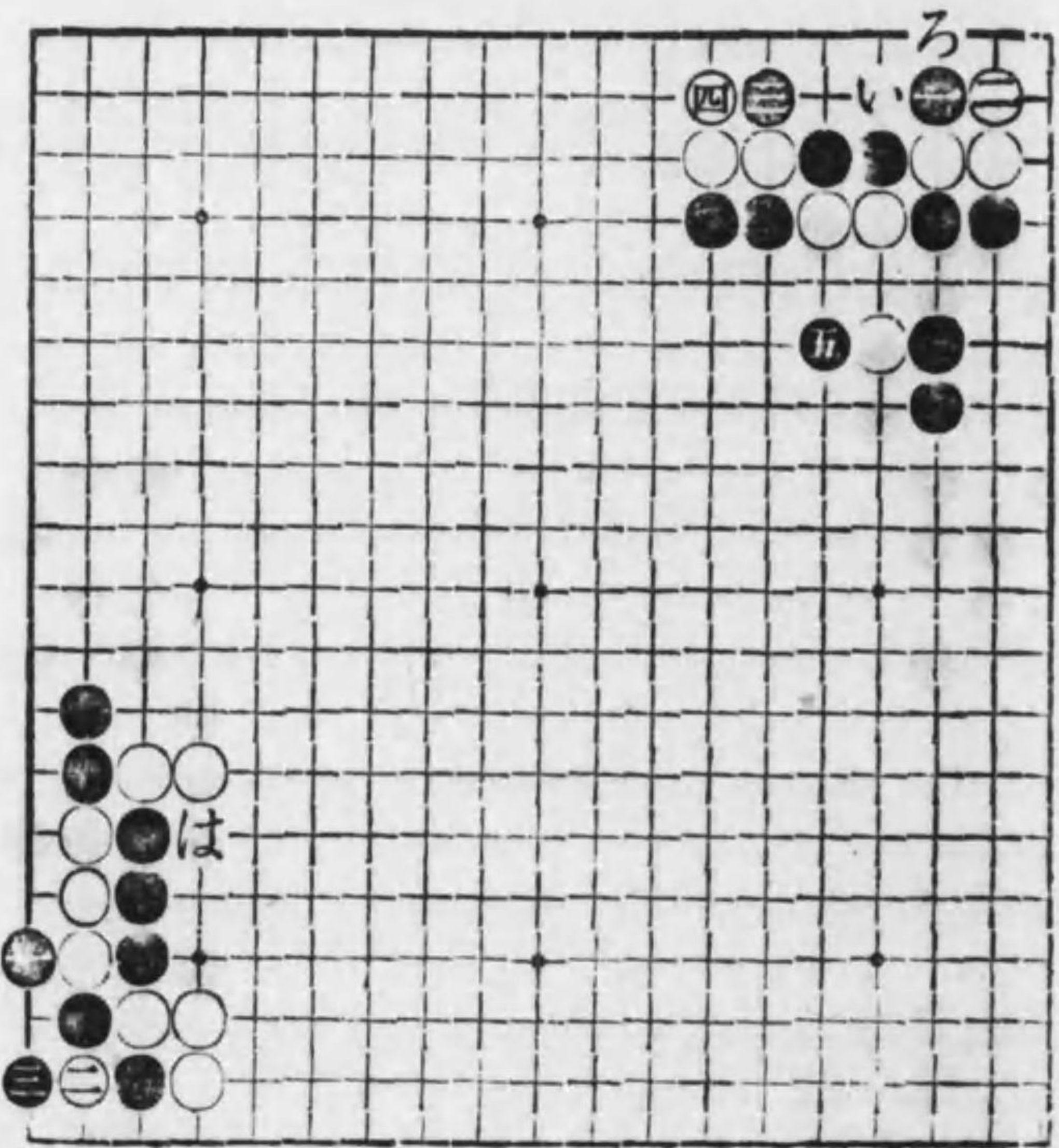


四六

上圖、黒一以下五までは黒旨い手所。

黒三で(い)だと、白(ろ)で黒負け。と解る筈。

下圖黒一は白二に三と劫である非常手段、黒一を二は白(は)で黒負けだからである。



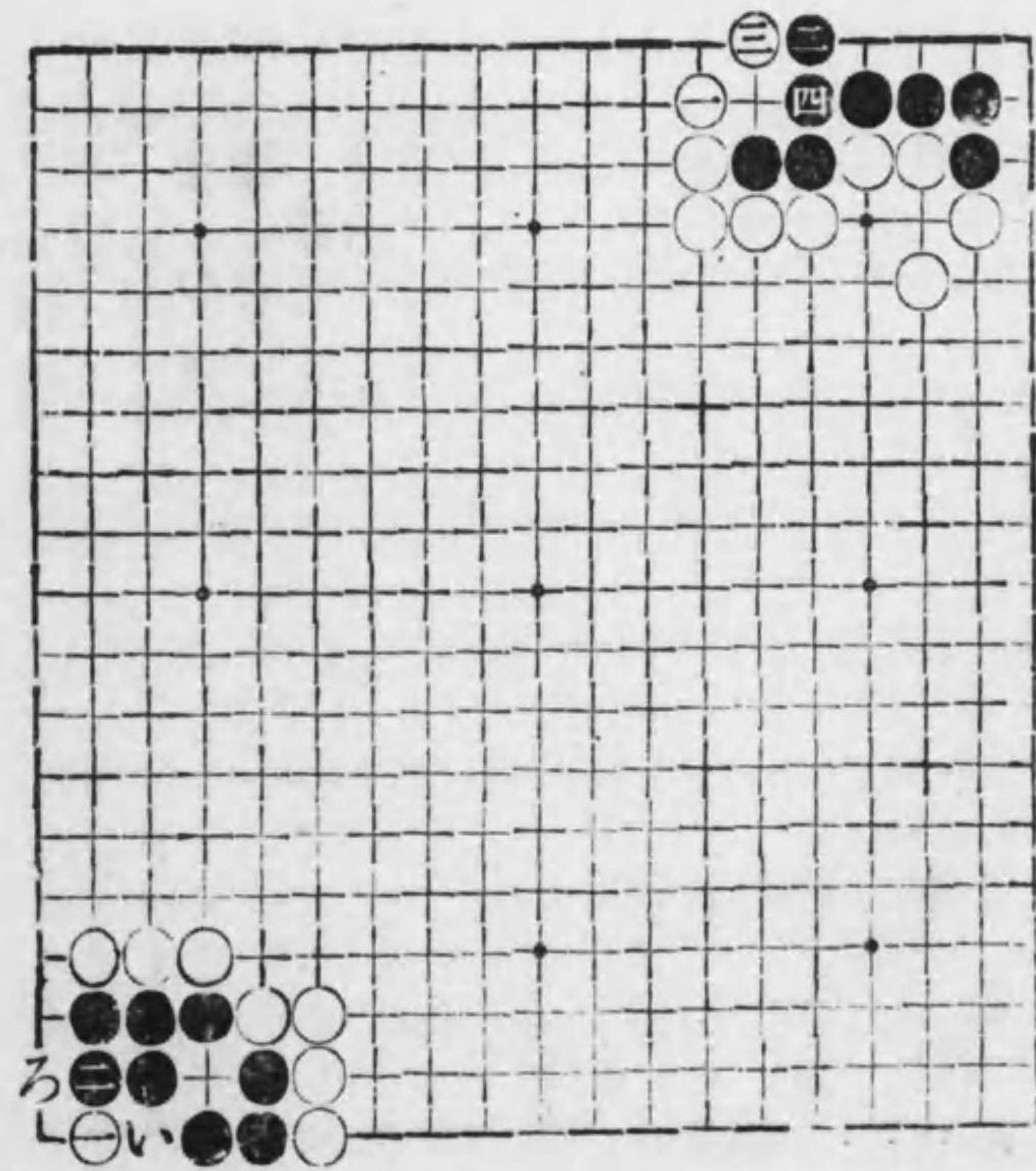
四七

上圖、白一に黒二が活點
黒二を四だと白二で黒取
られ。と用心の場所。

下圖白一にも黒二の位は
無い。

黒二を(い)だと要するに
白(ろ)と黒に損が残つて。

本圖白一は劫立て等に來
る一手。に黒慌てるからの
注意。



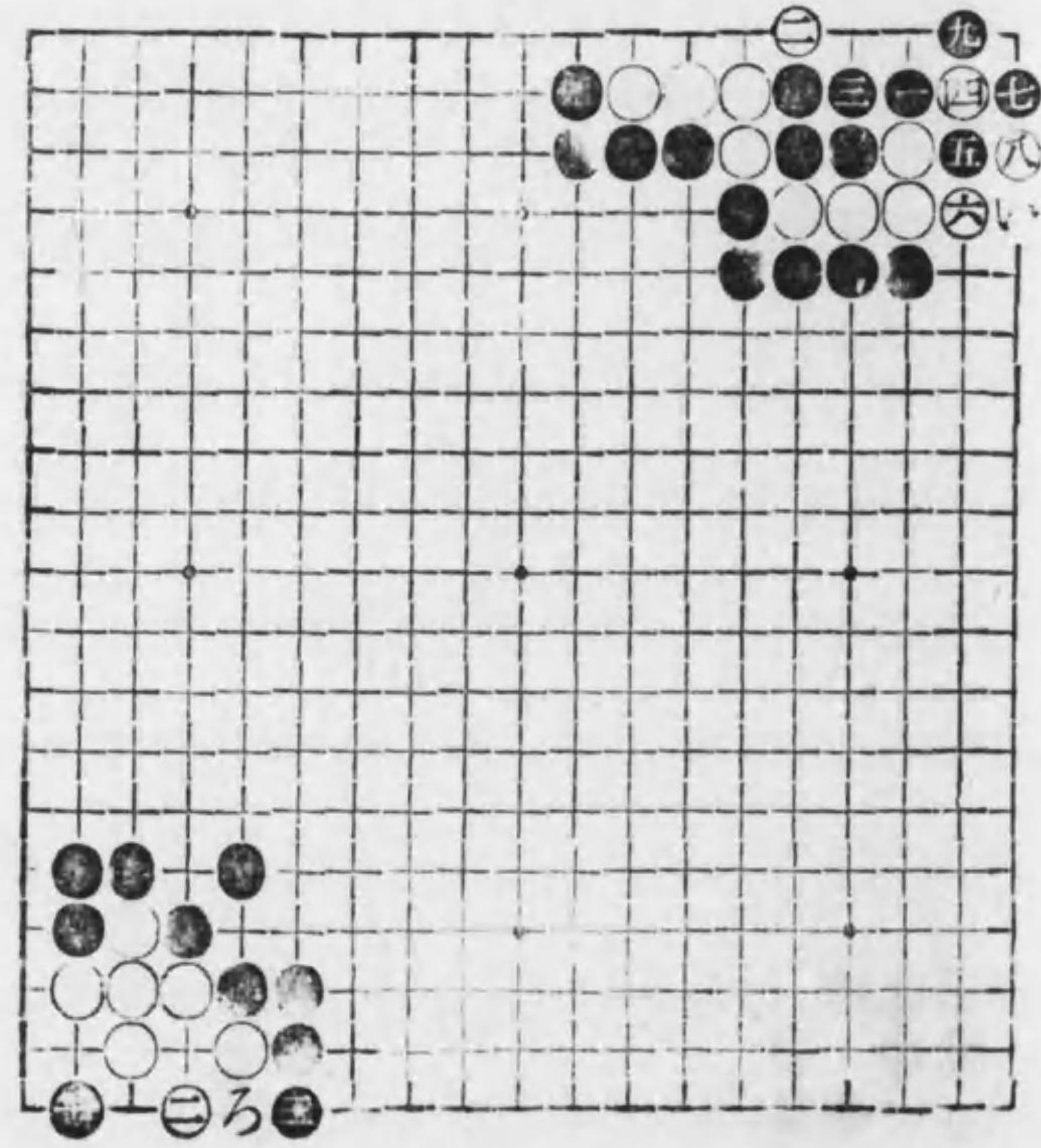
上圖、黒一以下九までは
殊に黒五と七が巧い劫争で
ある。

白八を九なら黒(い)。と
同様劫。

下圖黒一は其他に無い白
奪取の場所。

黒一を(ろ)だと白二で劫
と知られよ。

以上二題も常識手所であ
る。

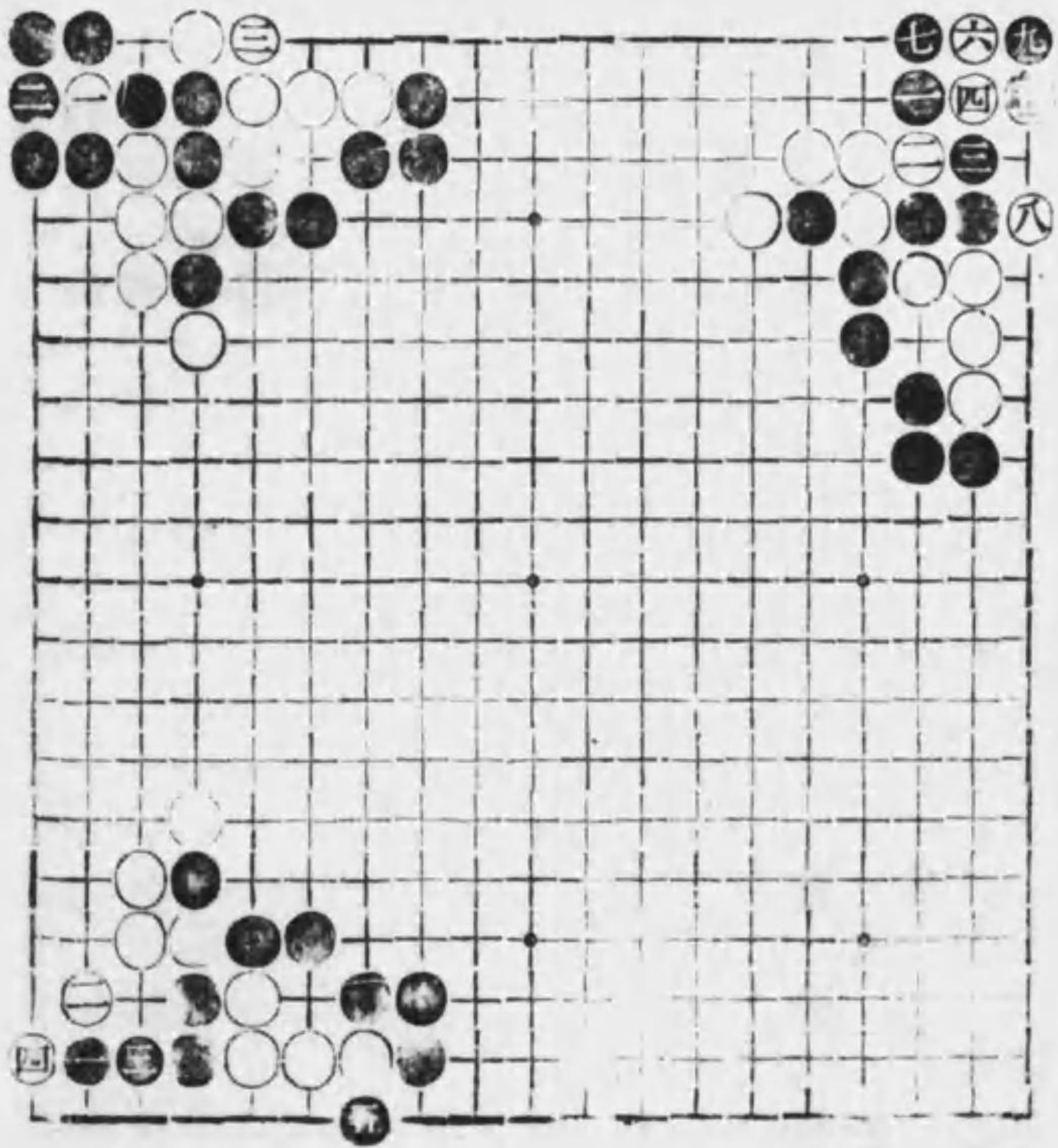


上圖右、黒一は以下黒九と成つて——
それが上圖左の白丸黒丸まで。

そして更に白一と三の要領で黒負け。

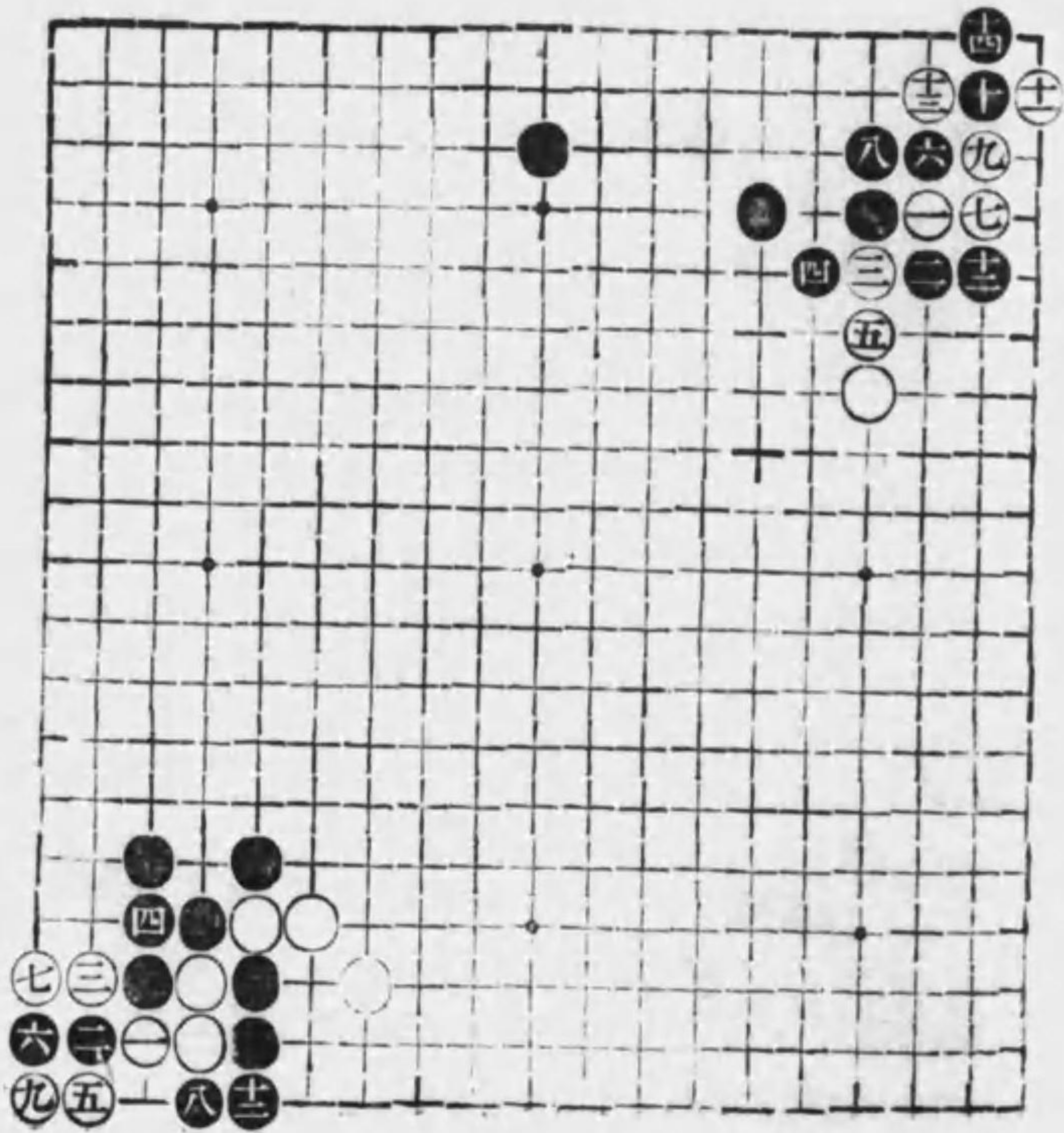
上圖、右の黒一は黒悪果の場所、下圖黒一が、以下黒五で黒勝ちに妙。

上圖右、白二以下六の巧い手段は——



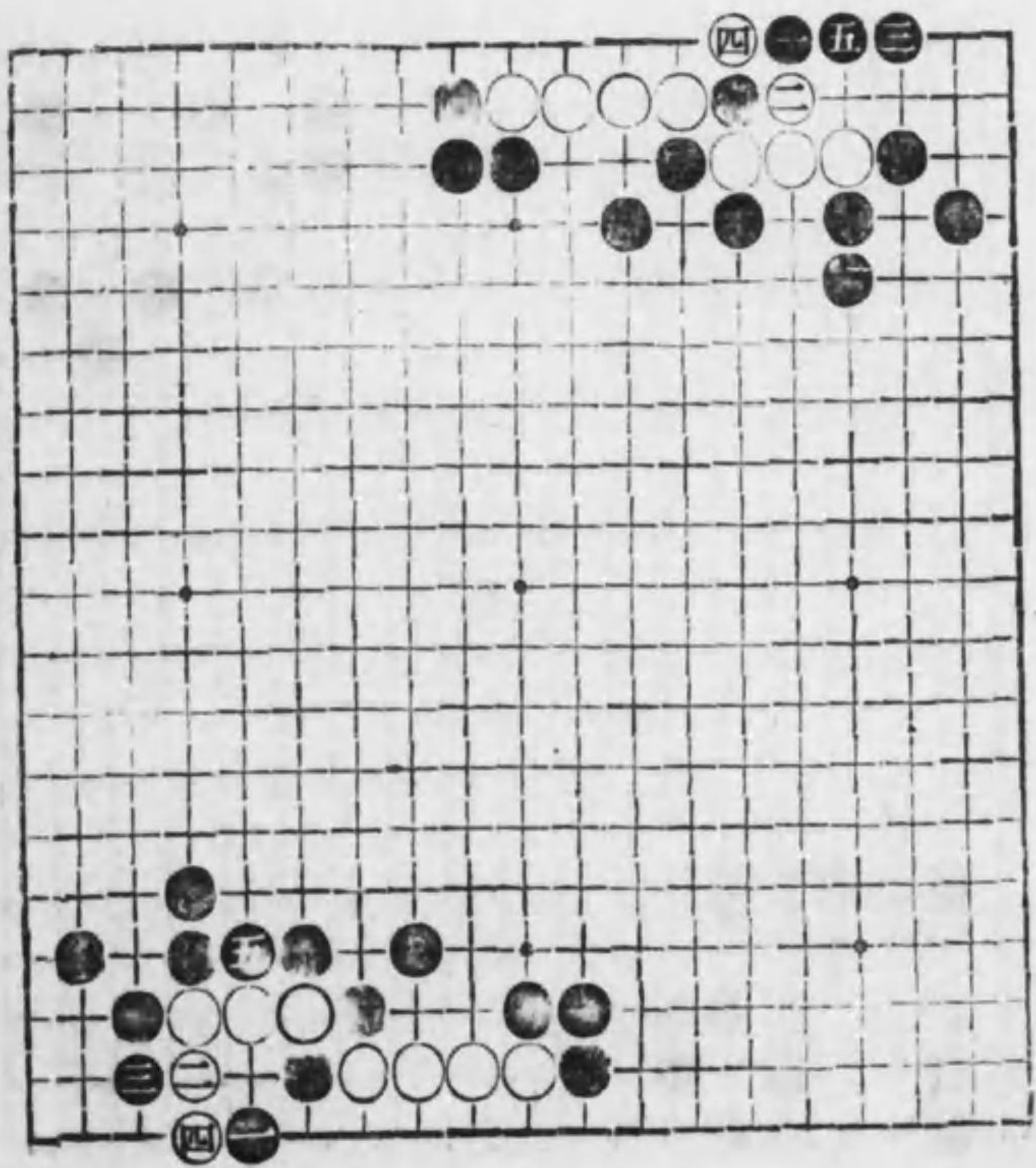
五C

先づ本圖上の白十一に、黒十二以下十四で黒勝ち！
なほ下圖白一に黒二以下十二で、即ち黒十は二の所白十一は六の所。と此れまた巧い黒勝ちの場所。
と各所に現はれ、常識の手筋である。
無論上圖白十一は十二と受けない軽勿。

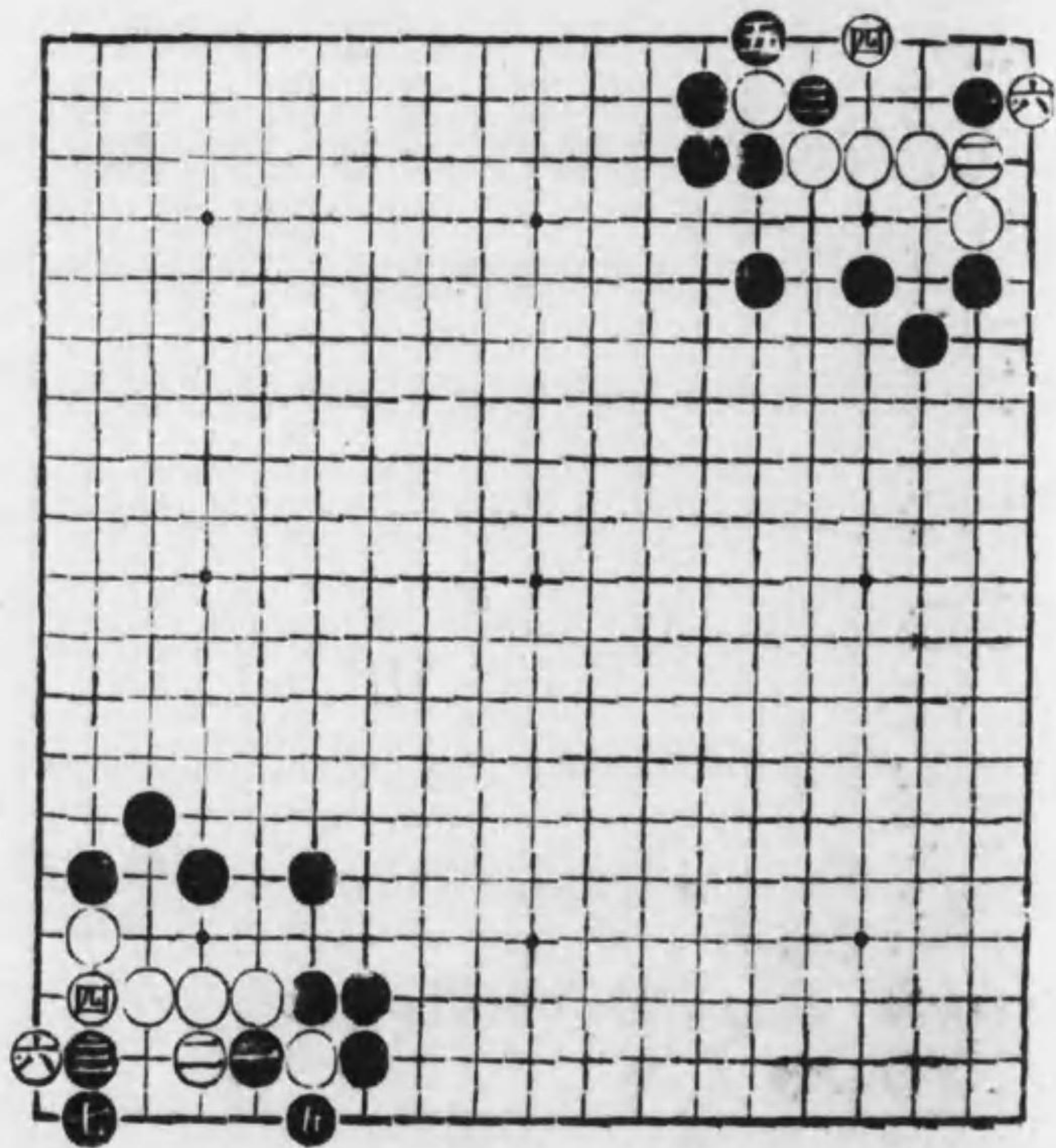


五A

上圖、黒一と三が、白全滅に旨い手所である。即ち白四と黒九一子取つても其處は欠目、白二を下圖二でも以下黒五で要するに黒一が妙。なほ上圖黒三の要領にも味到され度いものである。



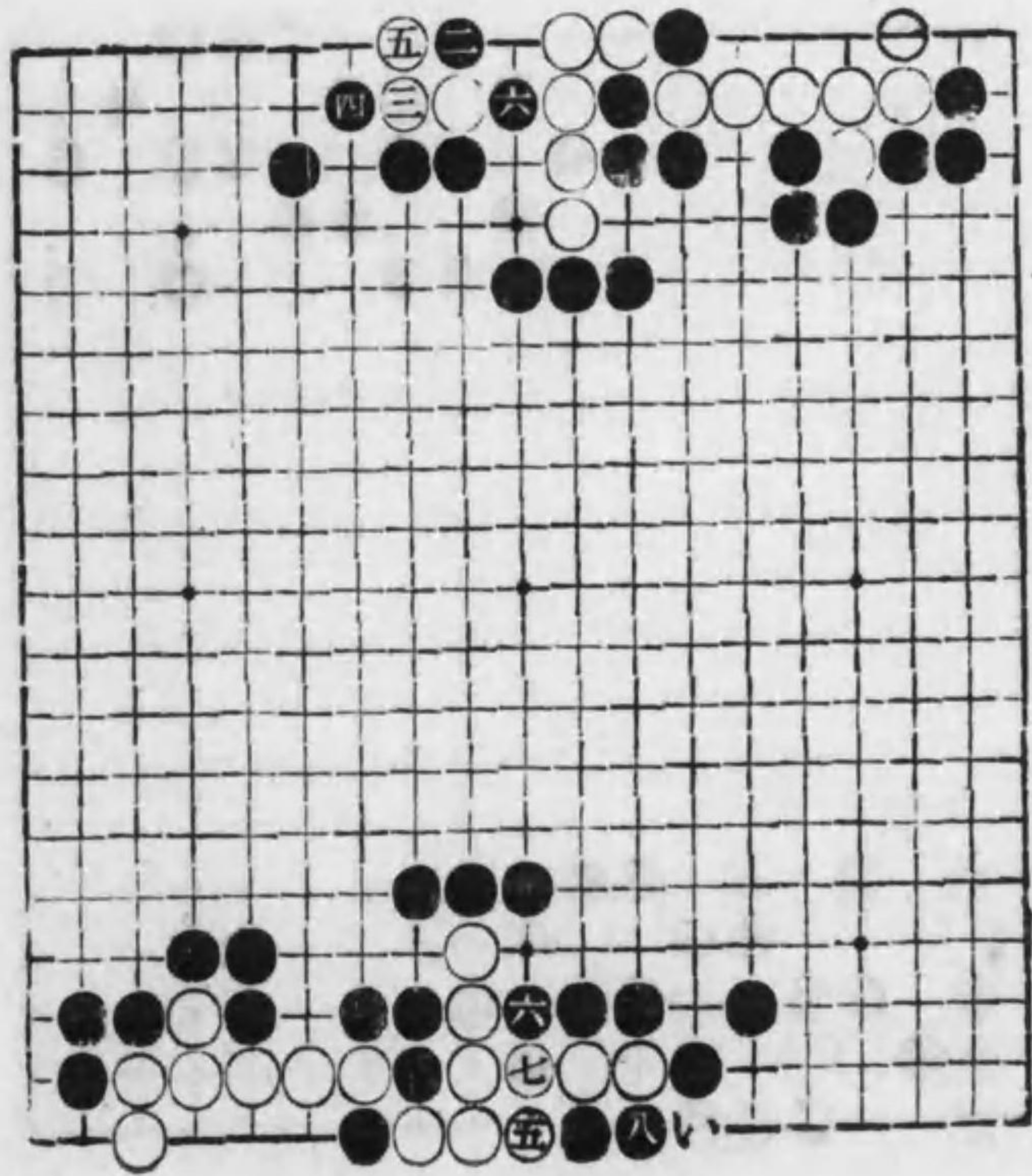
上圖、黒一以下五では白六と成つて白活きである。此れは白四の旨い一手に基づくもの。黒一の手順を變え下圖一だと以下黒七で白を取れ。白二を三なら黒二で白に活き無し。本圖黒一と三の手順が白奪取に妙。



上圖、黒二が一寸氣づかぬ、白奪取の妙所である。黒二で三だと、白二と白に活きられ。

白五を下圖五でも以下黒八まで。

即ち黒八に白(い)なら、黒次に八。と白同様の運命である。



上圖、黒一が絶妙。

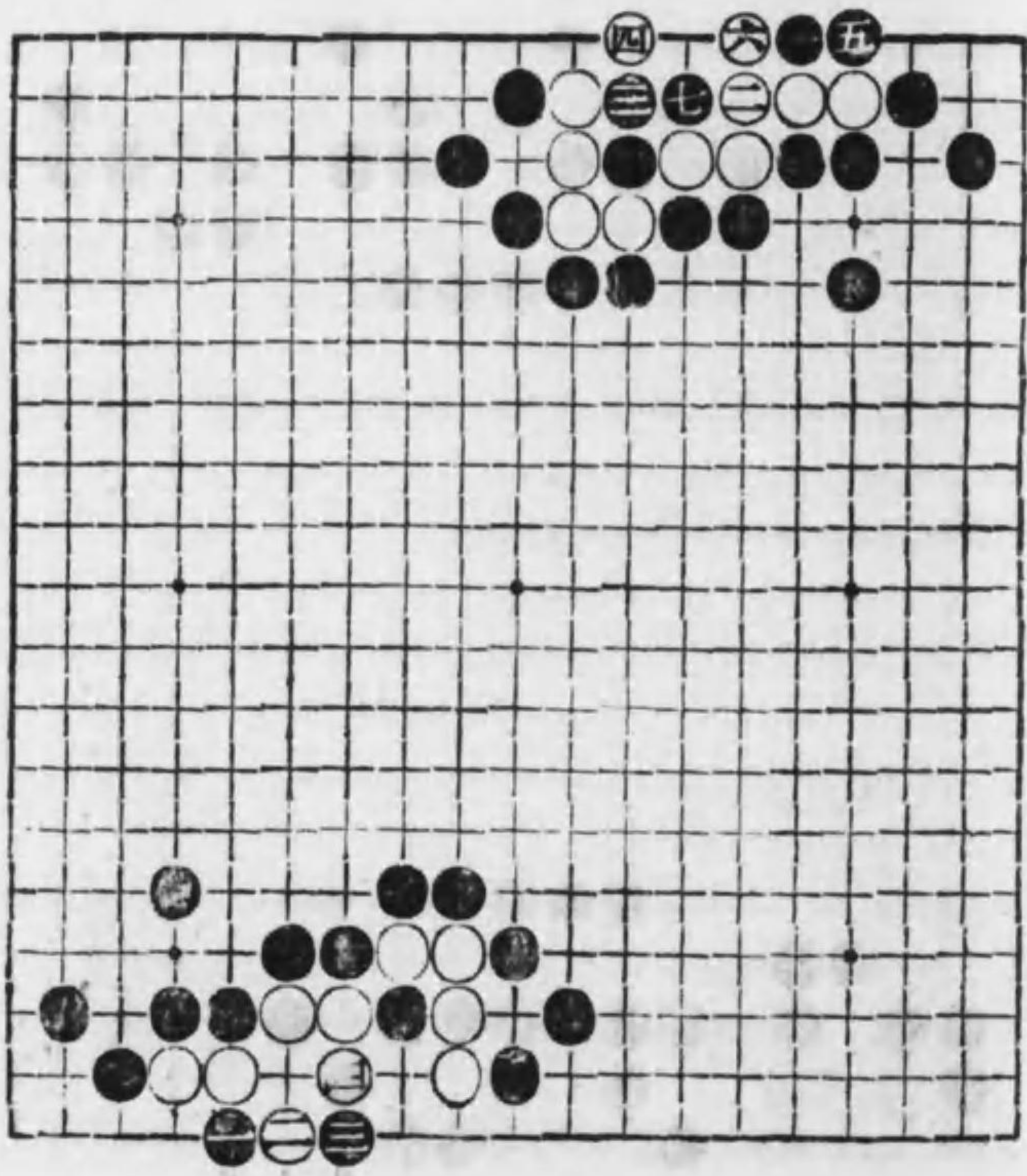
だが――

白二以下六では黒七と成つて白は取られ。

されば白二は下圖二の他は無い即ち白四と劫争である。

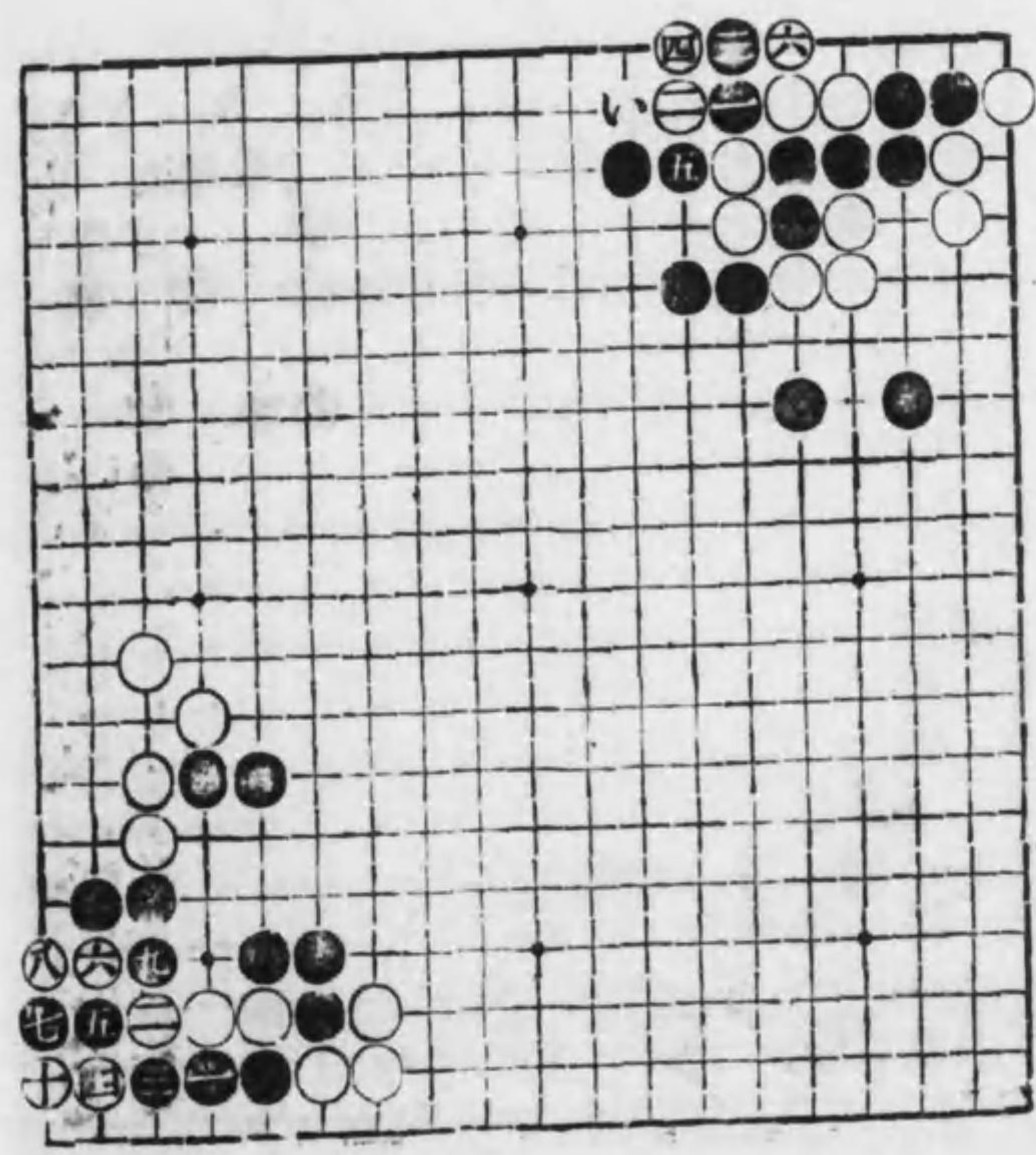
上圖、黒一を五だと白六と替つて問題解消。

等を白も無意識に巧めるのである。



上圖、黒一以下白六、そして黒更に一と打込み、白その黒三に取り、次に黒(五)。

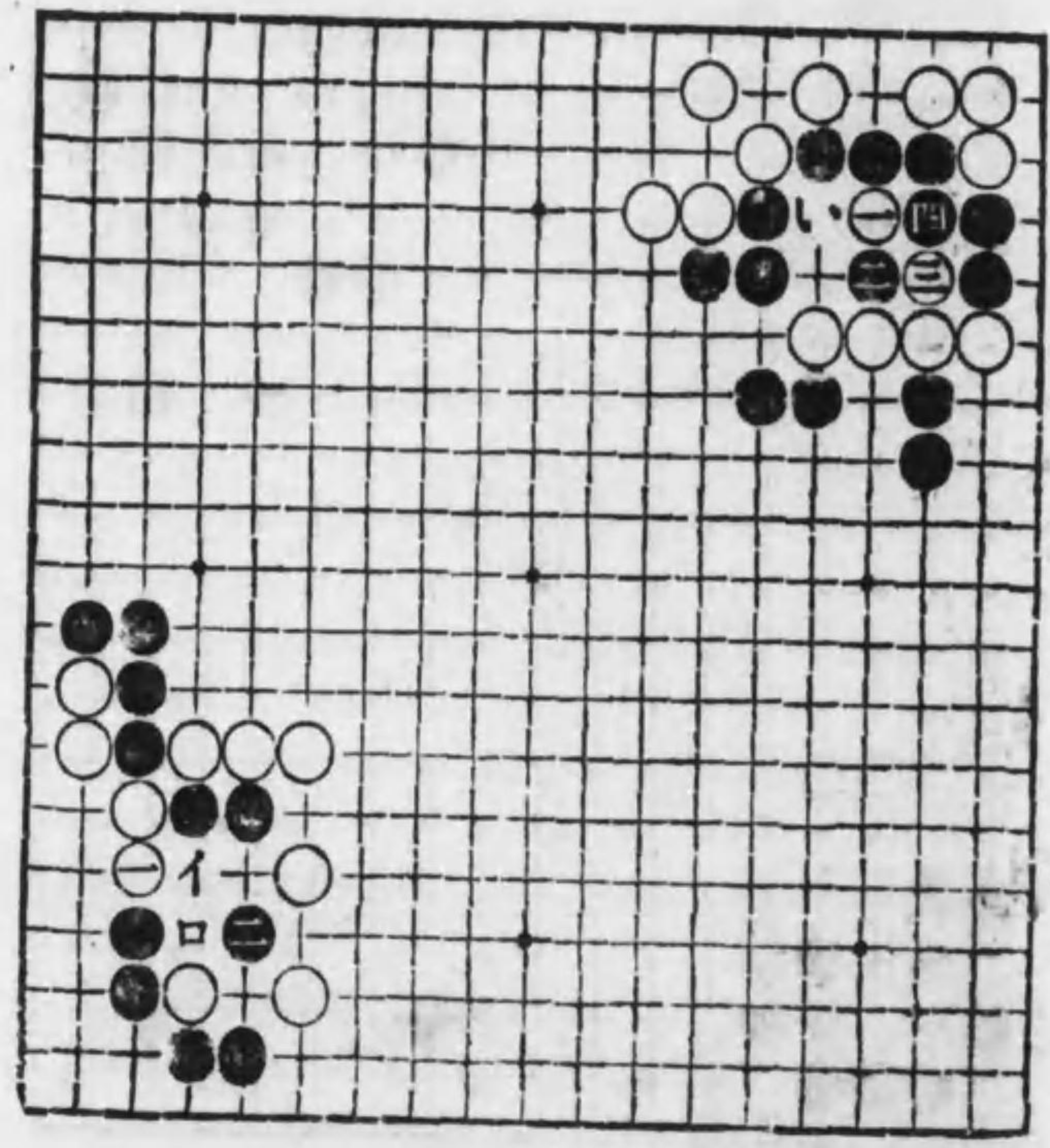
で黒攻合勝ちの手所は、下圖黒一以下白十そして黒五。と此れも同様黒勝。等も常識、即ち上圖は黒一、下圖は黒五、それが黒勝ちの要領である。



五六

上圖、白一に黒二が白に切られぬ、黒四までの旨い手所。即ち黒二を(イ)だと、白四と切られて。下圖白一に黒二もヒラ

と飛びかはし黒巧い手所である。黒二を(イ)だと、白(ロ)此れは黒受損じの切られ。



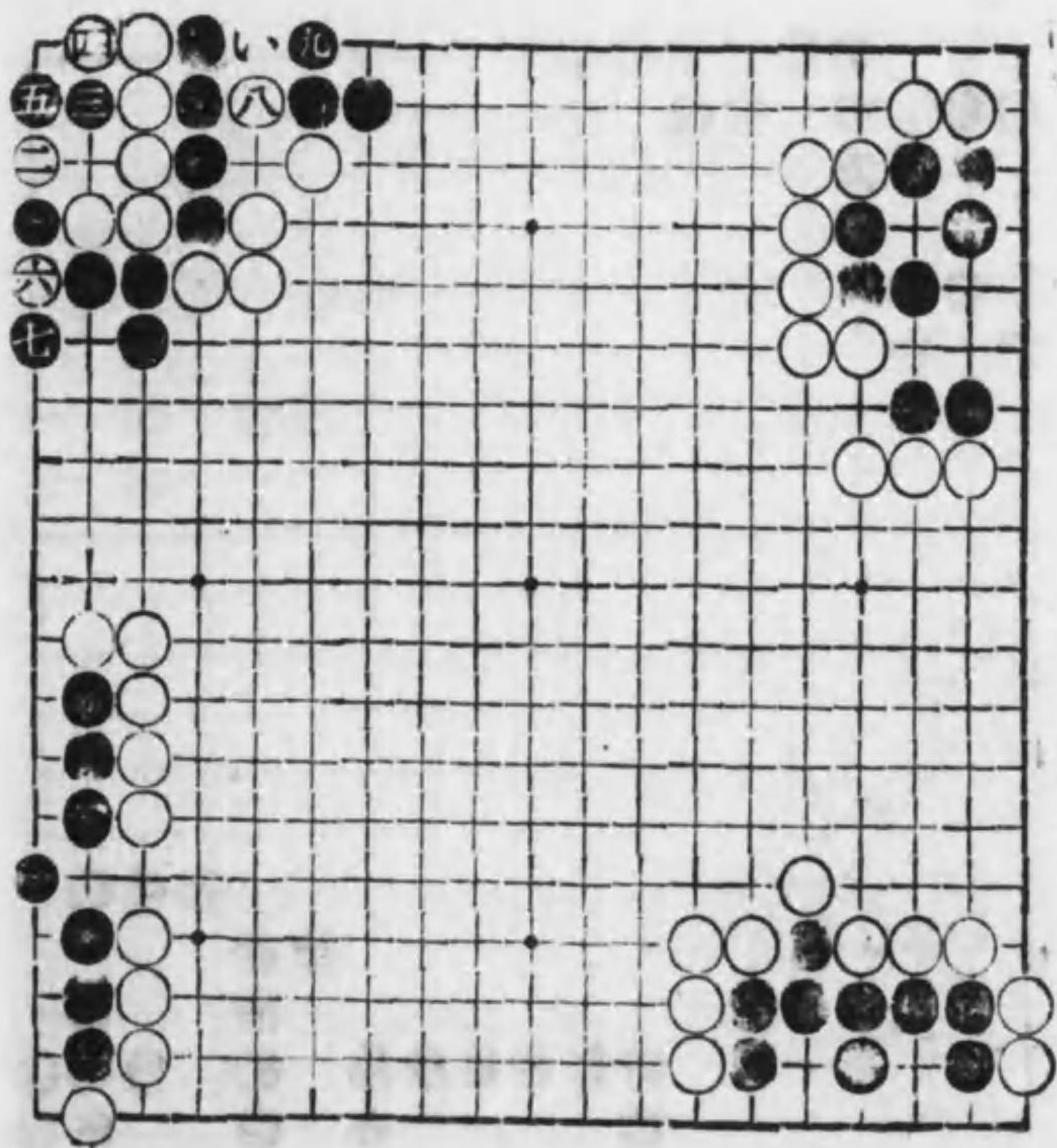
五七

左上圖、黒一以下七までは白早取法に妙。

また白八に黒九が當然、黒九を(い)だと次圖黒惡果が觀られ。

處で他の三ヶ所の各黒一はそれが活點。と覺えられよ。

即ち本圖の各周圍では其他に無い黒の活點である。

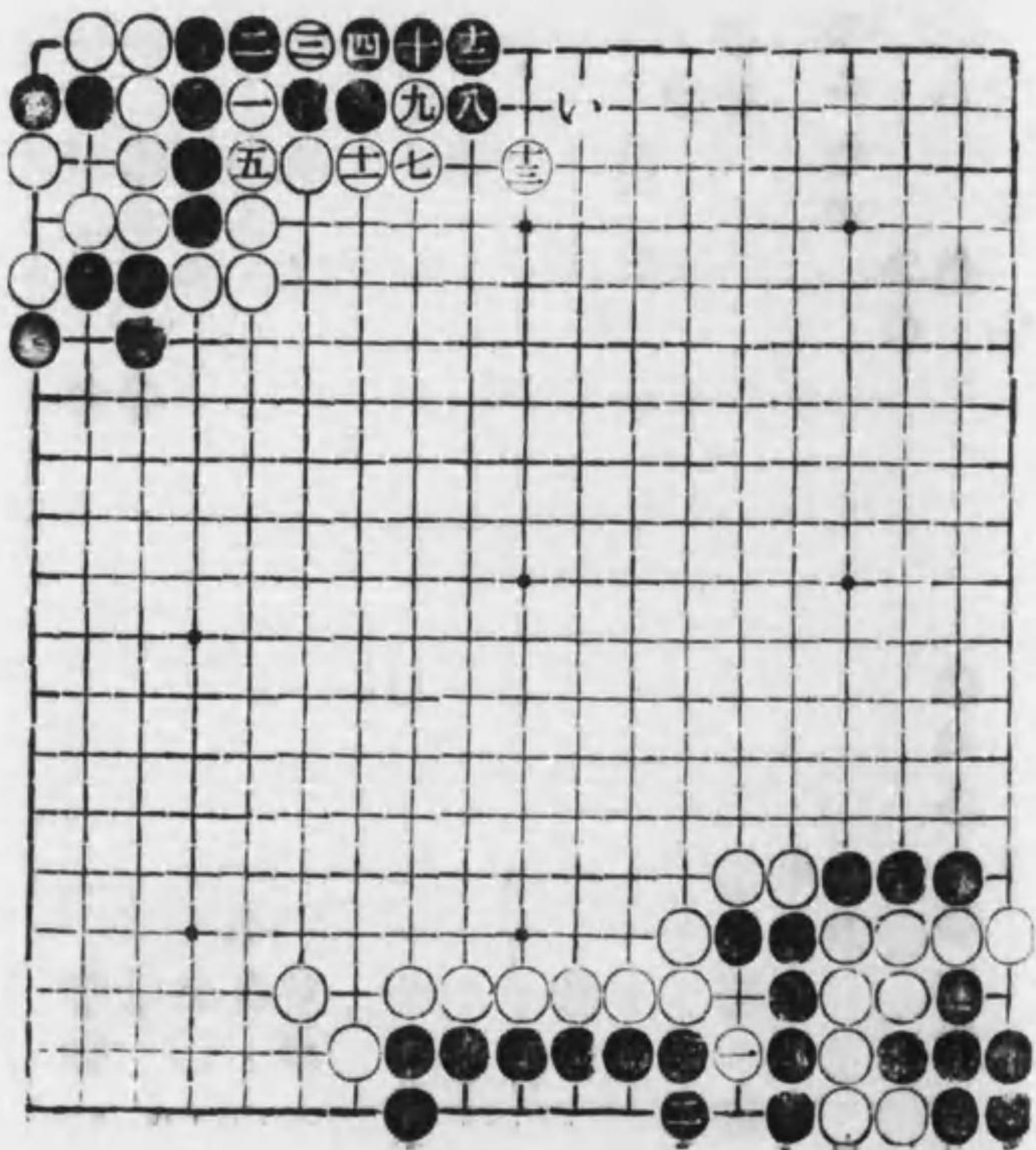


上圖、白一に黒二だと先づ白五と成つて黒六は三に粘ぎ、そして白七に黒八は以下白十三まで。

また白十三に黒(い)も要するに同じ事を繰返し、黒惡化。

で下圖白一にも黒二。と其他に無い。

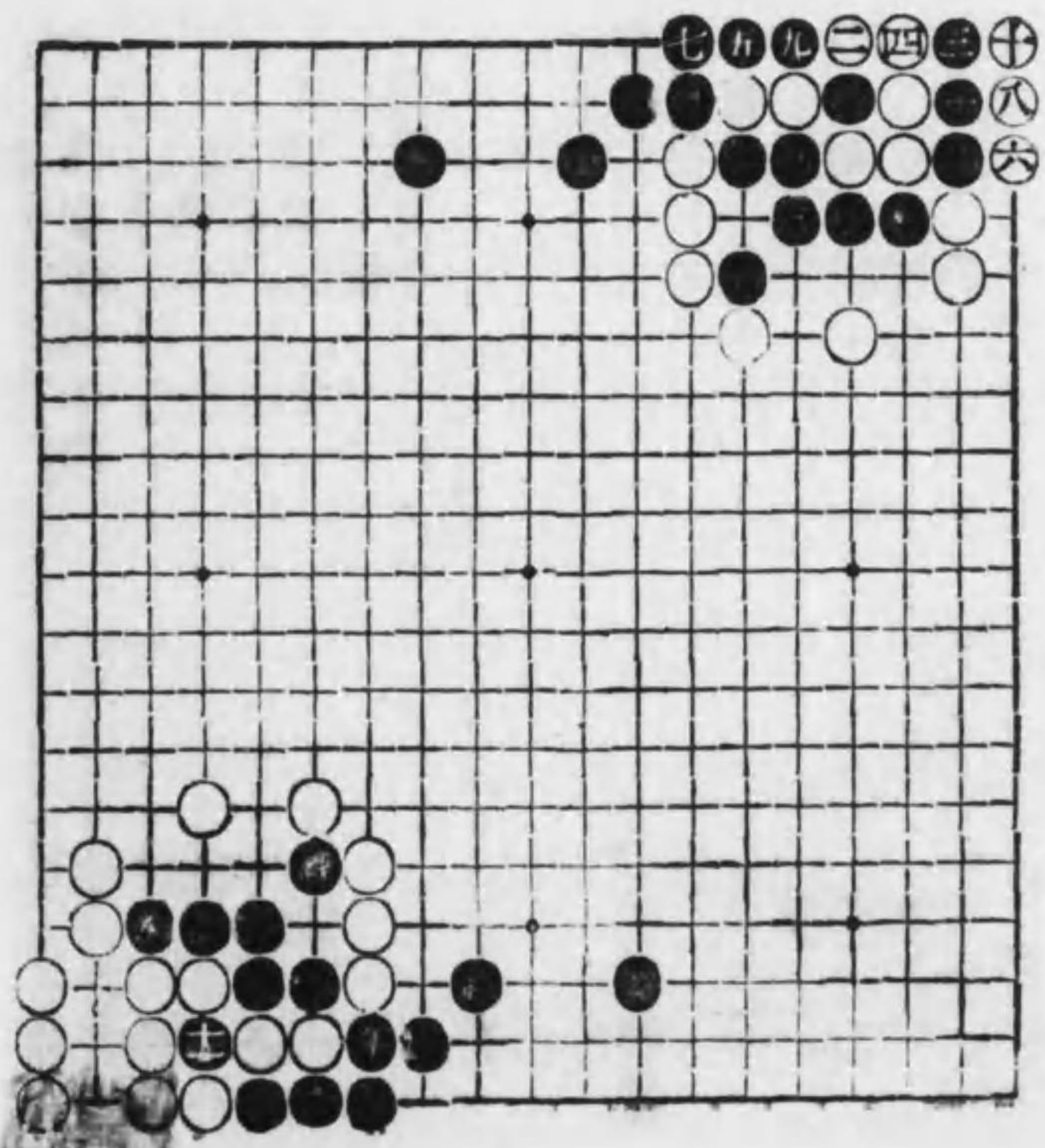
隅の白は黒六子が花六と稱子、白取られ。



上圖、黒一より九までは次に白十と黒三子を取らせ—

それが下圖で黒十一と白二子打抜、取られた黒六子奪返しの手所。だが單に侵分にも黒得である。

即ち黒六子を取られてゐない場面の事で、ある。

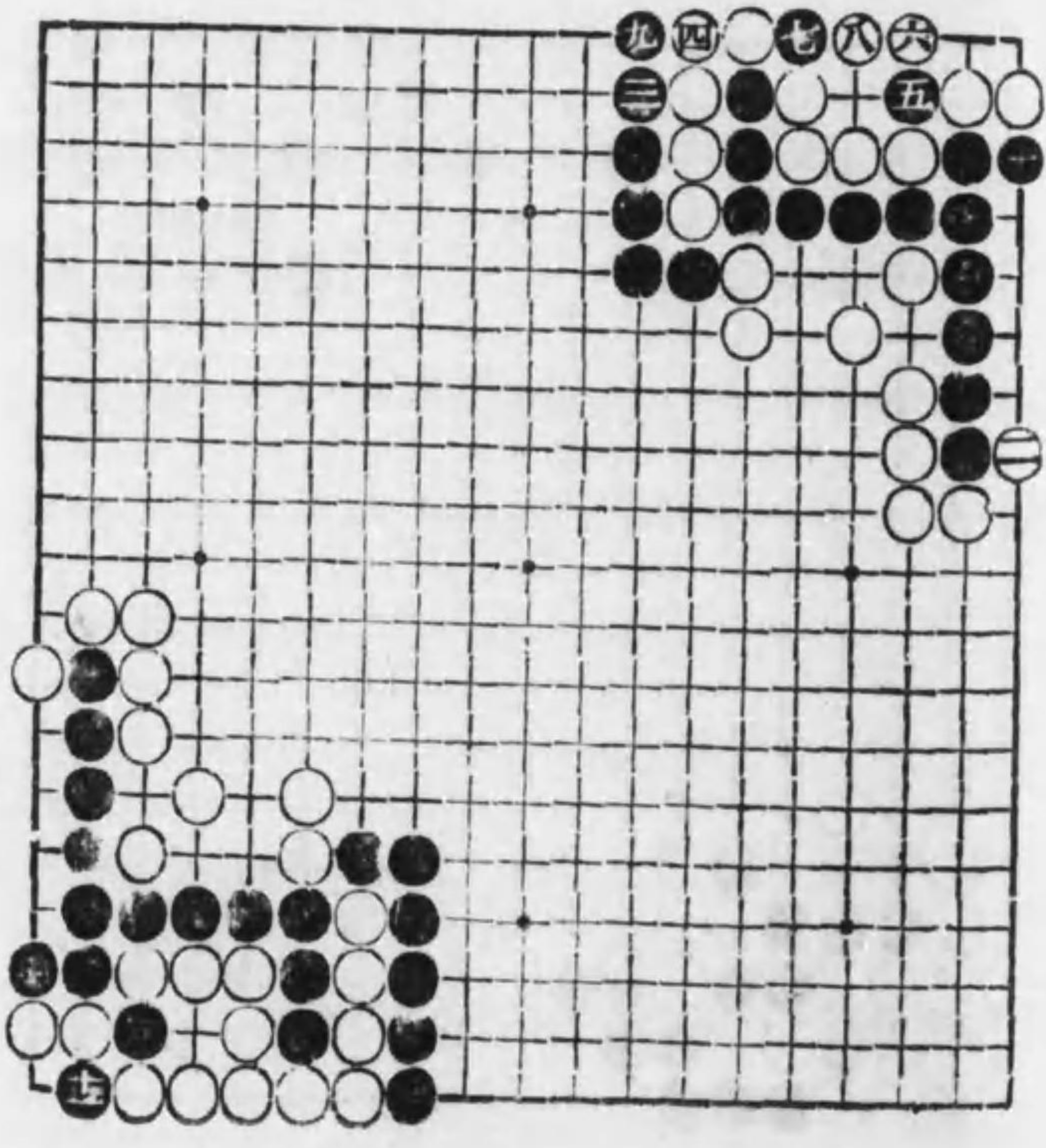


上圖、黒一に白二は無謀である—

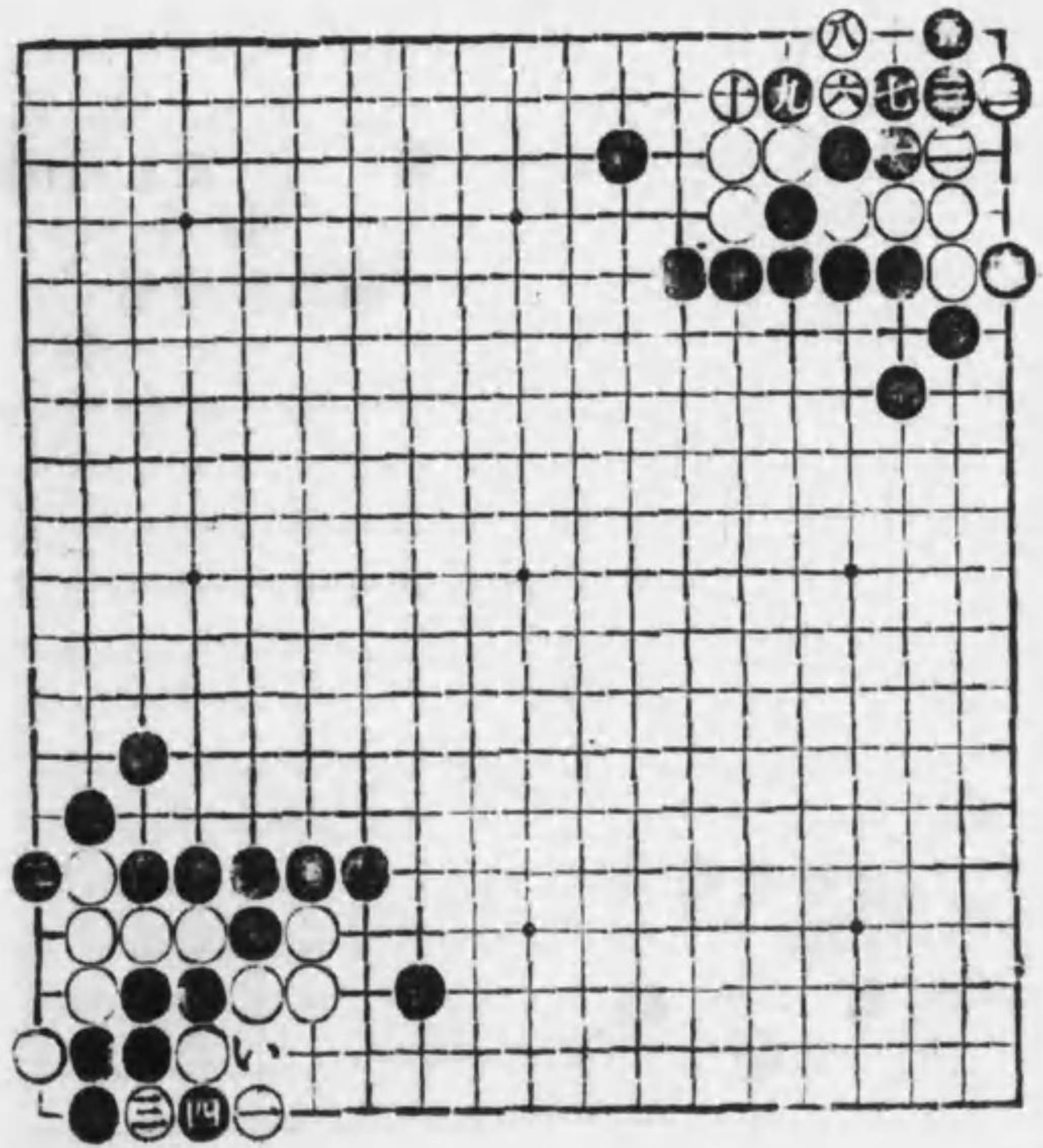
とは黒三に勢、白四。そして黒九に—

白十を七と粘ぎ、それが下圖白丸黒丸までの時黒十一。

黒十一に白身動きも出来ない大大惡果だからである。上圖黒五と七が、絶妙の手所。

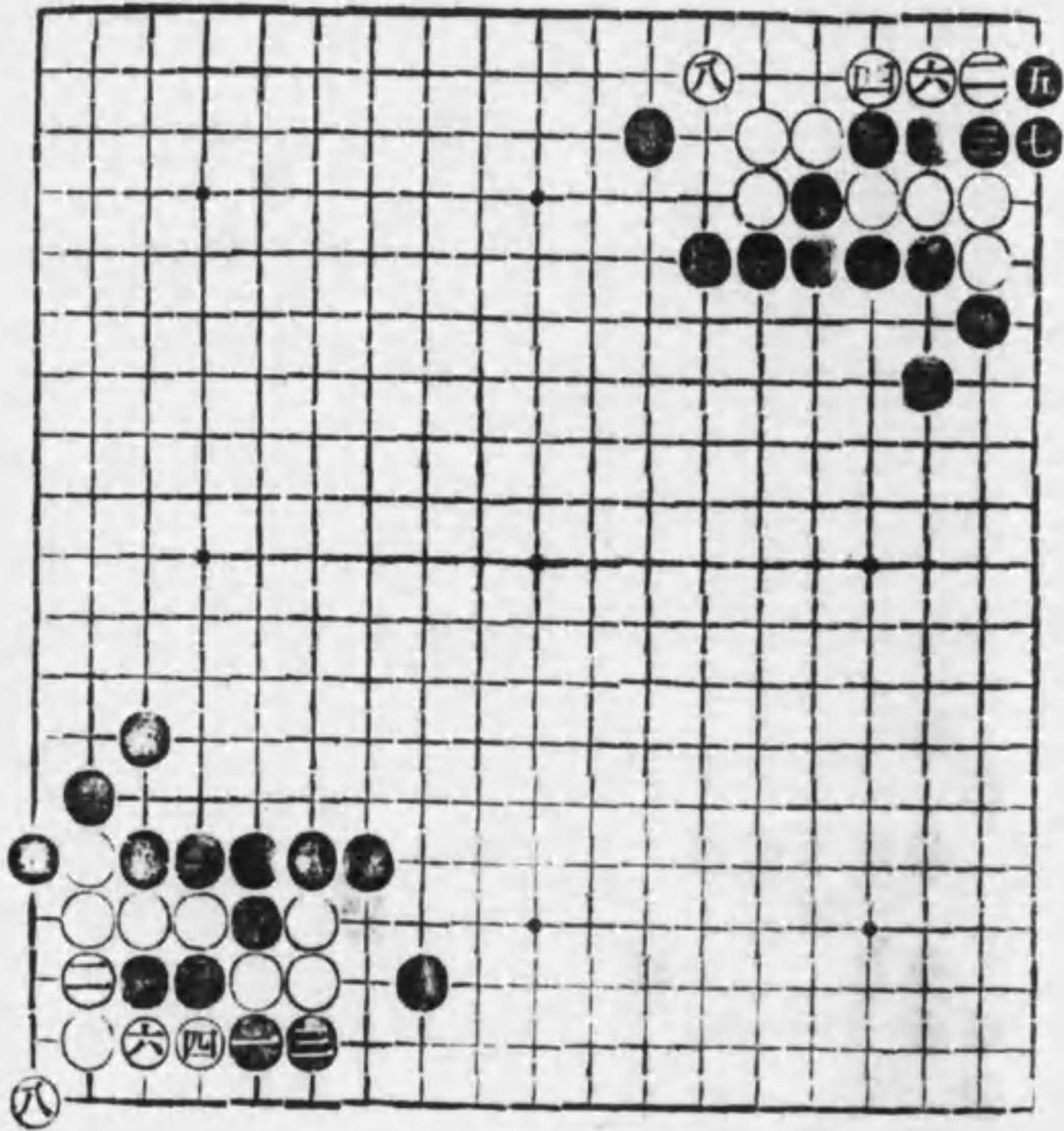


上圖、白八に黒九が次に
 黒十一で黒攻合勝ちの手所
 で白八を下圖白一と變更
 なら以下黒四と劫争である
 が白劫に負けたら即ち黒
 (五)と成つて白全滅。
 要するに上圖黒五が旨い
 手所である。



前圖續行

先づ上圖白二は、以下白
 八で白活。
 と白は白丸四子を捨て、
 即ち前圖で白不結果に、白
 二が巧い手所である。
 なほ黒三を下圖一なら、以
 下白六の時黒七を白四の上
 次いで白八と白八は其他に
 無い活點。と悟る等。



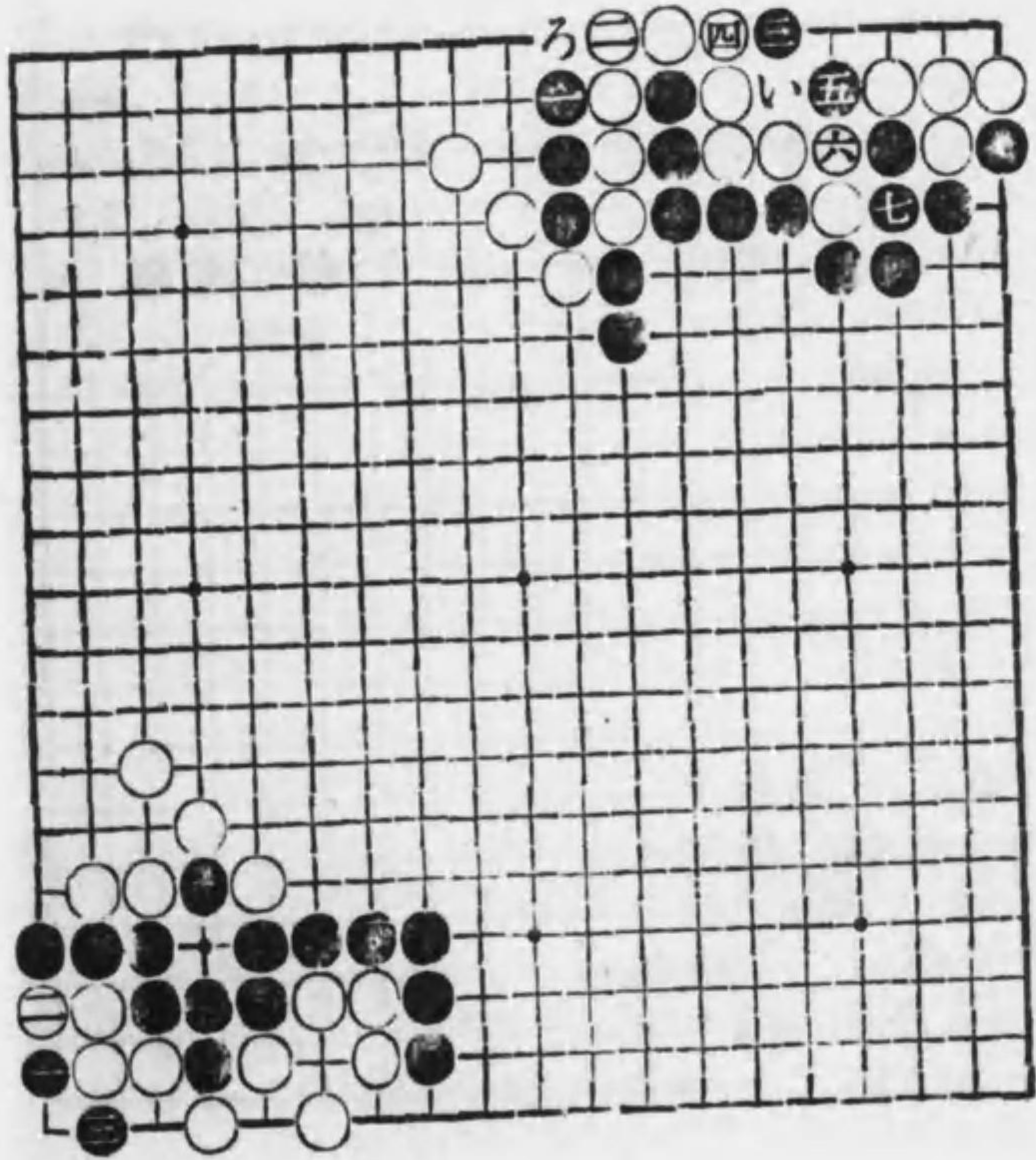
上圖、黒一に白二だと、

次の――

黒三が以下黒七と成つて
言ふまでもない黒大勝の手
所。

また白四を(い)でも、次
に黒五で、其時白六なら黒
(ろ)。

等で要するに黒三が絶妙。
下圖黒一は、白二に黒三
と劫争に妙。



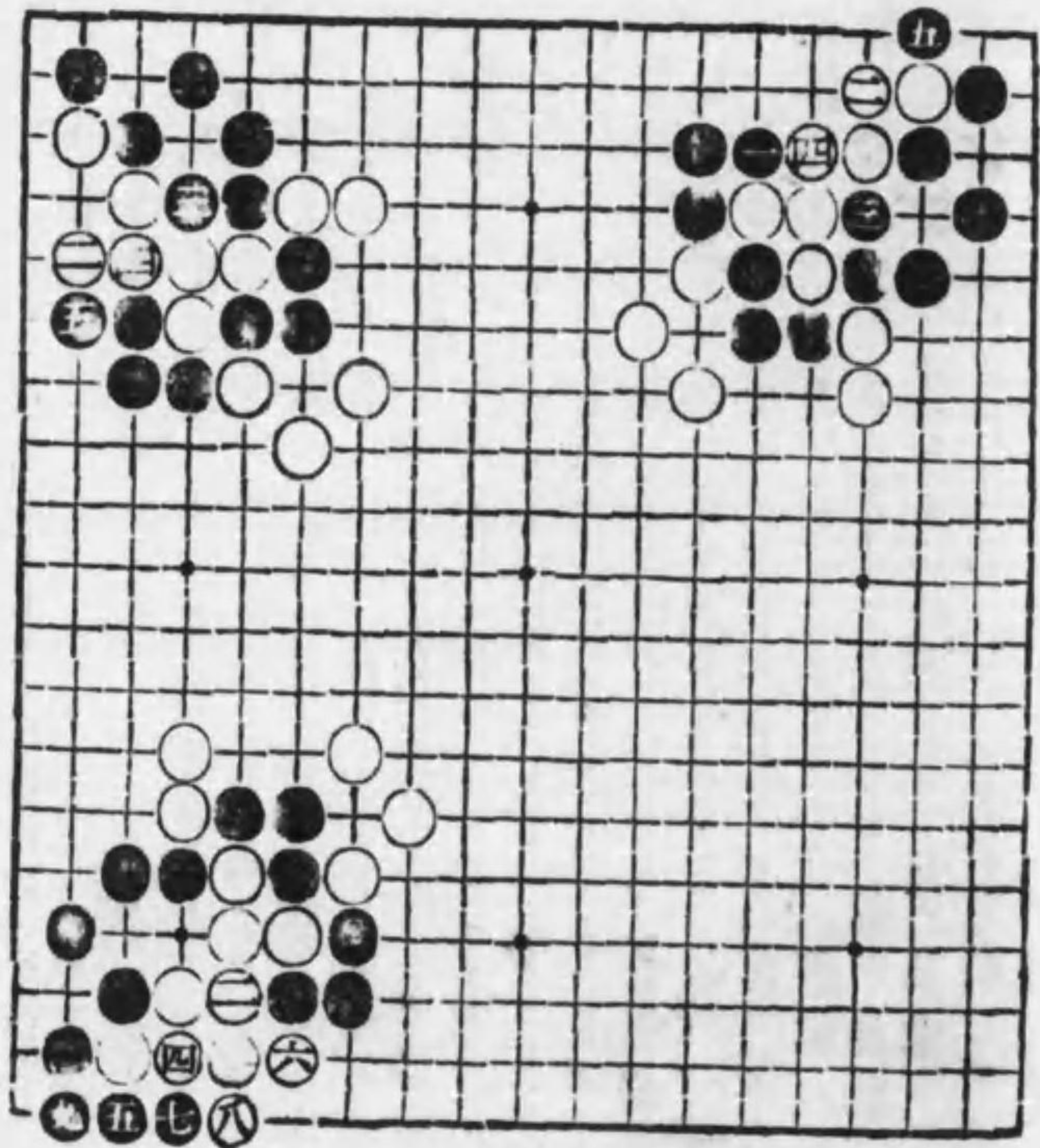
六四

上圖右、黒一は絶體黒勝
ちの手所である。即ち以下
黒五で。

また上圖左の白二にも、
以下黒五まで。

更に下圖白二にも、黒九
まで。

と殊に黒三と五が初段ど
ころの、絶讀の手所である
なほ上圖右の白二を三で
も黒二。

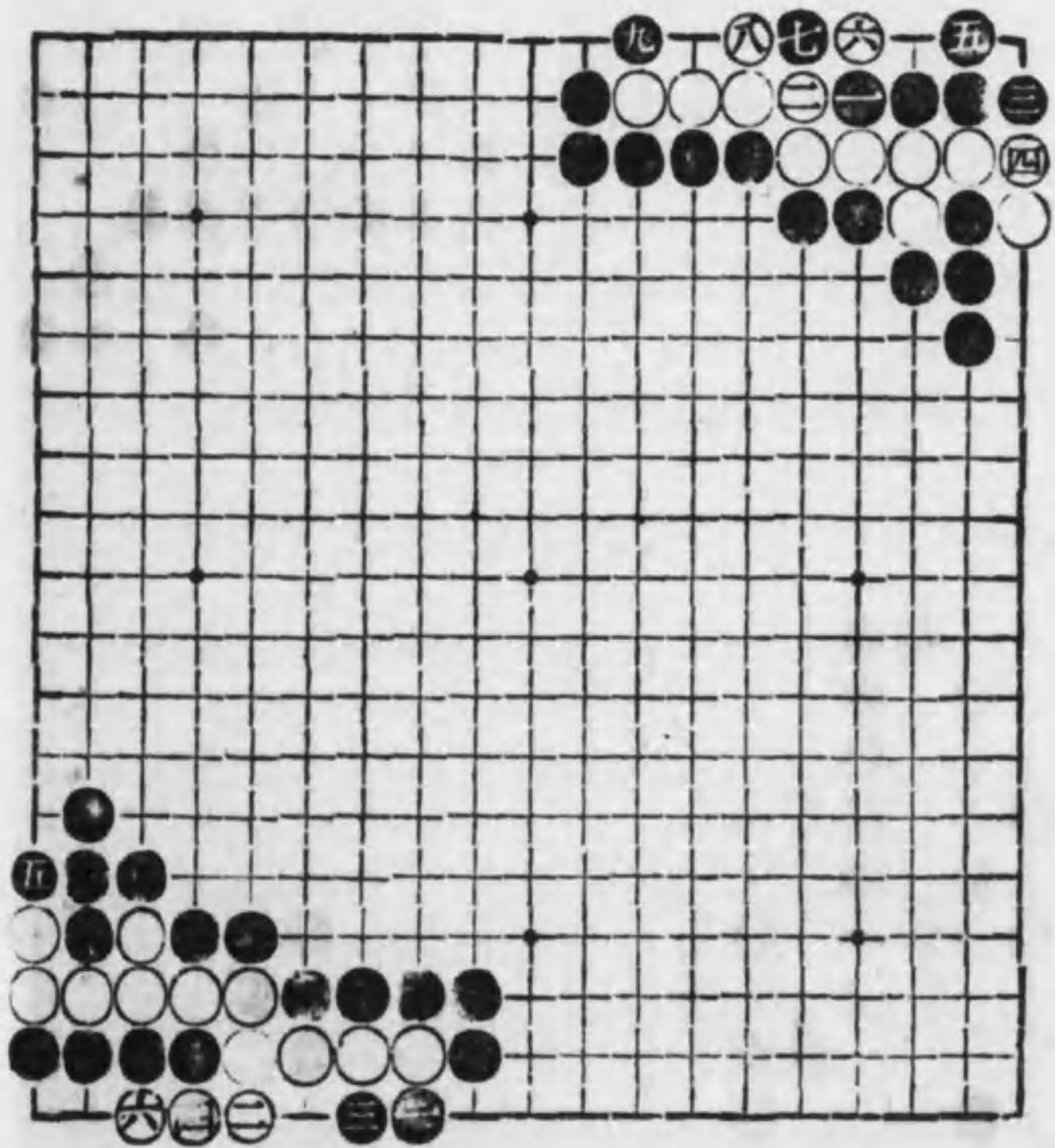


六五

上圖、黒一より九までの
黒五と七が上手である黒攻
合勝。

黒五を下圖一だと黒下手
が現はれ即ち白六と成つて
黒攻合敗。の白二が巧い手
所である。

殊に上圖黒五と七の應用
範圍は廣い要領。



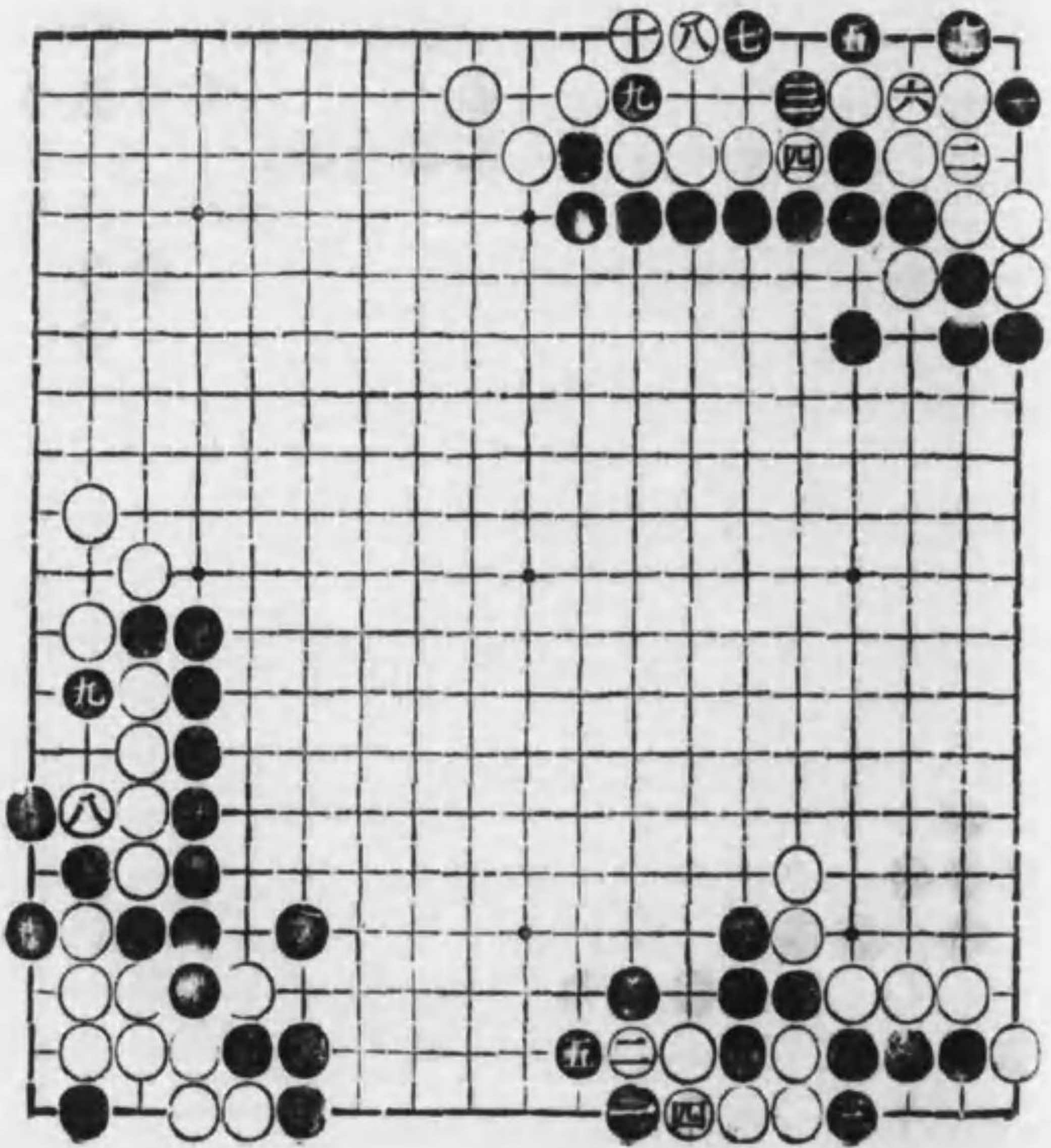
上圖、白は完全無欠の白
地と思つてゐるから、従つ
て――

黒十一までの黒大成功と
もならう。

併し白八を下圖左の八だ
と、黒九で劫争。

だが上圖黒七が一寸氣づ
かね妙手。また黒九も用意
周到である。

下圖は黒一が以下黒五と
黒勝。に妙。



上圖右は、白三が妙。白三に黒四は、白五で黒全滅の場面。

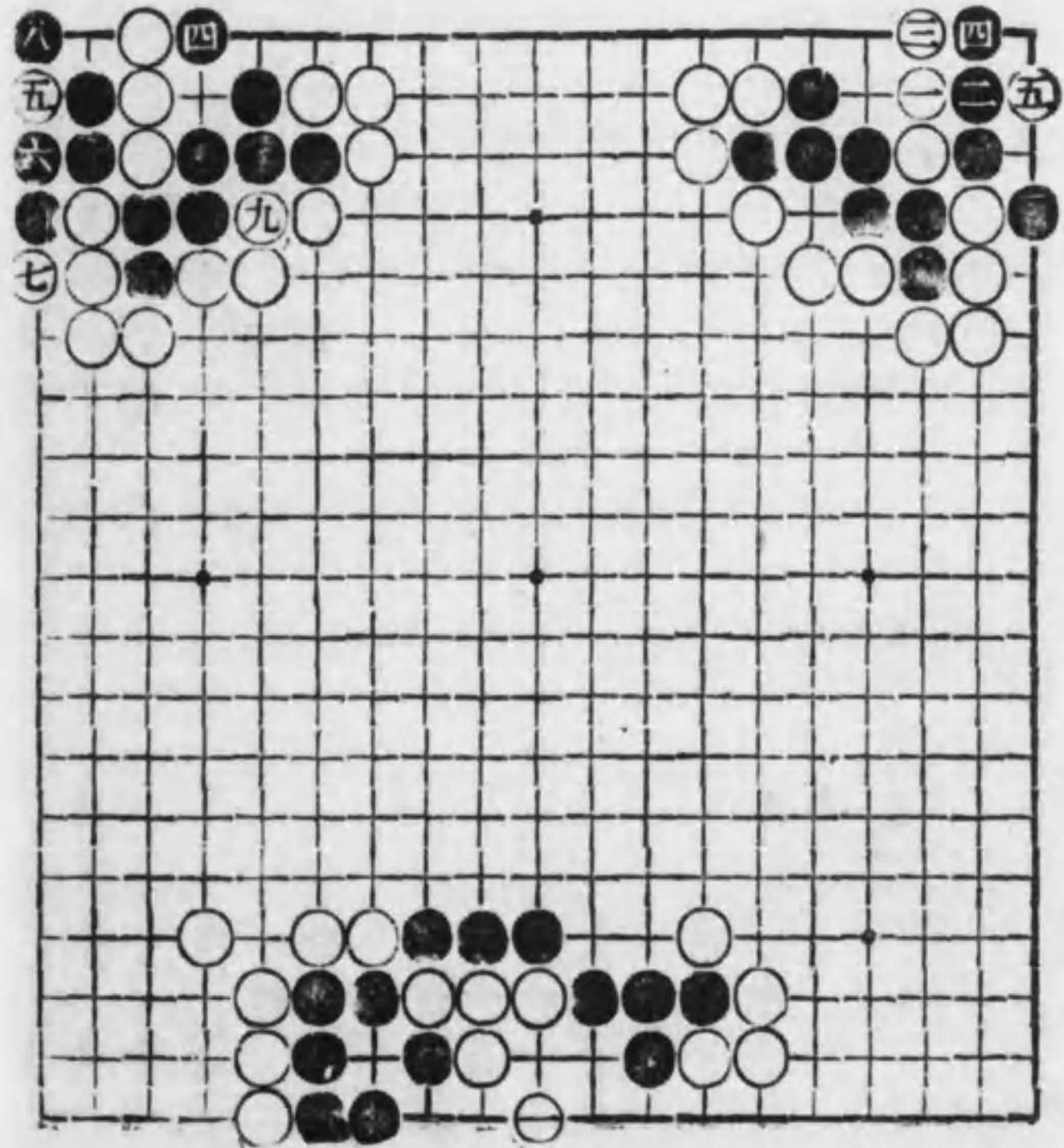
黒四を左圖四だと、以下白九で同様黒全滅

この白五も妙

なほ――

白五を七なら黒五で無條件黒活。

下圖は要するに白一で劫争。黒は其點注意肝要である。



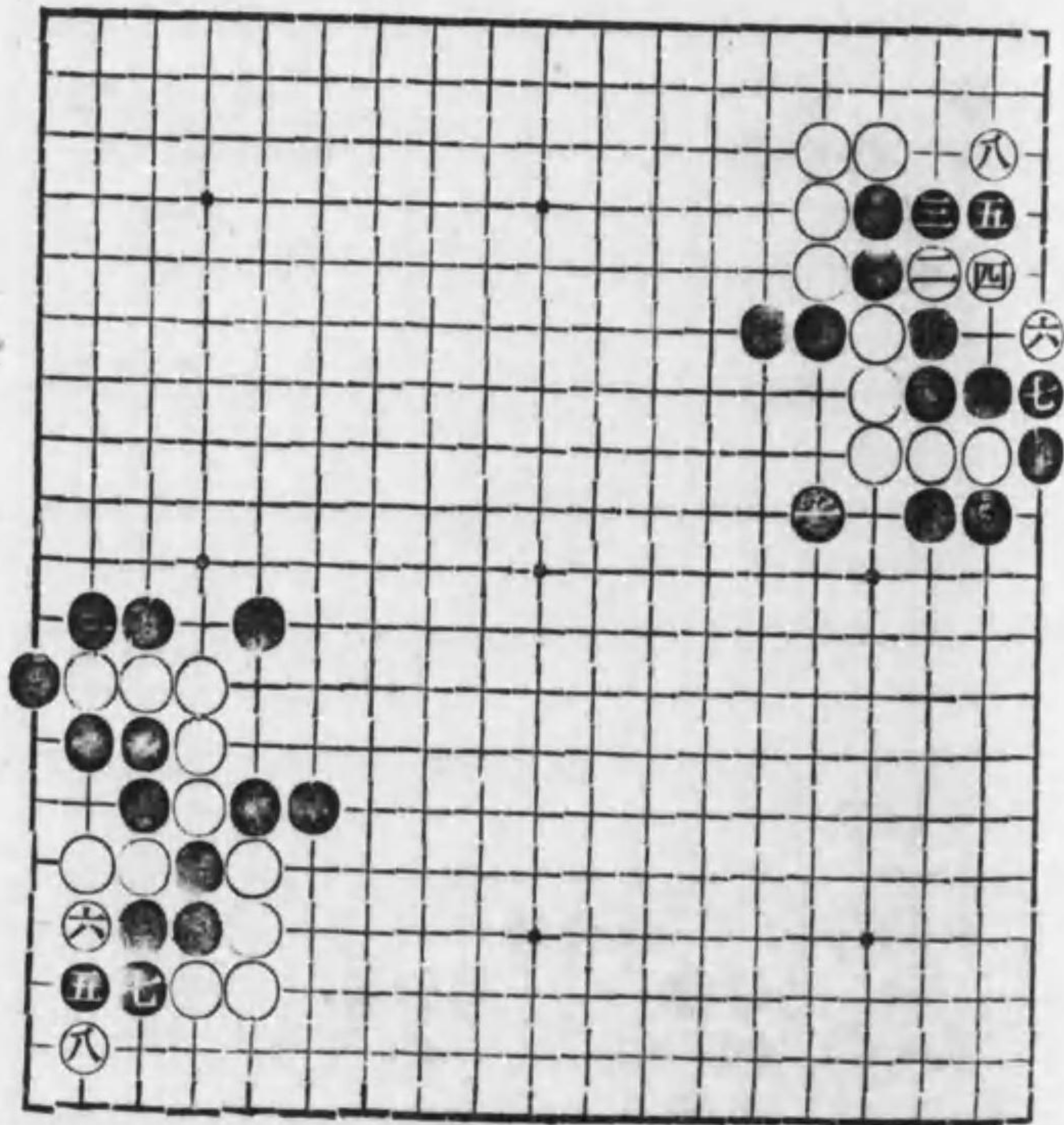
上圖、黒一は以下白八で黒失敗。

白六が先づ巧い要領だからである。

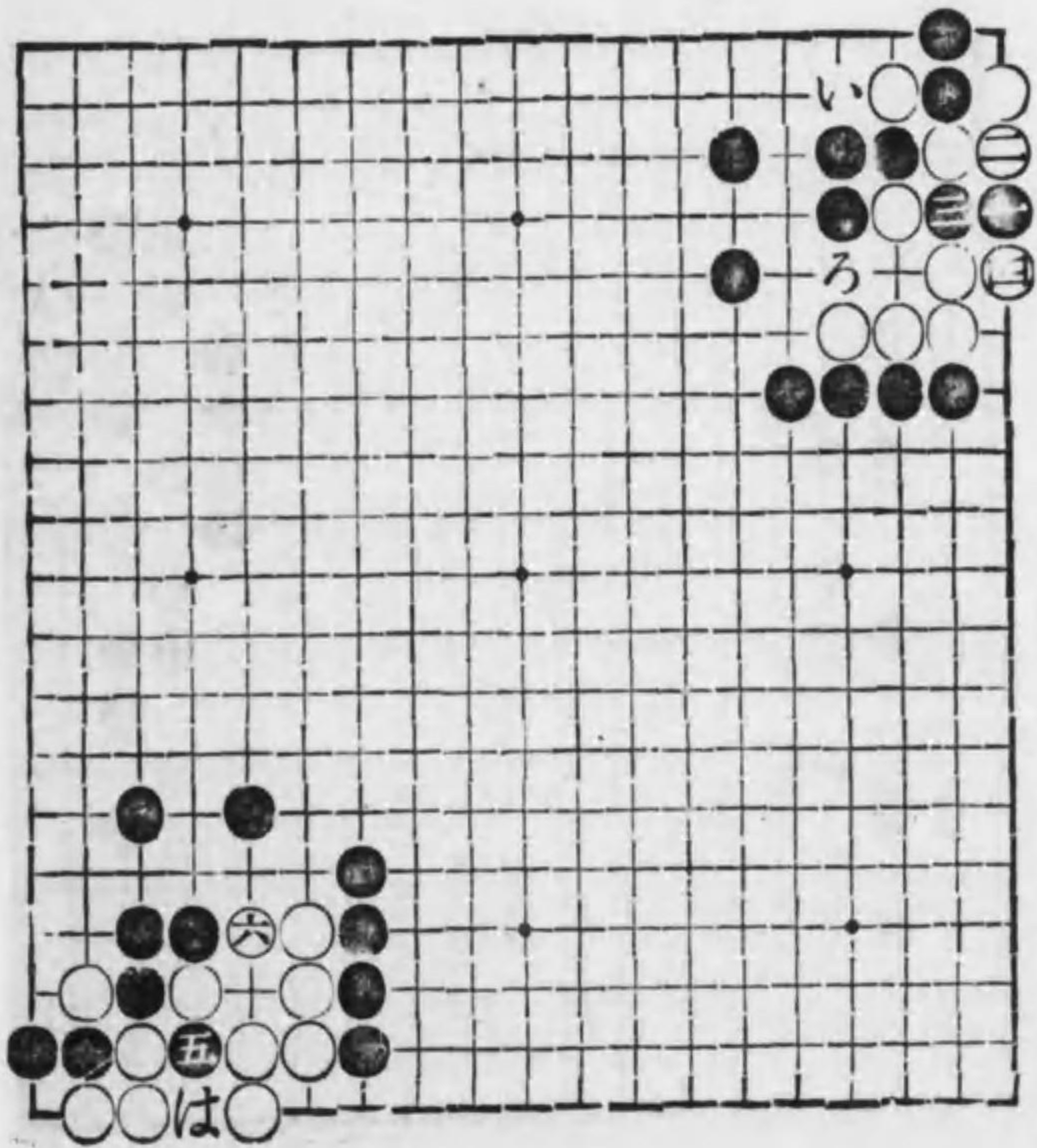
また黒五を下圖五でも、以下白八。

本圖白八も巧い常識の場所。

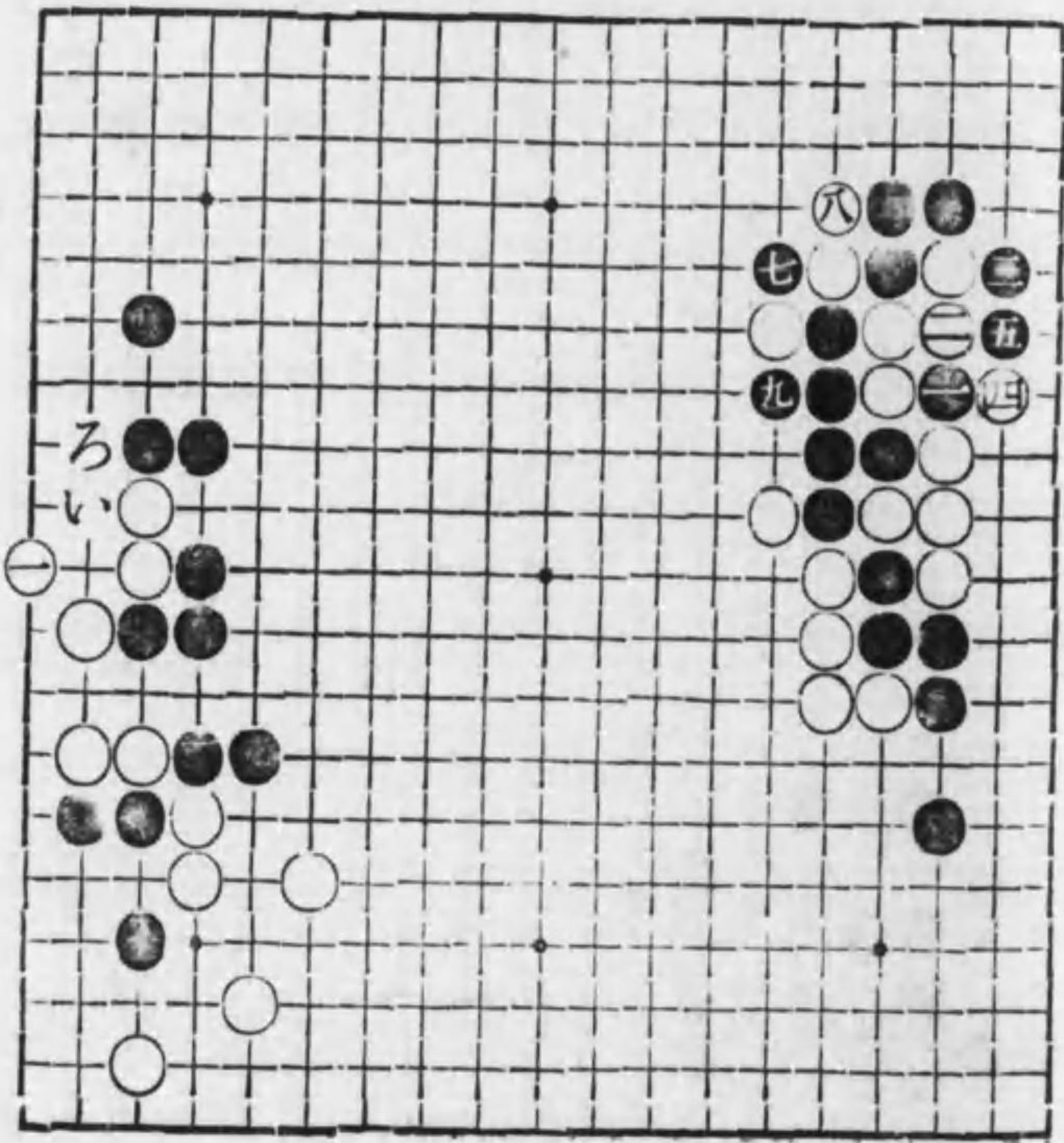
されば上圖黒一は、五の所に絶體必要。



上圖、黒一を(い)だと白(ろ)で白活。
 では面白くもない。黒一は——白四までが下圖白丸黒丸。そして黒五。黒五には白六と劫争の他は無。即ち白六を(は)だと黒六で白は取られ。等で上圖黒一、下圖黒五が絶妙の手所。



右側、黒一より五まで、次に白六は一に粘ぎ、そして——
 黒七と九で死線突破。即ち黒一と三が妙。とは白四の方に活計が無い白悪果だからである。左側白一の活點は妙。次に——
 黒(い)なら白(ろ)。と解る筈。



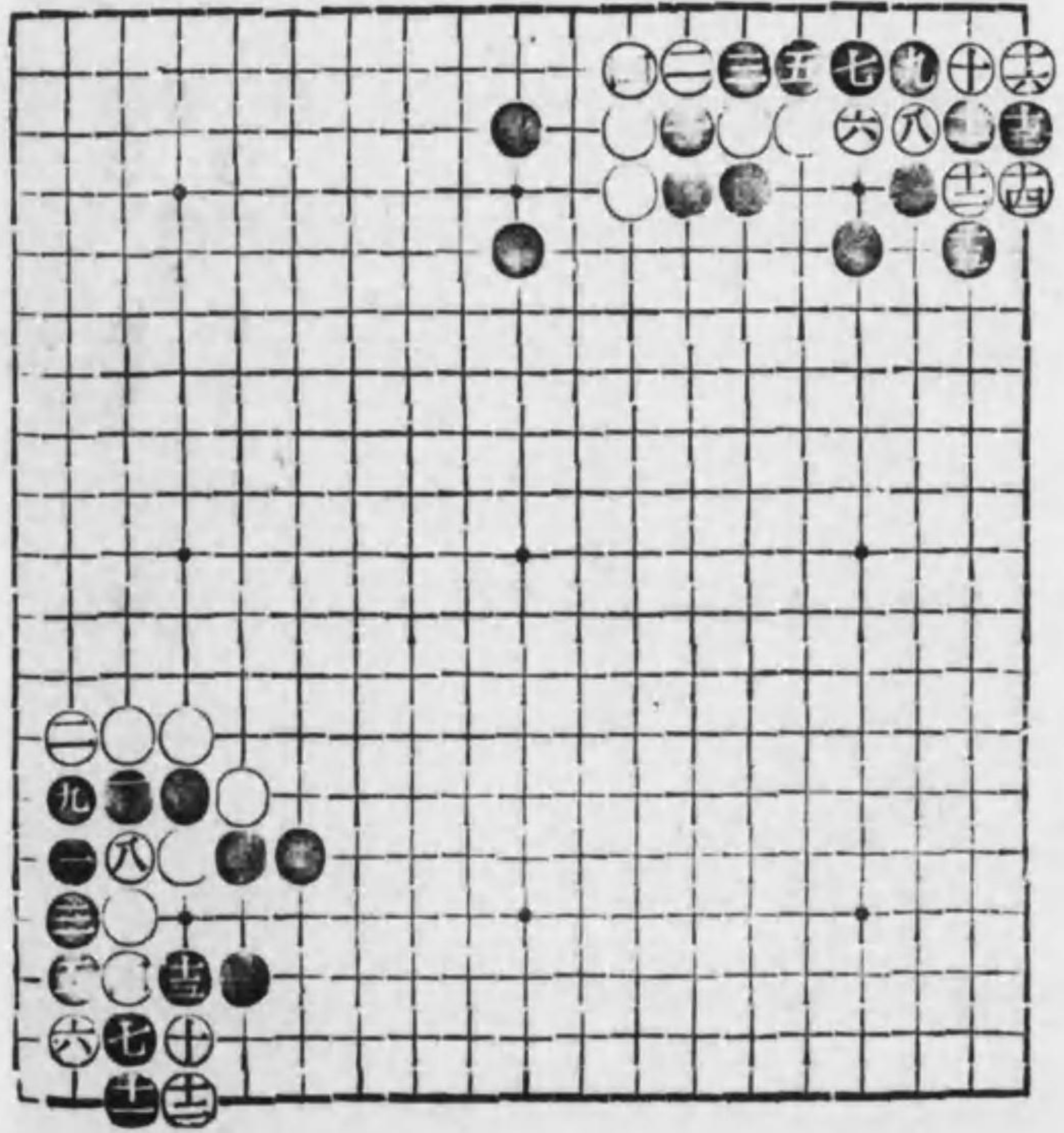
上圖、黒三に白四なら、
以下白十六、次に黒十一と
打込み。

で黒勝ち。黒十一、十三
の甲領は――

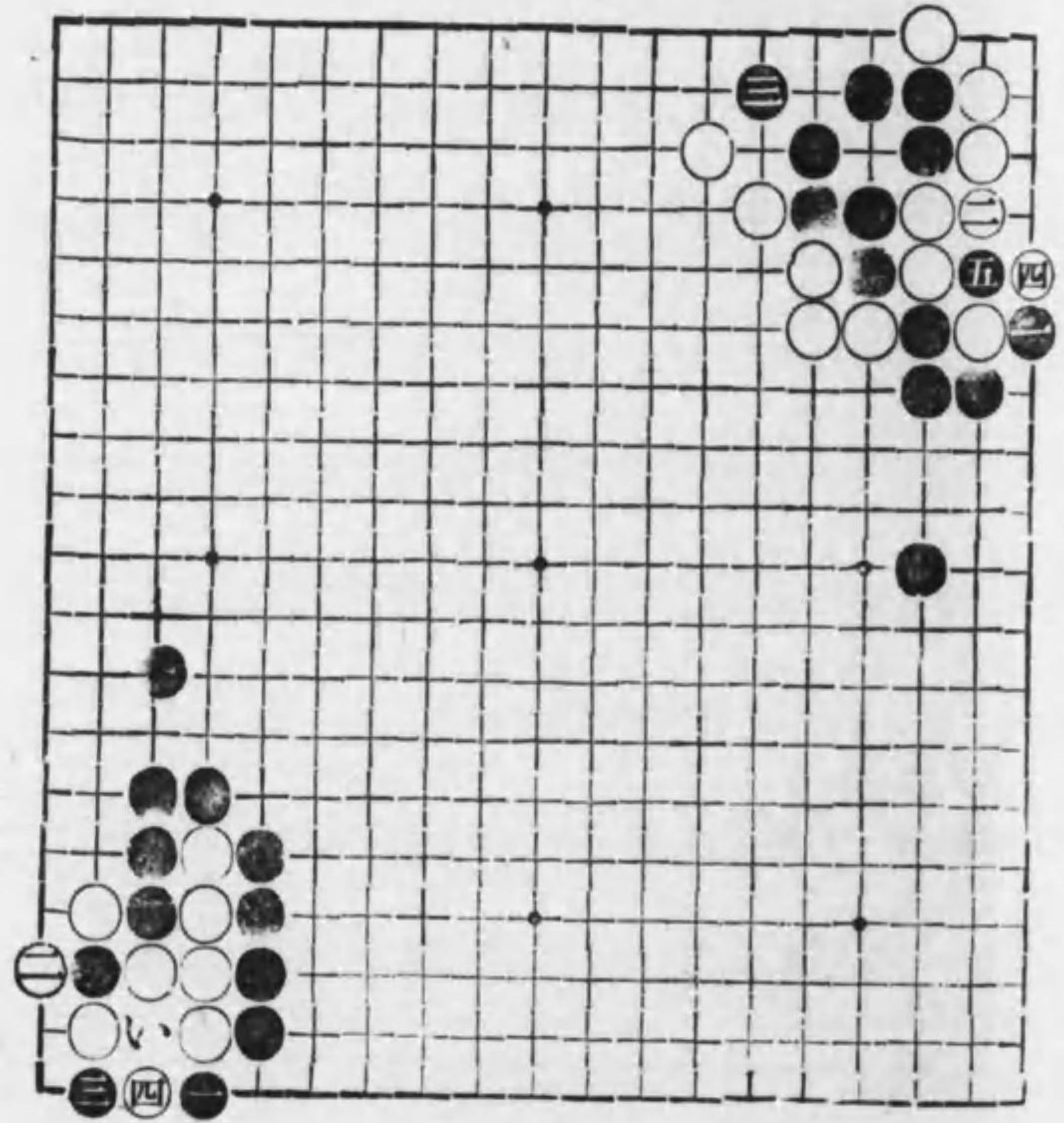
下圖黒十三までにも見ら
れ。下圖も黒勝。

と以下省略でも解る筈。
なほ――

白二を三なら黒二で結果
黒に良好。等で黒一が妙手
である。



上圖、黒一は白二と替つ
て巧い先手の要領である。
即ち黒一を三だと、白五
で無條件白活。
白四は劫活き手段、其他
に無し。
下圖も見られる如く白四
までの劫争。
白二を(い)だと、黒二で
に活き無し。

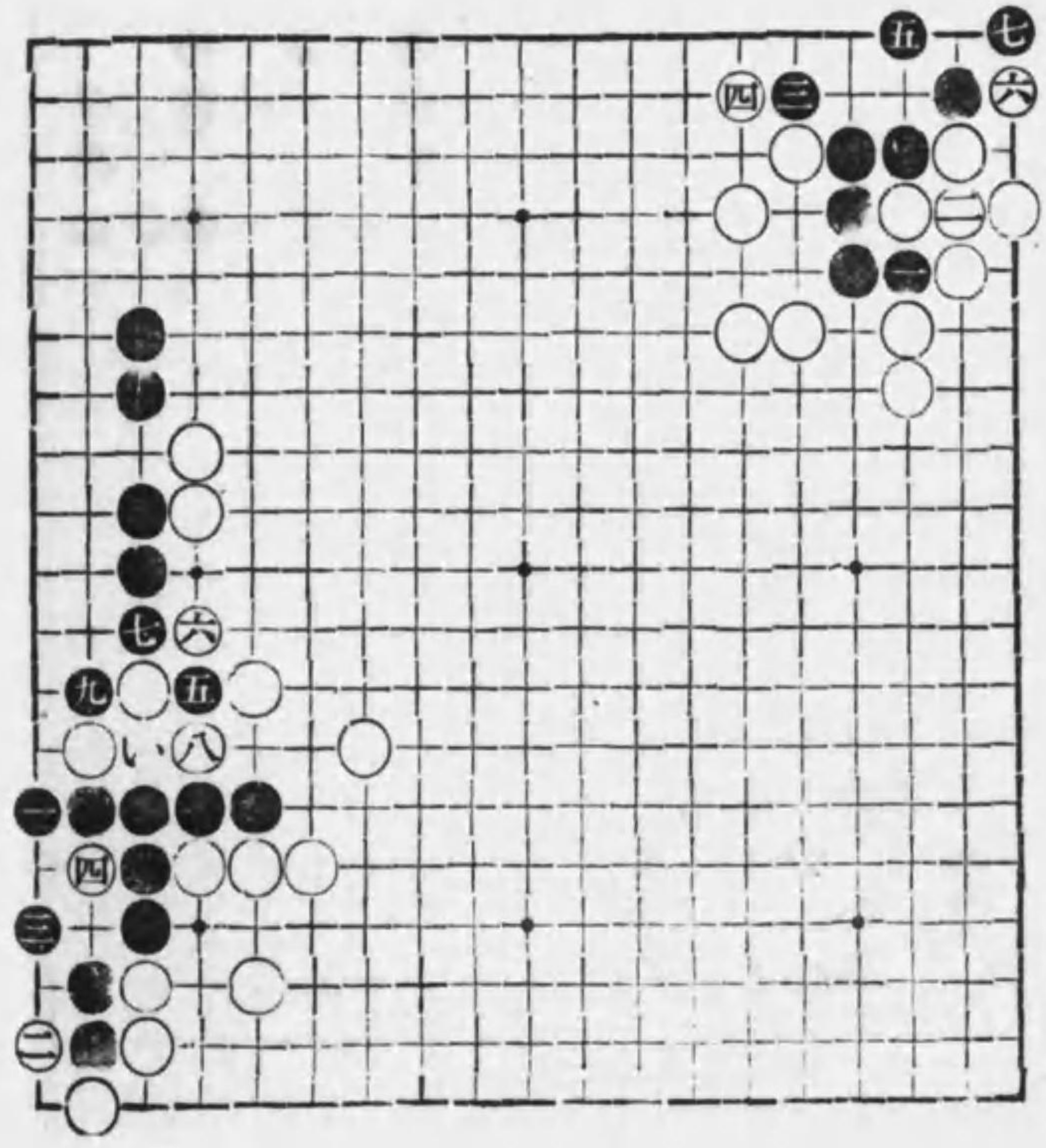


上圖、黒一より七までは劫争の手所。

黒一の前それを見透しなら強いもの。

下圖の方は黒一に白四までなら、黒五以下九で連絡黒五の手順が先づ絶妙である。

即ち黒五を七だと、白(五)で黒連絡途絶。と観られやう。



七四

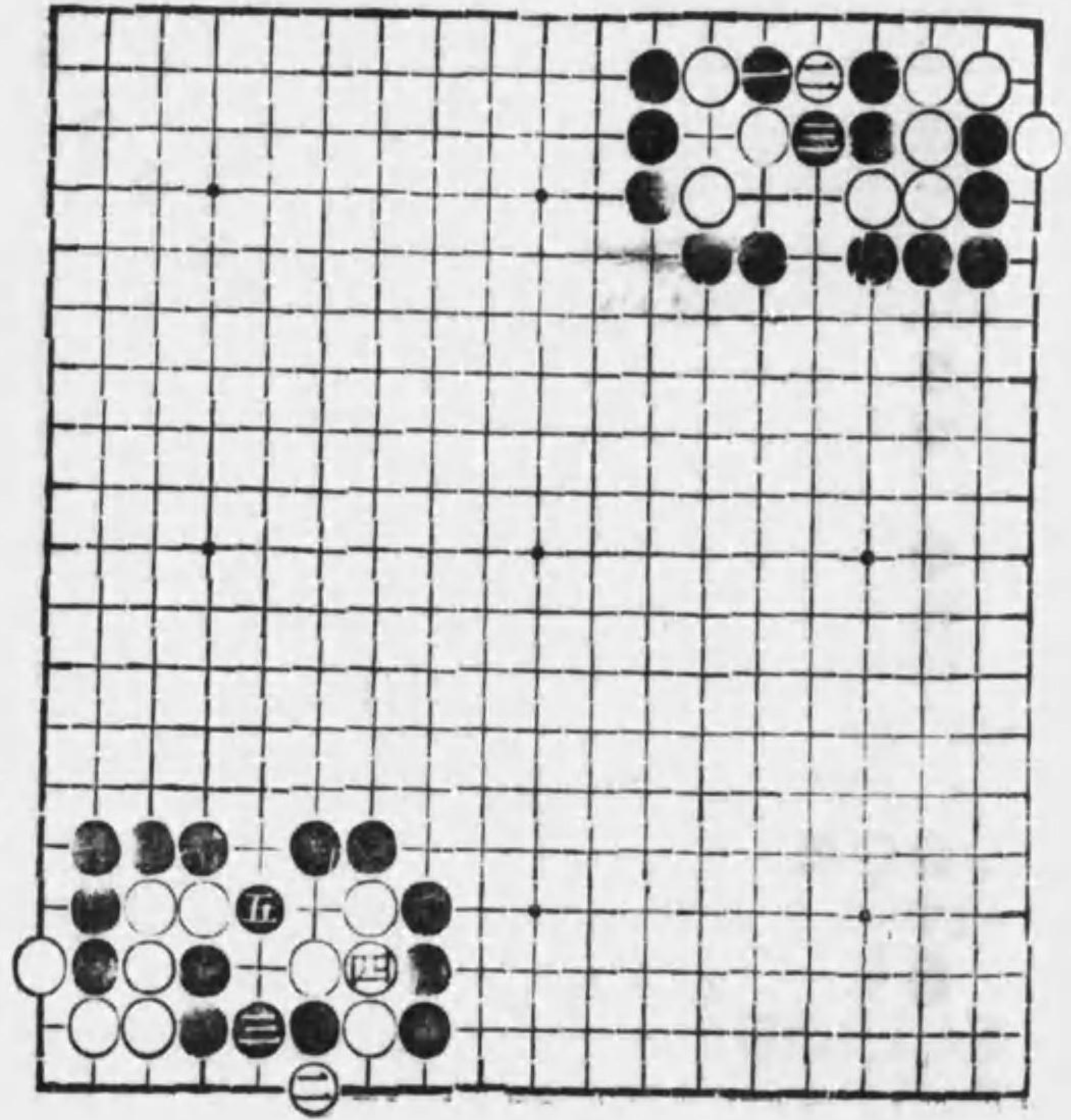
上圖、黒一は巧い飛付け

一寸危ない様だが、白二に黒三。

何と鮮かな白奪取の至藝である。

また白二を下圖二でも、以下黒五まで。

と白同様の運命。要するに黒一に白絶對絶命である。

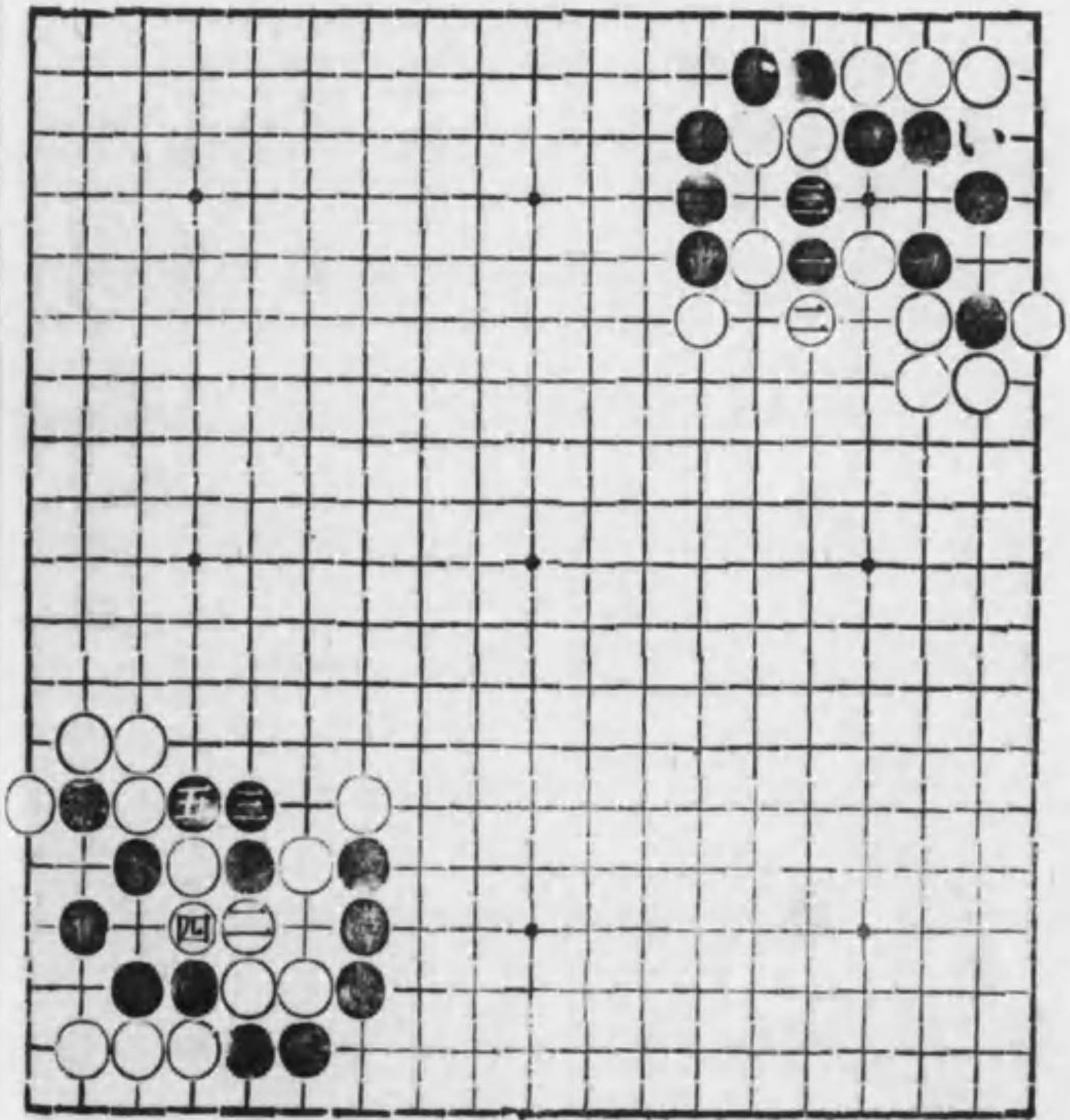


七五

上圖、黒一は妙。黒一を(5)で、攻合ふ必要は無^い絶讃の手所。

白二を下圖二でも以下黒五で。

要するに上圖黒一に白二子は助からない。と黒一に味到され度いもの。



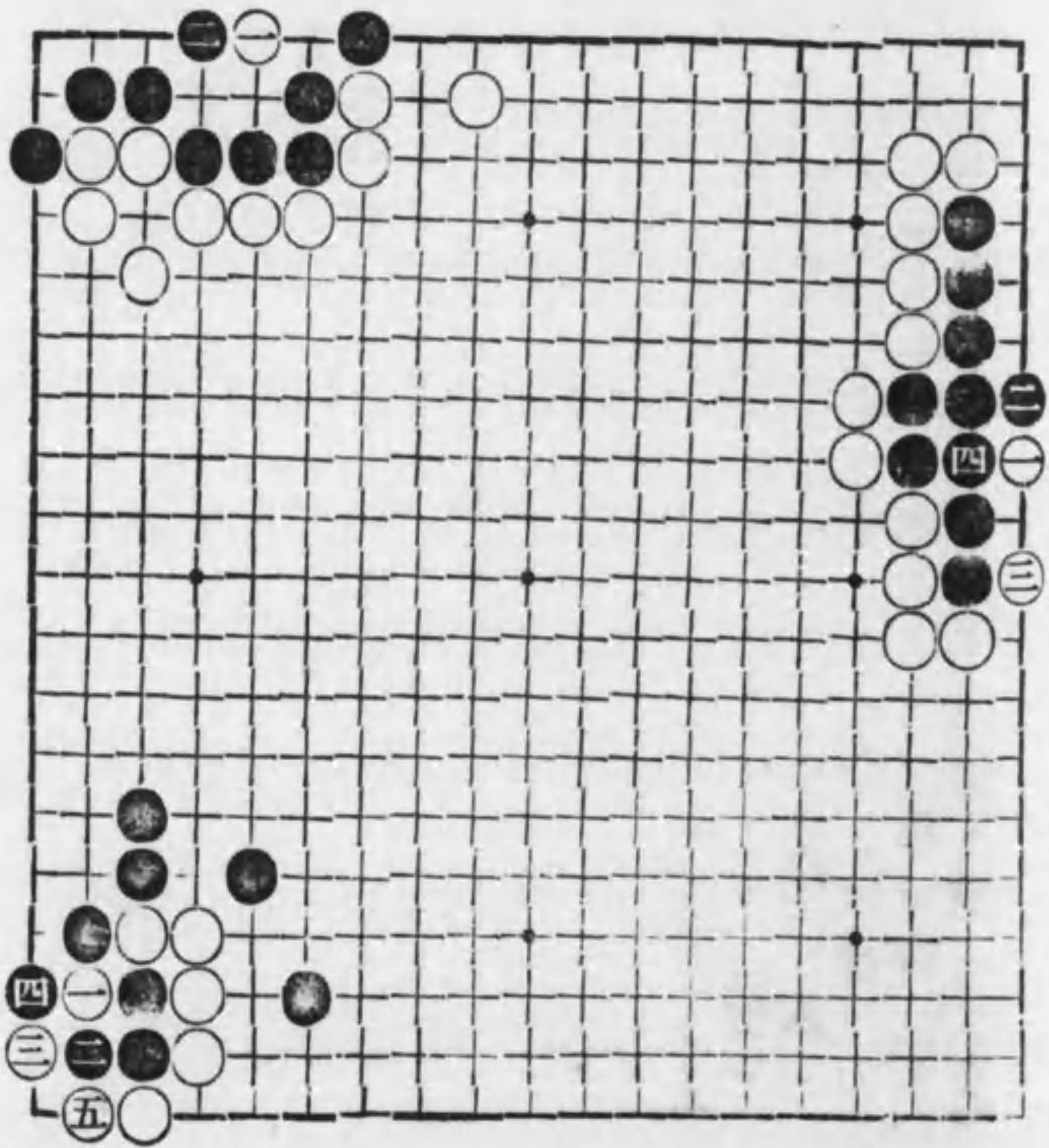
右側、白一に黒二。また白三に黒四。

次は上圖、白一に黒二。等は其他に無い黒の善處である。

下圖白一は以下白五と劫手段である。

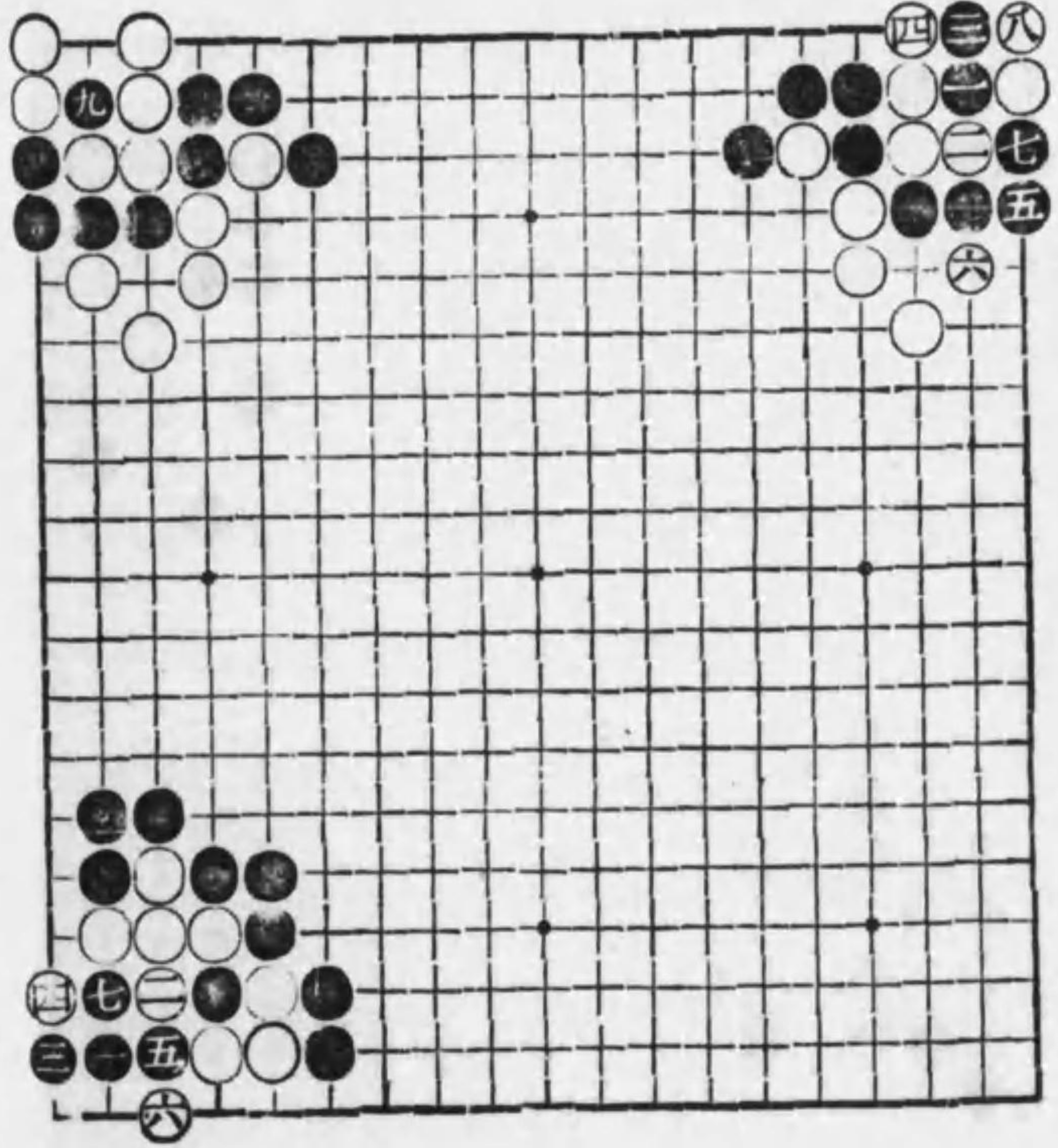
本圖三題は初等常識の手所。

とり分け上圖白一は劫立て等に黒二は間誤つかない教え。



上圖右、黒一以下白八までは、夫れで黒攻合勝——即ち白八までは上圖左の白丸黒丸、そして黒九を入れ、黒一は巧い要領である。下圖黒一も以下黒七と夫れで白奪取に妙。

なほ白二を五なら黒七。要するに黒一に白全滅である。



七八

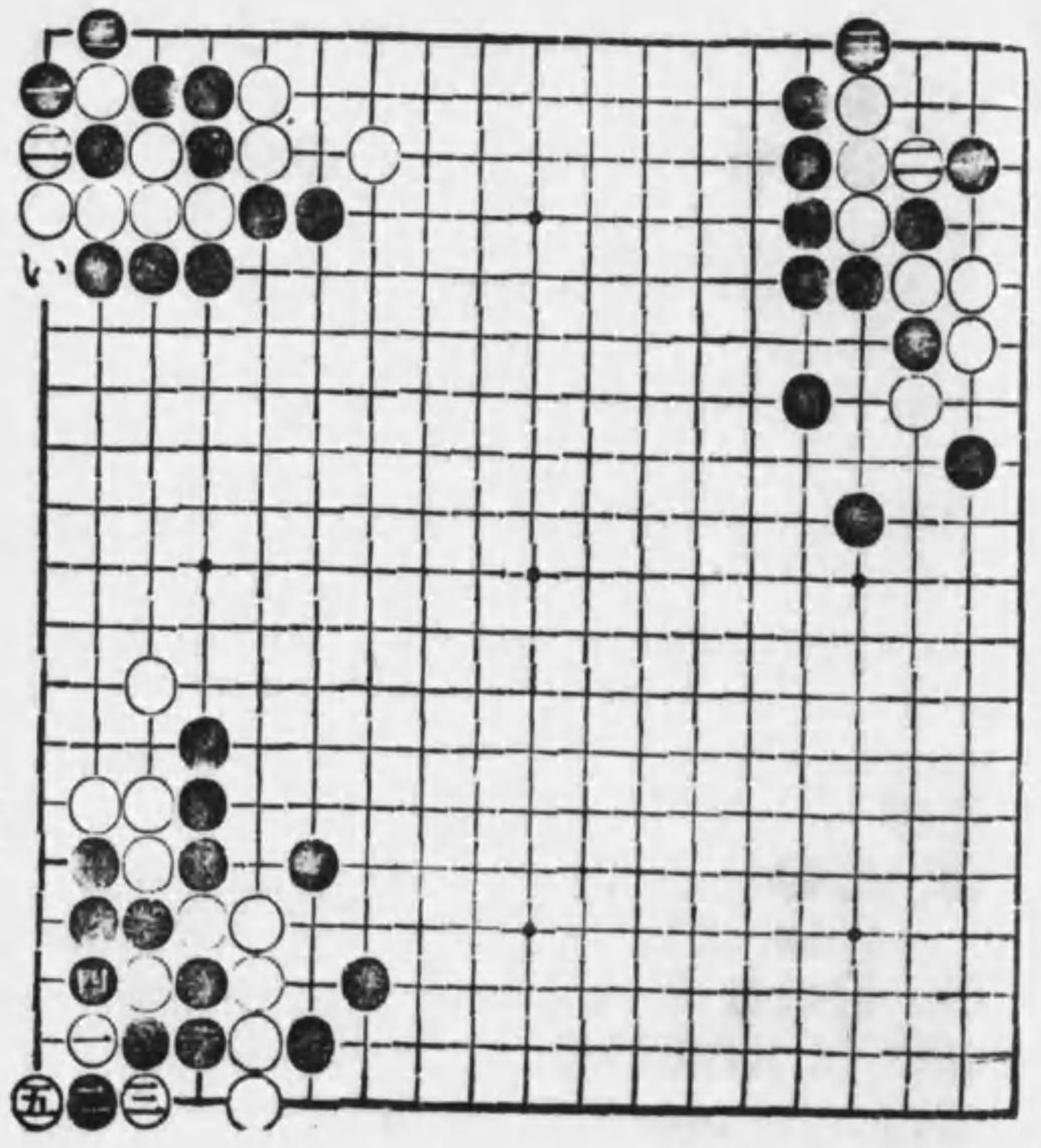
上圖右、黒一と三に白は絶望である。と判断できる筈。

上圖左も黒一と三で劫争黒一が妙。

白二を三だと黒(5)。と白は無條件に取られ。

下圖は白一以下五で白攻合勝ちである。

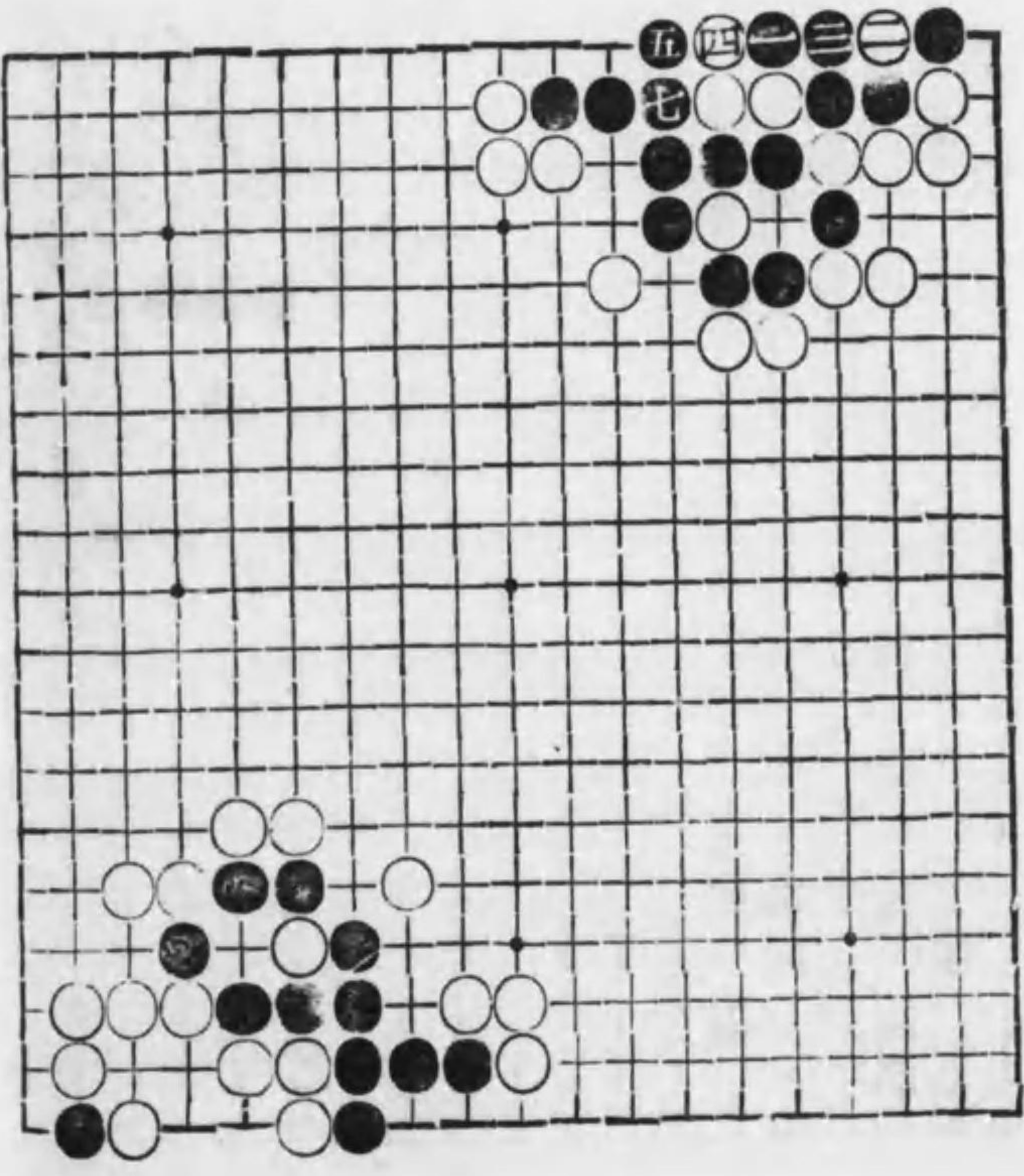
その白一と三なども巧い手所。



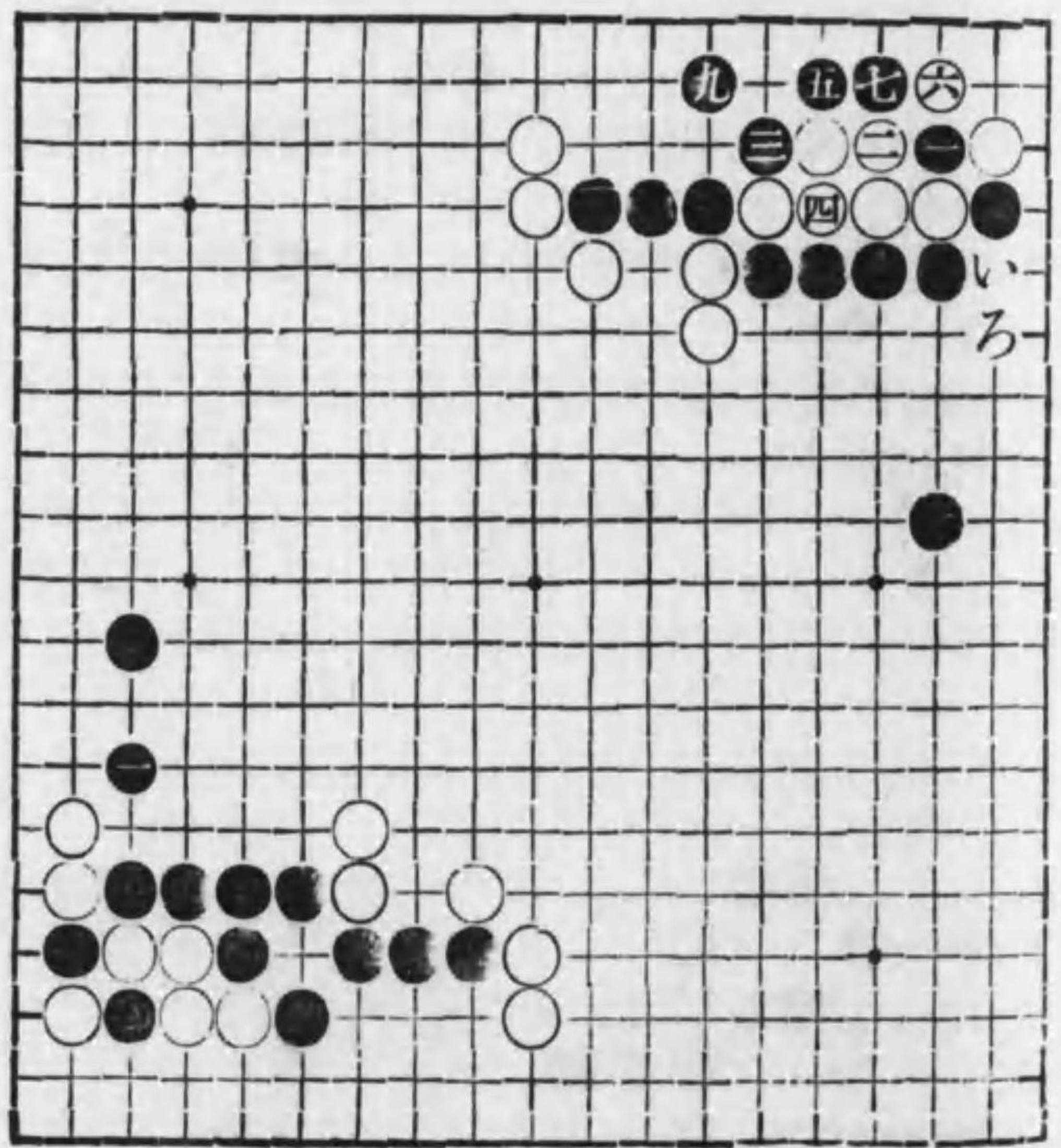
七九

上圖、黒一の極妙が発見
 されたら、先づ初段である
 即ち黒一以下七で黒活。
 白六は二の所に黒四子打
 抜——

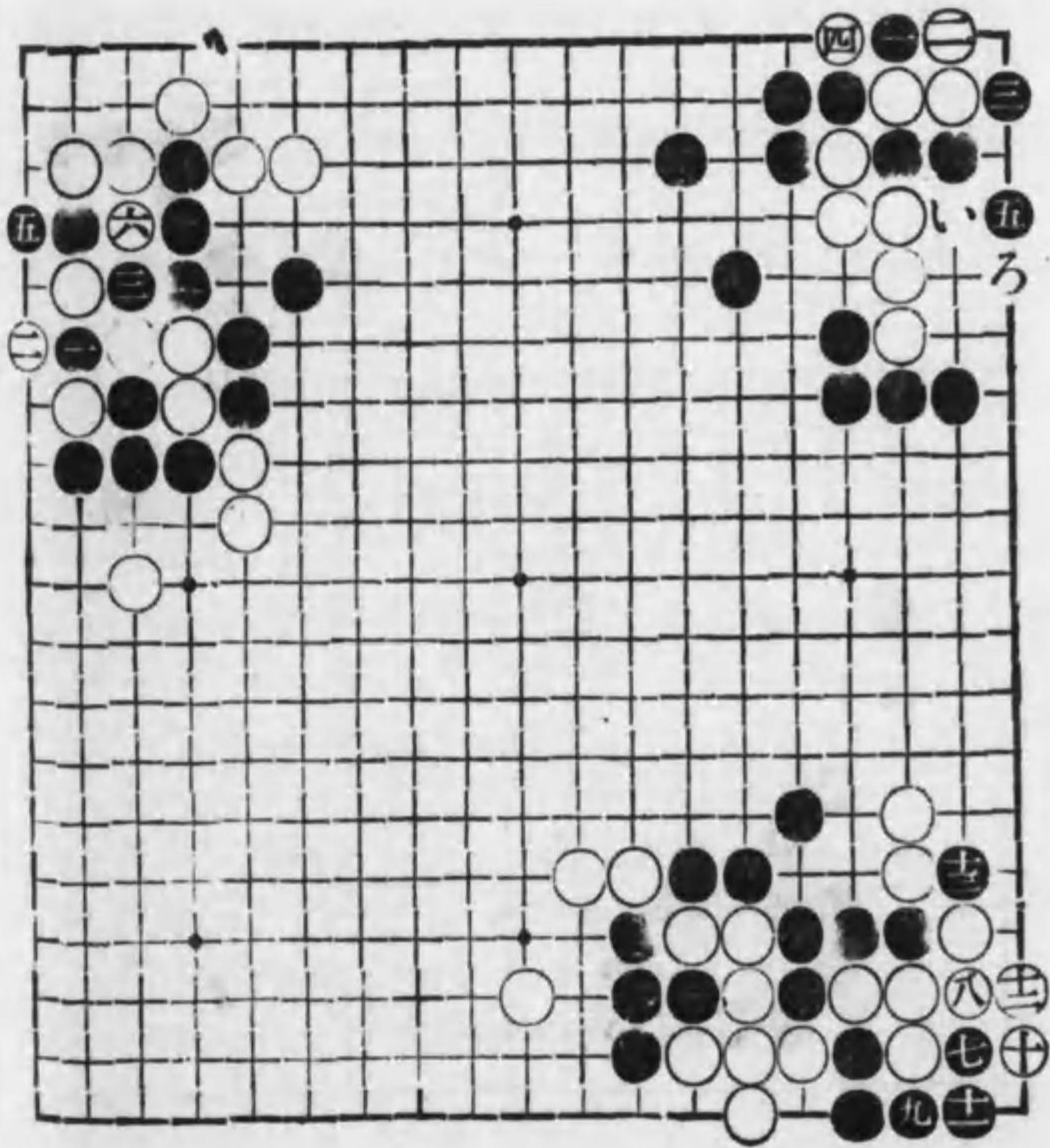
夫れが、下圖白丸黒丸ま
 で。そして白先手だか、後
 は説く要もあるまい黒活。
 更に白二を四でも黒七で
 黒活。と解る筈。



上圖黒一以下先づ七に白
 八は一の所。
 そして黒九と白地に活。
 黒巧い手所である。即ち黒
 一が妙。
 更に白四を(い)なら、黒
 四白(ろ)と成つて——
 夫れが下圖白丸黒丸まで
 として黒の手番黒一。此れ
 も黒好果である。



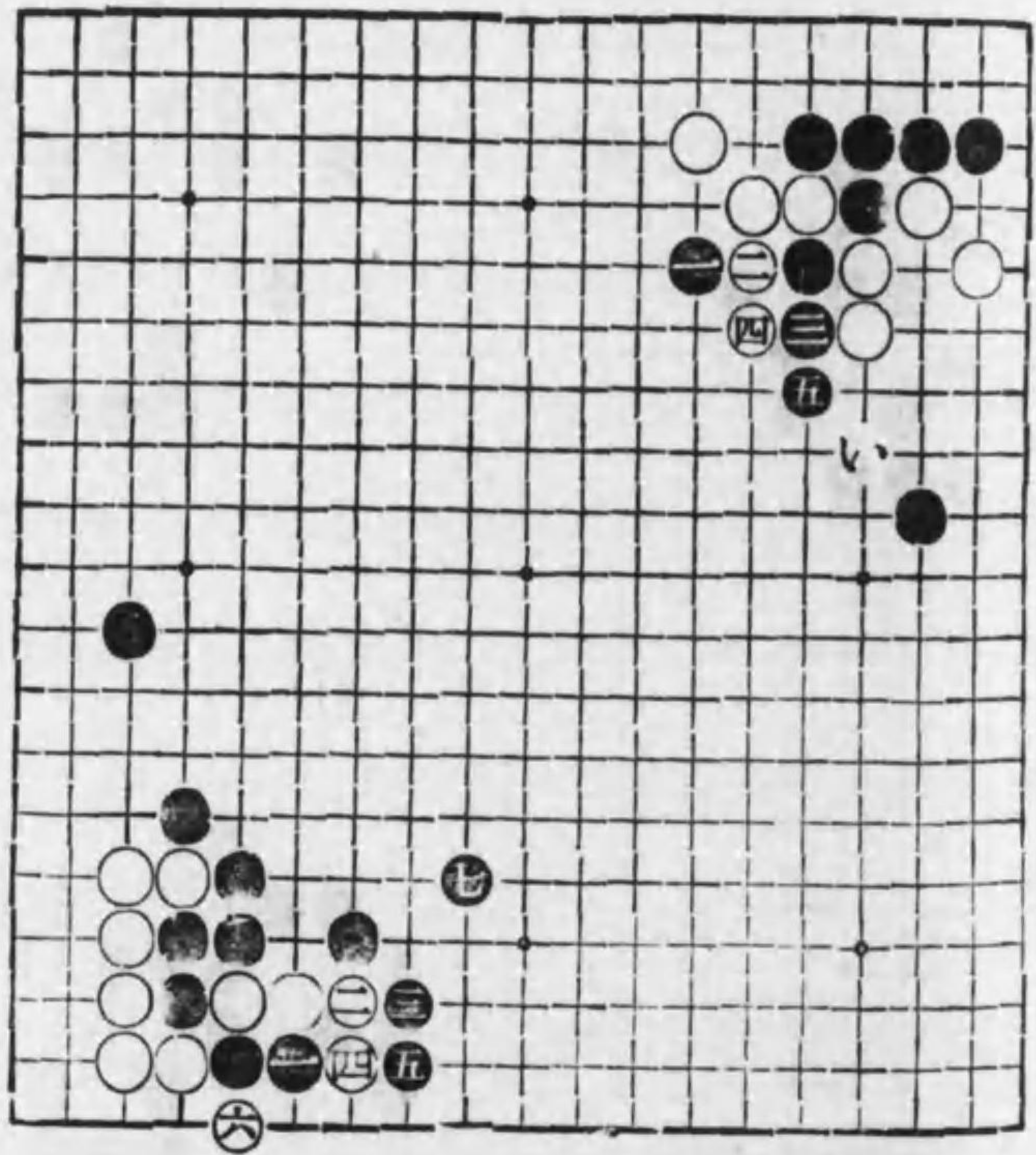
上圖右、黒一以下五で殊に黒五が――
 次に白(い)なら、黒(ろ)と簡明に白を取れ。
 上圖左、黒三に白四は一の所、そして白六までが――
 下圖白丸黒丸。次いで黒七以下十三で黒成功である
 と以上解る筈。



八二

上圖、黒一は以下黒五で右の白四子が悪化。黒一は捨石の要領。
 また白二を(い)なら、黒二。
 と此方の白三子が苦しい立場である。

下圖、黒一も以下黒七と白を夫れまでに局限、黒は外部調整。
 即ち黒一も捨石で、効果著大である。



八三

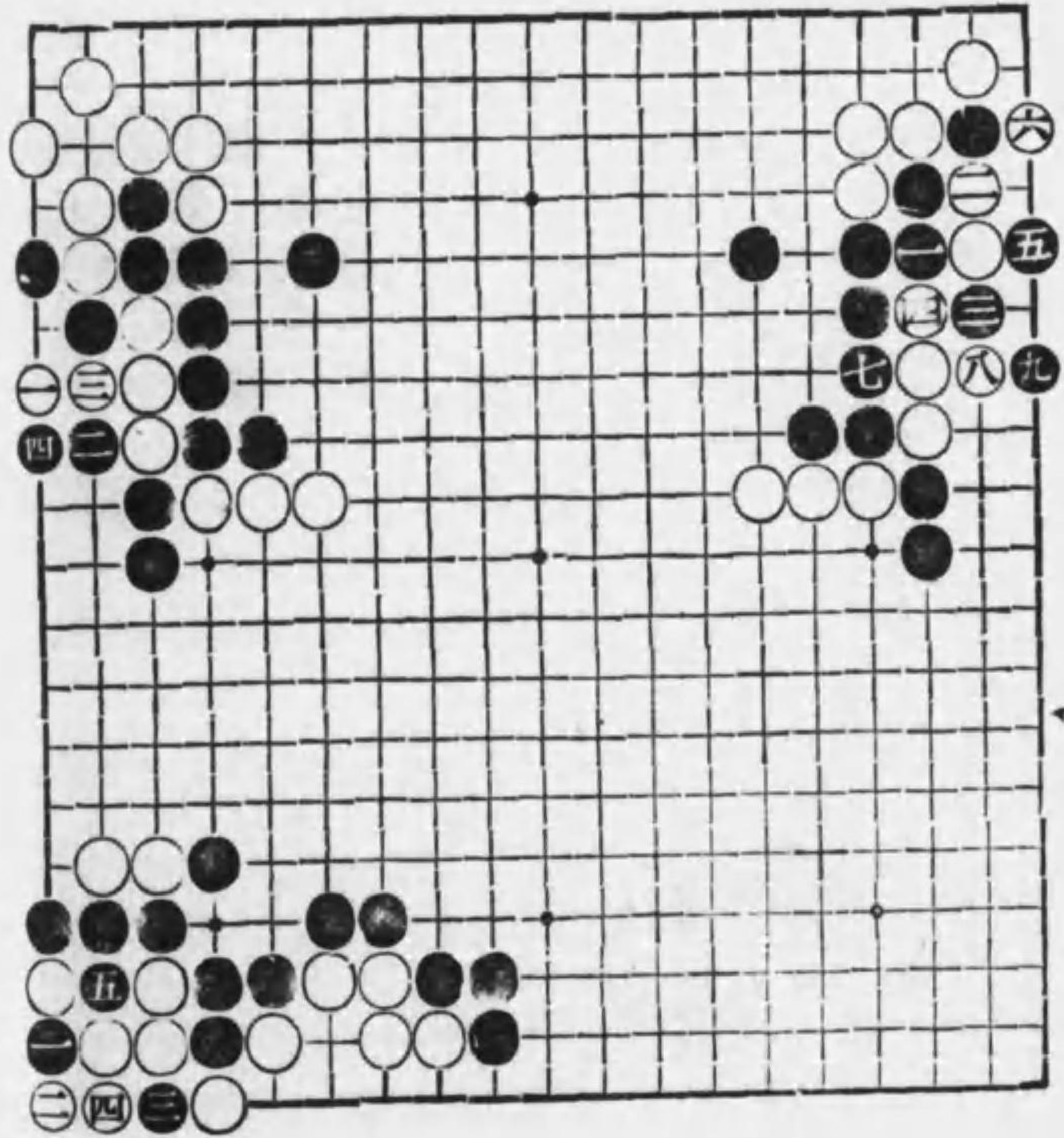
右側、黒一以下九までは上下連絡の劫手段であつて――

殊に黒七は其處を強化、巧い手所である。

なほ白八を左側白一の所だと、以下黒四で。終り。

下圖黒五までは黒一が先づ妙。

されば白二は五で次に黒四と劫争の所。



八四

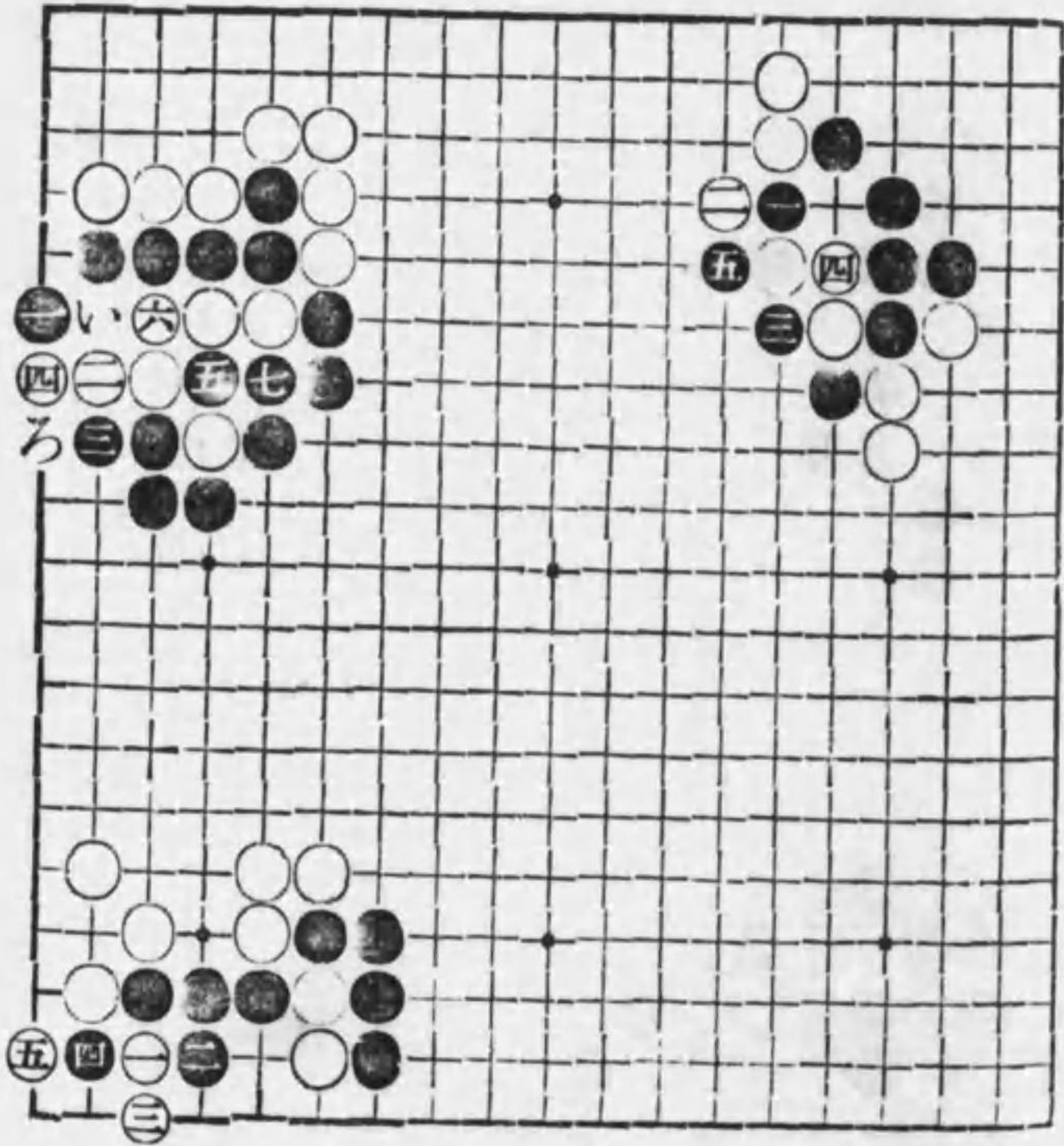
上圖右、黒三に白四だと黒五と白惡果の常識手所である。

上圖左は、黒一以下黒七で巧い黒攻合勝。

白六を(い)なら、黒七と知られよ。

なほ白二を(い)でも、黒(ろ)。

下圖白一と三に黒四が先手取りに妙。と悟る筈。



八五

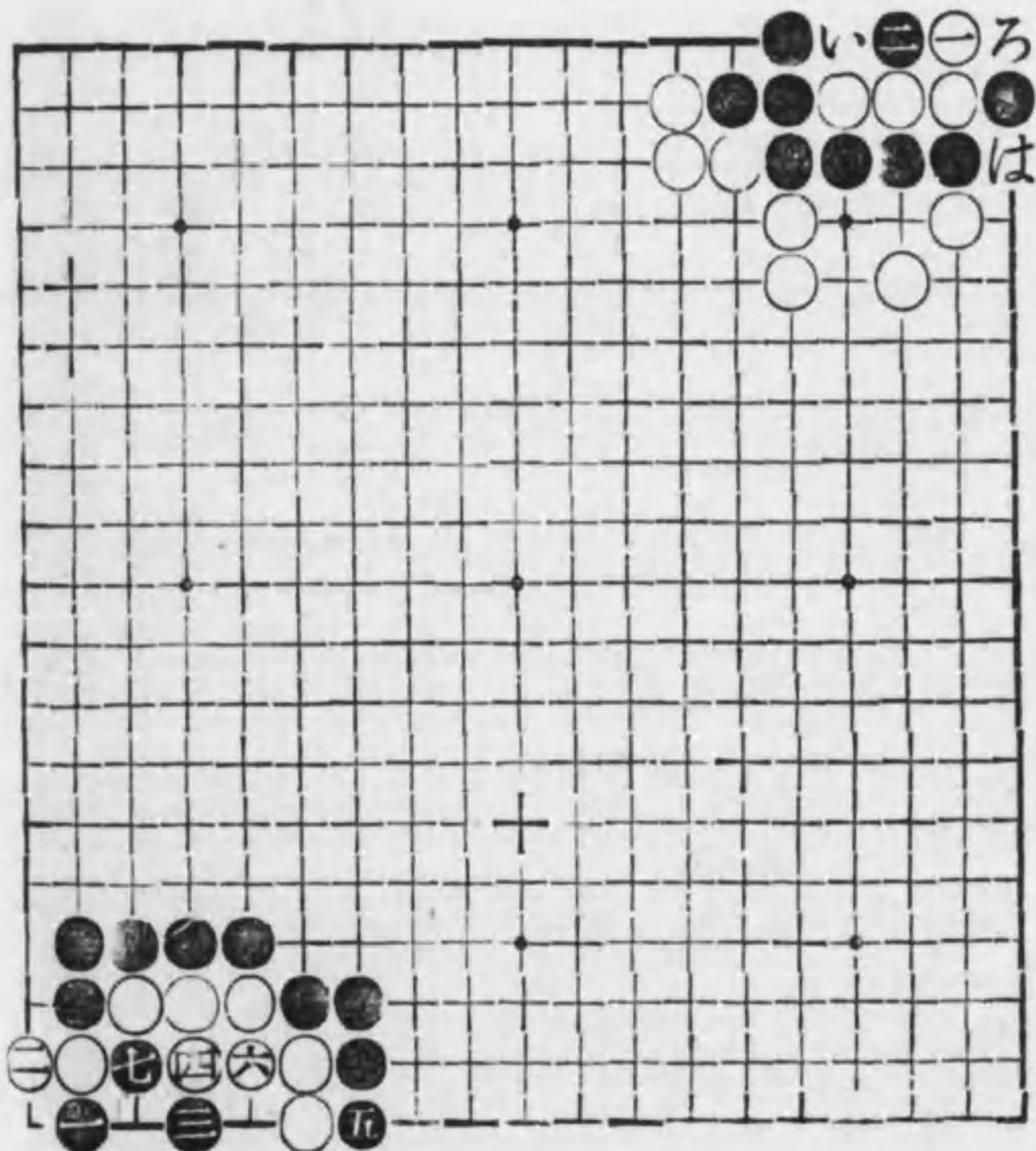
上圖、白一に黒二が其他に無い安全第一。

黒二を(い)だと、白二で黒取られの五目ナカデ。

また白一を二なら、黒一(ろ)黒(は)。と知られよ

下圖黒一を二だと白一。と白を活かし。

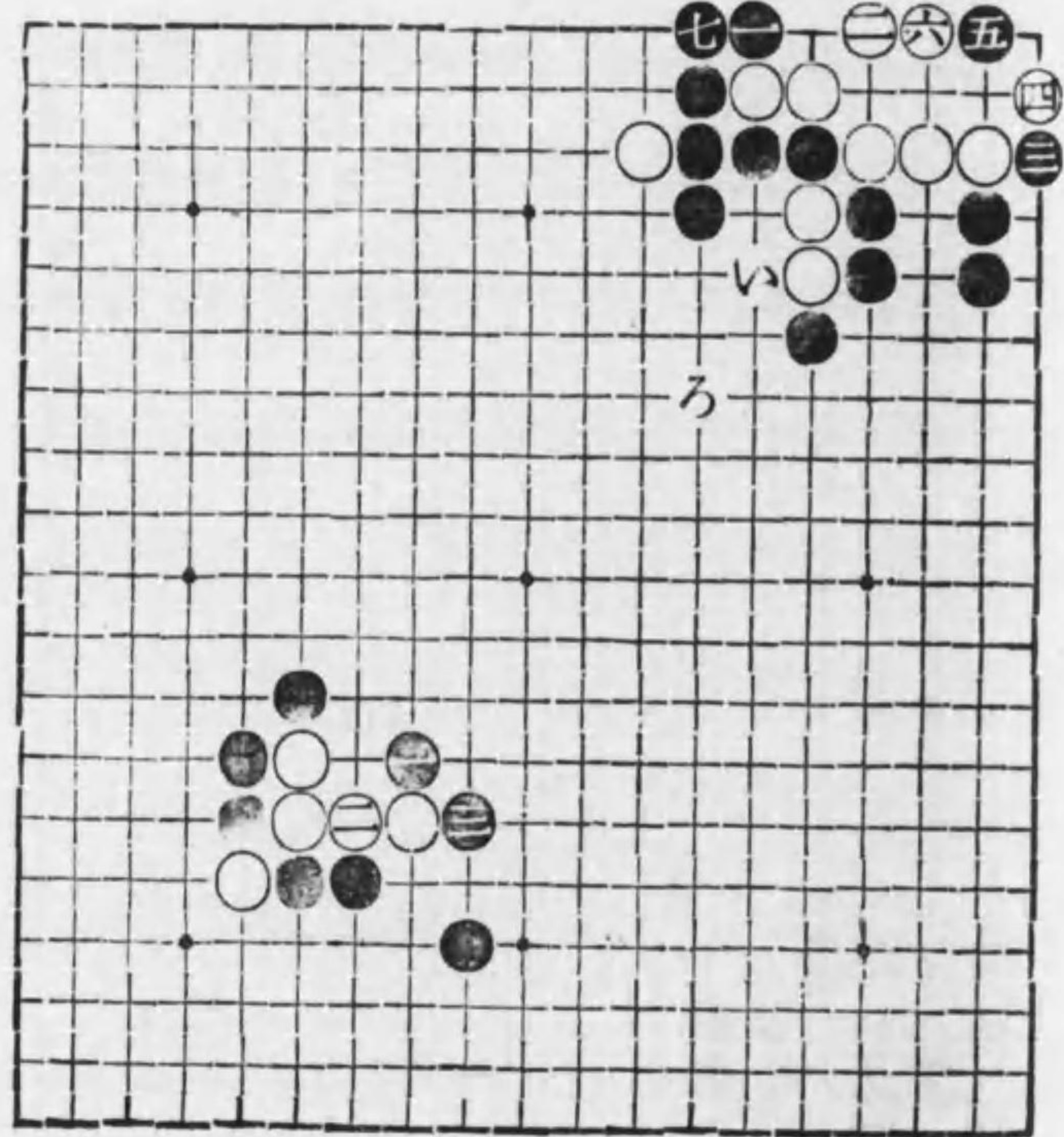
黒一以下七は、白の地内で甘い劫争。



中央の方は、黒一に白二なら黒三で白を取れ。要するに黒一が巧い手所である

上圖は、黒一以下七で白を取れ。また白(い)なら、黒(ろ)で、黒巧い白三子奪取の手所。

等も一局の中に多く現はれ、常識手所の観點である。

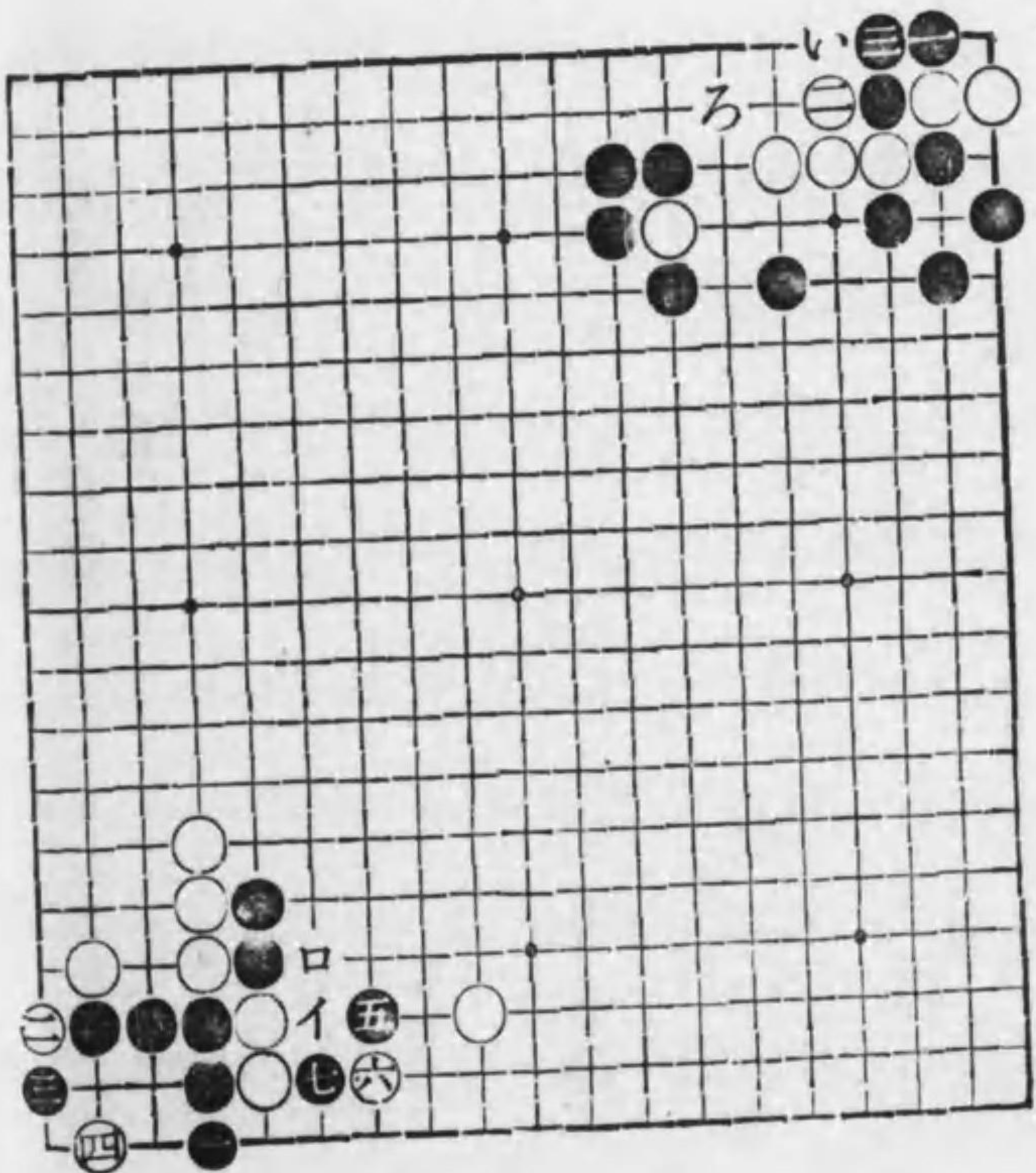


上圖、黒一と三は次に白(イ)なら黒(ろ)で白を取れ。黒一を(ろ)だと白二で白活。

それは黒拙い手所。

下圖、黒一に白四までなら、黒五と七が白二子取に妙。

即ち次に白(イ)、黒(ロ)と白二子は助からない。

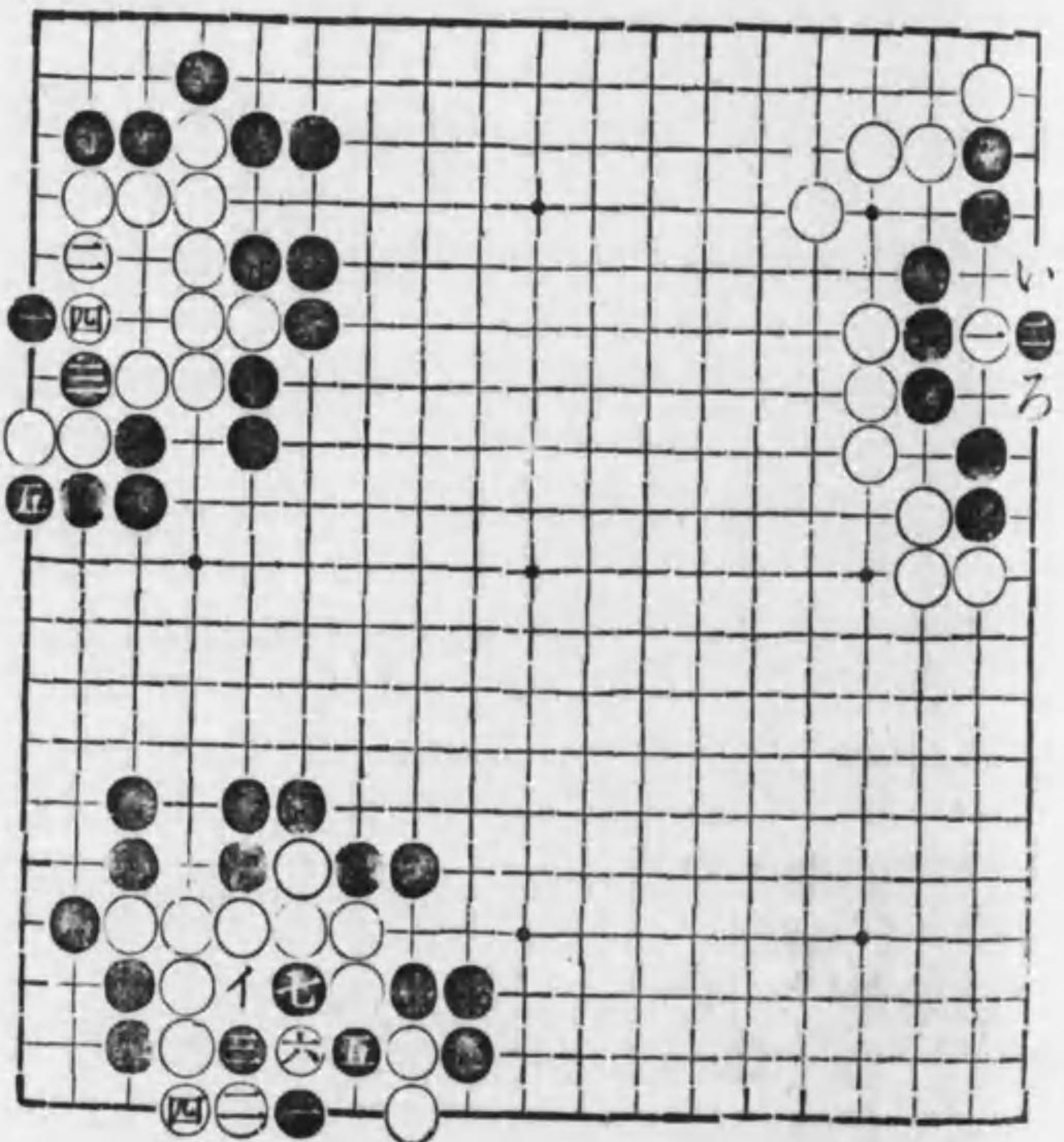


右側、白一に黒二は次に白(い)黒(ろ)で其他に無い應手。

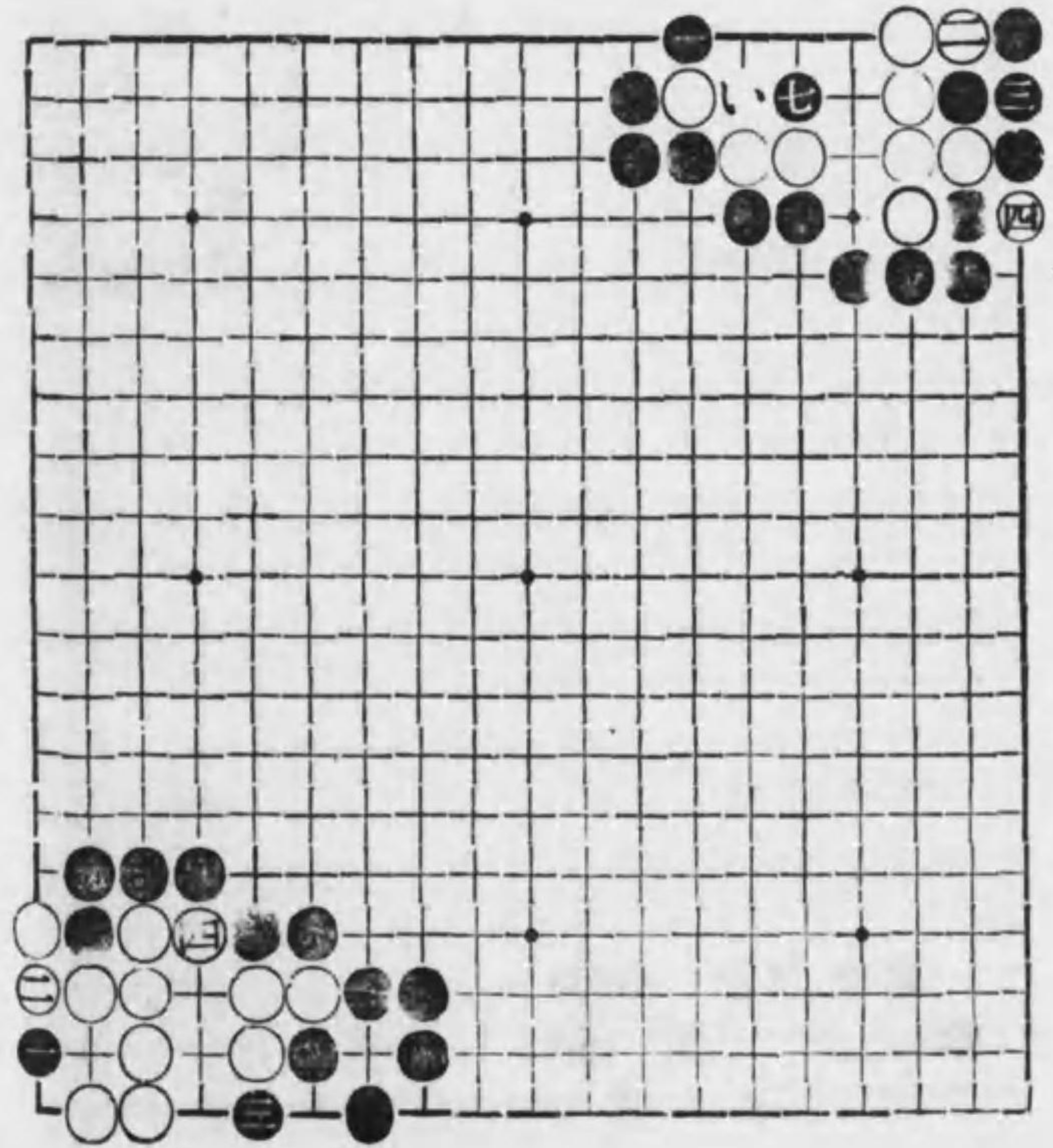
左側、黒一以下五で白を取れ。黒一が妙。

また白二を下圖二でも以下黒七まで。と白同様の運命である。即ち——

次に白(イ)なら、黒六と粘ぎ五目ナカデ。處で白二を四だと白全滅でない、と解れば強い



上圖、黒一が妙。以下白四の時黒五を三の所に白六を四の上なら黒七で白全滅である。
 黒一を(い)、白七黒一だと、下圖に見られる黒三に白四の白の活點。
 その白四も一寸見損じる巧い手所。常識用である。



九〇

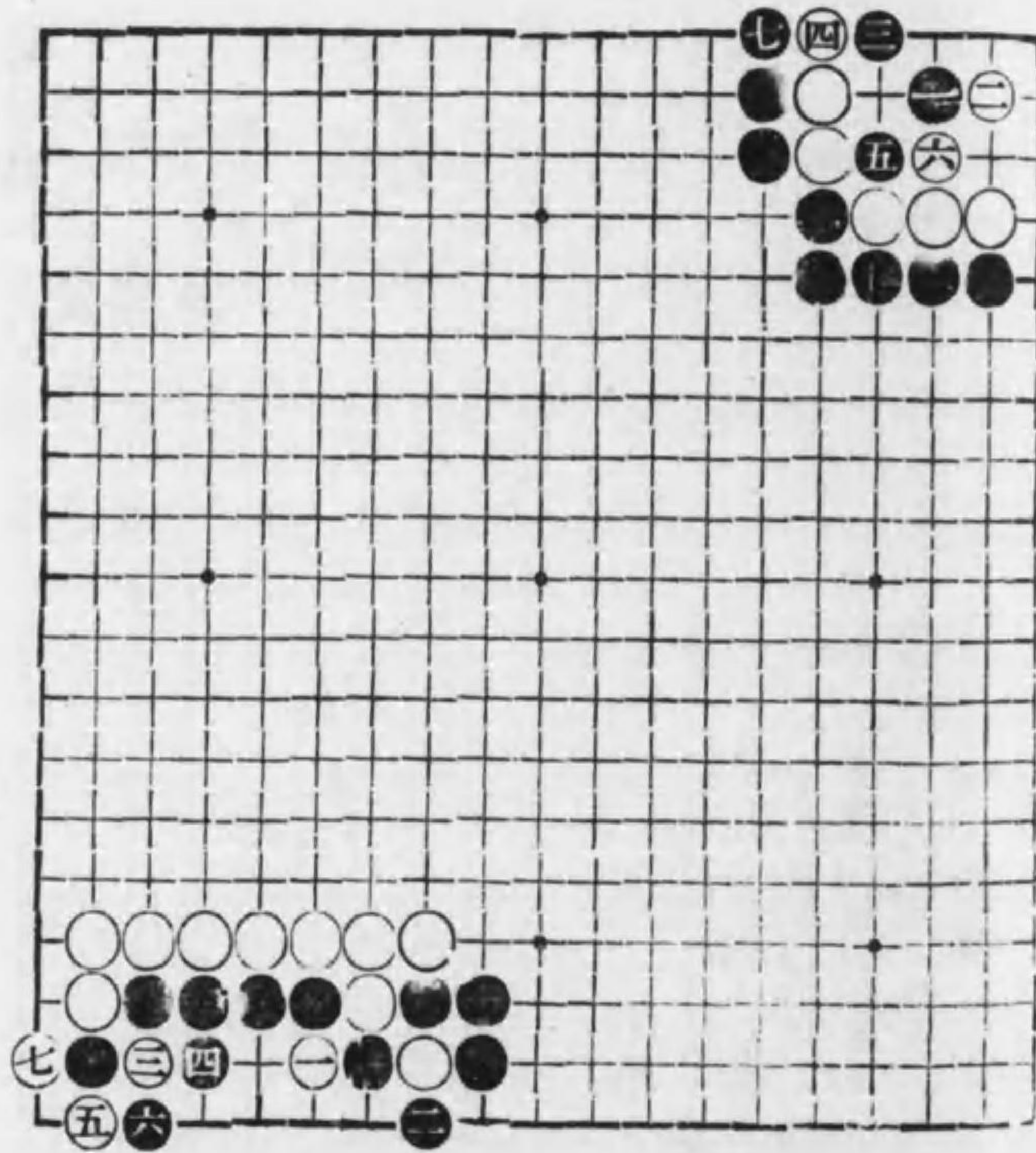
上圖、黒一は白の最も痛い急所。

また白二に黒三が旨い手所。

要するに黒一で白全滅である。

下圖、白一以下七は劫争此劫争黒の地内で黒迷惑千萬。

白一で七などは黒五と替つて拙悪。



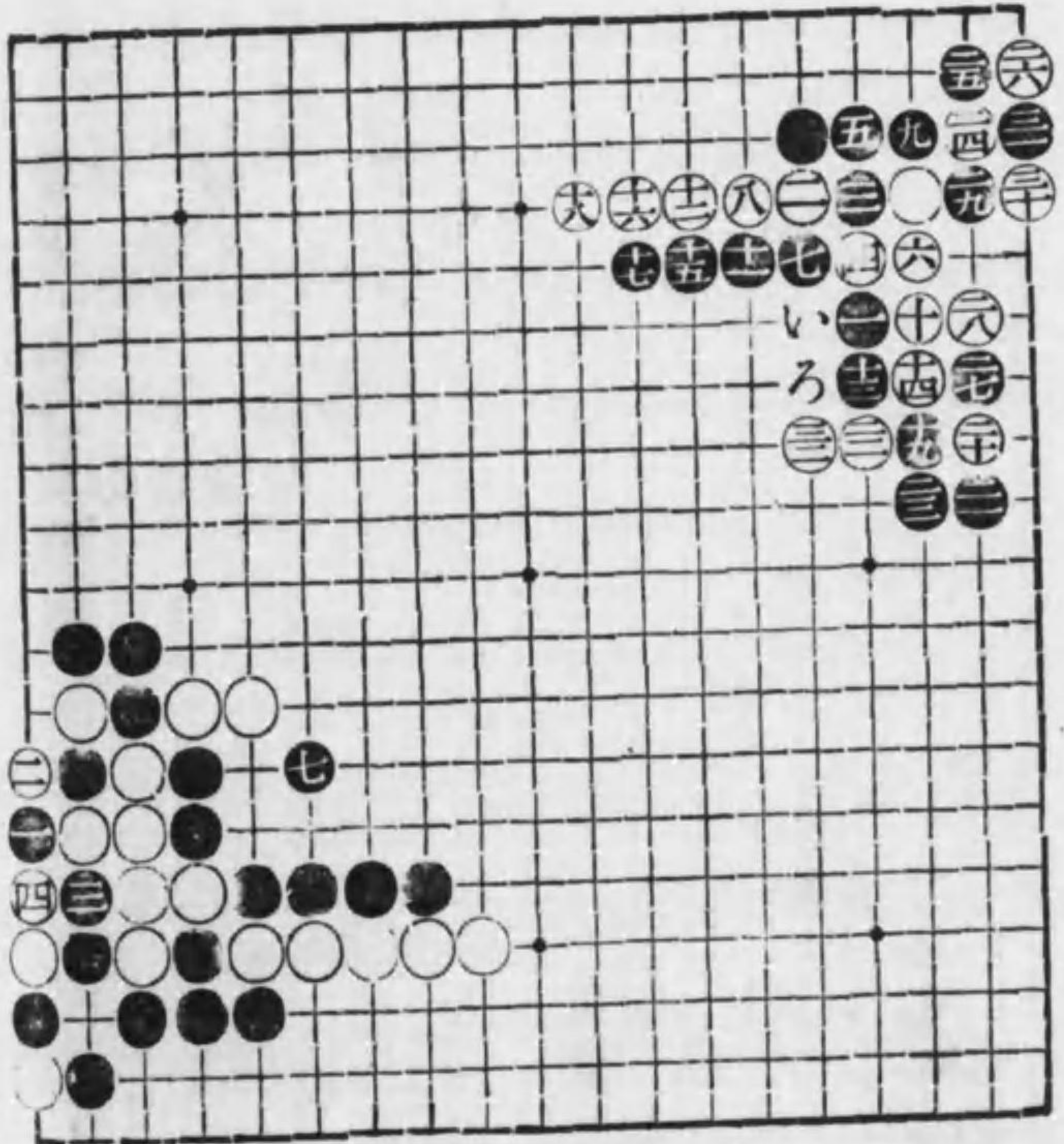
九一

上方、白三十二は此一舉に白大破滅の悪手である。即ち――

下圖に轉じ、更に黒一以下白四、そして黒五を一に取返し――

また白六を四に取返し、其時黒七。

されば白三十二は、劫立て(い)と切り、(ろ)と替つて二十四に劫取。

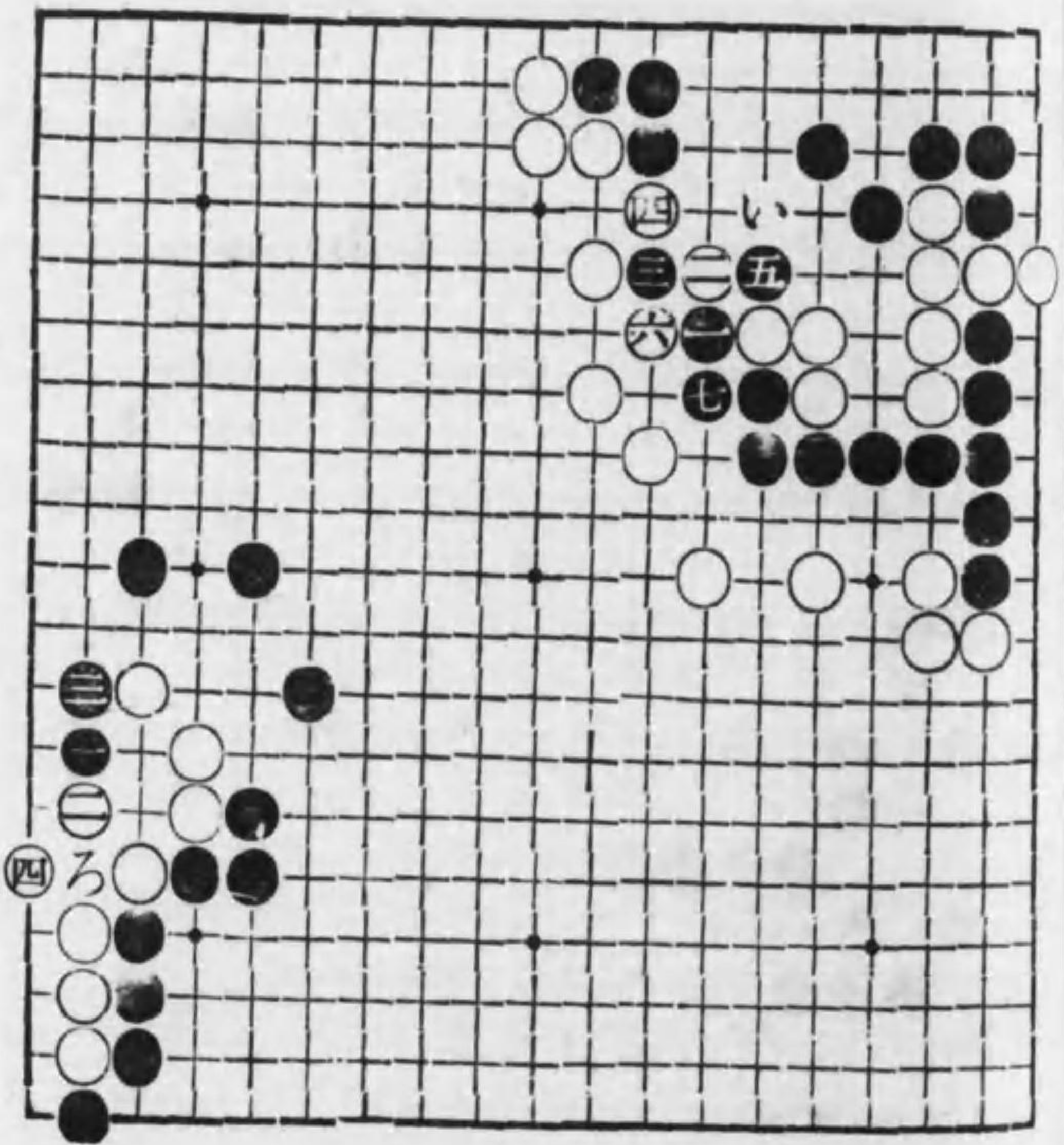


上方、黒三が絶讃の一手。黒三を七だと白(い)と替つて變哲もない。黒拙い手所。

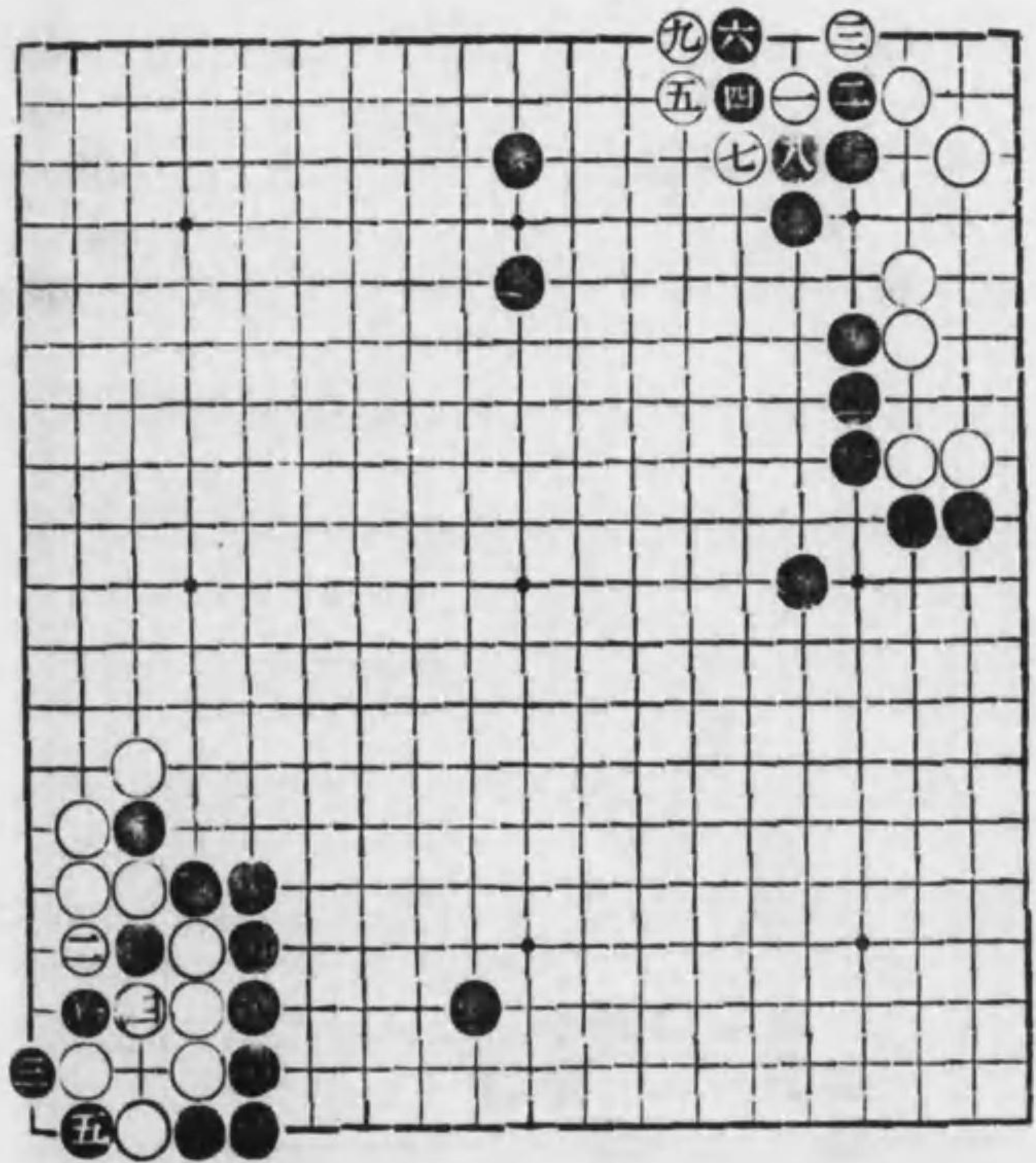
黒七と成つて、白攻合敗けは言ふまでもない事。

下圖黒一が巧い手所。とは――

白二を三なら黒(ろ)。白全滅である。

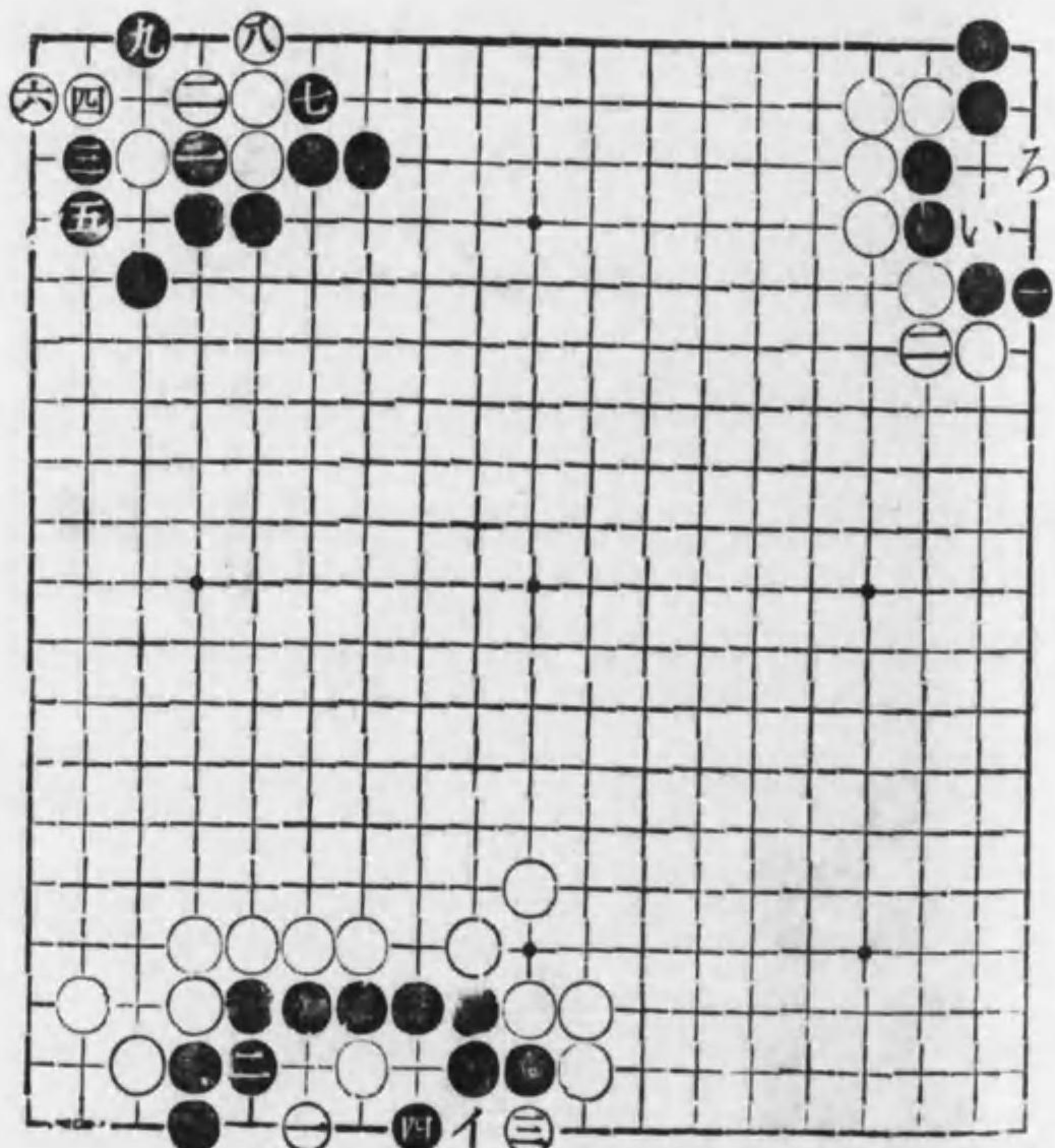


上方、白五に黒六は大悪無双の場所。
 即ち白九と成つて黒二子は取られ。
 黒六は八の他は無。と知られよ。
 無論次に白七は六と劫だが。
 下圖は侵分に黒巧い劫手段である。
 即ち二、三目の勝敗なら至大の關係。



九四

上方右、黒一も夫れで黒地五目。
 黒一を(い)だと、白二と成つて後に白一黒(ろ)黒地三目。
 上方左、黒三と五で殊に黒五が巧い白奪取の場所である。
 下圖白一に黒二。また白三に黒四。と夫れでセキ活黒四を(イ)だと黒取られ。

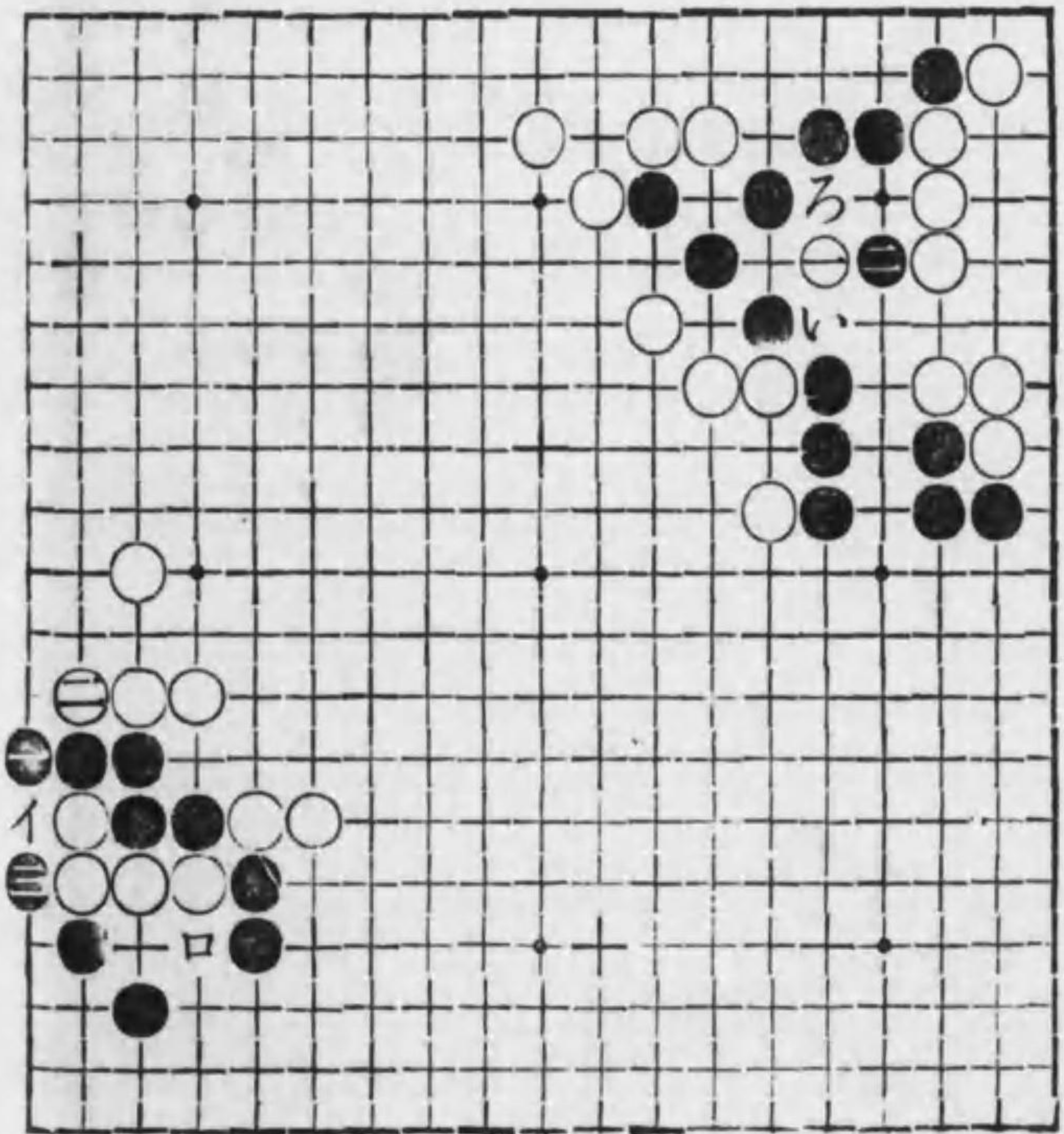


九五

右側、白一に黒二が巧い防禦の一手である。即ち黒二を(い)だと、白(ろ)で後に切られが生じ。と解る筈。

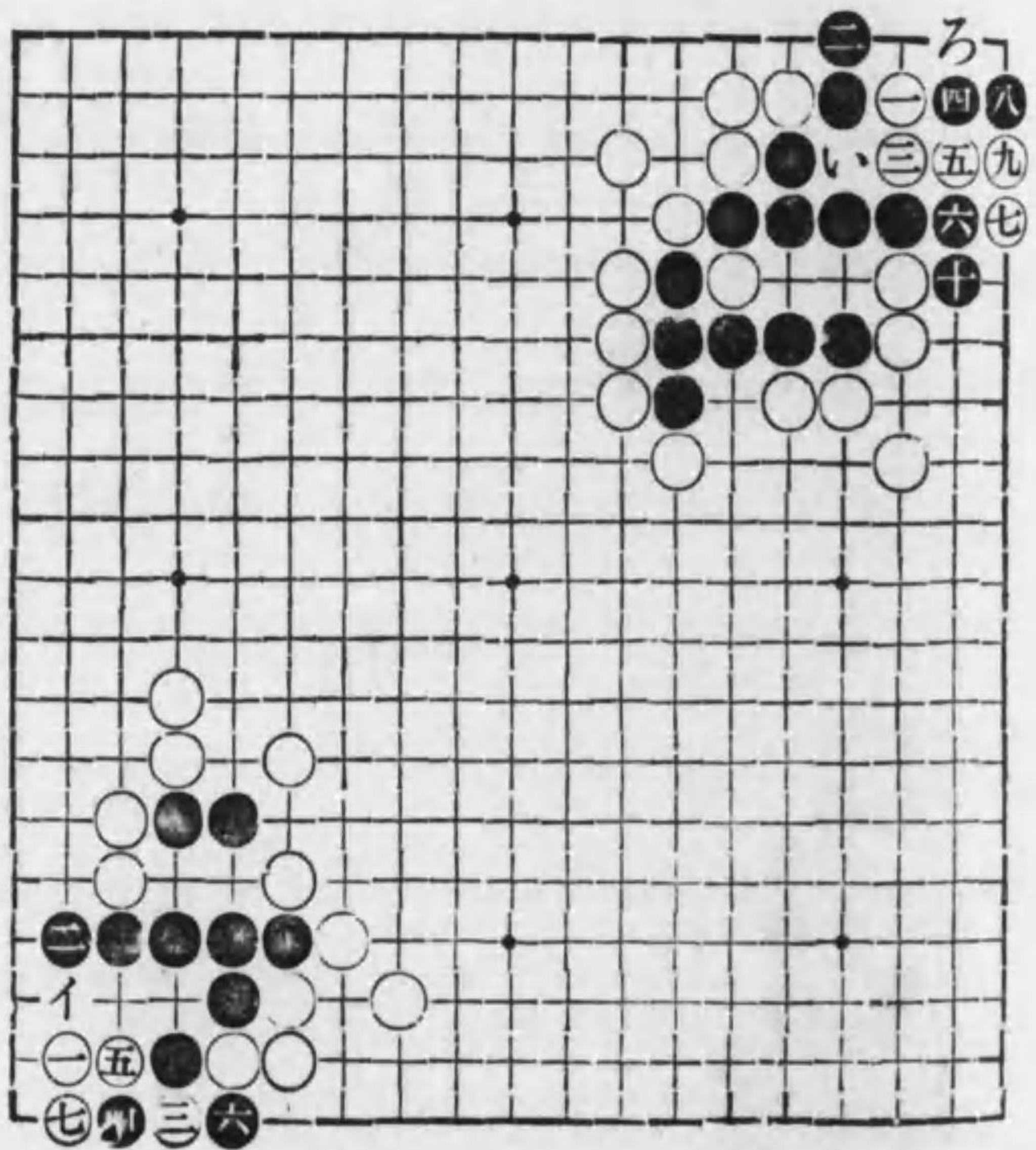
下圖黒一は、白二に黒三として――

白(イ)なら黒(ロ)と黒攻合勝ちの早取法である。



九六

上圖、白三に黒四もまた白七に黒八も妙。即ち黒十の次白(い)とは切れない。黒八を十だと白(ろ)黒八白(い)と白に切られ。と解る筈。
更に下圖の如き周囲だと白一が妙手で以下白七で黒は取られ。
黒二を(イ)でも白五と黒は取られ。



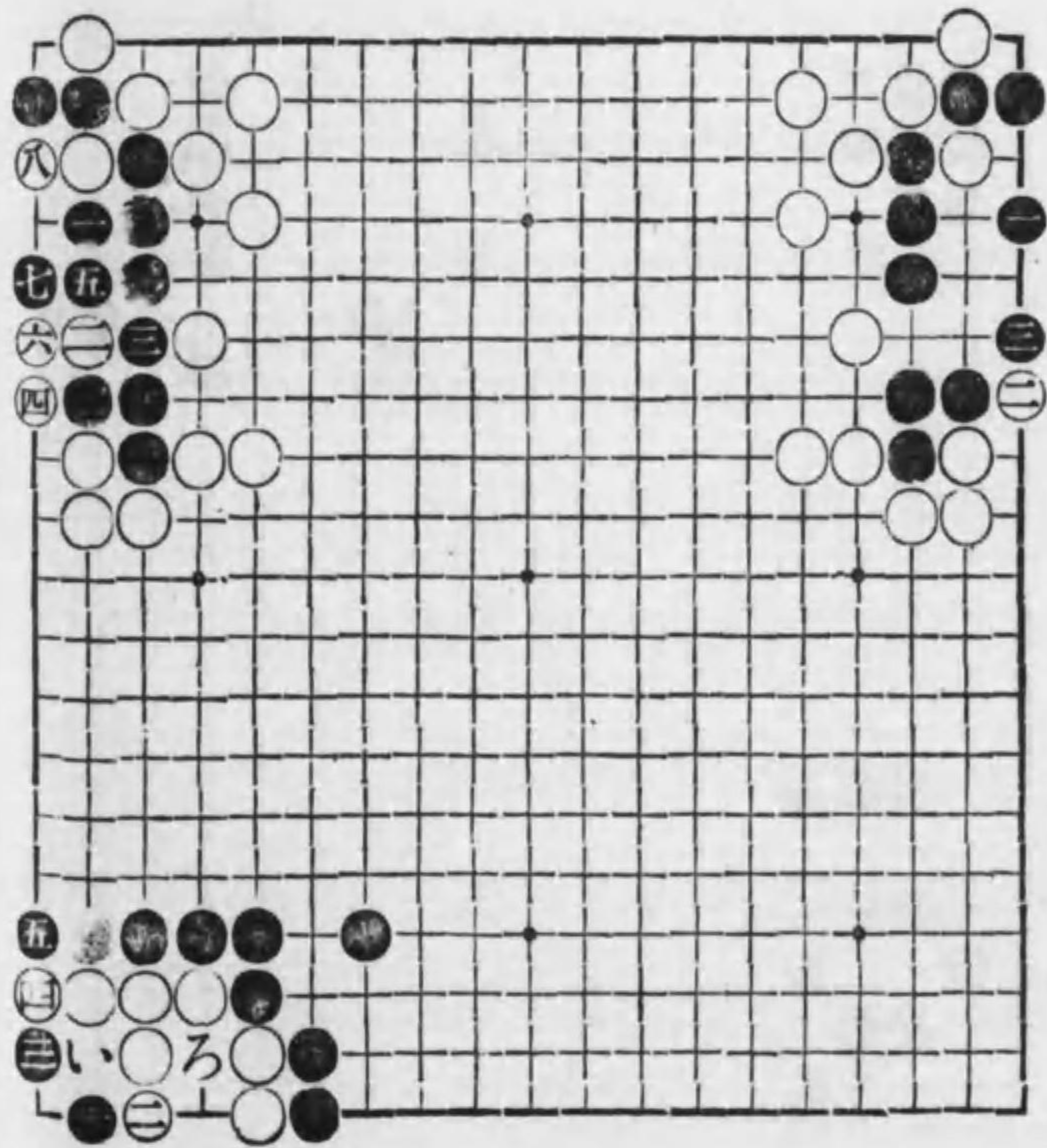
九七

上圖右、黒一は白二に黒
三で確實の活點。

上圖左の黒一は、以下黒
七の時、白八が巧い黒奪取
の一手。

されば右の黒一に限るの
である。

下圖黒一以下五で白地解
消であつて。次に白(い)な
ら、黒(ろ)で損得なし。黒
五の前(ろ)は黒一目損。

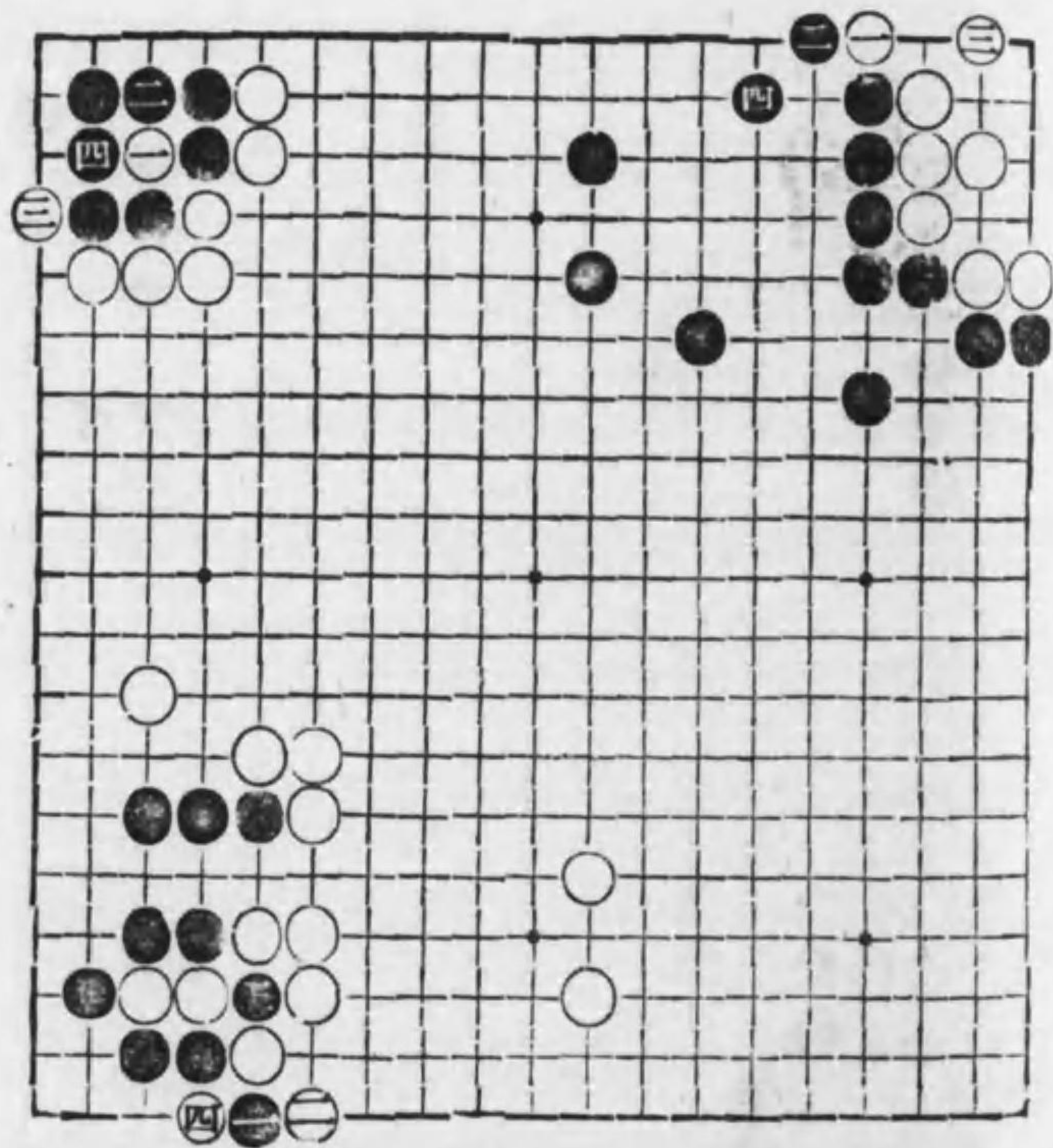


上圖右、白三は夫れで白
地確保六目、巧い手所であ
る。

上圖左も、白一以下黒四
までは、白先手得の要領。

下圖は黒一以下白四で、
黒先手白二子打取り、黒一
が妙。

以上は侵分の手所であつ
て、微細な勝敗に至大の關
係である。

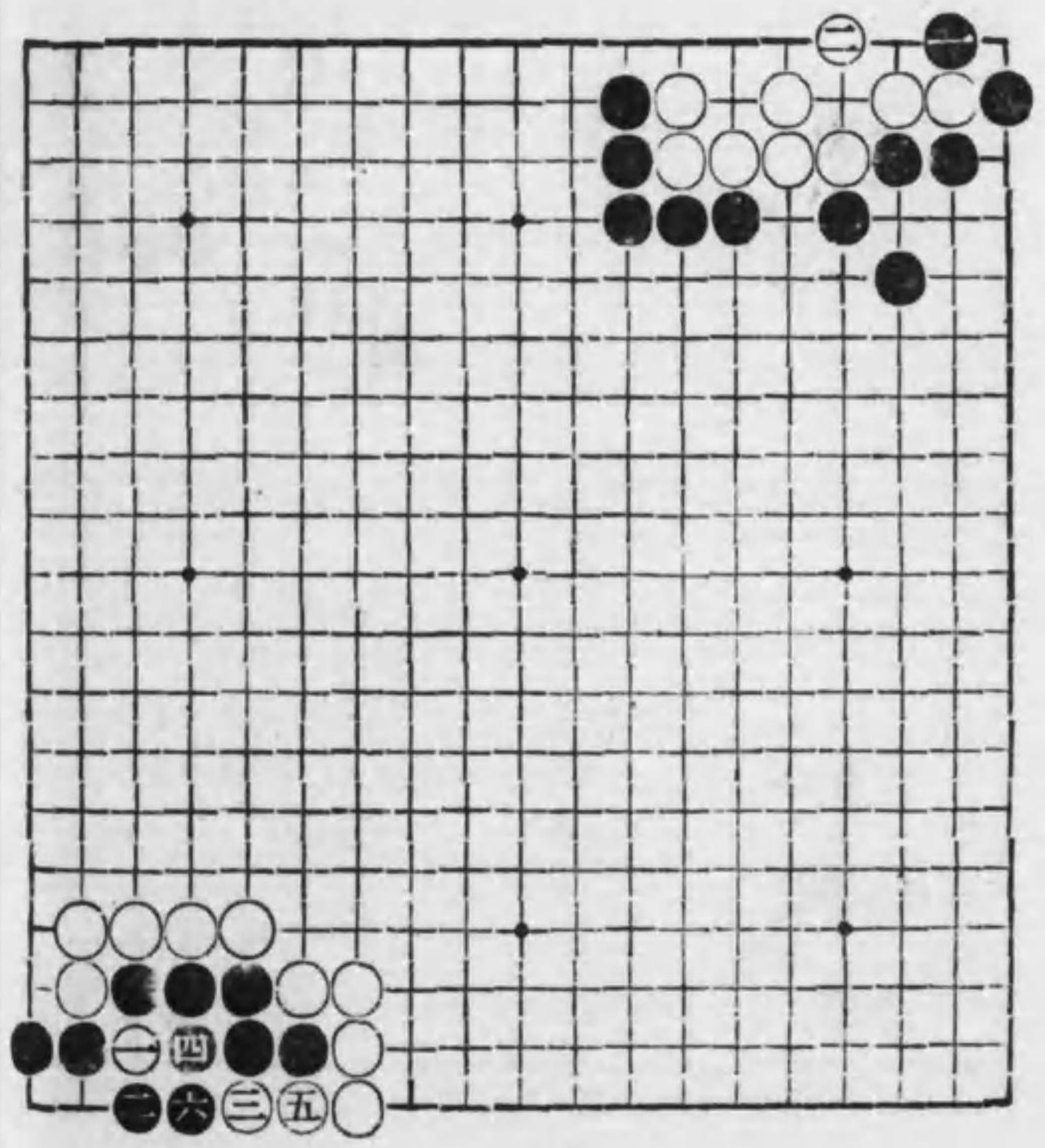


上方、黒一は白二と受させ黒先手得。

だが劫立てにも用ひられ時機早いと、即ち劫立てを無くし。と知られよ。

下圖白一より黒六までは黒地を四目にし、白一を五だと、黒三で白損。

等も侵分に注意肝要の場所である。

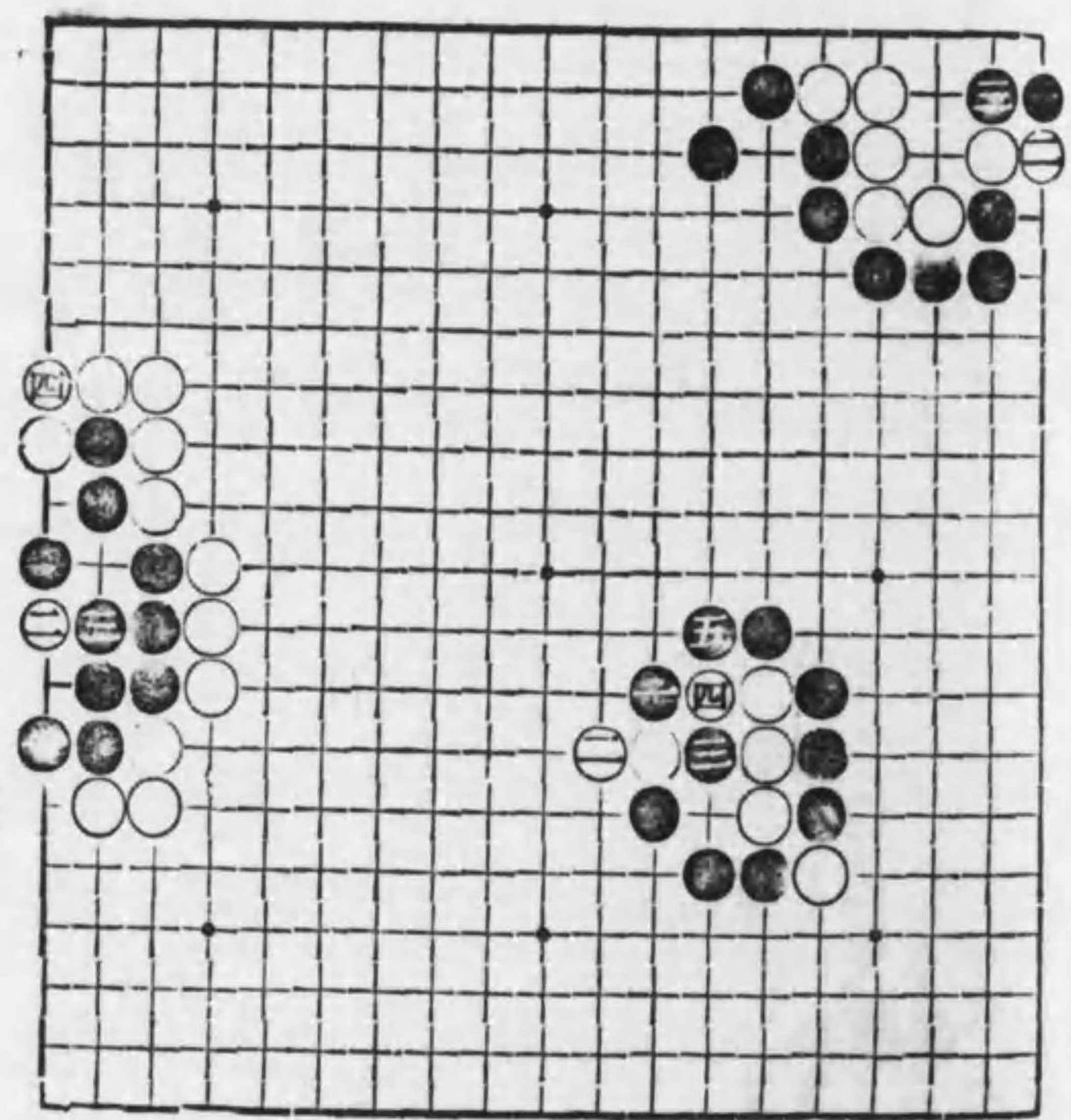


上圖、黒一は白二に黒三で白を取れ。

黒一を三だと白一で要するに劫争。黒拙い手所である。

中央の方も黒一が白三子奪に妙。左側、黒一は以下に見る

黒自滅の悪手である。黒一は一寸白二の妙手を見損じるもの。

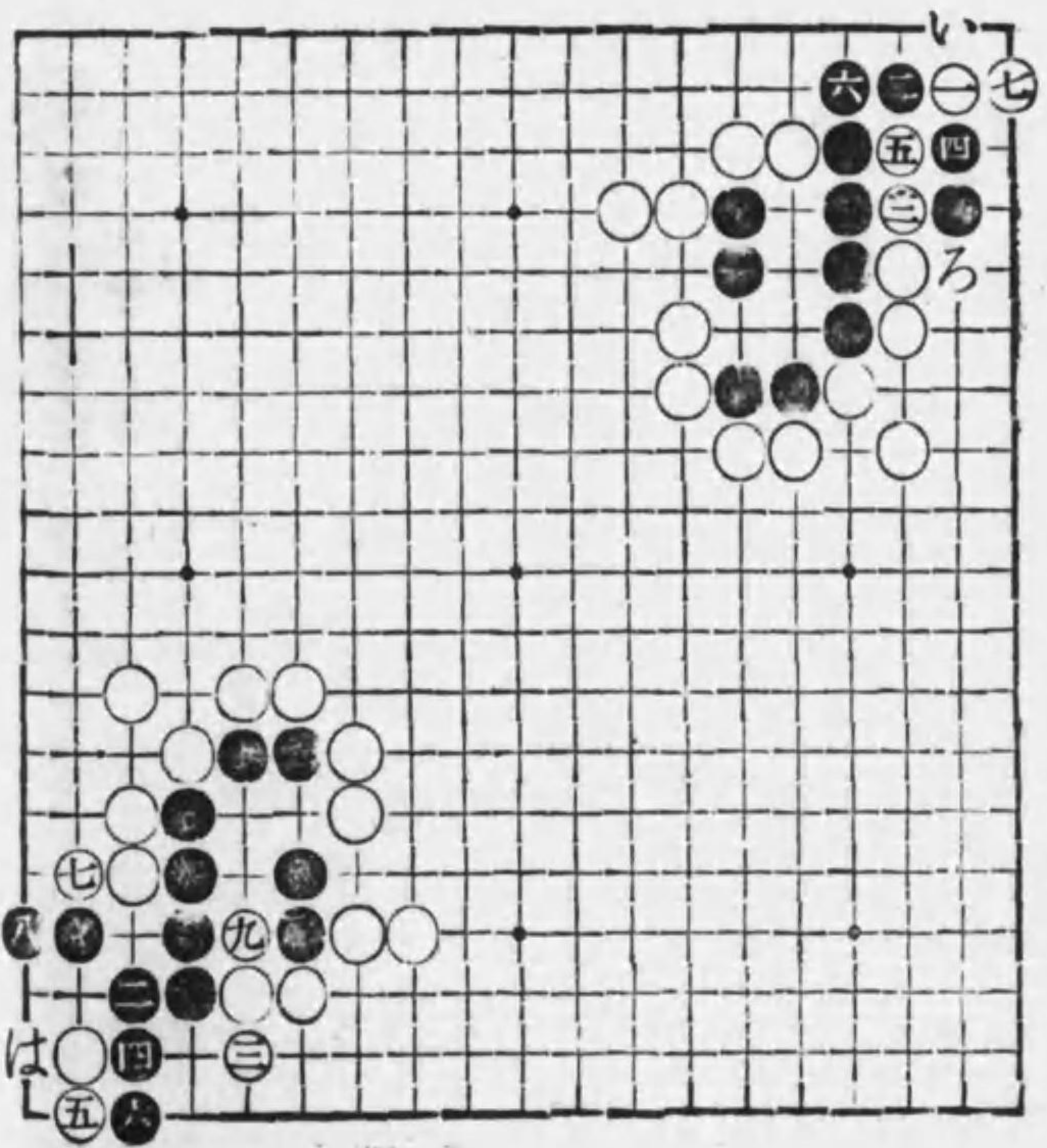


上圖、白一が絶妙の場所
即ち白七と成つては黒全滅
である。

次に黒(い)白(ろ)等と見
て。

黒二を下圖二でも、以下
白九まで黒同様の運命。

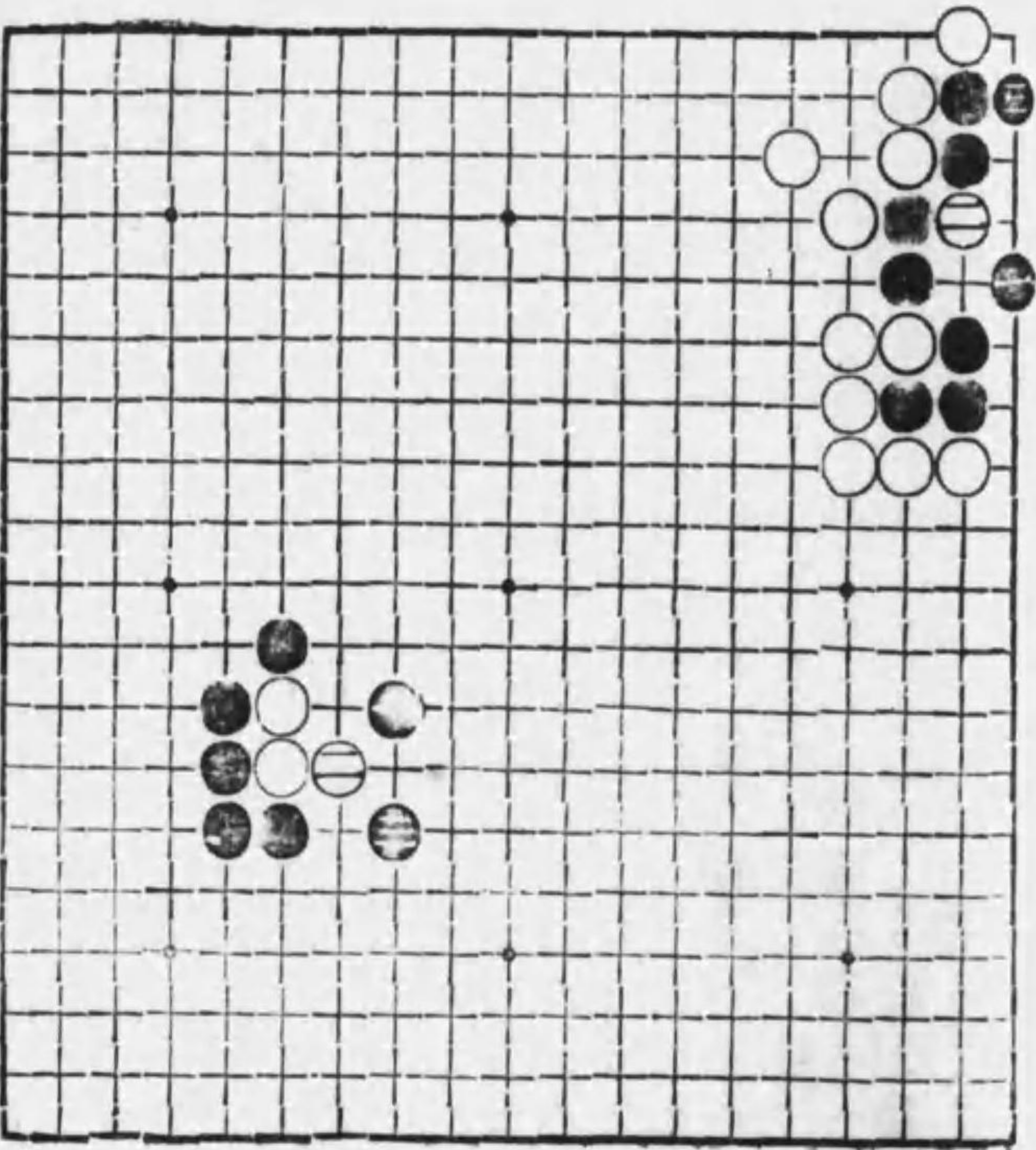
白五を七だと黒(は)と
劫争。白五は巧い手順であ
る。



1011

中央の方、黒一は、白二
子征に取れない其際に妙
とは圖の如く白二に黒三
といふ要領。

上圖、黒一は其他に無い
夫れが活點である。なほ一
白二に黒三が巧い要領。
と殊に黒三が觀點である。

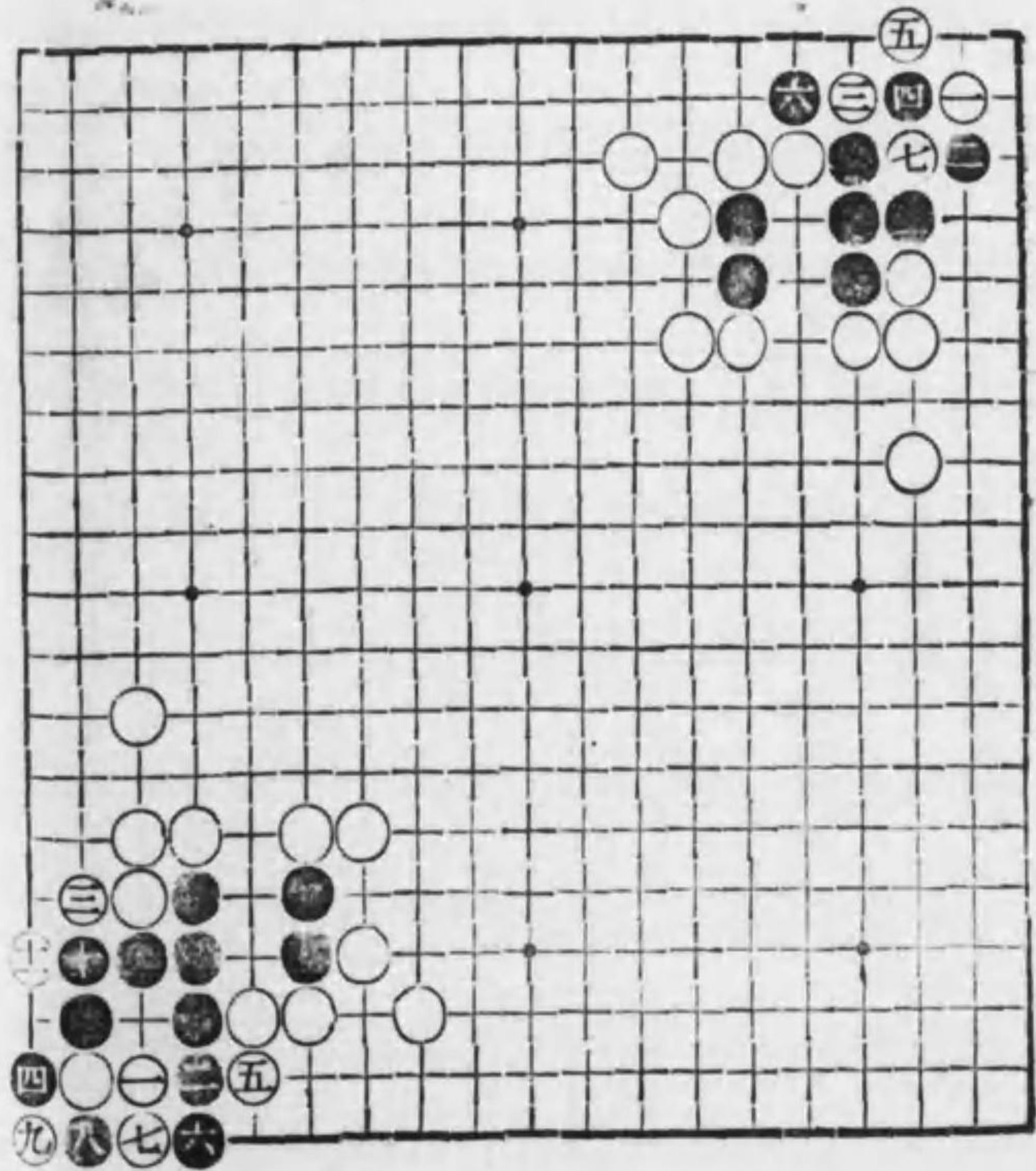


1012

上圖、白一は先づ兩渡りを目指し、旨い侵入點である。

が以下白七までの劫争より、白三を下圖一に變えり以下白十一、そして黒十二を八に劫取。

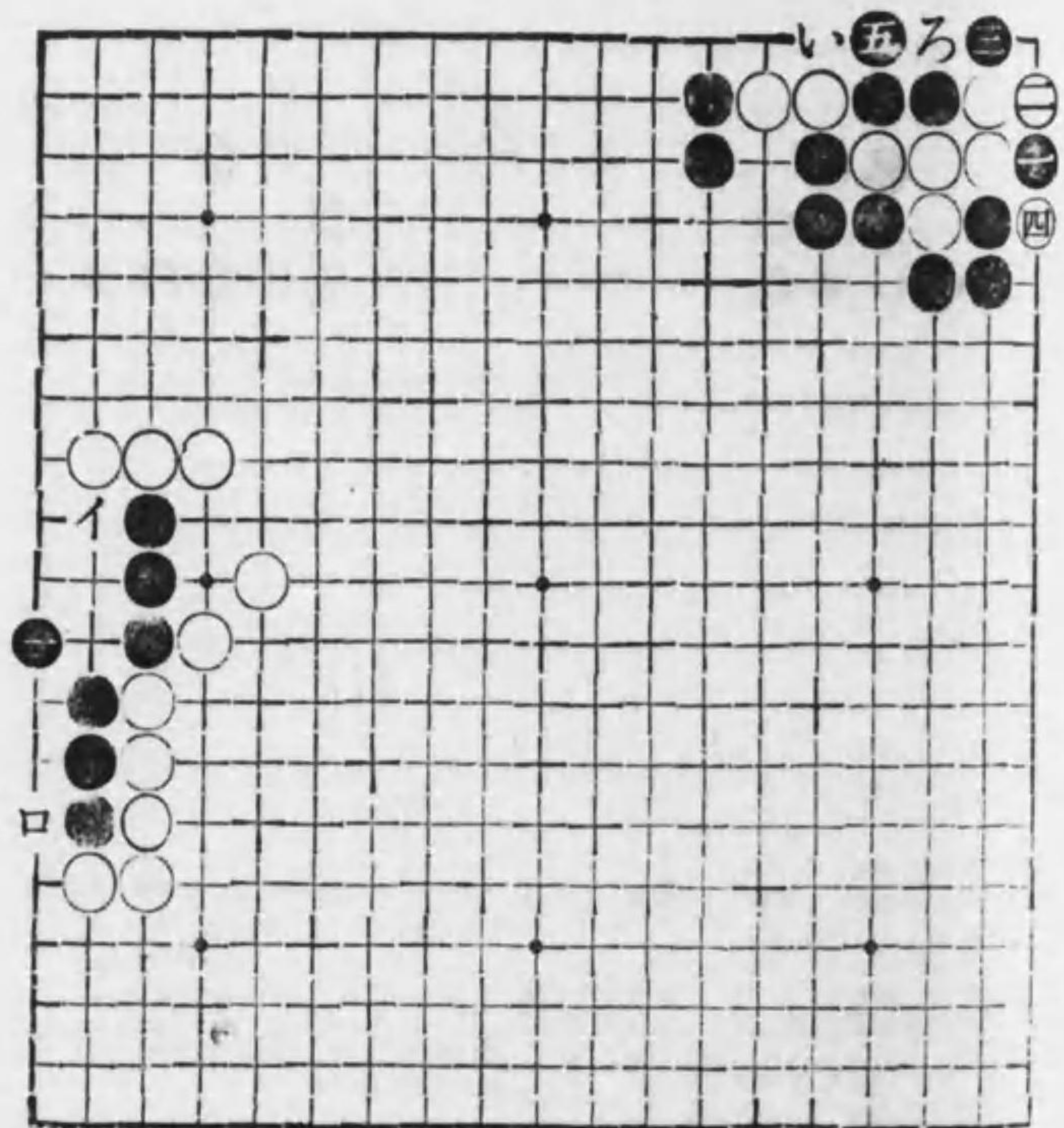
までの劫争が、即ち白に損害の無い氣樂である花見劫と彼我の優劣は解る筈。



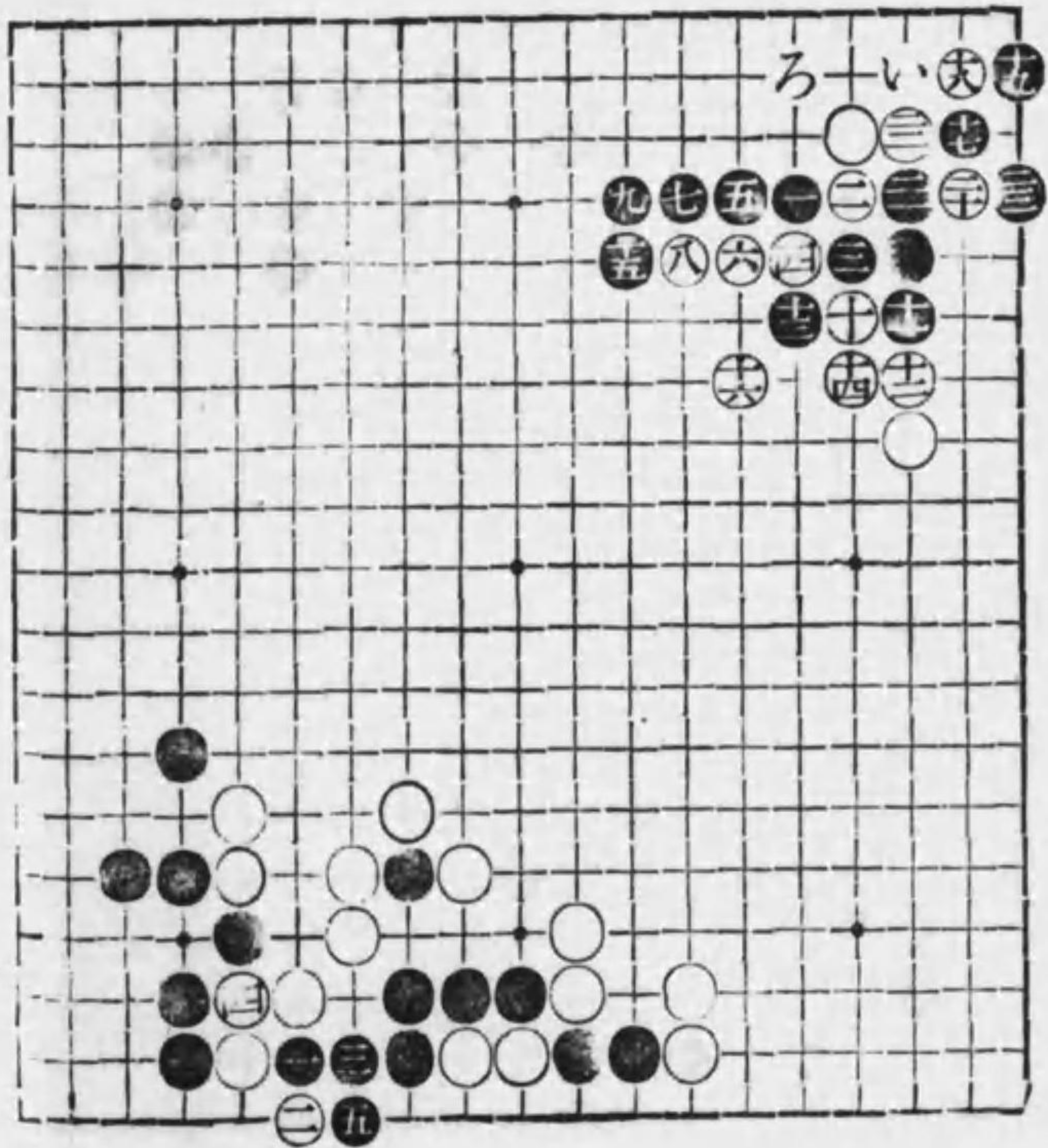
上圖、黒一より五までは巧い白奪取の手所である。即ち次に白(い)は黒(ろ)で、五目ナカデ。後に問題はない。

左側、黒一は其他に無い活點である。

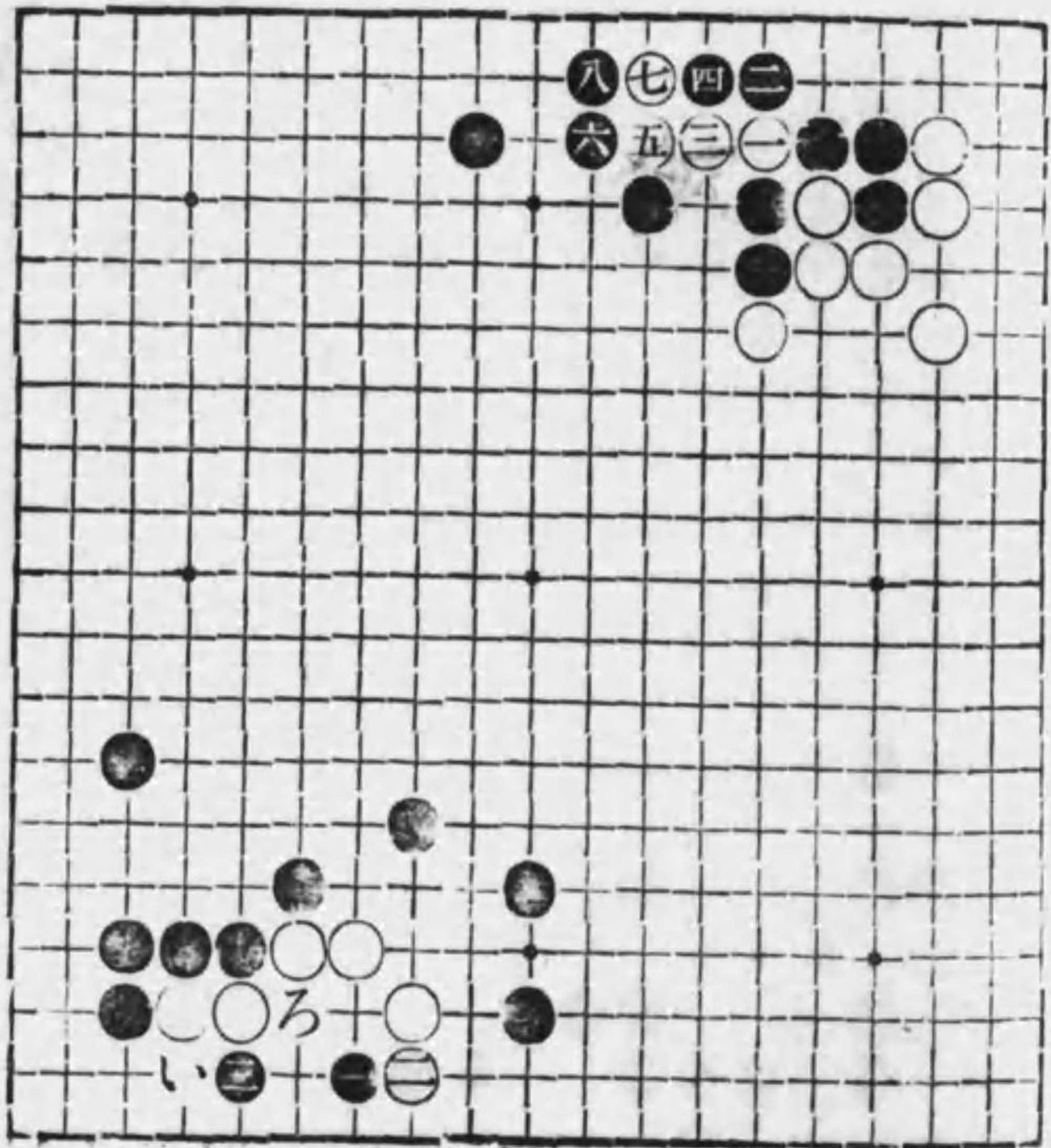
黒一を(イ)だと、白(ロ)で此れは黒自滅の手所。



上圖、黒十九は以下二十
 三と、劫争手段であつて一
 劫に取けても他を二手打
 ち、黒損でない要領である
 白二十を(い)でも黒(ろ)
 と飽まで氣鋭の態度、白は
 閉口。
 下圖、黒一は以下黒五で
 黒活きに妙。黒一の他は無
 50



上圖、白一などに切つて
 來たら
 以下黒二より八まで。と
 些の危険も無い黒の要領で
 ある。
 下圖、黒一と三が巧い手
 所。
 次に白(い)なら、黒(ろ)
 要するに黒一と三に白活計
 困難である。



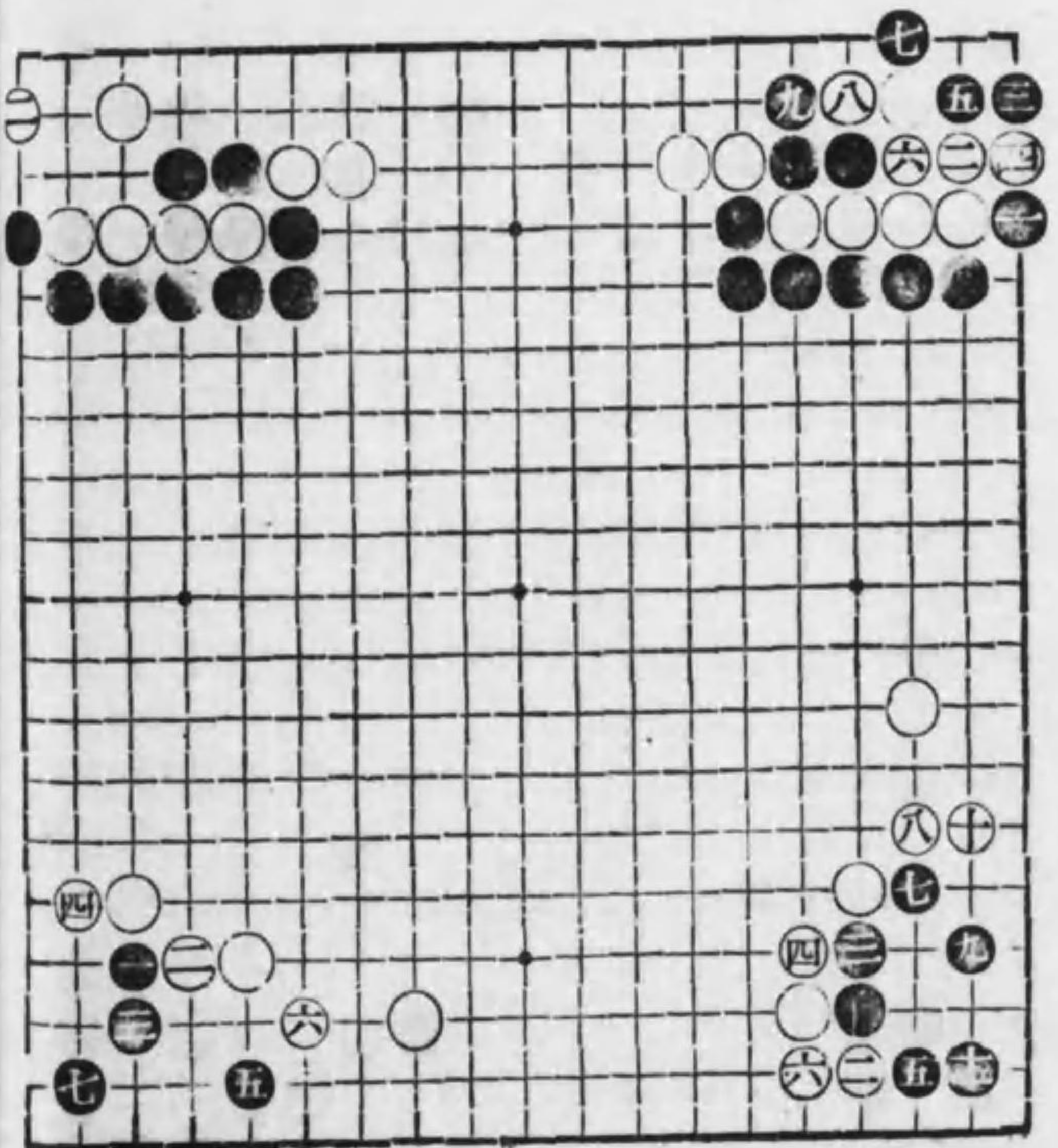
上圖右、黒三は甘い飛込みである。

黒三に白四だと以下黒九まで白大悪果。

されば白二は上圖左の二が當然の應手である。と注意肝要。

下圖左、黒一は以下黒七と黒活きに妙。

白二を下圖右なら、以下黒十一まで。と同様黒活きである。



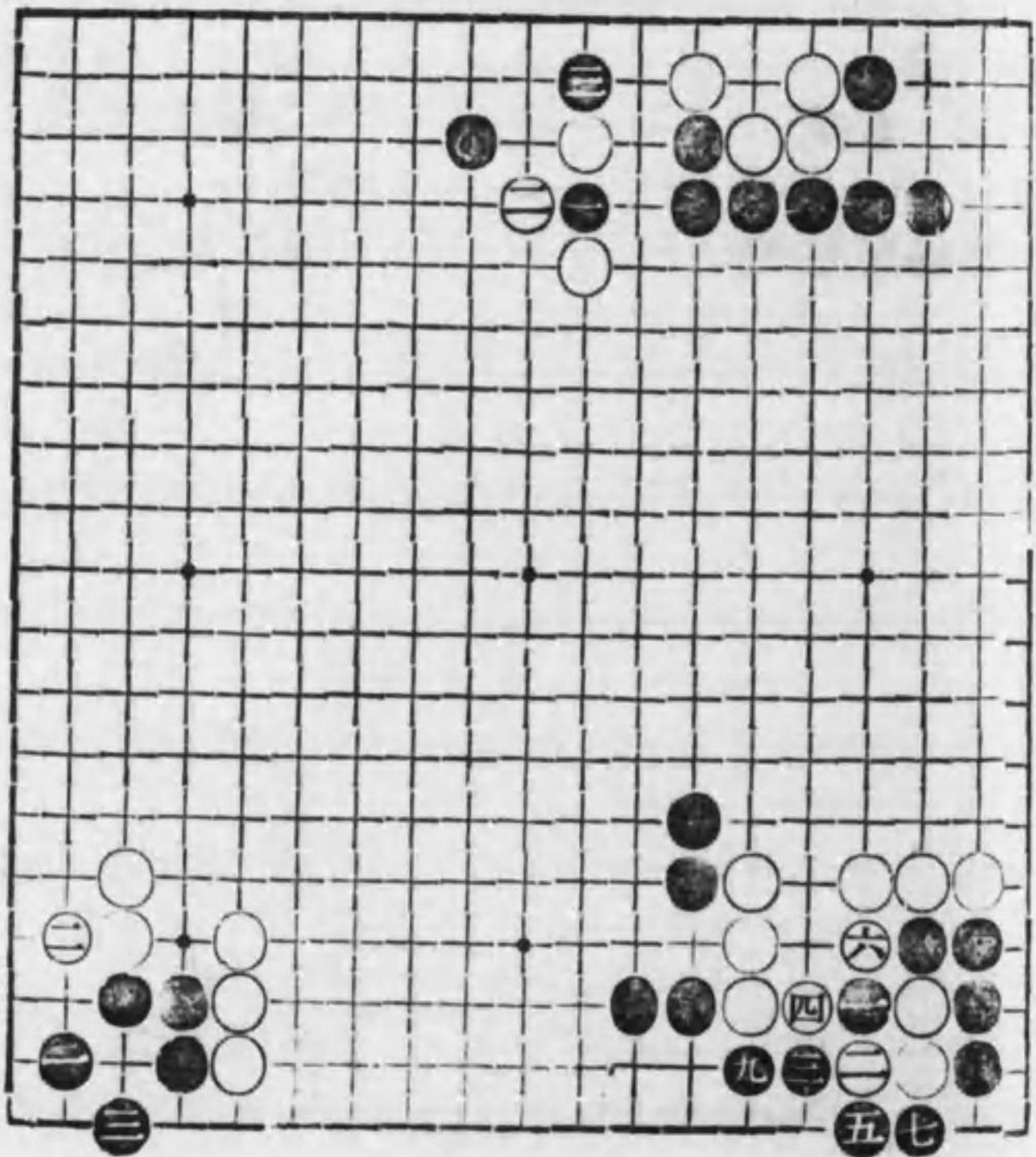
上圖、黒一は白兩斷の場所。

次に白二なら黒三といふ黒の意圖。

下圖右は黒一以下七に白八を一に粘ぎ、そして黒九と渡りの手所。

下圖左の黒一は其他に無い活點。

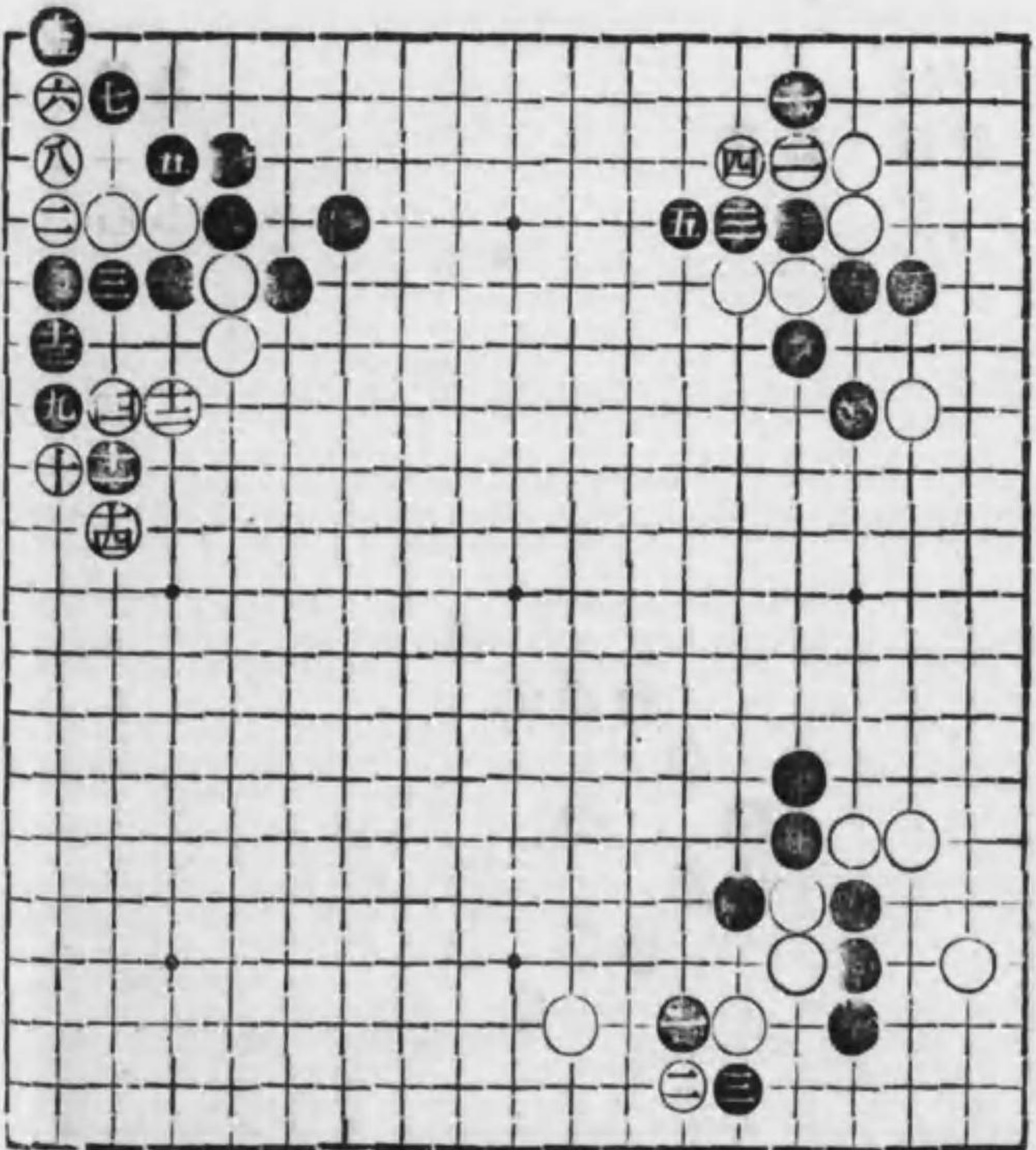
白二を三なら黒二で同様黒活きである。



上圖右、黒一は捨石であつて、以下黒五まで黒待望の好果である。と觀られやう。

また白二を左圖なら、以下黒十五と黒攻合勝。なほ白十二を十三なら、黒十二で結果良好である。

下圖黒一は、白二に黒三で白二子取りに妙。と解る筈。

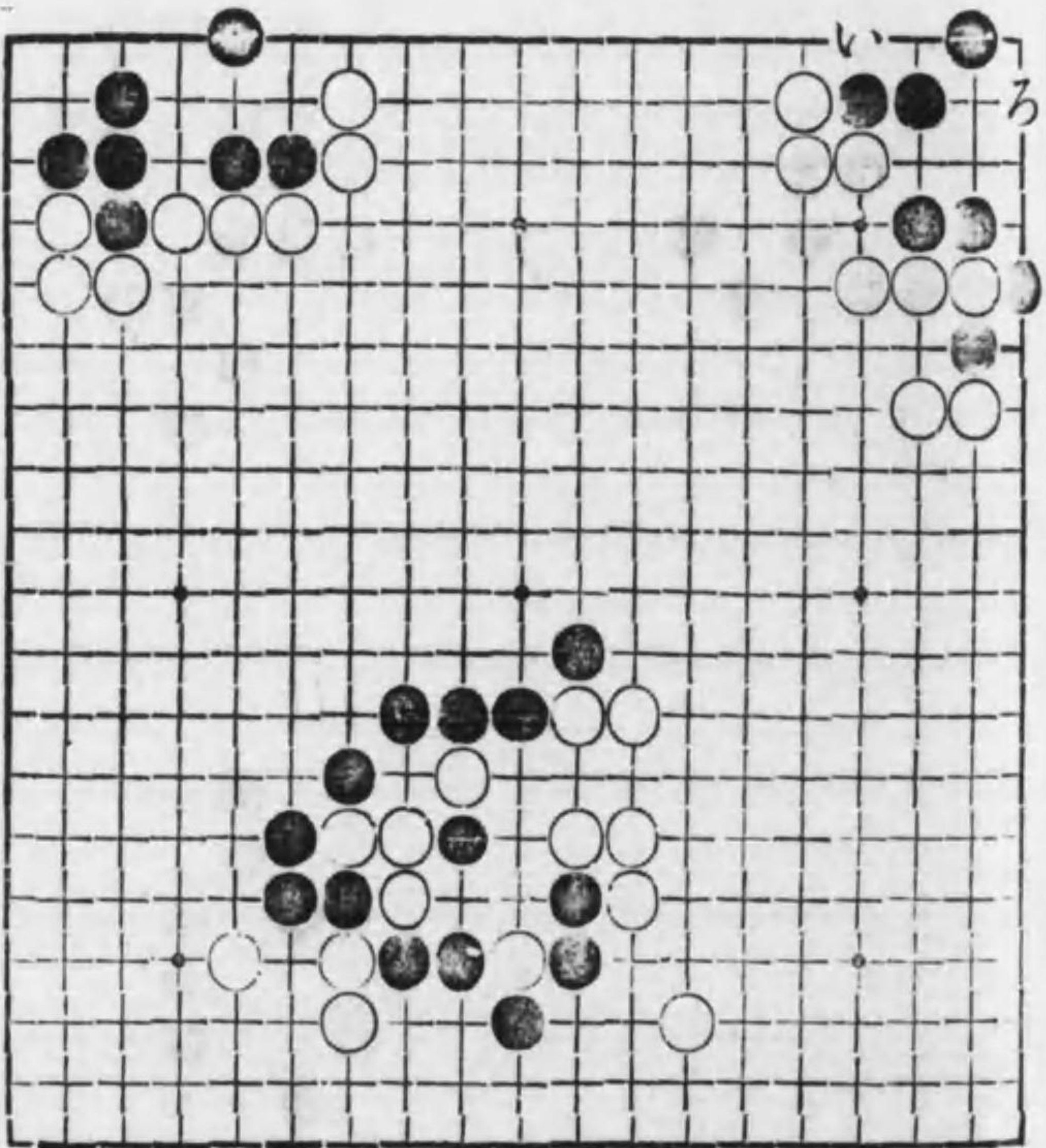


上圖右、黒一は確實の活點であつて即ち次に白(い)黒(ろ)と解る筈。

上圖左も黒一が確呼活點その他に無い。

下圖黒一は、白三子取りに妙である。

とふ程でもなすが一寸氣づかぬ手所。

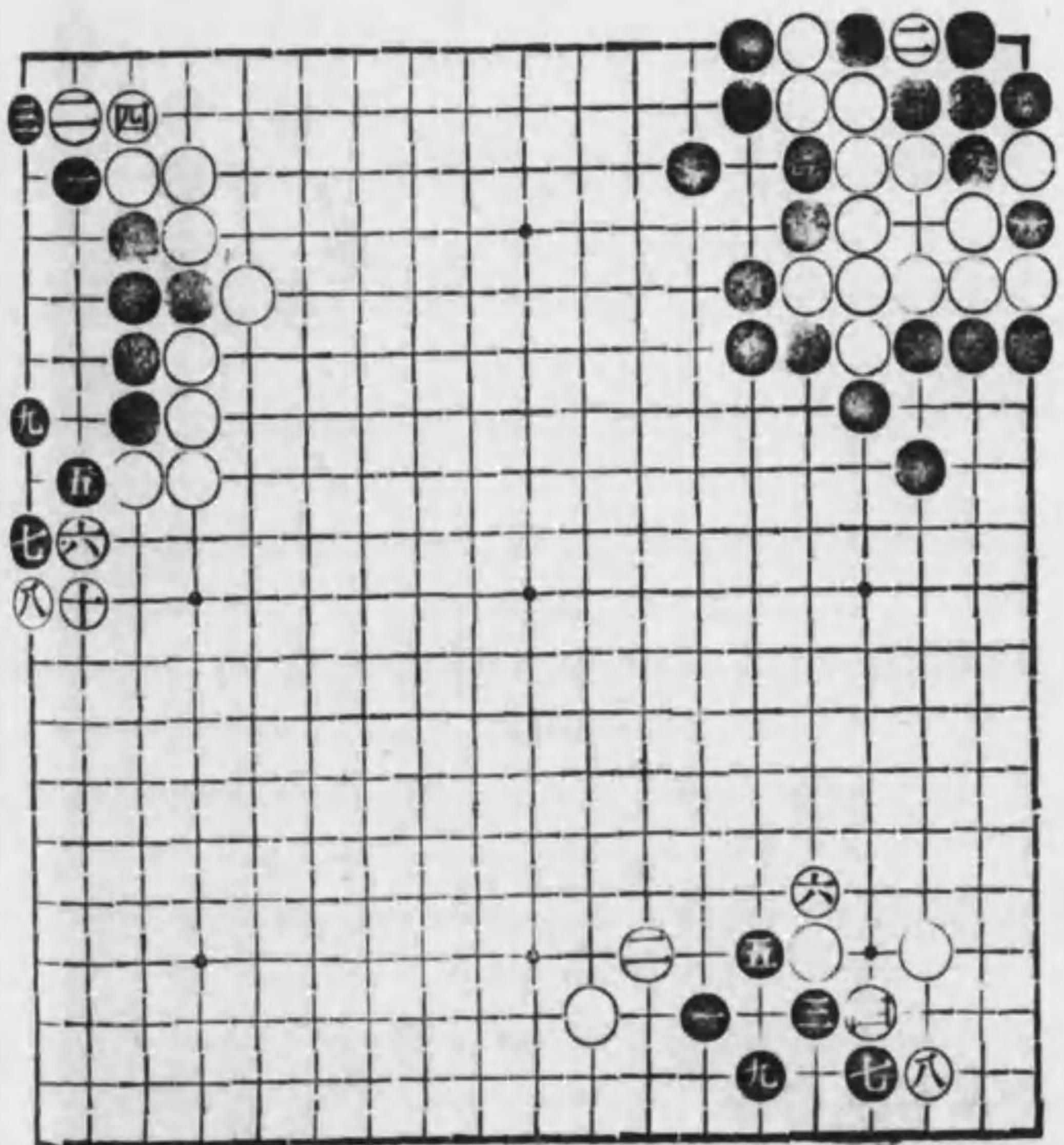


本圖全部は假りに實戰の
塲面と觀られよ。

そして上方右は黒一白二
と兩劫。黒は此れを利用し
左方――

白十まで、下方黒九まで
就中左方は黒先手活。と妙
機に投じ。

處で白が兩劫利用の劫争な
ら黒は兩劫を捨。
然し兩劫の無い時でも其
手段は黒にある。

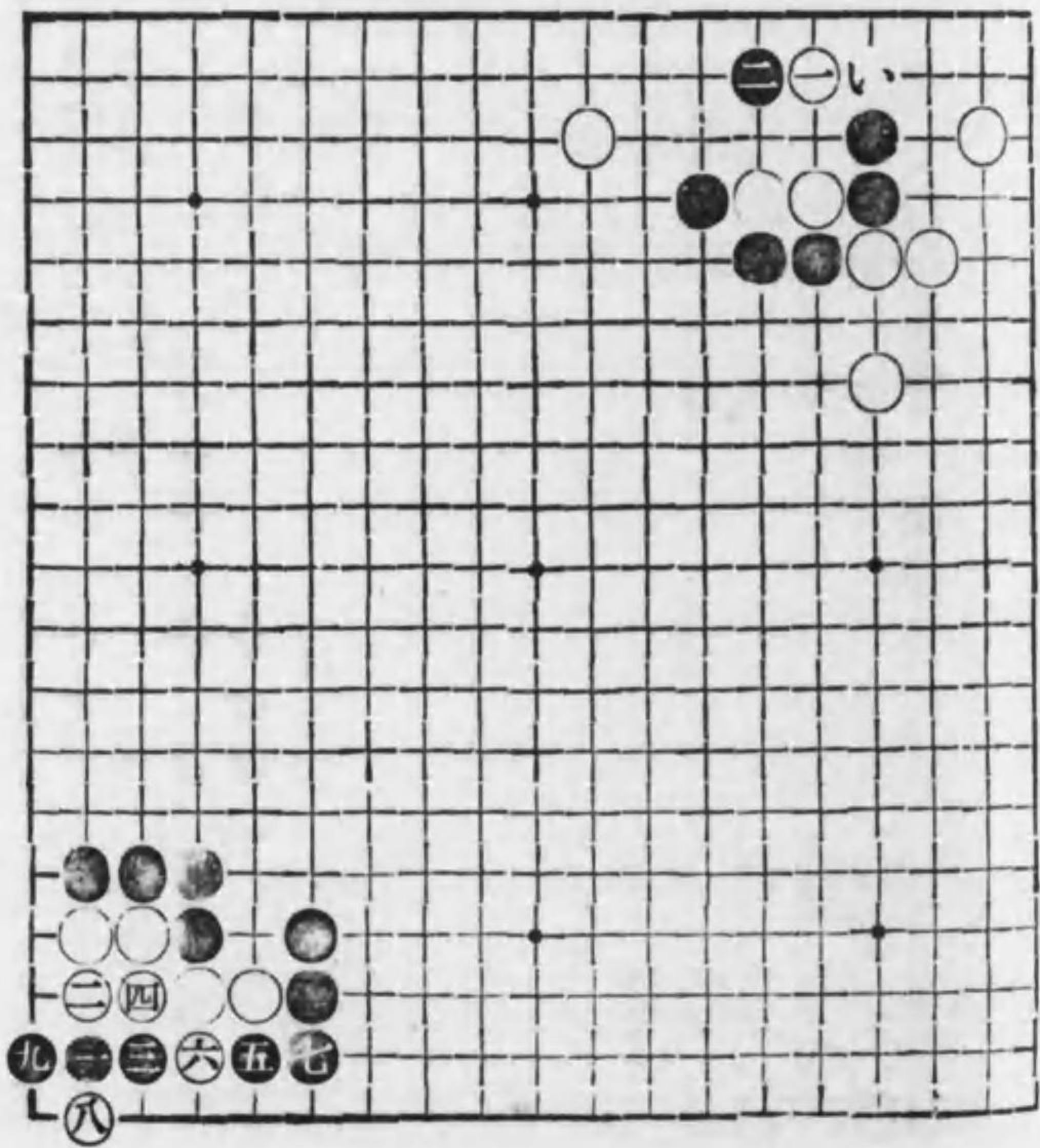


上圖、白一に黒二は其他
に無い、白二子奪取確呼で
ある。

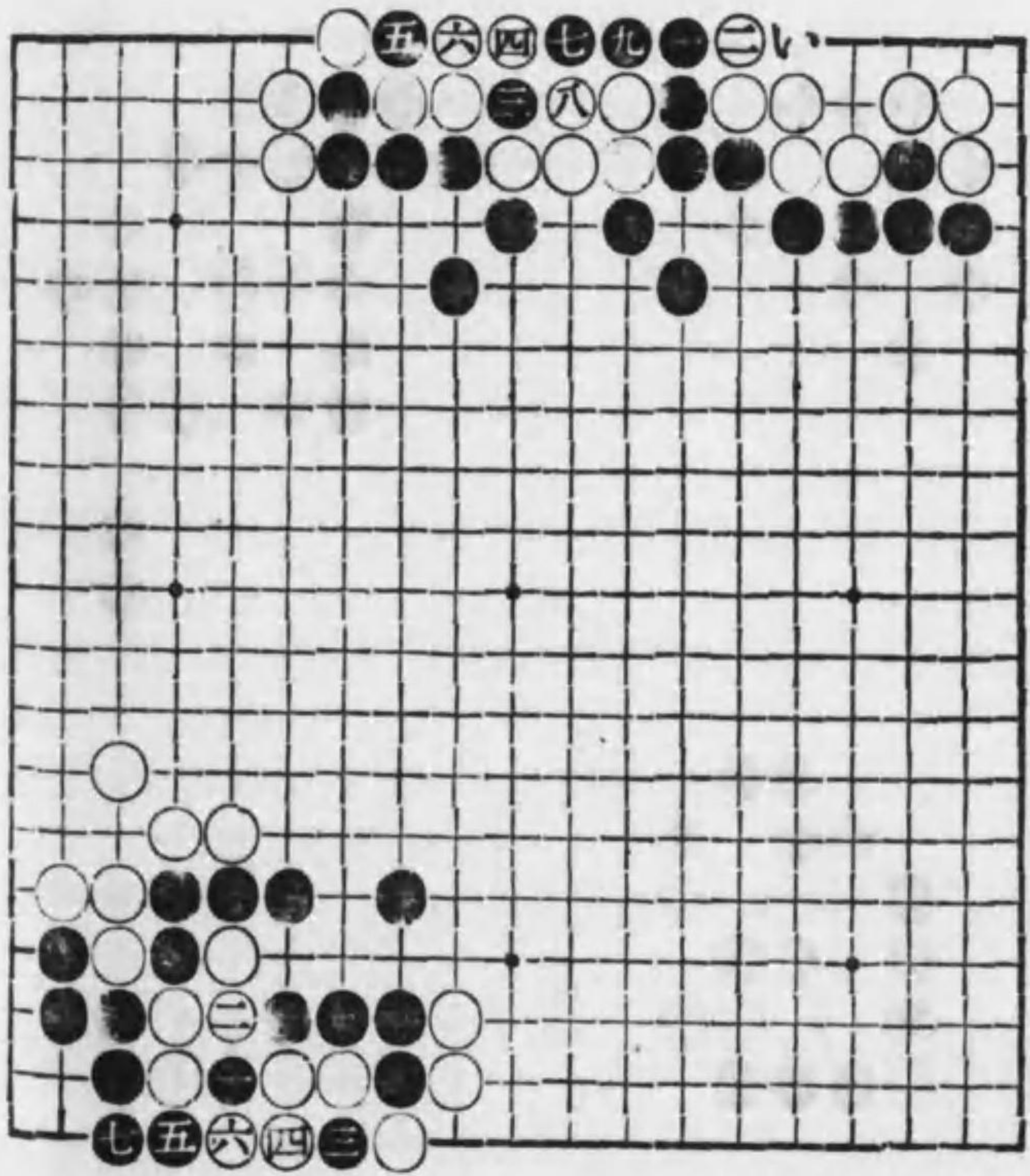
逃さない安心しろ、と味
方に呼んでるのである。

黒二を(い)だと、白二で
左の白一子に合體され。此
れは味方に申譯のない大失
策。

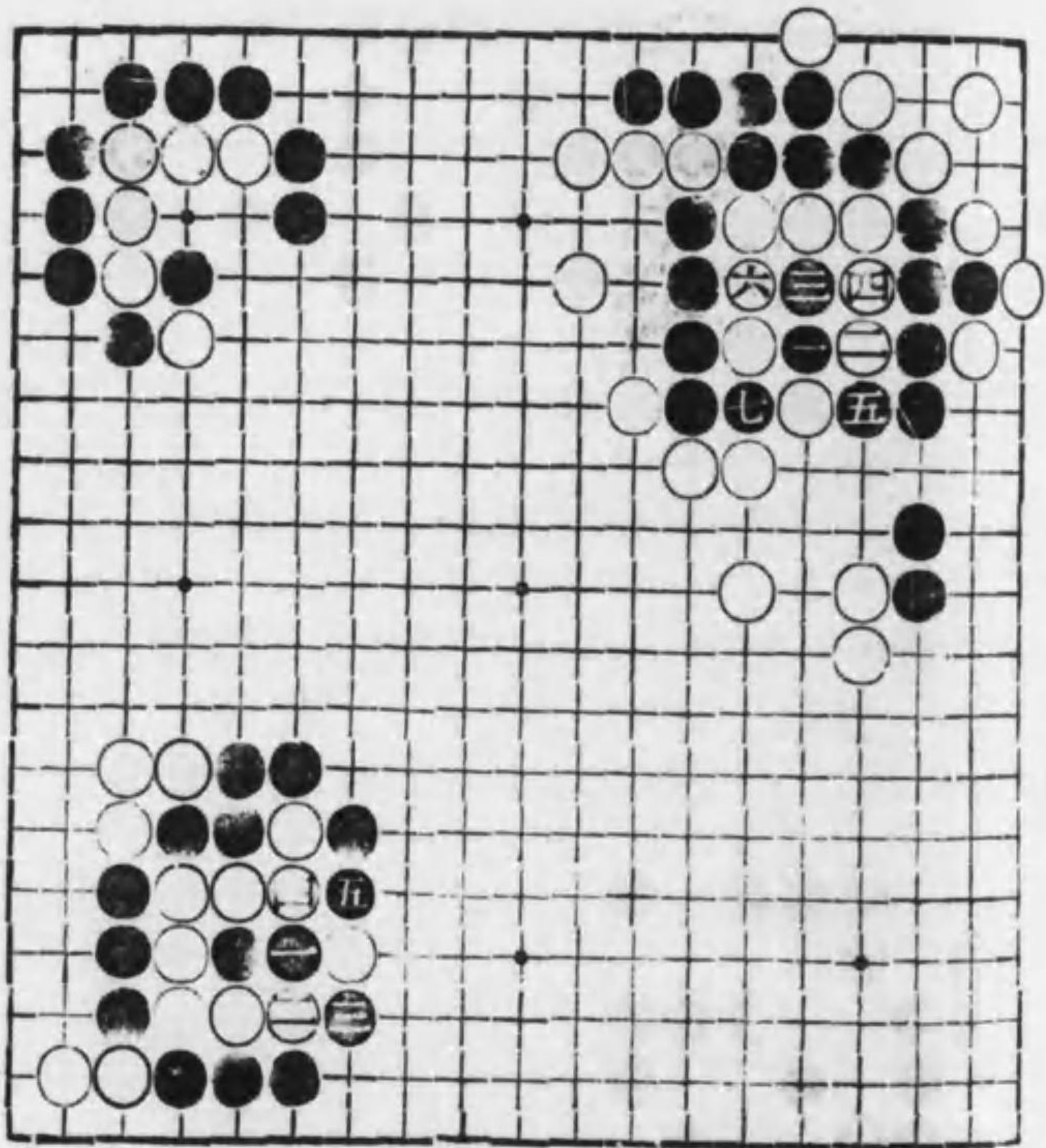
下圖黒一は其一手で白全
滅である。



上圖、黒一は左右に待望
 即ち白二を九なら、黒(い)
 で此の方の白を取れ。
 また白二に以下黒九まで
 と白八以下五子は取れ。
 更に下圖黒一以下七まで
 も、いふところの追落しで
 ある。
 等も輕妙の常識手所。



上圖右の方、黒一と三は
 捨石であつて、次に黒五と
 七で恰も鴨の首じめ—
 なほ鴨の首じめは下圖に
 も見られやう。
 戻つて上圖右の黒一に白
 六だと黒直に七。夫れが上
 圖の左方。
 上下黒は一子で捨石が妙
 である。

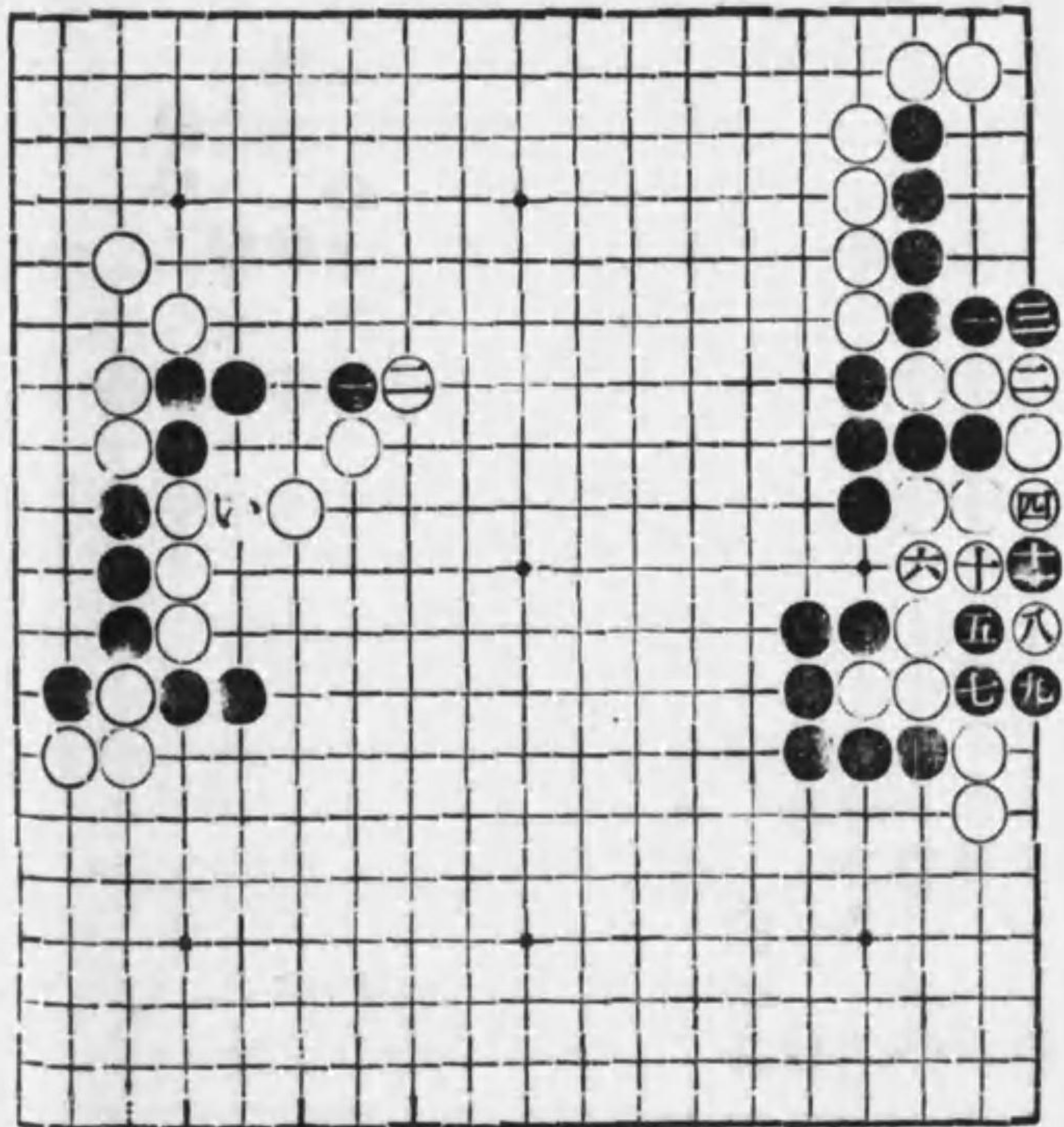


右側、黒一と三に白二と四だと、黒五、何と旨い手所。

即ち白六を七は黒六。と解る筈。

等で以下黒十一までの劫争。白八も巧い手所である

左側、黒一に白二は黒(一)で、要するに白軽勿。白三子が助からないからである。

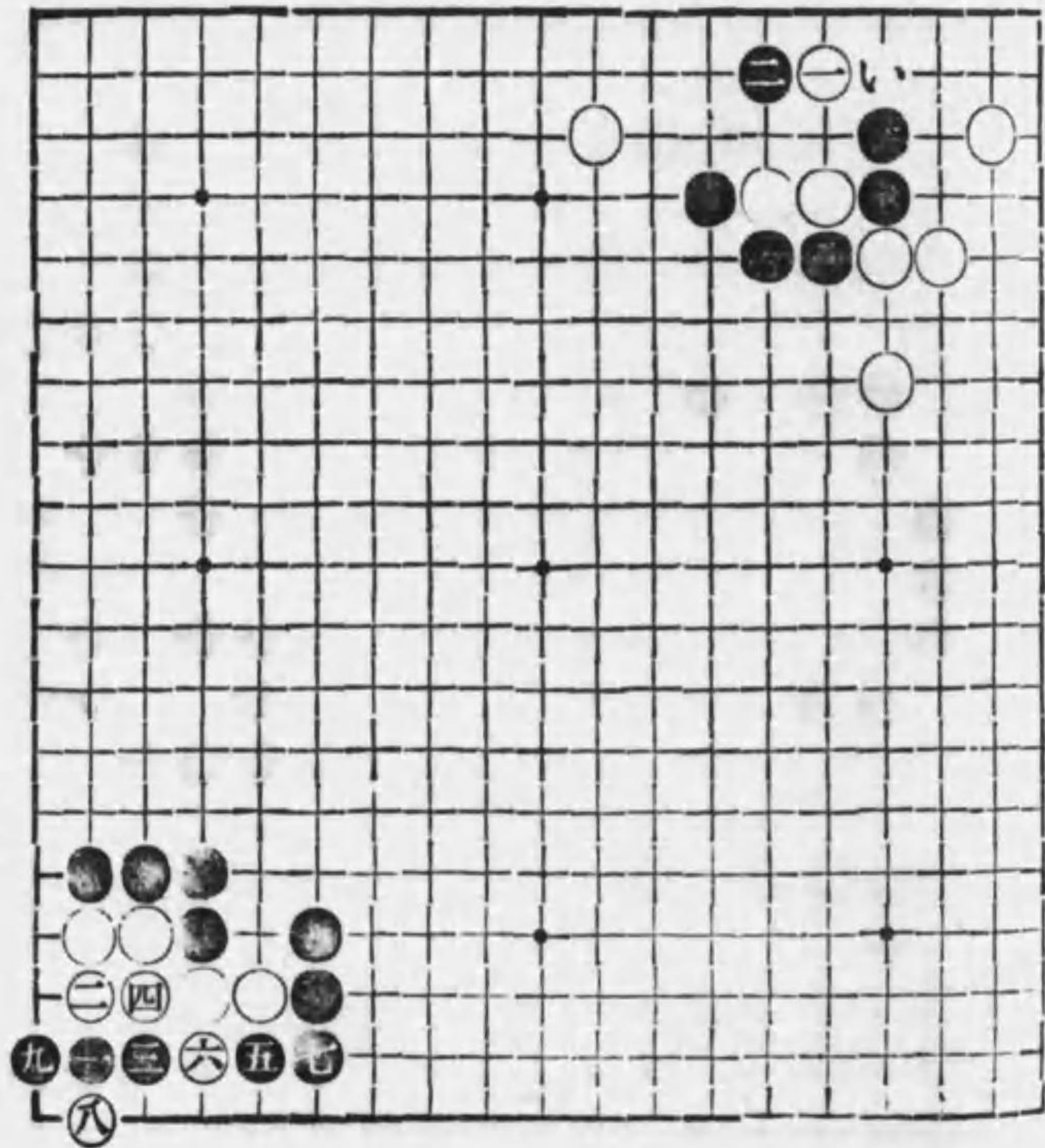


上圖、白一に黒二は其他に無い、白二子奪取確呼である。

逃さない安心しろ、と味方に呼んでるのである。

黒二を(一)だと、白二で左の白一子に合體され。此れは味方に申譯のない大失策。

下圖黒一は其一手で白全滅である。

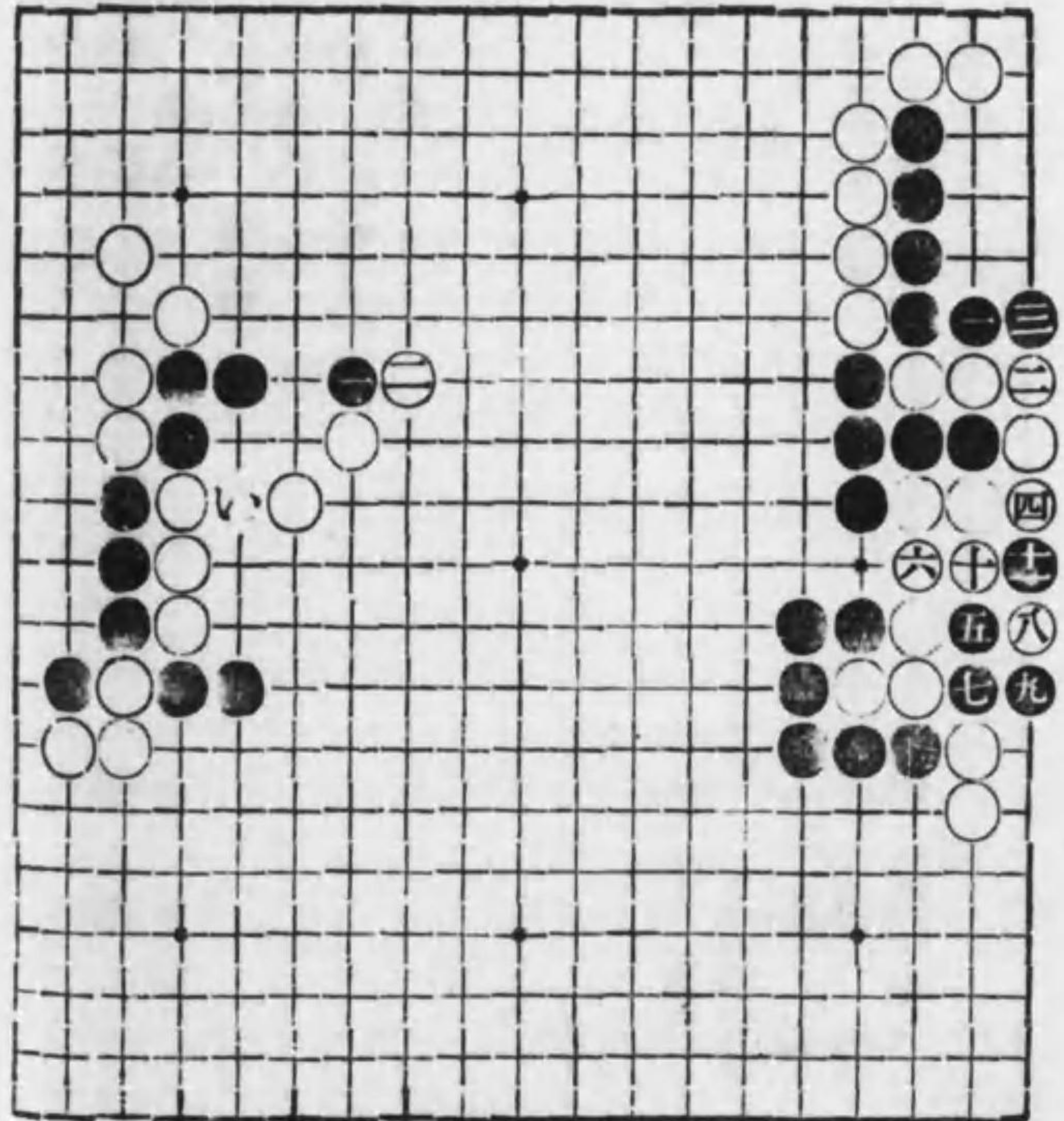


右側、黒一と三に白二と四だと、黒五、何と旨い手所。

即ち白六を七は黒六。と解る筈。

等で以下黒十一までの劫争。白八も巧い手所である

左側、黒一に白二は黒(い)で、要するに白輕勿。白三子が助からないからである。

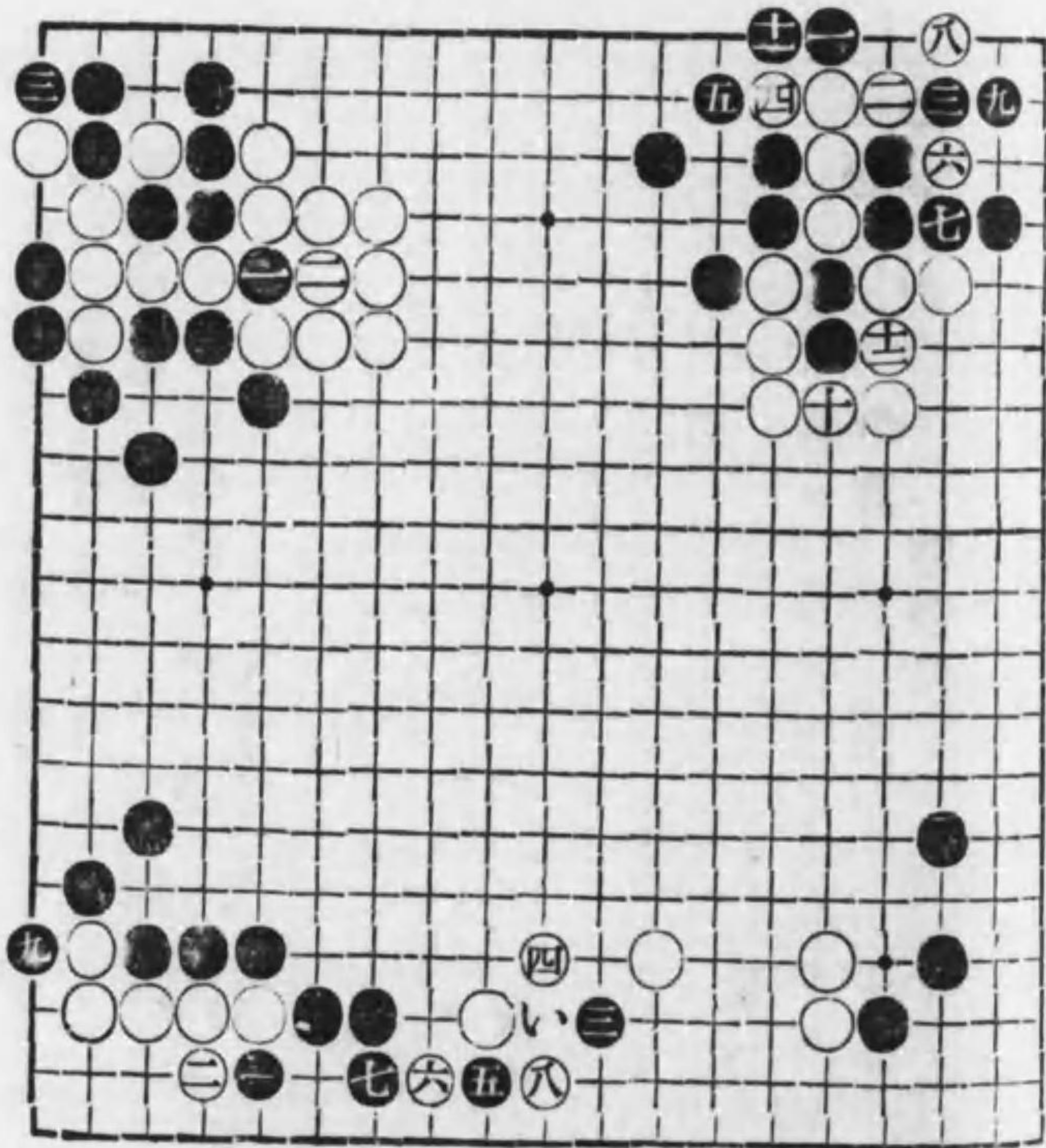


上圖右、黒一に先づ白六と八でも以下白十二と黒二子打抜——

それが左圖であつて、更に黒一白二次いで黒三と黒は合體、右黒一が妙。

下圖黒三の打込みは、以下黒九まで、即ち黒九で其白を取れ。

白六を八なら黒(い)で結果黒に良好。

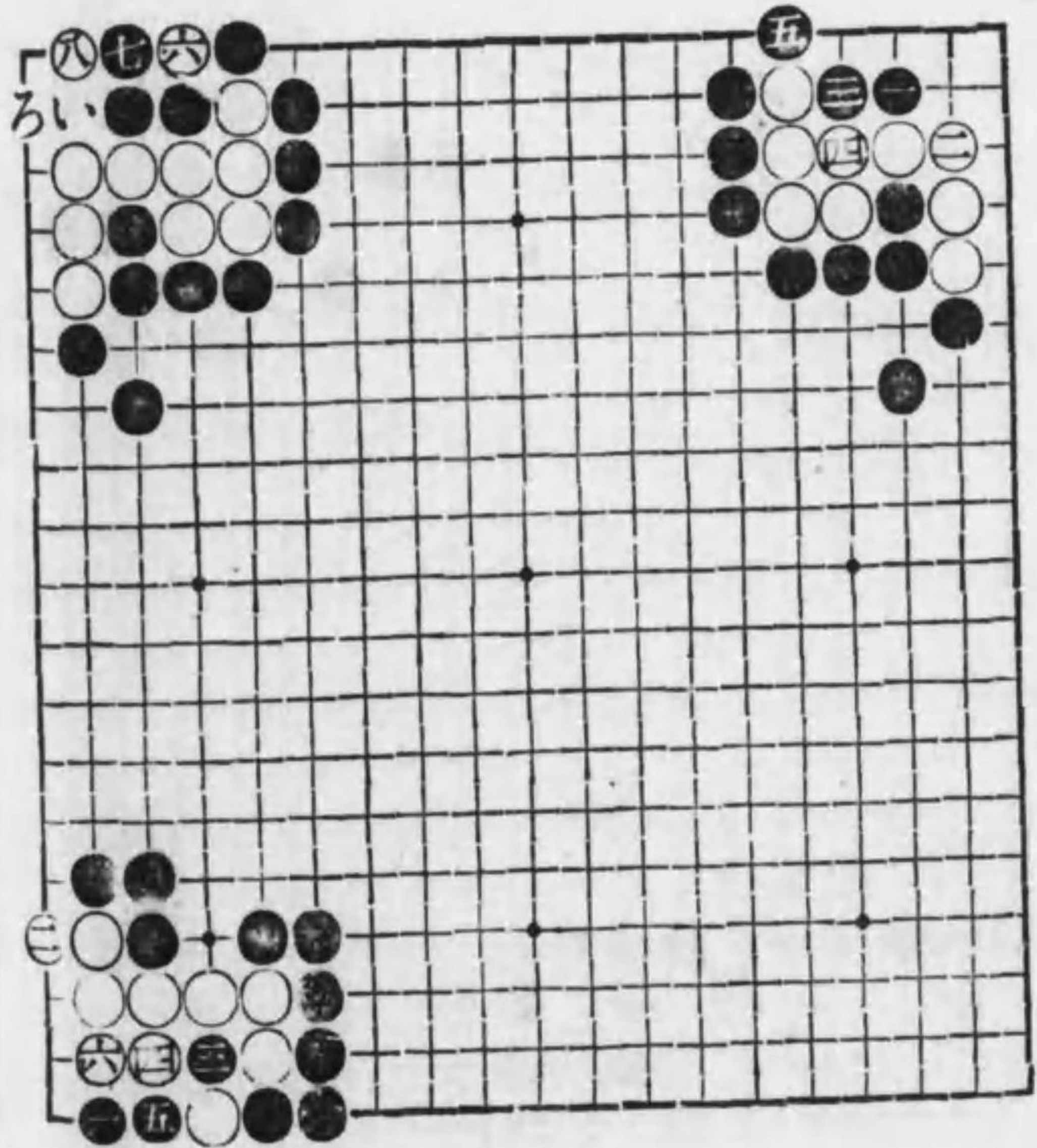


上圖右、黒一は妙。そして黒五と成つて上圖左に轉じ—

白六と八が、殊に白八に黒(い)白(ろ)と、白も巧い劫争の手所である。

下圖黒一は以下白六に、黒三と劫取り—

黒一を五だと白一で白活黒一の他は無いと解る筈。



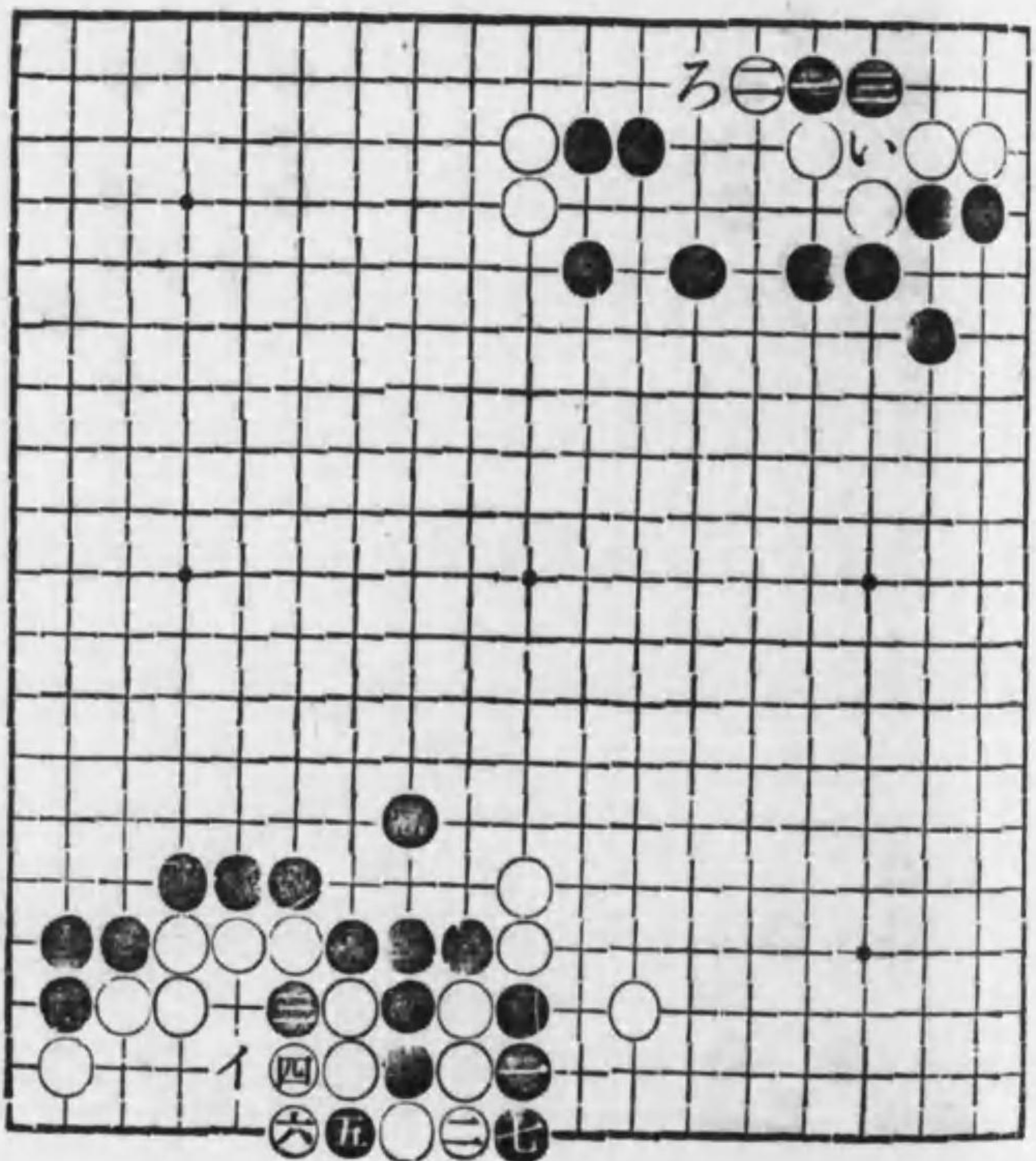
上圖、黒一は巧い手所である。

黒三の次に白(い)黒(ろ)だからである。

白二を三でも黒二で白は全滅。

下圖黒一より七に白八を五だと、黒(イ)で白全滅。

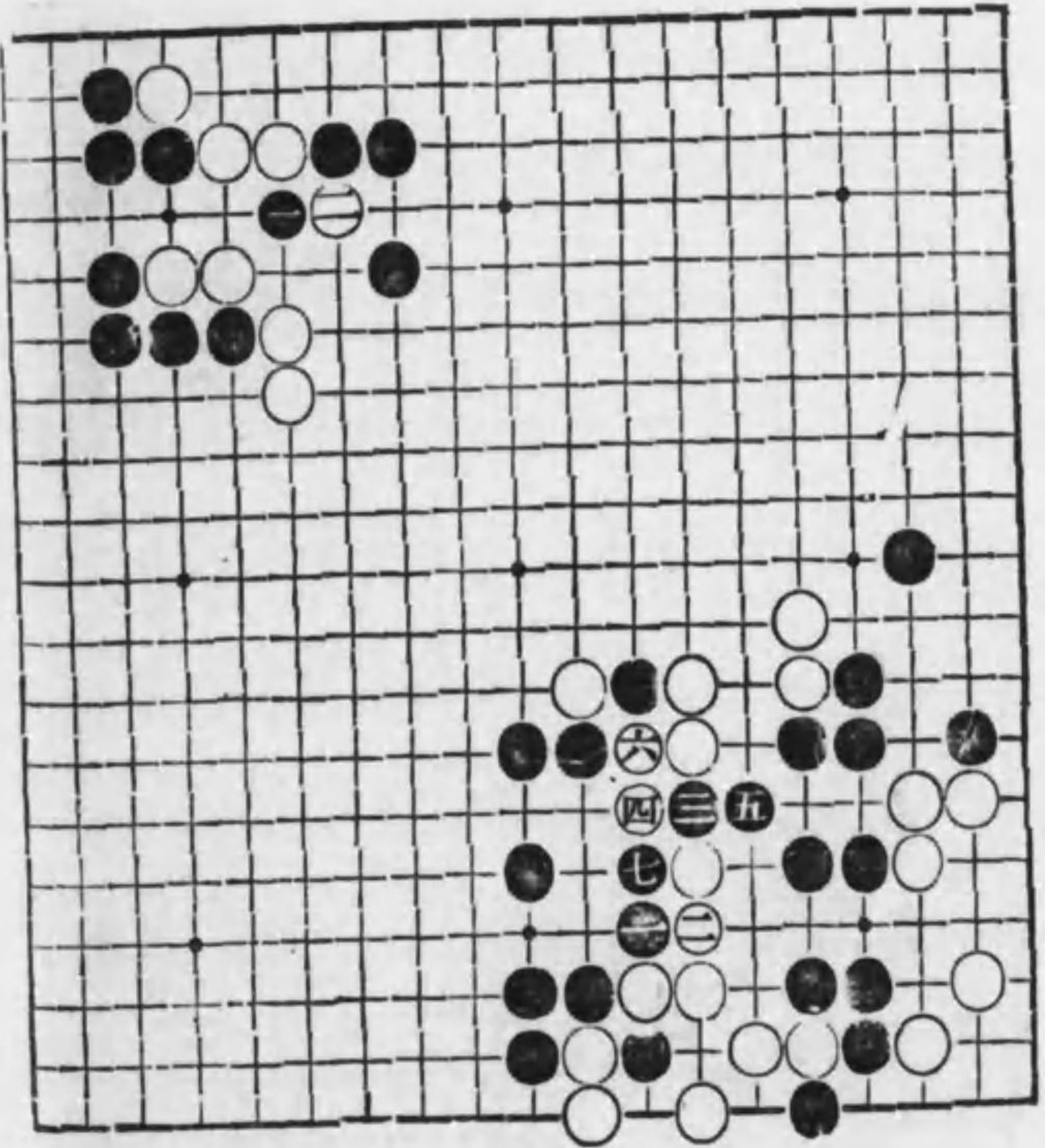
黒(イ)の時白は待つた。待つたは妙手ではない。



下圖、黒一は白二に以下
黒七で白を兩斷旨い手所
ある。

白四を五でも黒四と白を
兩斷でき。

黒一を三だと、白四黒五
白六、そして黒一は上圖の
如きで白二に黒は切れない
白二が巧い要領である。
參照せられよ。
即ち白(S)の點。

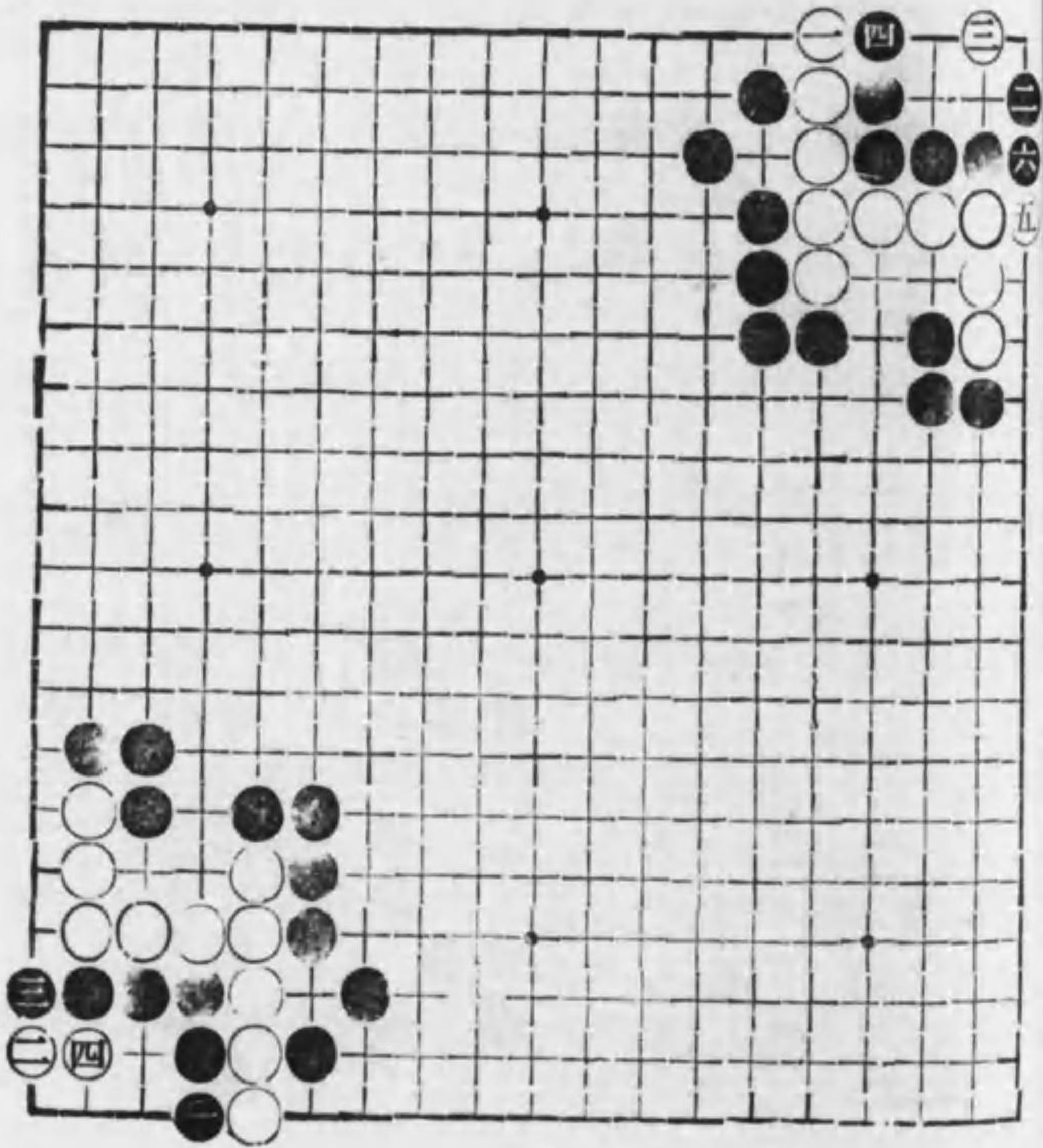


上圖、黒二は以下黒六と
成つて黒攻合勝ちの旨い手
所である。

白三を四なら、黒三で問
題には成らない、黒勝。

黒二を四だと、其四を下
圖黒一に變え、以下白四で
黒敗。

白二が攻合勝ちの巧い要
領である。

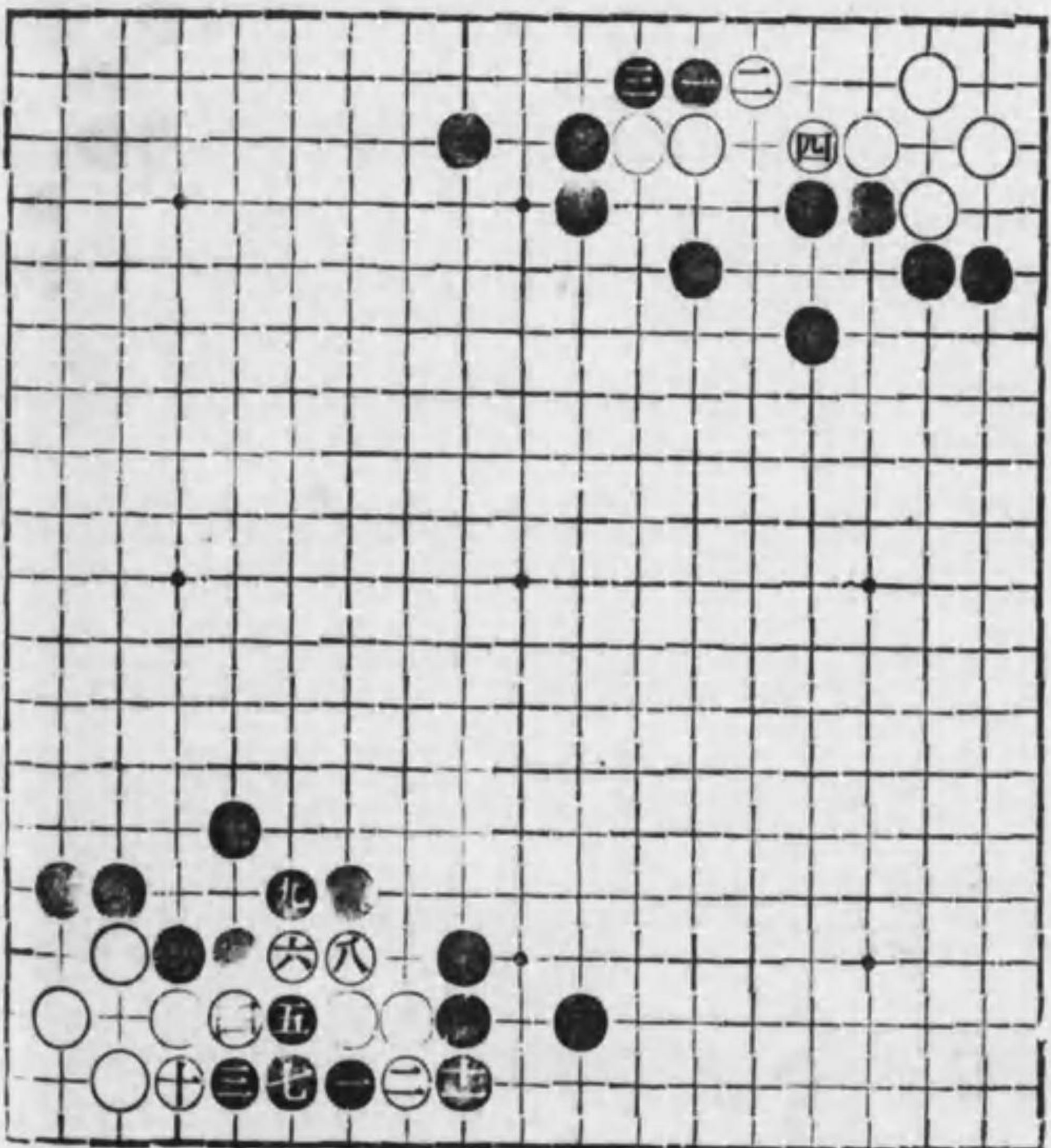


上圖、黒一は以下白四と成つて、黒先手得の妙所である。

白二を下圖の如く二だと以下黒十一と白攻合敗けの悪果。

殊にその黒三が精妙の觀點である。

即ち黒三と飛ぶ輕妙の手所。

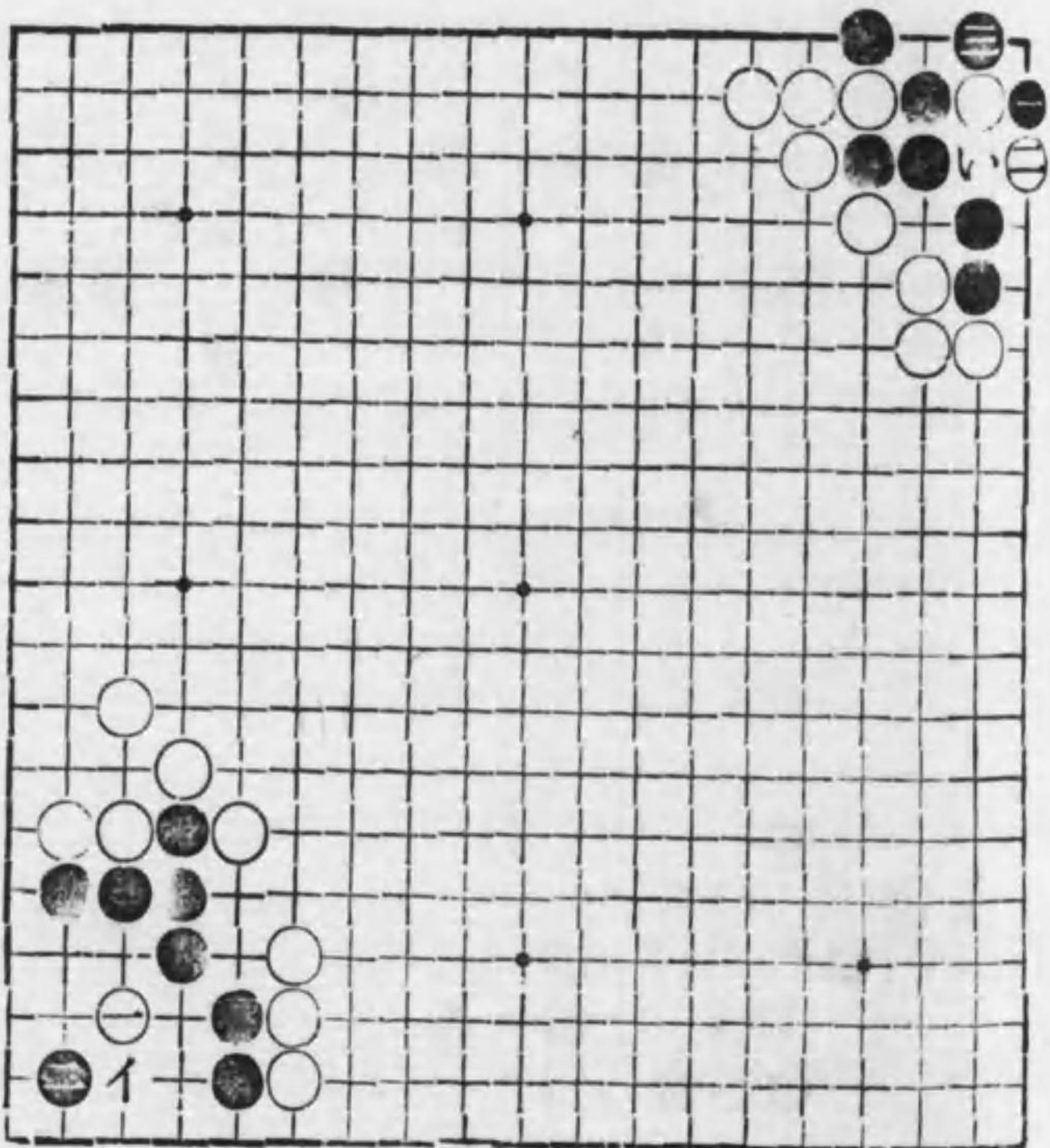


上圖、黒一は其點に限る即ち白二に黒三と劫争の活計。

白二を三なら黒(イ)で、此れは白拙い無條件黒活きである。

下圖白一に黒二は、此れも其點に限る、安全第一。

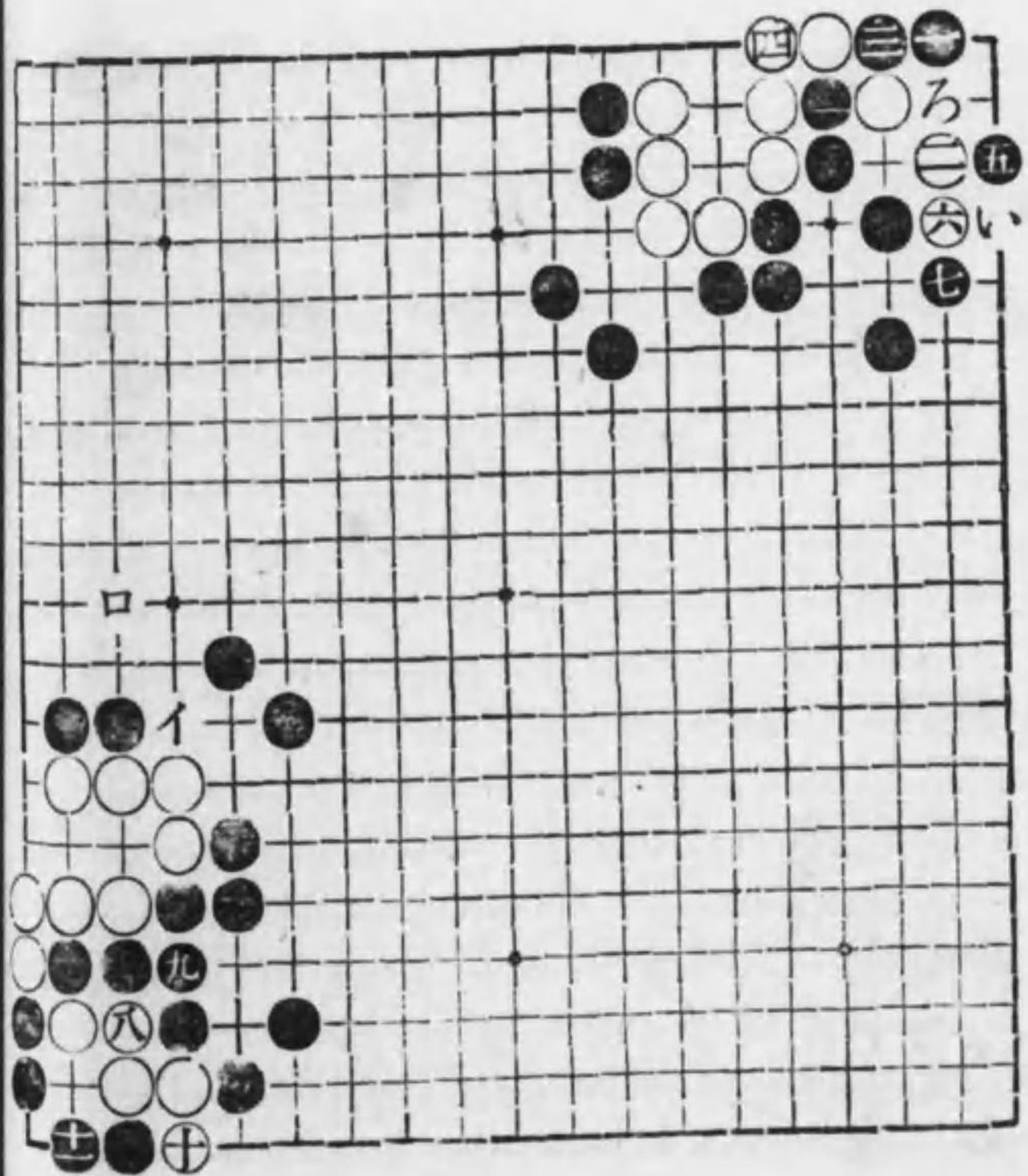
黒二を(イ)だと白二で大問題惹起。と覺えられ度い常識手所。



上圖、黒一は絶妙の場所
また黒五も一に伴ひ、黒
七と成つて白全滅である。
即ち黒七の次に白八を(い)
なら黒(ろ)。

更に下圖白八でも以下黒
十一まで。

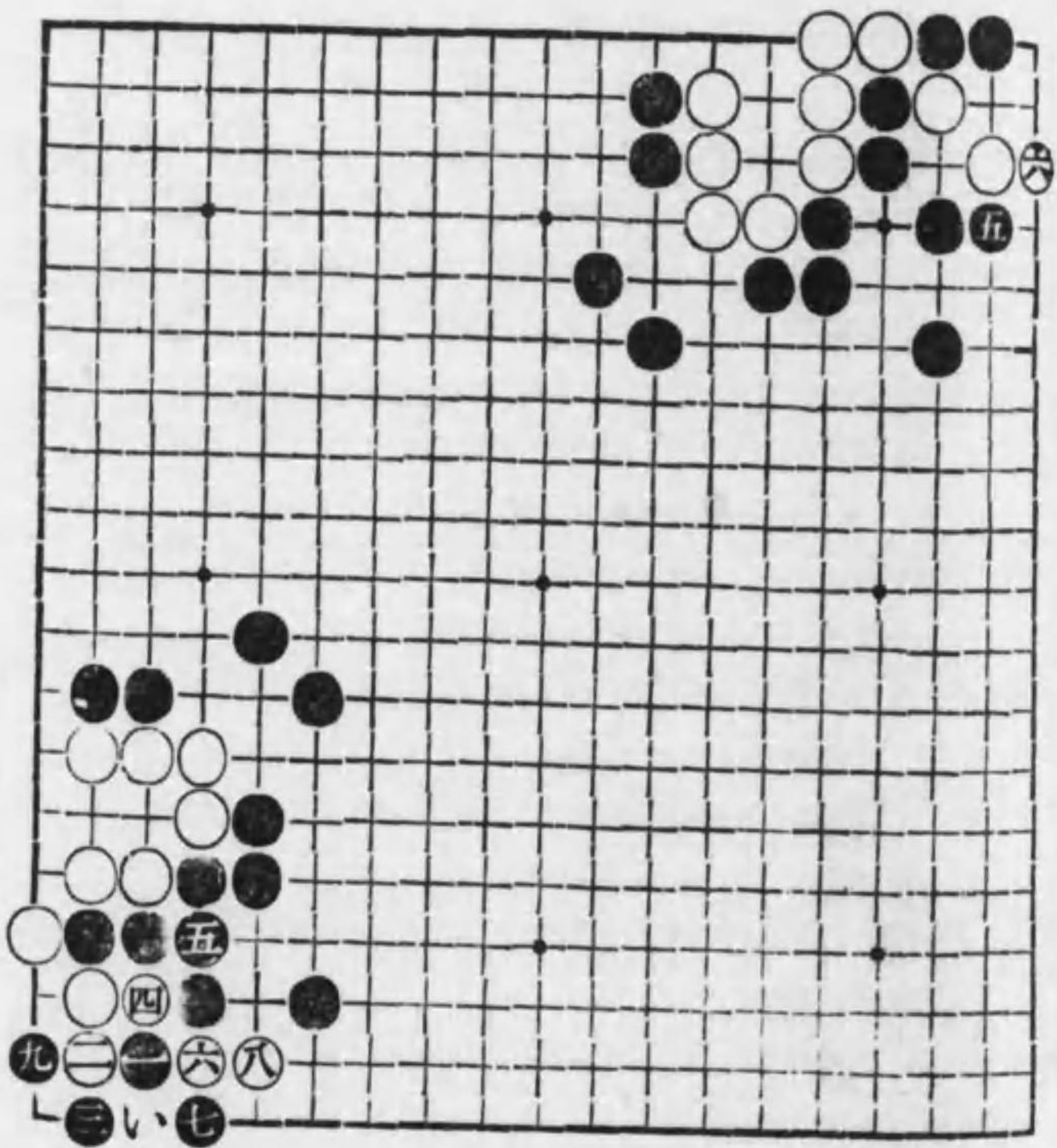
白何時(イ)でも、黒(ロ)
と夫れも旨い要領である。



なほ上圖黒五だと、白六
で白活き。

また下圖黒一は、以下黒
九と劫争だが、黒劫に負け
たから大きな損害、黒一は
悪い手所である。

但し白八は(い)と劫取り
黒九までは假令ばといふ譯

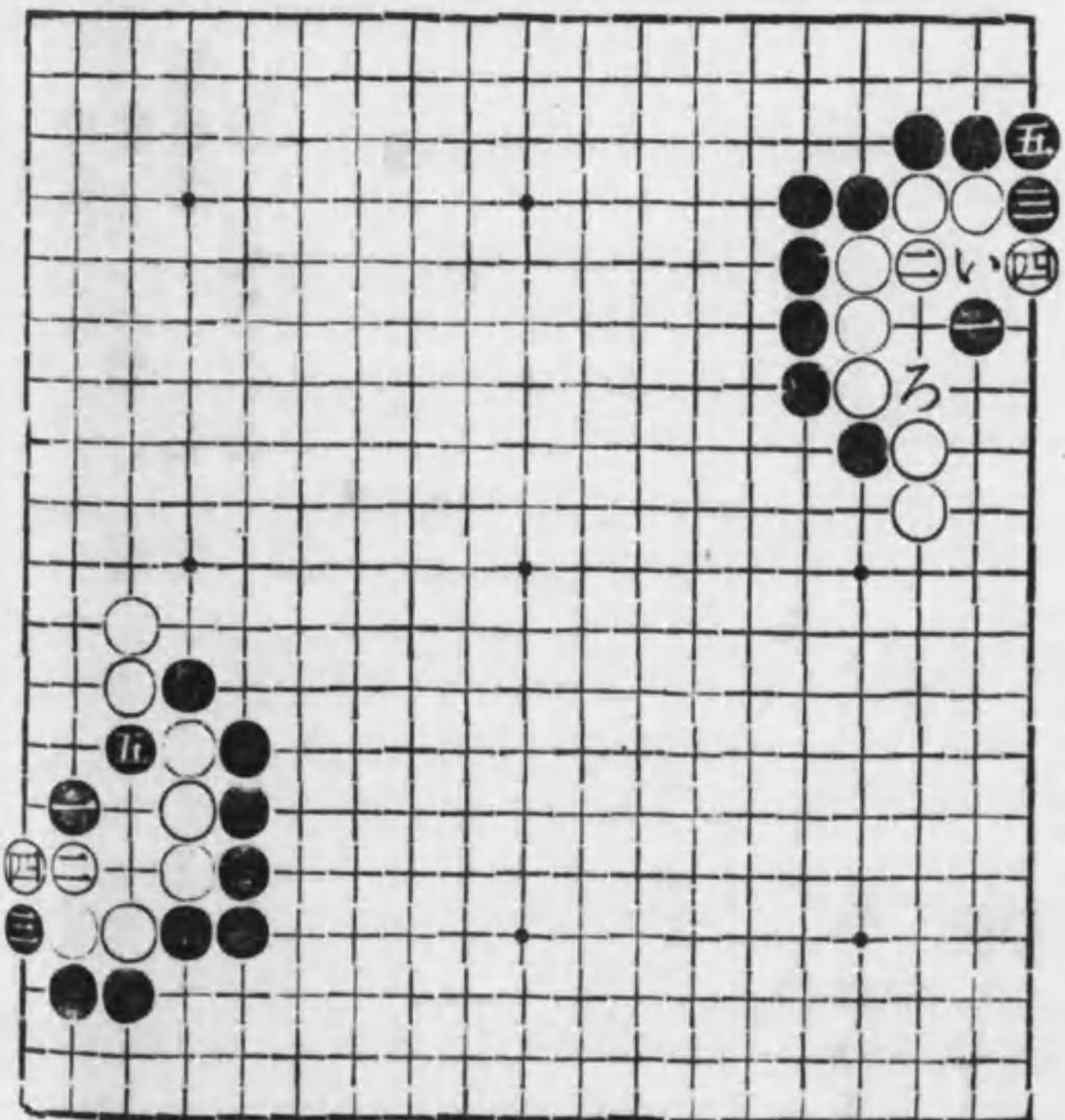


右側、黒一は白地解消の
巧い手所——

黒五の次に白(い)だと黒
(ろ)で白大悪化である。

故に白(い)を(ろ)黒(い)
と此れが白地解消の次第。

更に白二を下圖二でも黒
三が妙。次に白四も黒五で
白悪果である。と判る筈。

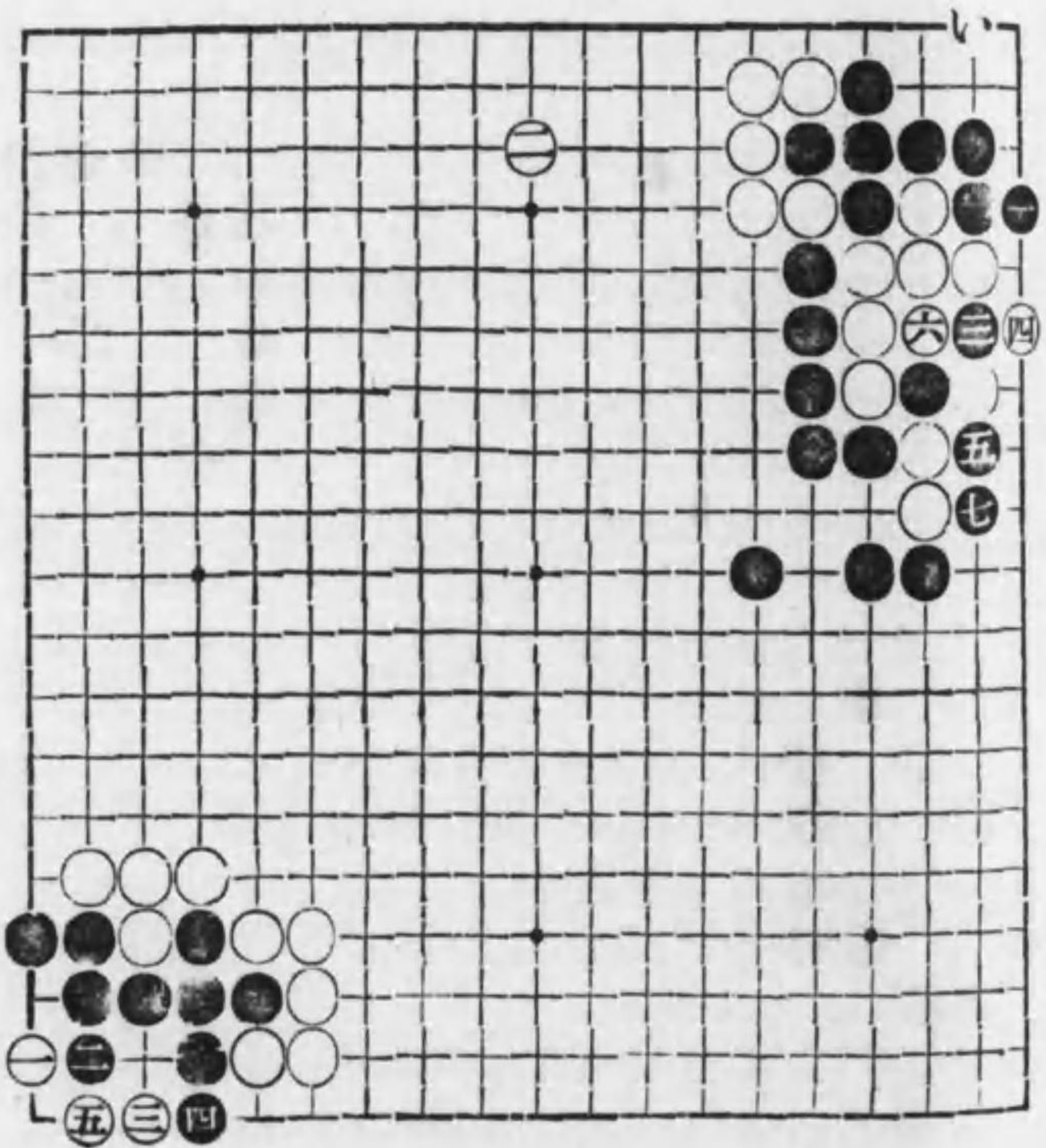


上圖、黒一は其處も活點
此際は妙——

とは次に白二なら、以下
黒七と白を取れ黒三が巧い
手所。

それ等の關係が無いなら
黒一は(い)が本手である。

下圖を觀られよ、白一以
下五で地が無い黒活。が殘
るからである。と解る筈。



上圖、黒一は(5)と後に
巧い侵入の活點である。

黒一に白(ろ)なら、

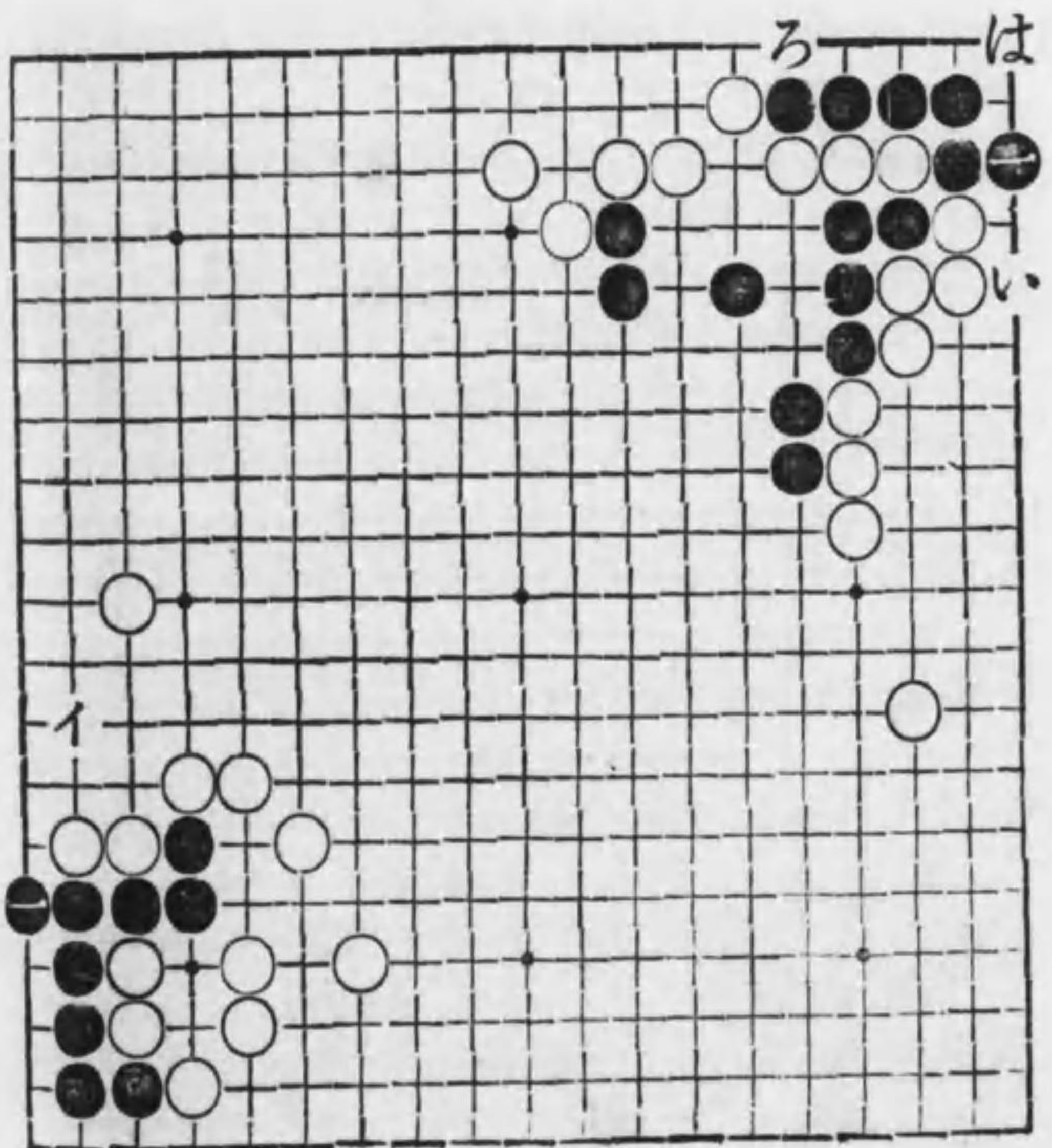
黒(は)といふ要領。特に其
點注意。

下圖黒一も(イ)と白地へ

巧い侵入待望の活點である

と何れも一寸した所だが

周圍の關係を見られよ。



上圖、黒一は隅の味方が
取られて、深く敵城へ潜入
であつて――

白二に以下黒五と、次に

白一とは粘げない、即ち黒

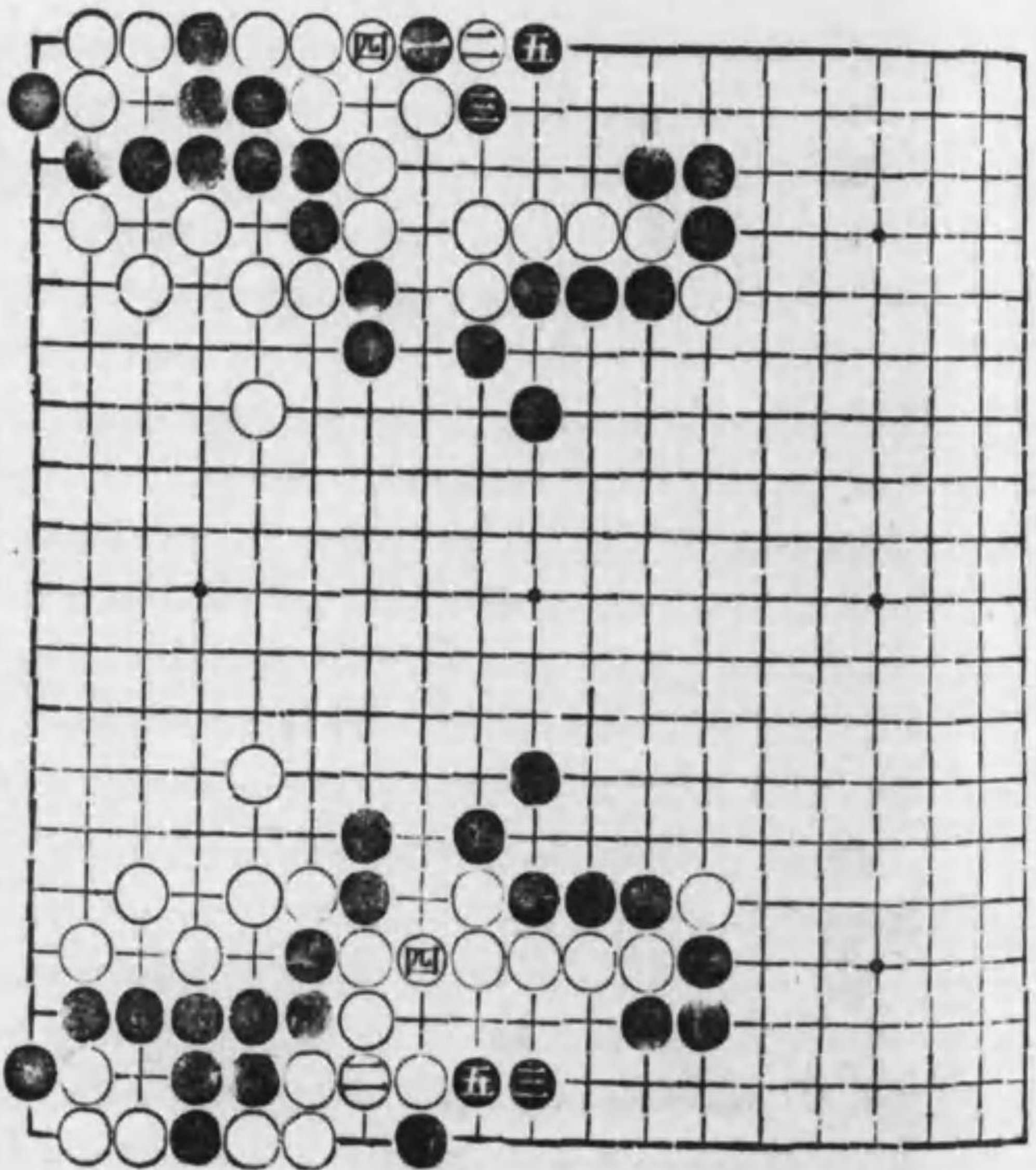
一と五が絶妙の手所である

白二を下圖でも、以下黒

五で白攻合敗。その白四は

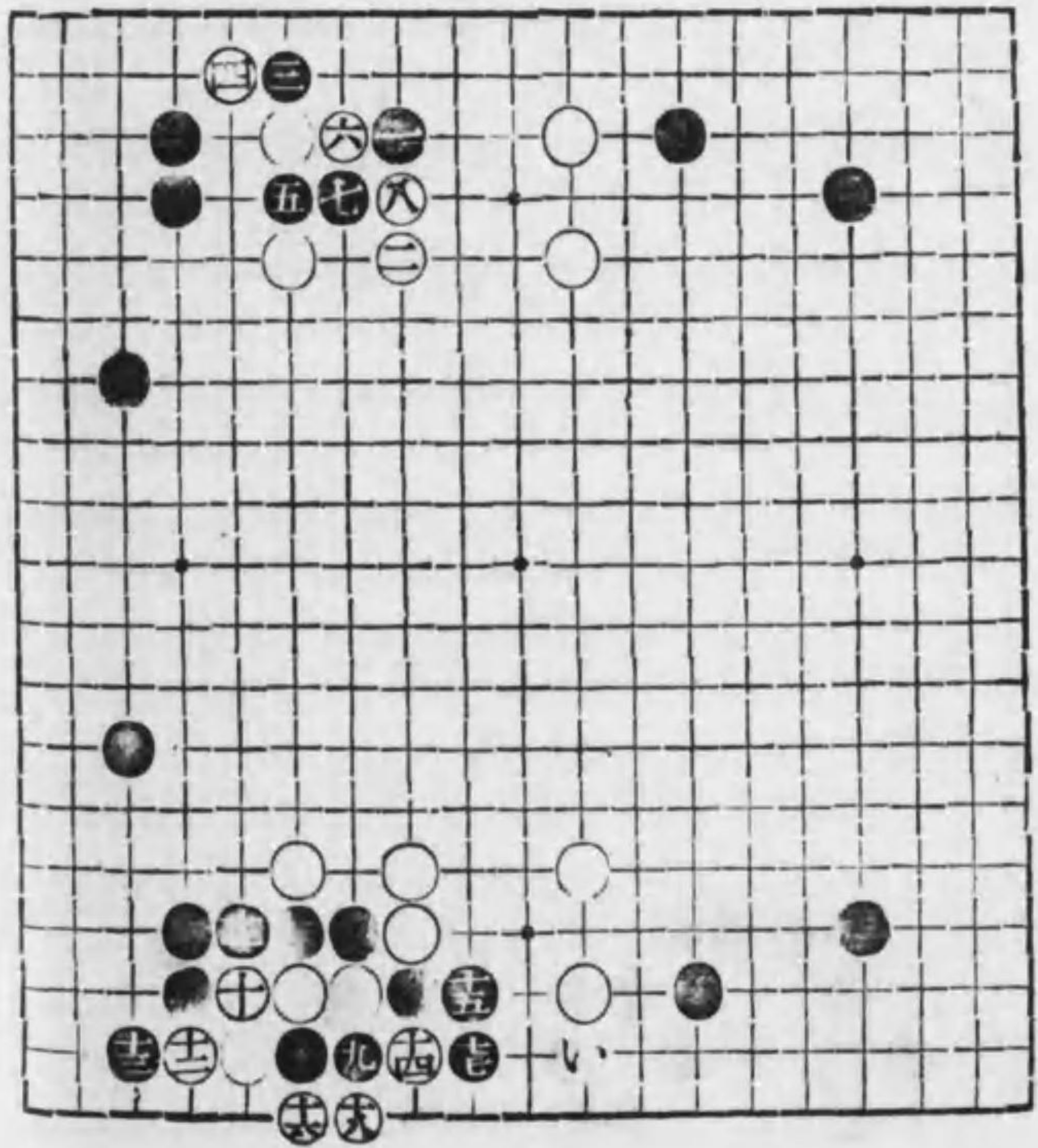
手延しに巧い要領だが。攻

合とは隅の黒との事。



上圖、黒一は白二を四なら、黒二と飛出しの手所。で黒一の打込みに白二だが、以下白八と成つて——下圖黒九が旨い以下白十八までの要領。

即ち黒次に(い)でもだが白十八以下奪取も次圖に明瞭である。



一三〇

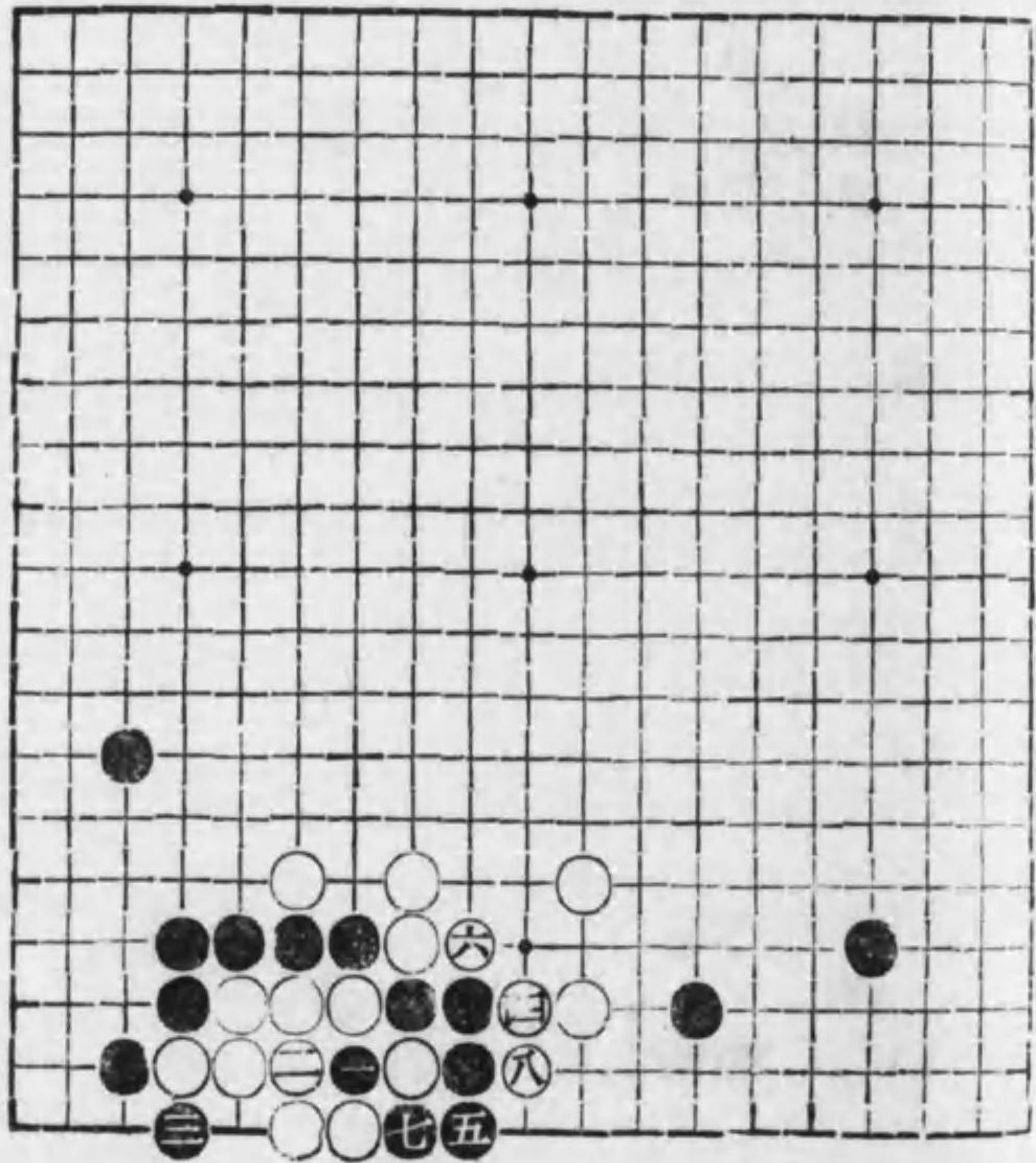
前圖白十八までが白丸九。

更に黒一が白二と替つて巧い手所——

即ち白二を七なら、黒三で無條件白を取れ。白二の他は無い。

そして以下白八の時、次に黒一と白一子を取つて劫争である。

が元來白の地内で甘い黒の劫争。

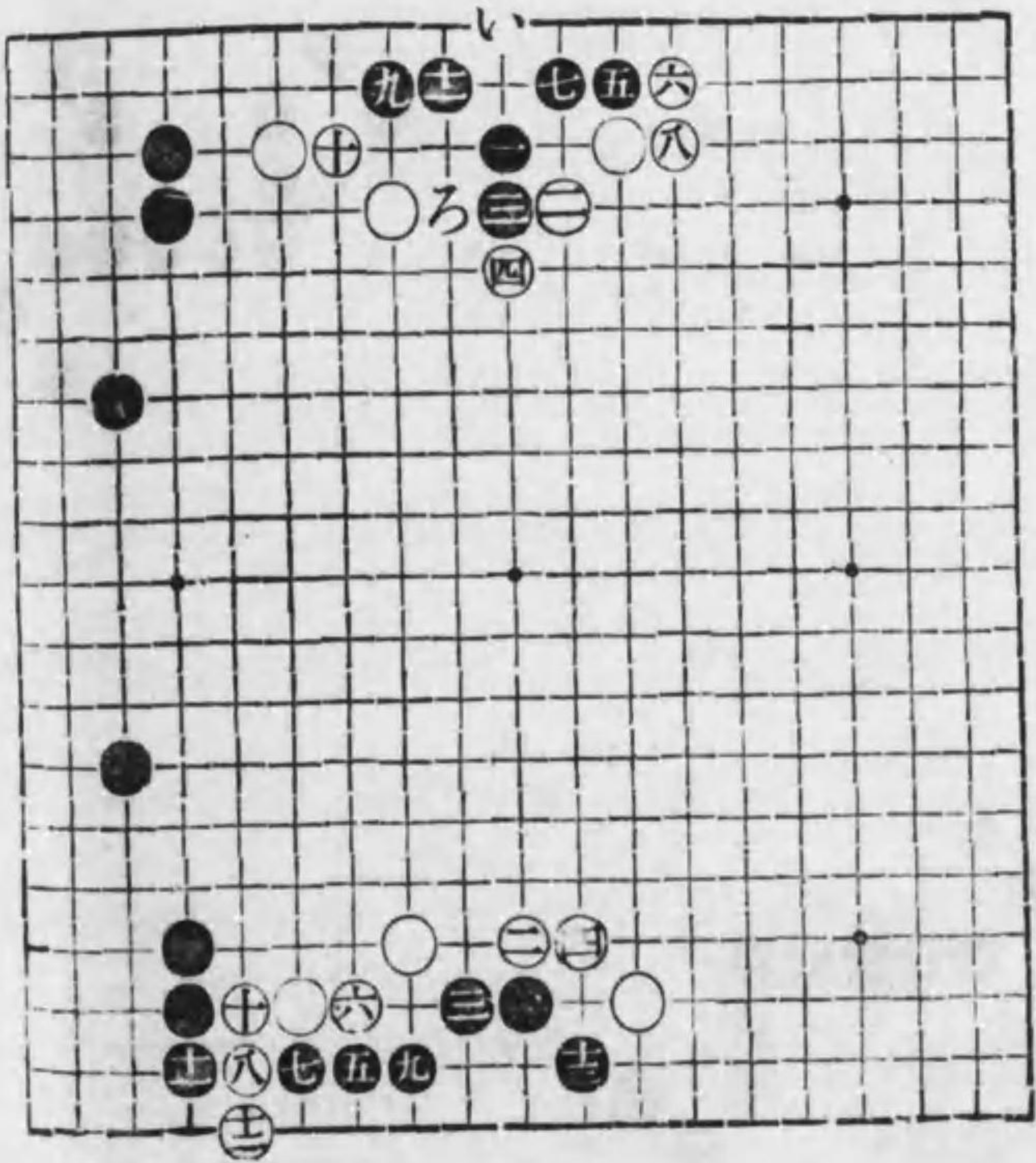


一三一

上圖、黒一も白の領域に打込み、危険の無い以下黒十一で黒確實沾計である。次に白(い)なら、黒(ろ)と。

また白二を下圖二でも黒十三まで。

と黒五が巧い、即ち白六を七なら、黒六で結果黒に好展。と判る筈。

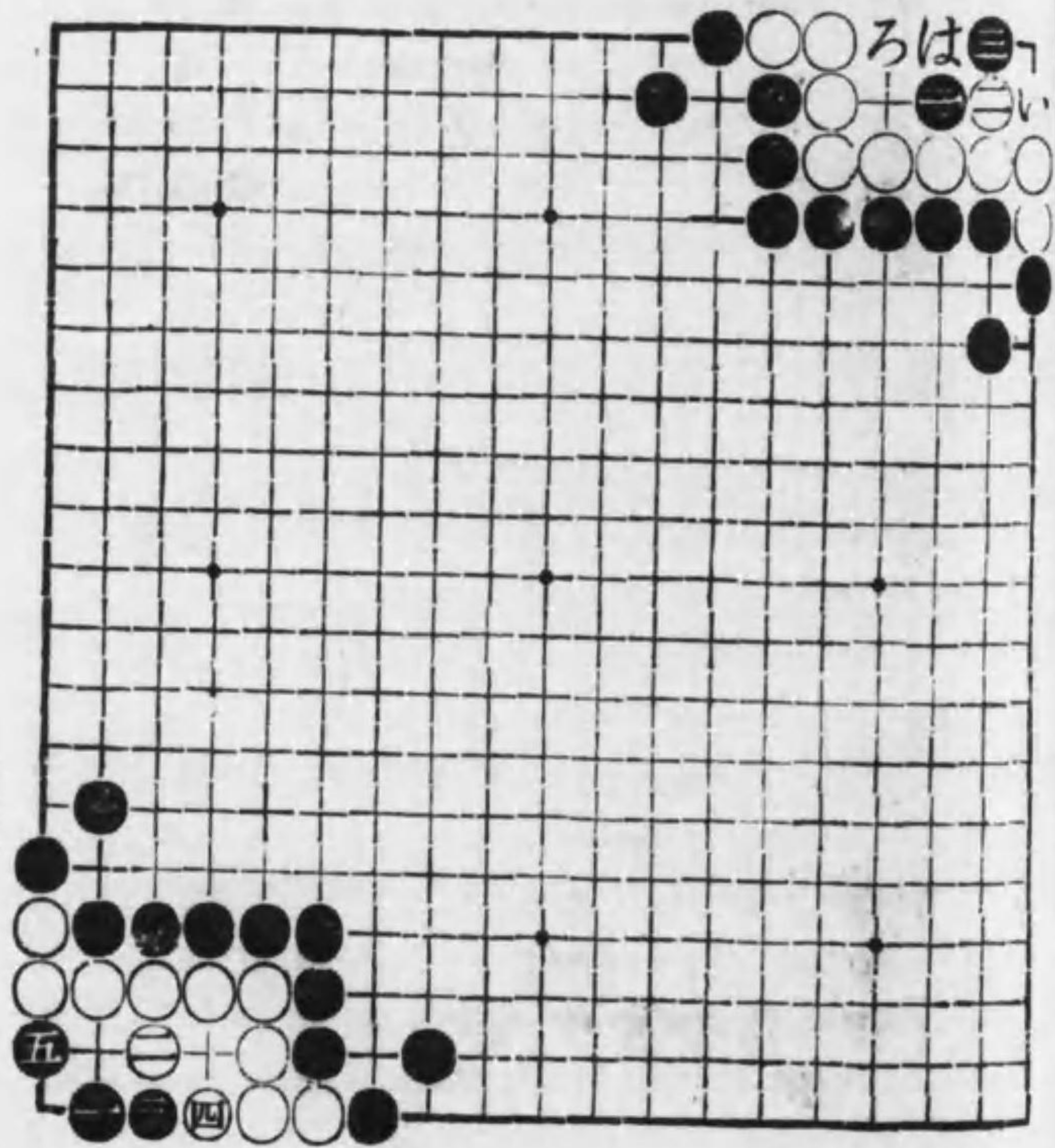


一一一

上圖、黒一が甚だ白の困る妙所である。

黒三の次に白(い)は、黒(ろ)で白取られ。また白(い)を(ろ)なら、黒(は)で(い)に劫が残つて。等で白困るといふのである。

下圖黒一より五支では抽し後手。



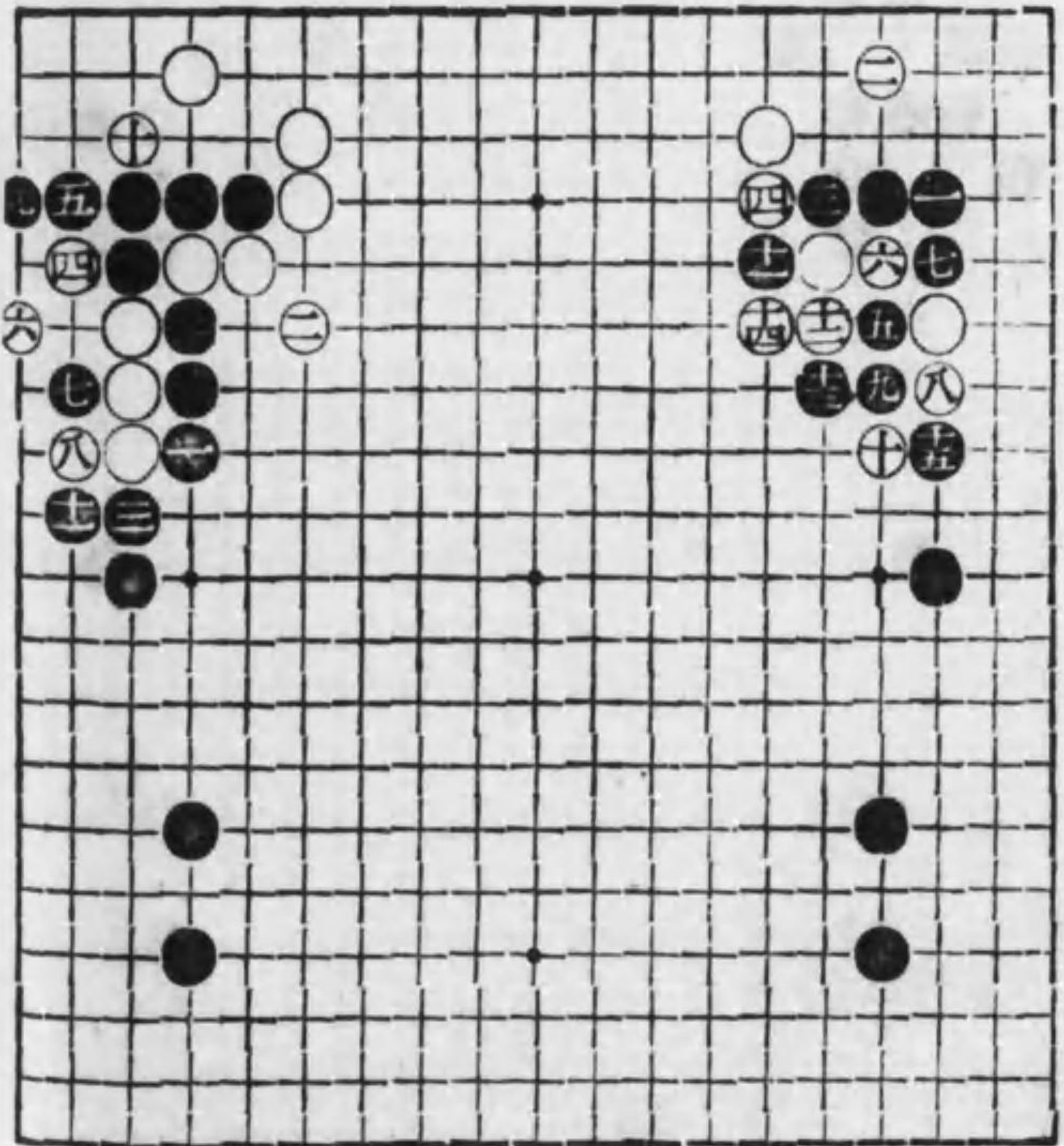
一一二

右圖、黒一に白二を假に十三なら、黒二で黒地も相當に有つて、黒満足の活居である。

それで白二だが以下黒十五と白大悪果。

白十を十五でも左圖に移つて、黒十一までの白悪果である。

以上の黒好果は右圖黒一と五の旨い手所に因るもの。



十三

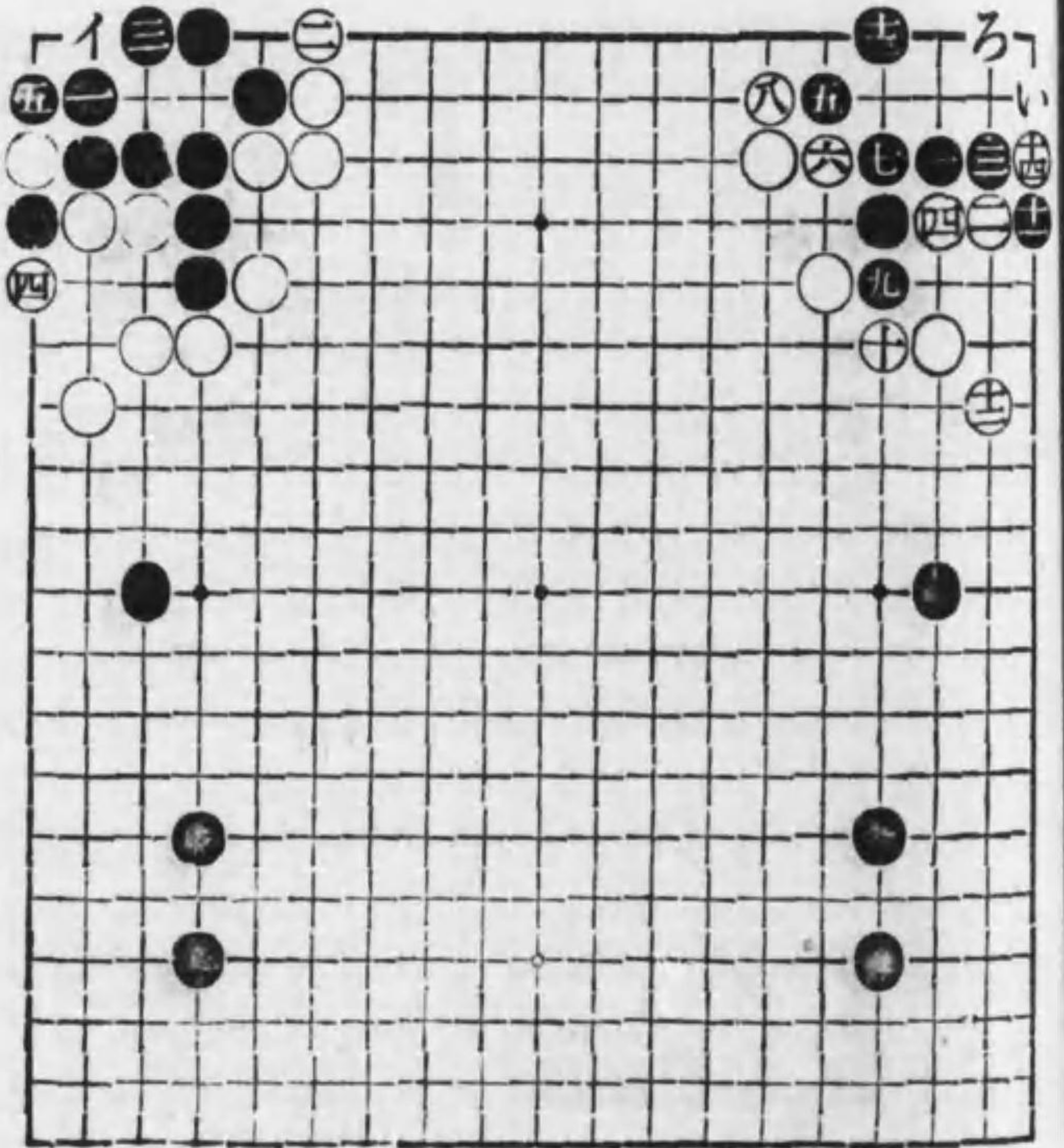
右圖、黒一は以下白十四に、黒(い)だと、白(ろ)で黒自滅の運命。

されば左圖黒一は其他に無い――

また白二に黒三も其他に無い――

即ち黒三を五だと、白(イ)で黒は取られ。

等で本圖右の黒一は悪い手所。

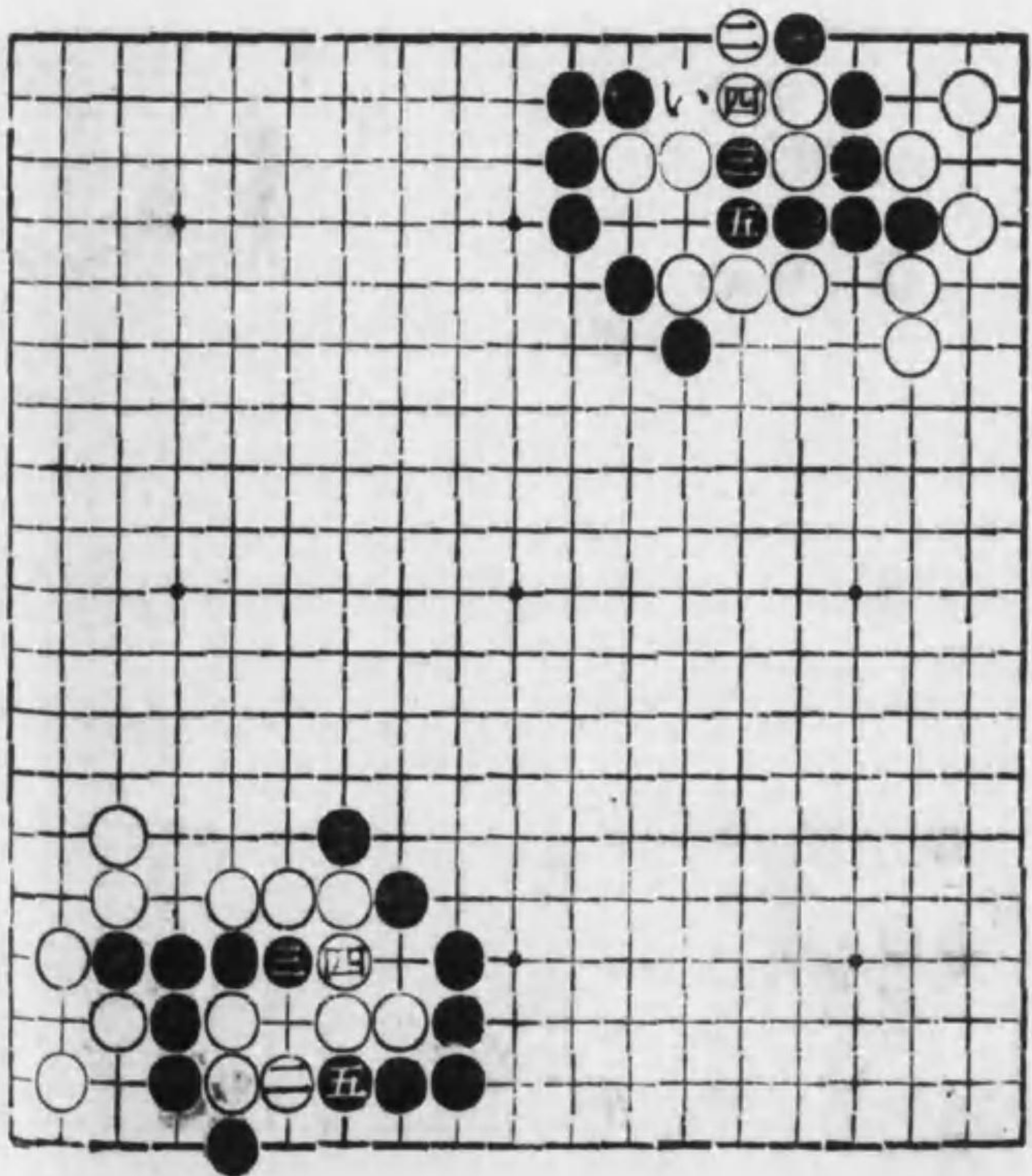


十四

上圖、黒一に白二なら以下黒五で黒勝ちの巧い手所である。

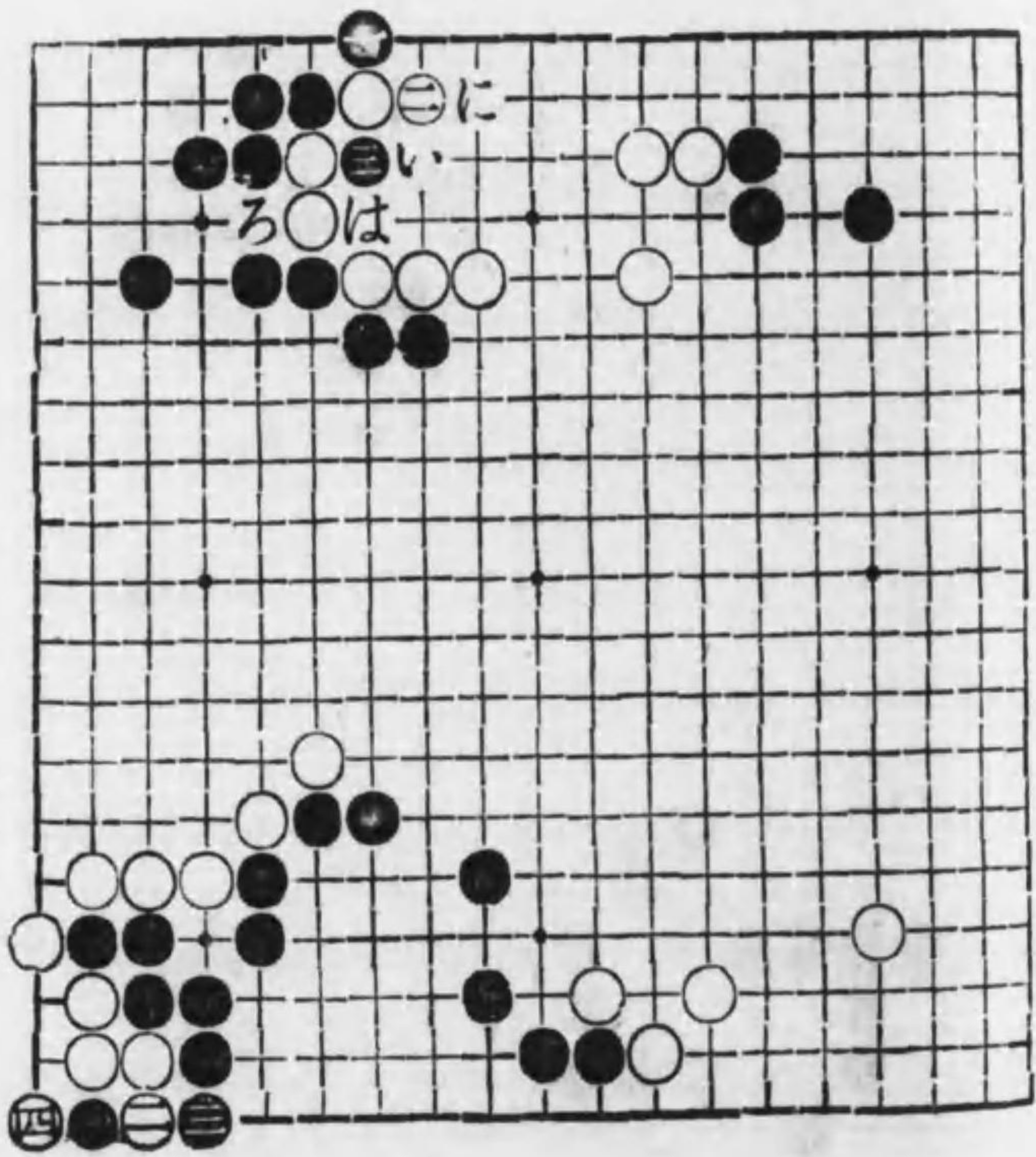
白四を(い)でも黒四と同様。

また白二を下圖二なら、黒三白四そして黒五、要するに上圖黒一が左へ連絡に妙。



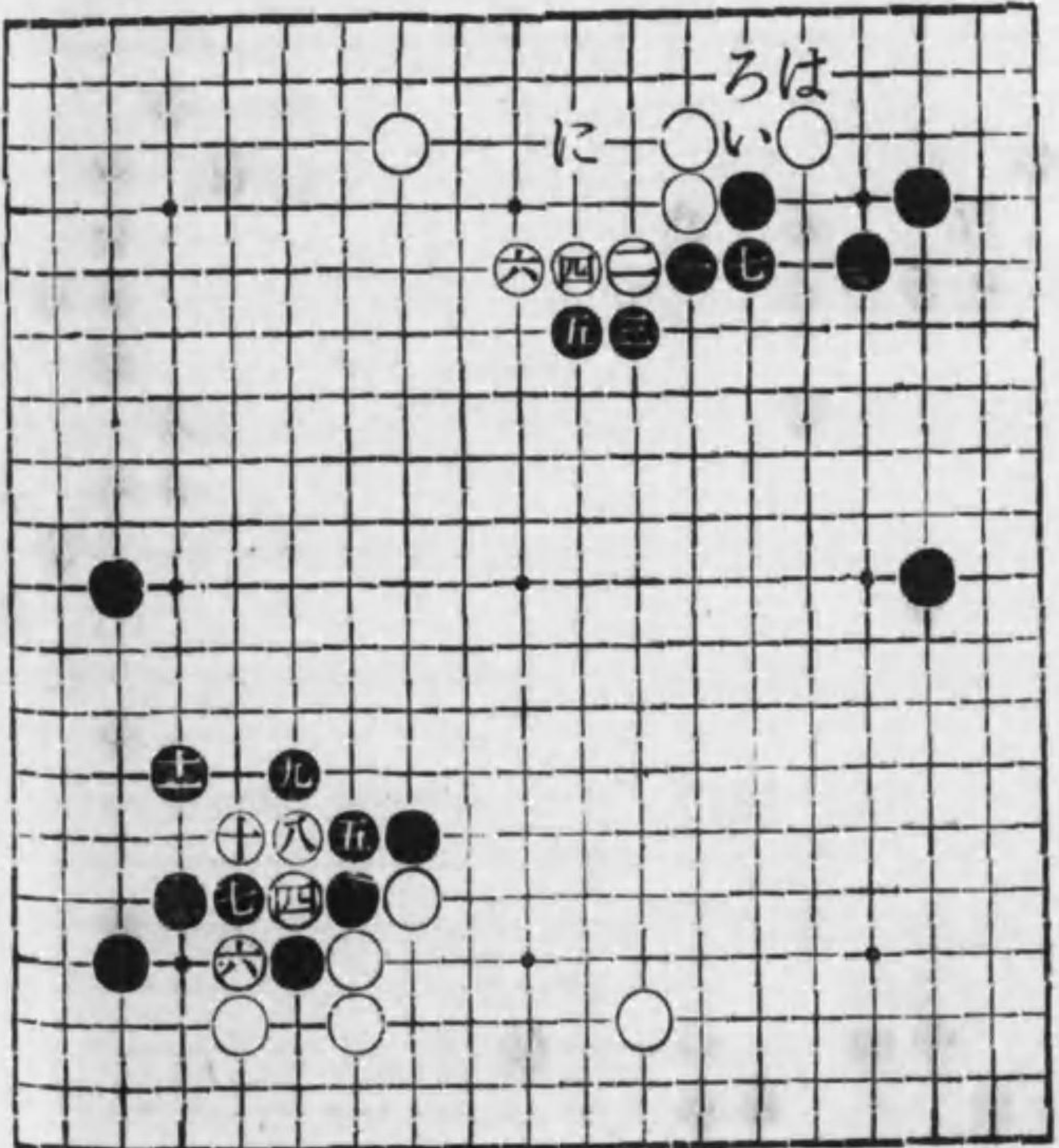
上圖、黒一と三は殊に黒が巧い手所である。黒三に白(い)なら、黒(ろ)で此方に利。また――黒三に白(は)なら、黒(に)では白大損。と解る筈。

下圖黒一は要するに白から三と侵分られない先手得の手所。



上圖、黒一以下七は、黒(い)白(ろ)そして黒(は)の切りを見て(に)の打込みもあつて、右側の黒大模様(おほなまよう)に甚だ巧い(たがひ)手所(てどころ)即ち黒(は)までの前(まへ)に黒(に)と打込(うちこ)むのである。

白四を下圖(したづ)四なら以下(い)黒十一までの要領(ようりょう)と知られよ。

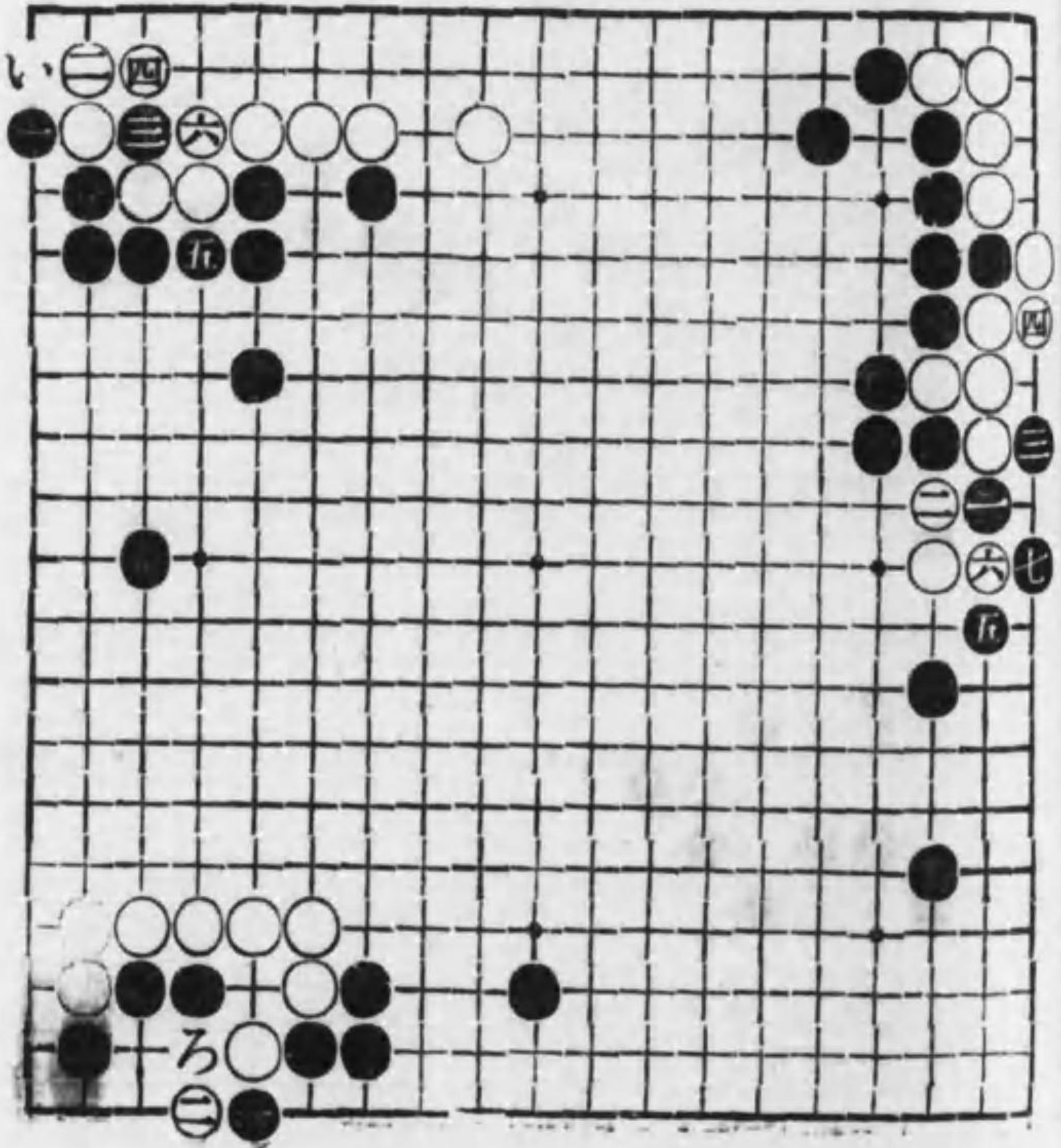


右側(みぎがわ)、黒一以下七(い)までは殊(こと)に黒三(ろ)が巧い(たがひ)劫争(きやくそう)の手所(てどころ)である。

白四(ろ)を六(ろ)なら黒四(は)で隅(すみ)が取(と)れ。

左側(ひだりがわ)黒一(い)以下(い)白六(ろ)は、黒五(ろ)と其(その)點(てん)強化(きやうか)黒三(ろ)が妙(たぎやう)白四(ろ)を六(ろ)なら、黒(い)。

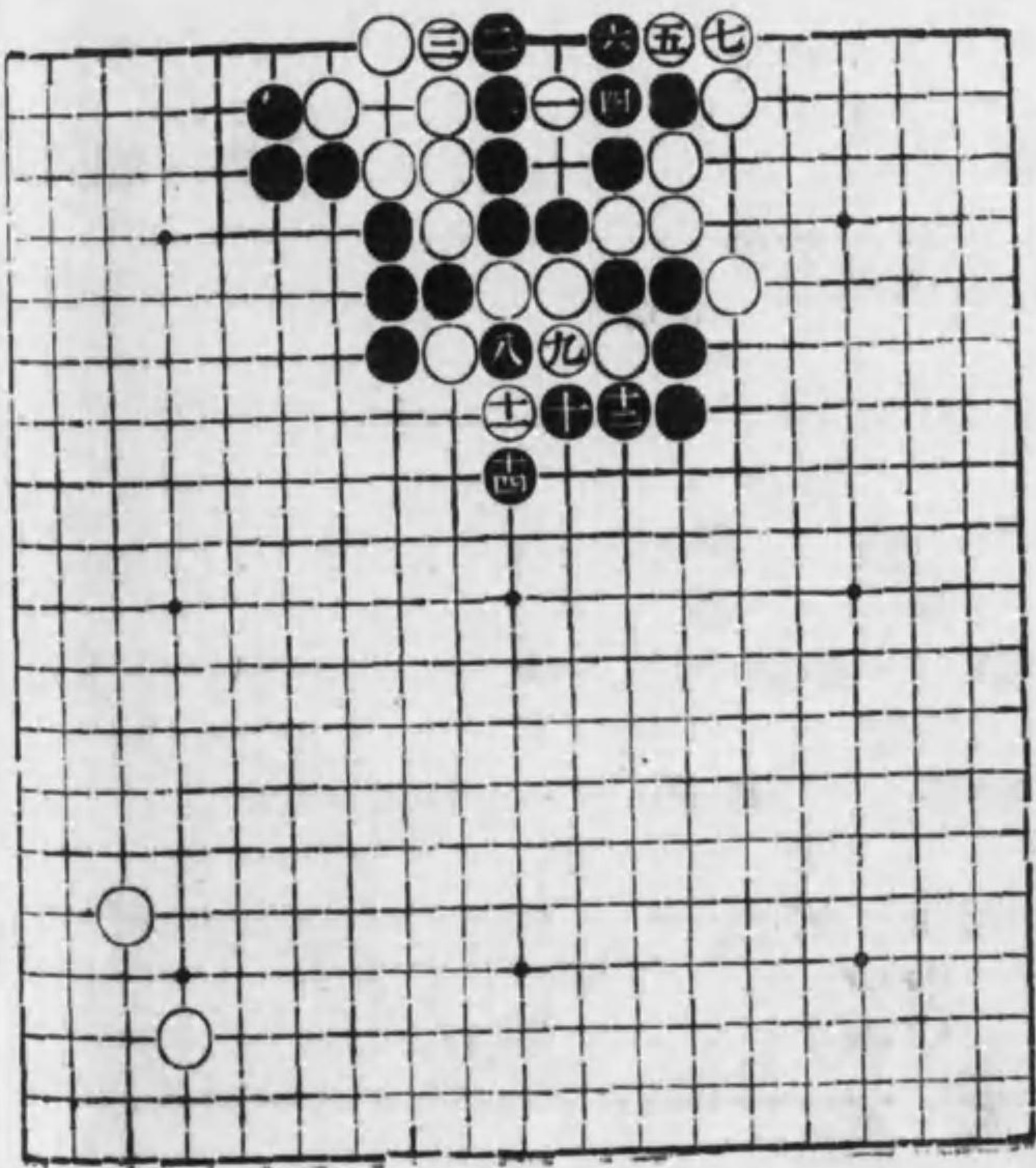
下圖(したづ)黒一(い)に白二(ろ)、また黒一(い)を(ろ)も白二(ろ)と知(し)られよ。



白一以下七で、此方は白
巧い攻合勝の手所。處が黒
八以下十四と白は征——
と征、見損じは昔の某有
名な先生。

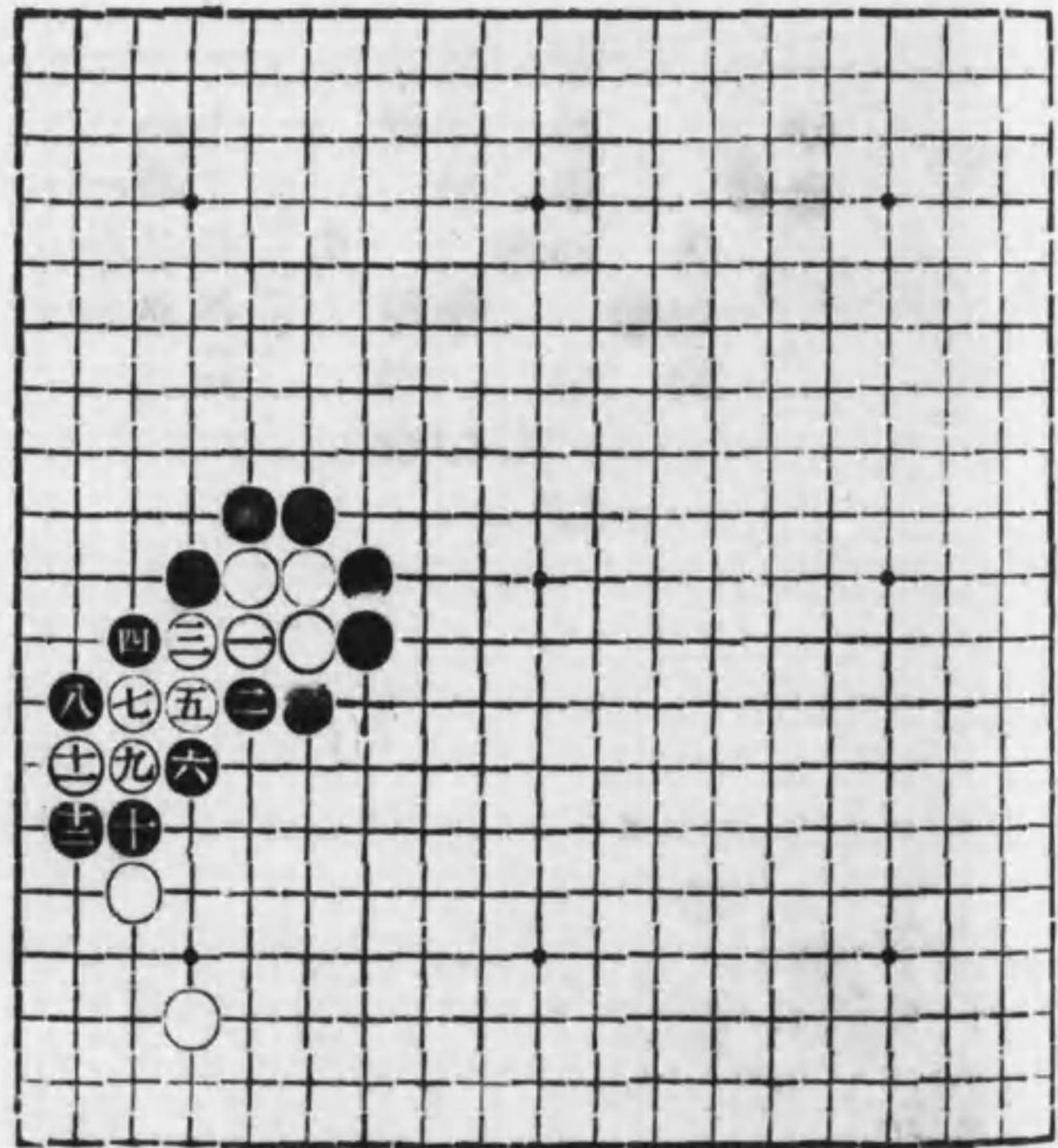
それは下圖に白二子が在
つて、征當りとよく見極め
ない輕勿の安心。後の笑草
にも残され次圖を觀られよ
一寸參考——

(白十三は八の所粘)



120

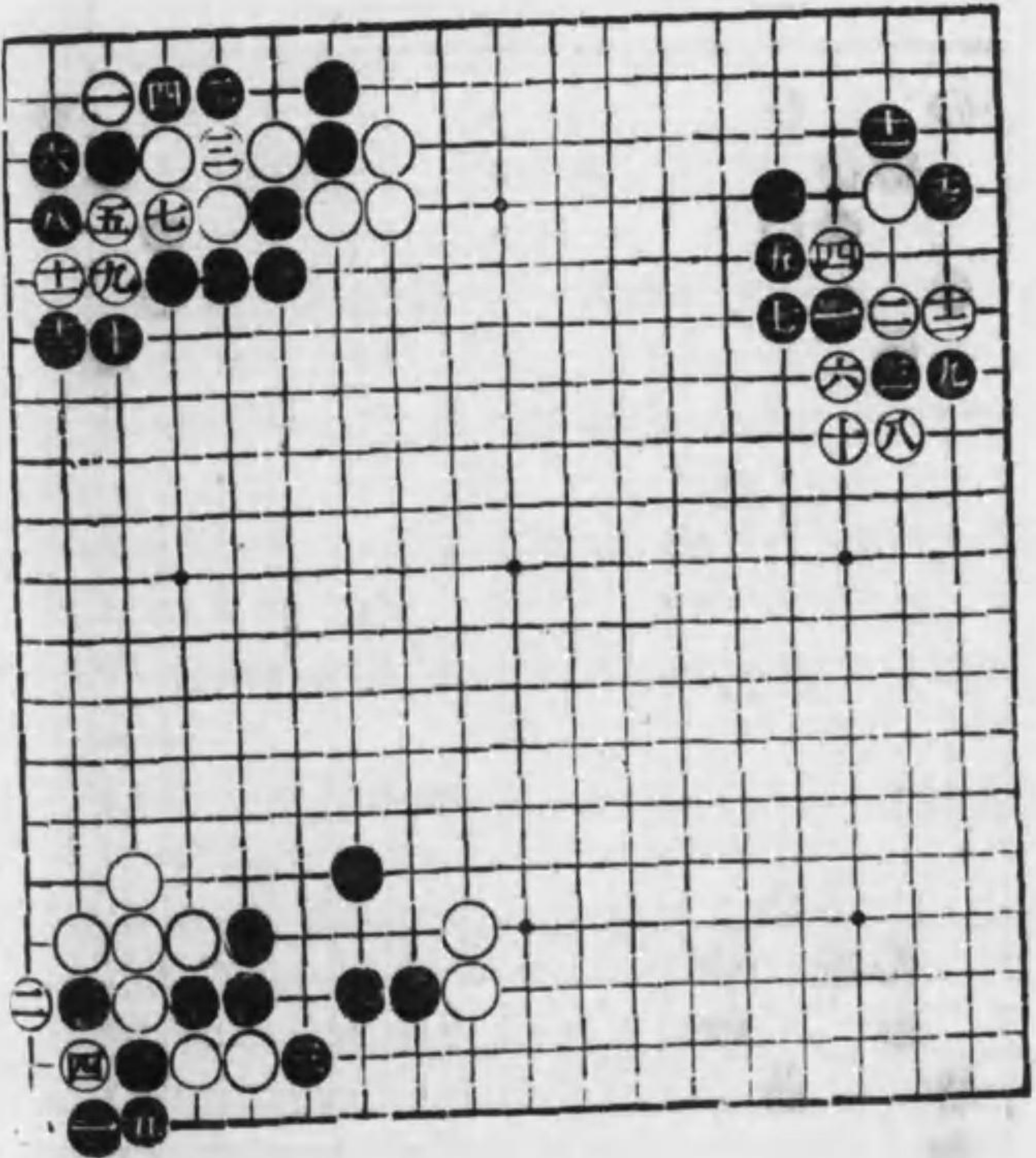
本圖白一に以下黒十二ま
で成つて、黒十二をよく見
損じるものである。
即ち前圖と全體の形は違ふ
が、本圖前線と最後の——
黒二より十二までは二と
十二が巧い白丸白一子を通
抜け。
まさか此處までは來ない
が。



121

上圖右、黒一に白二以下
黒十三までは白大損であつ
て、黒は三と九を捨石に用
ひて旨い好果である。

白十二を左圖白一だと、
以下黒十二まで。終り。
下圖黒一を四だと、白三で
黒敗。黒五と成つて白(い)
と劫は残るが、黒一は妙

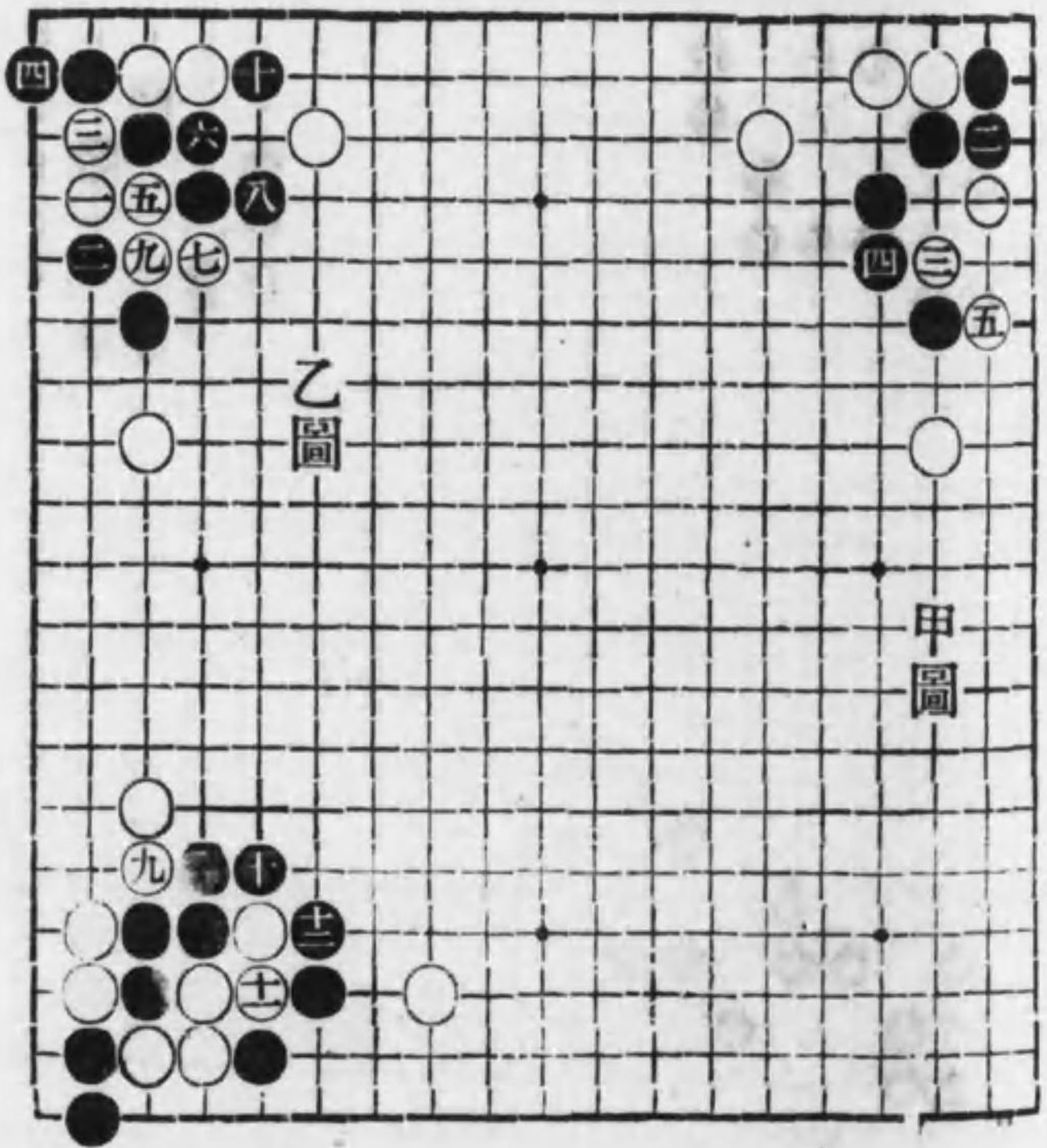


甲圖、白五までは黒拙い
手所。

乙圖、黒十までが黒巧い
手所。

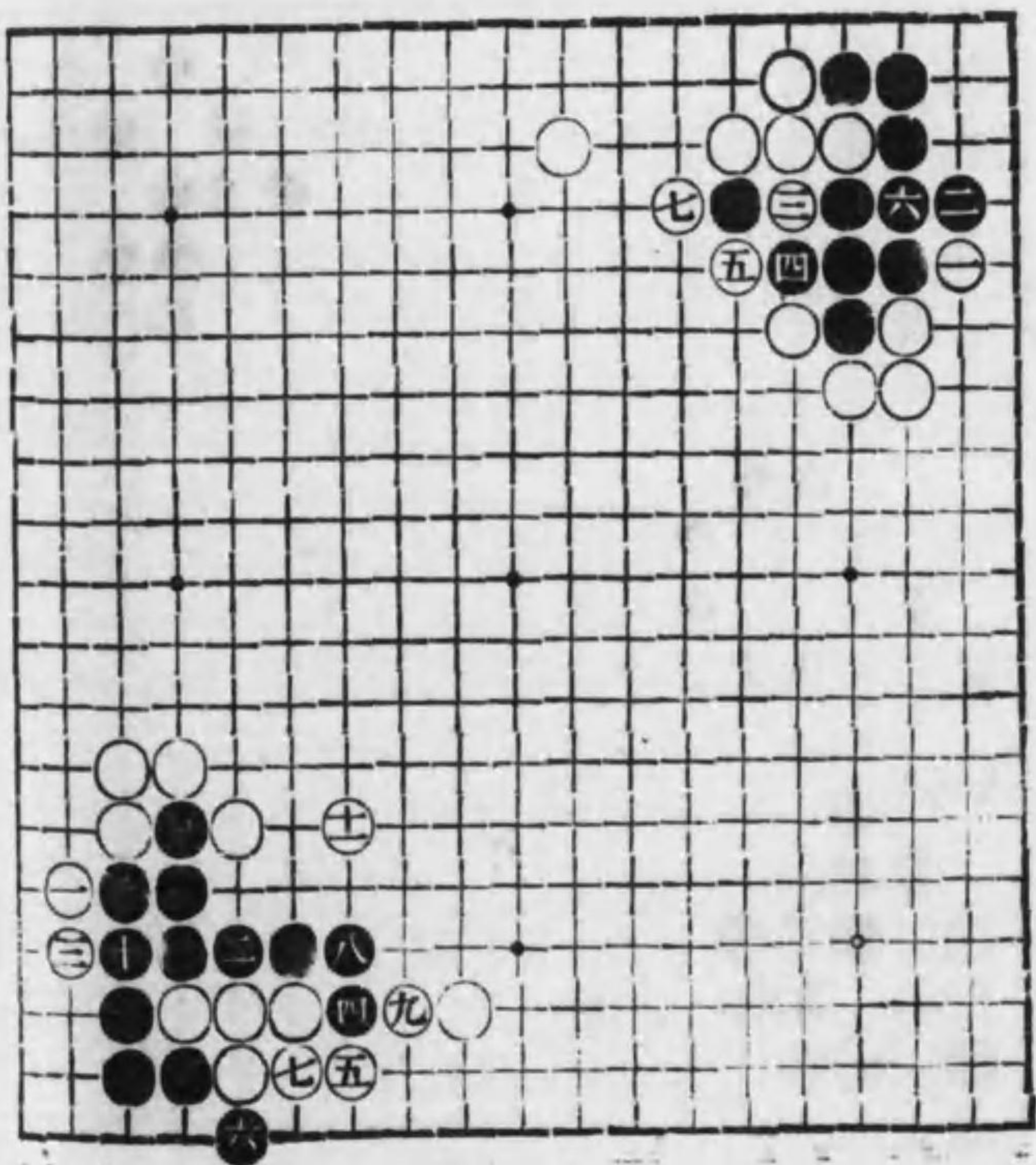
この巧い黒の手所は取分
け二と四である。

白九を下圖九だと、黒十
二まで。と白惡果無上であ
る。と解る筈。



上圖、白一は巧い手所。
白七と成つては一舉黒敗である。

また黒二を下圖二でも、
以下白十一と白に攻立てられ、言ふまでもない黒悪化
されば上圖白一の前、黒
五か或は一に必要である。
なほ下圖白十一が旨い要
領。



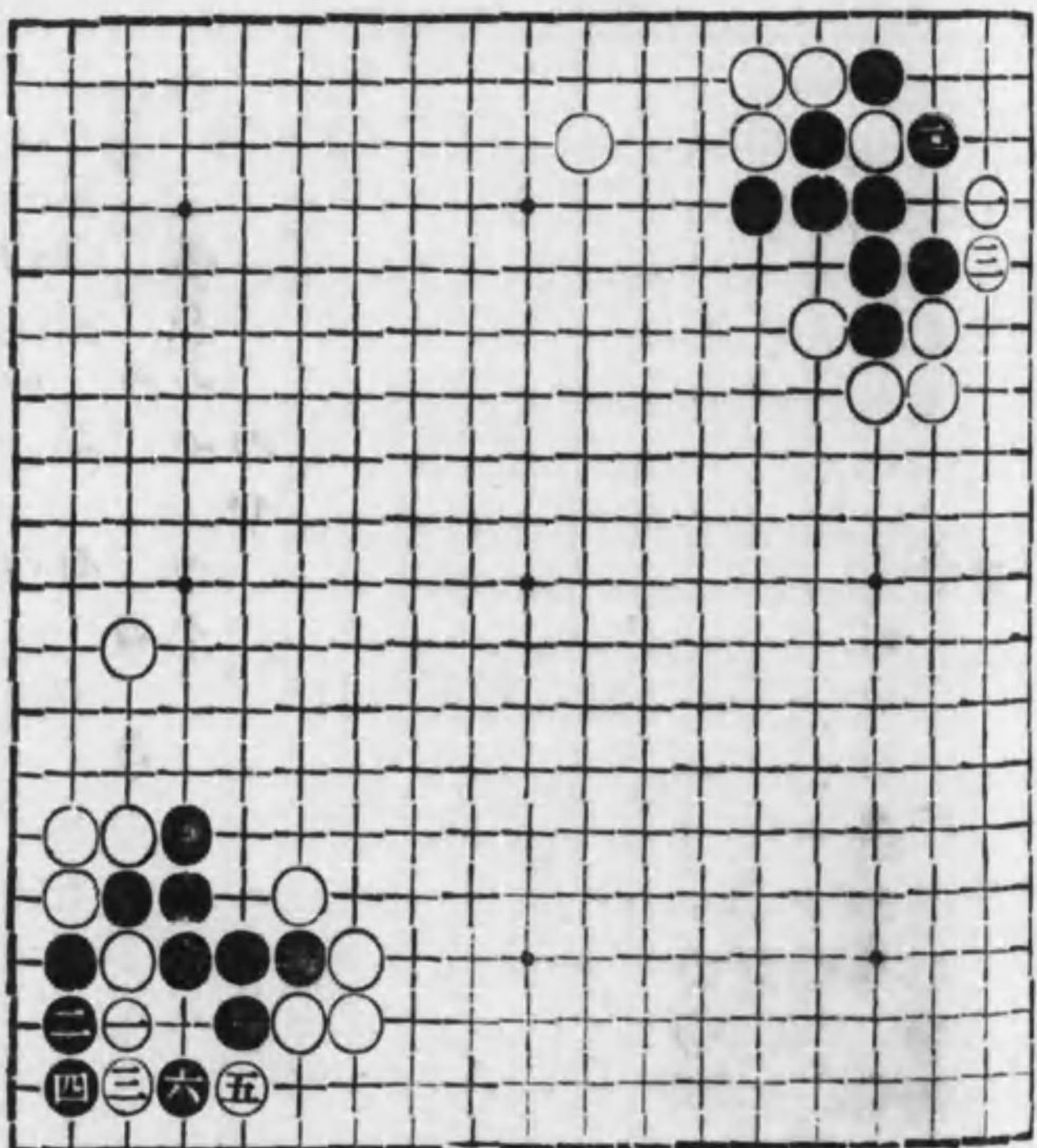
一四四

本圖も前圖と同様置碁に
現はれ—

先づ上圖、白一が上手で
ある旨い手所。

黒二を三だと、白二で一
層黒悪いのである。

下圖白一は以下黒六まで
—黒はこんな事を期待し
上圖白一を見損じるもの。



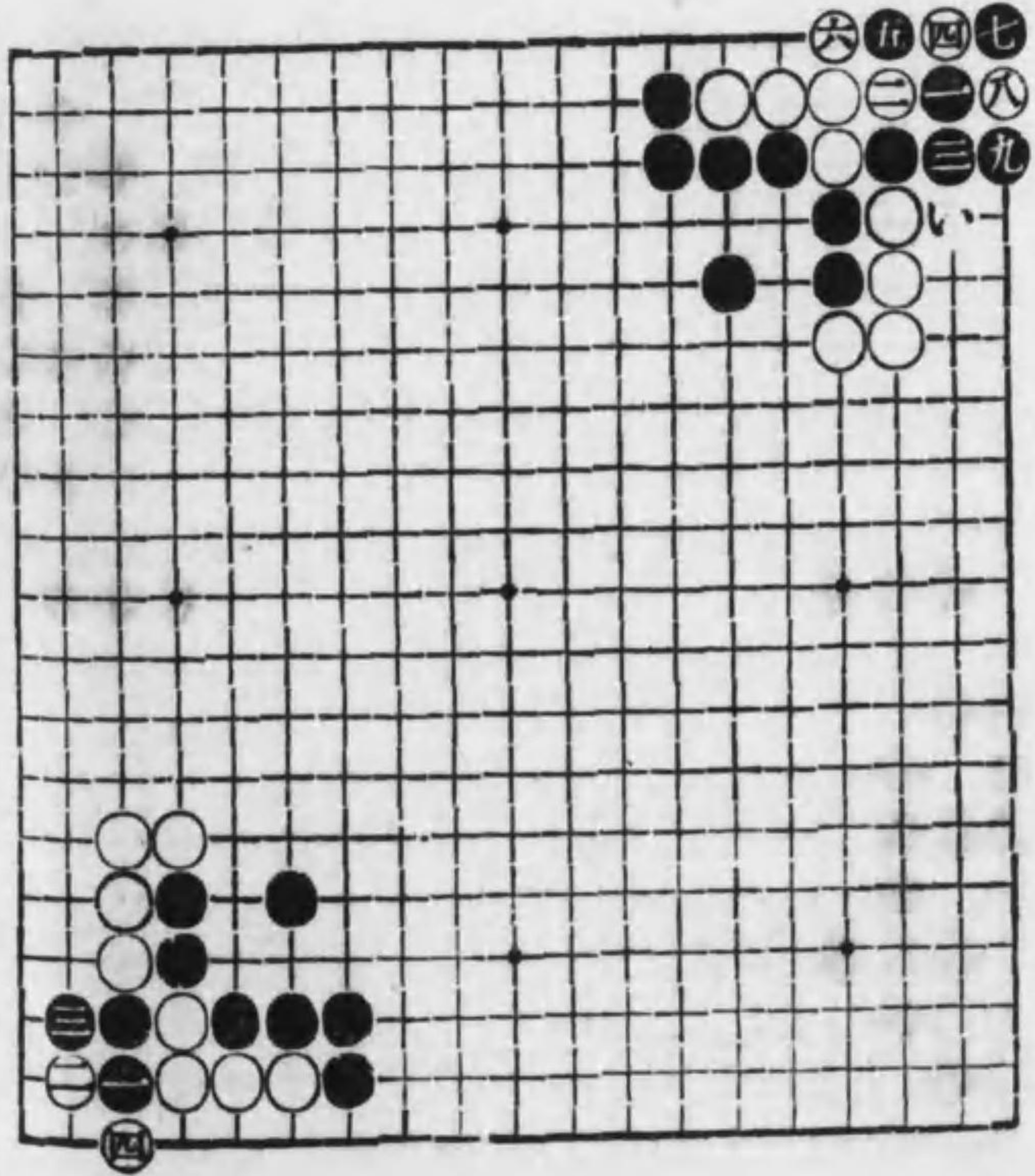
一四五

上圖、黒一は以下黒九で劫争に妙。

白四を(い)だと、黒四で白攻合悪果である。と解る筈。

黒一を下圖一は、次の白二の旨い手所を見損じ。即ち上圖の劫争を解消である。

なほ黒一を三でも、白二で黒に手が無い。

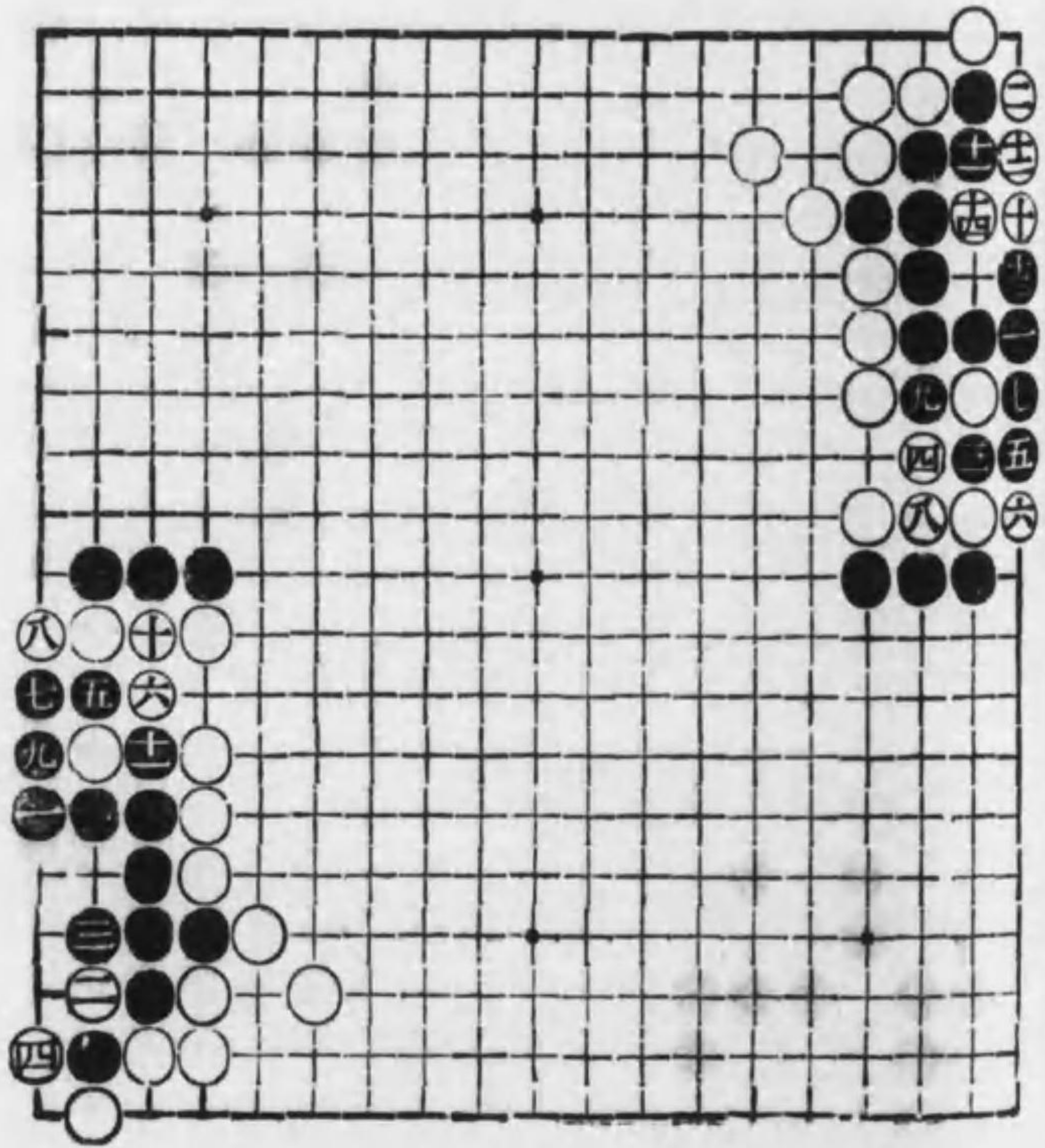


上圖、白二は以下白十四と成つて――

黒どうする事も出来ない。即ち白二は巧妙の手所である。

白二を下圖二だと、以下黒十一で黒活、その白二は拙い手所。

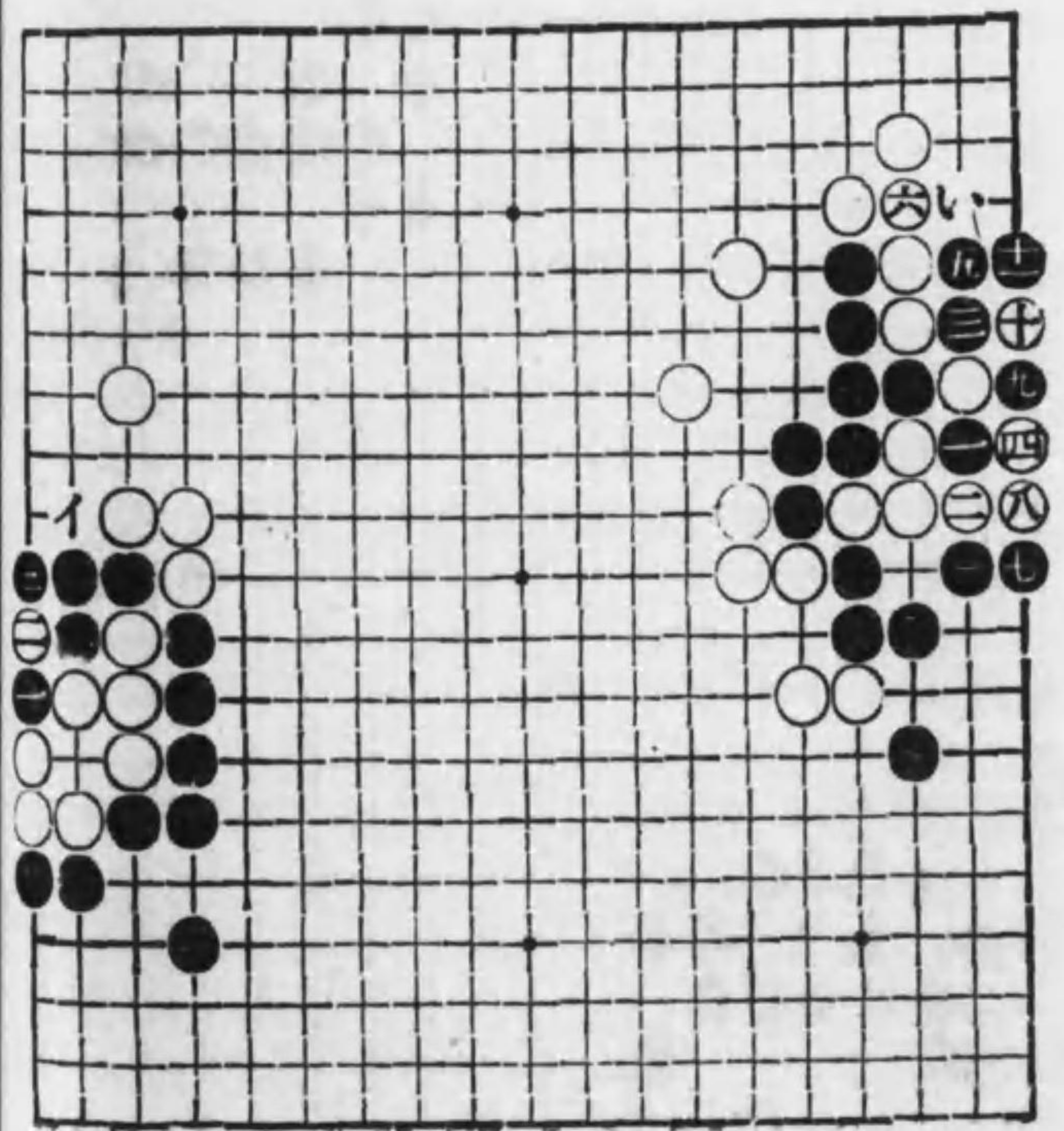
處で黒にも巧い手は、上圖黒三を十四。に白四黒十二と成る劫争の手所。



右側、先づ黒一と切つて
以下十一までは巧い劫争手
段である。

白八を(い)なら黒八で、
白二以下四子は取れ。等一
即ち左側黒一と三の巧い
劫争にも見られ。

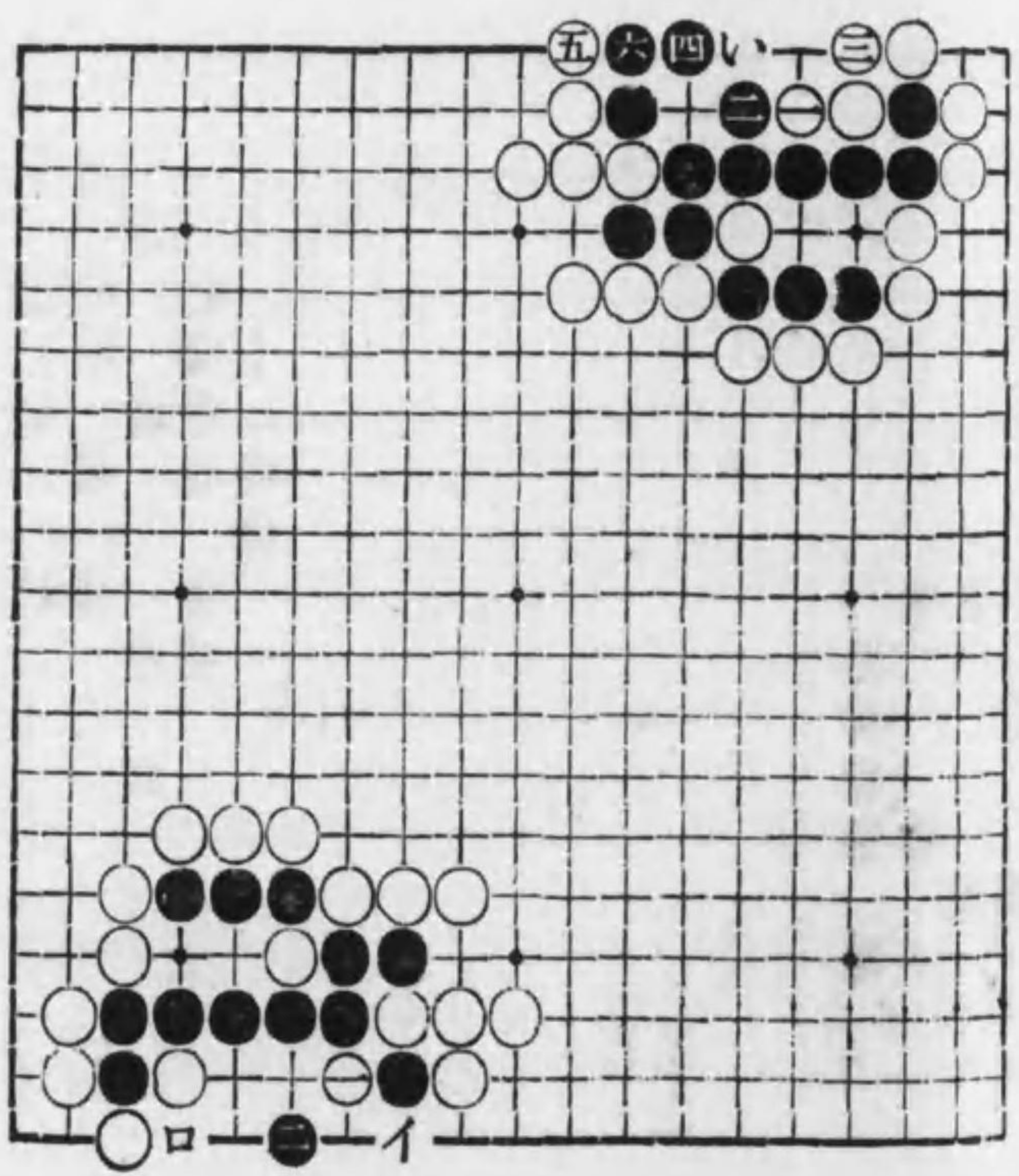
黒巧いとは白(イ)に黒一
と先手劫取。黒一を三だと
白(イ)黒一白二と白先手劫
取。



一四八

上圖、白一は以下黒六、
そして白(い)と劫争に妙。
黒二を三なら白二で要す
るに無條件黒を取れ。と判
る等。

白一を下圖一だと、黒二
が妙。
即ち黒二は次に(イ)の下
りと、(ロ)の打込み。何れ
でも黒活き巧い一手。



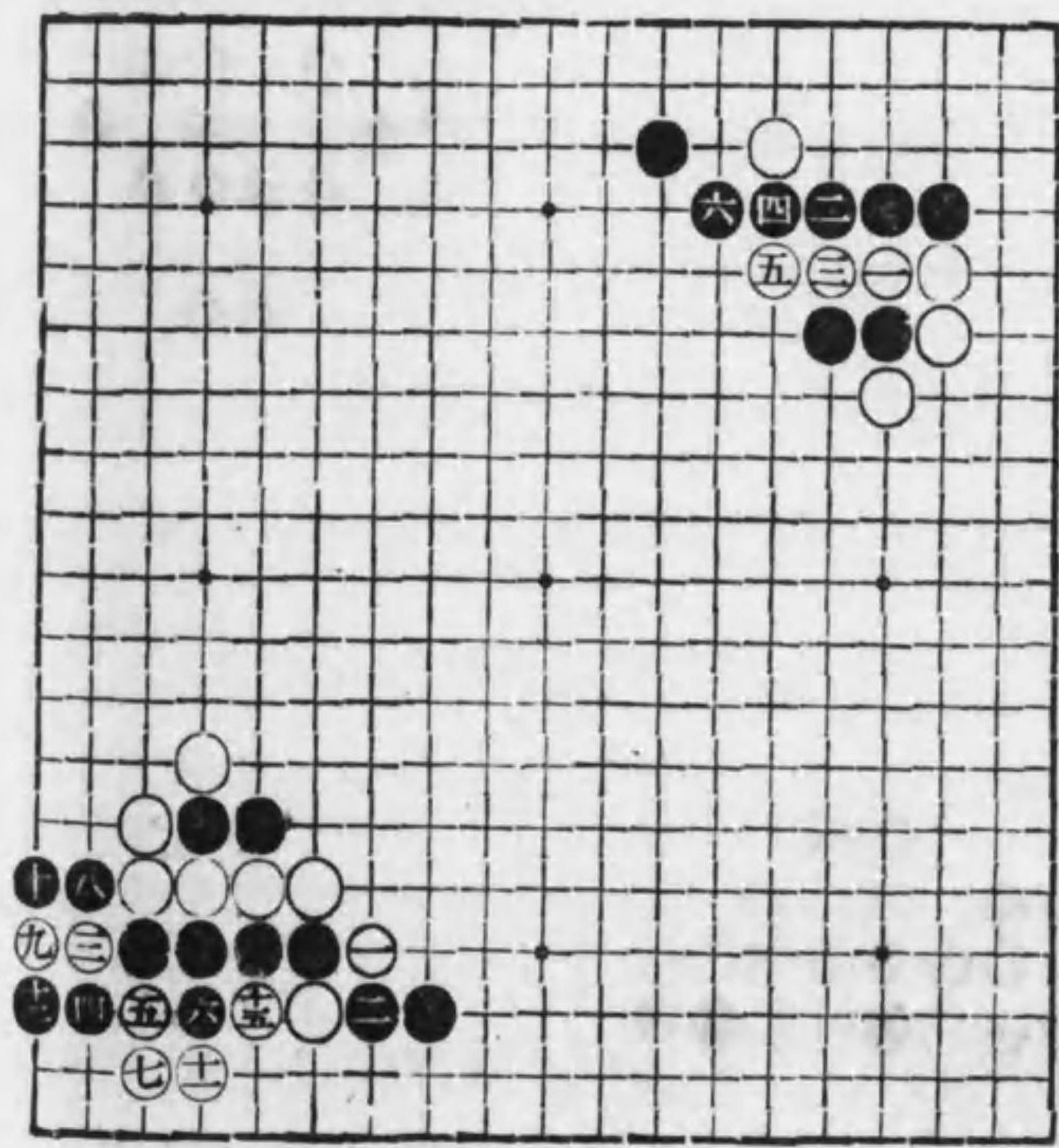
一四九

上圖、白一より五には黒六まで何れも必要の手所である。

殊に黒六を手抜だと、下圖白一以下——

黒十二、そして白十三は三の所、黒十四は九の所の時白十五。

夫れが次圖であつて、更に黒一と粘ぎ白二と成つて黒は大敗。と解る筈。



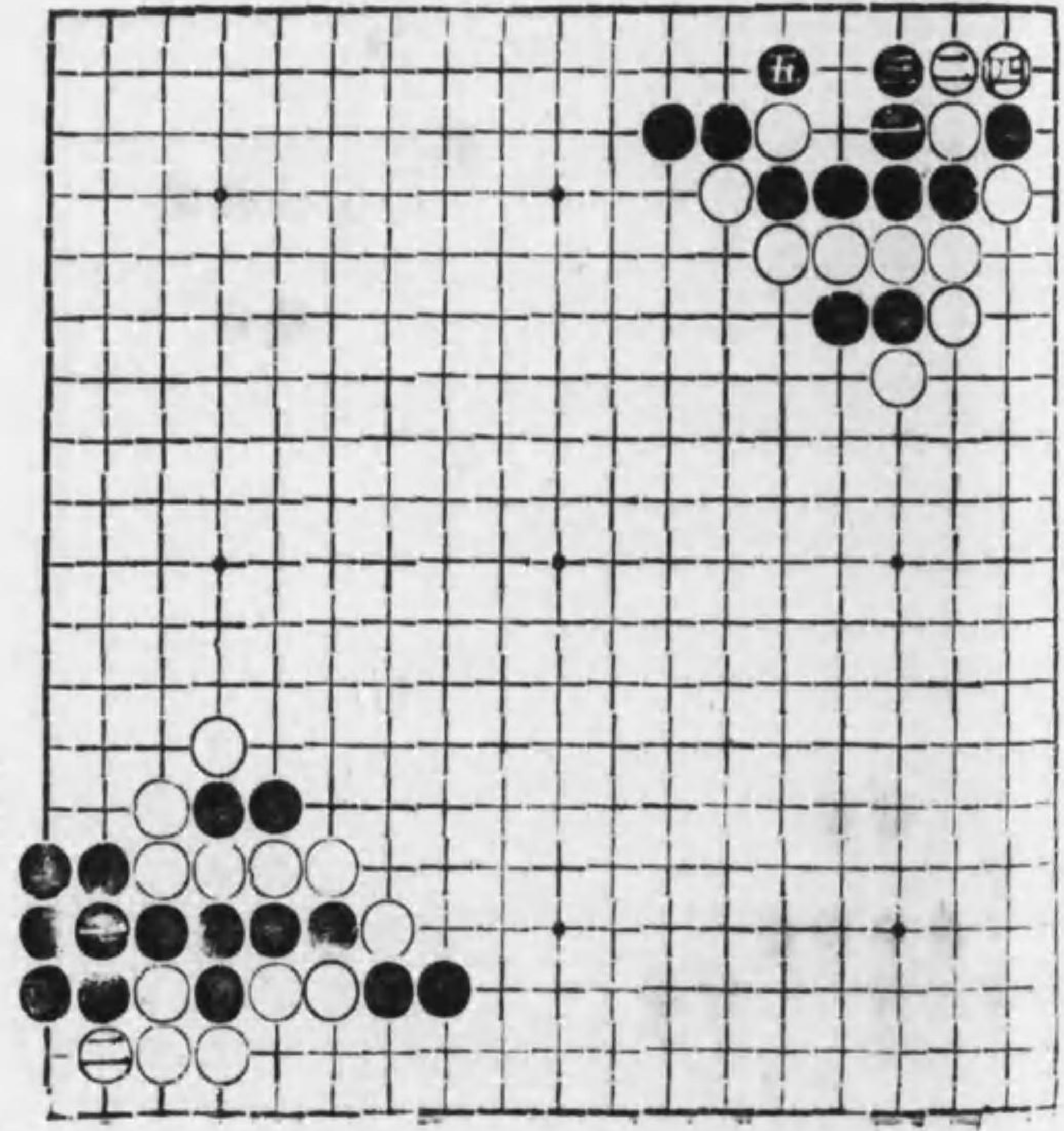
一五〇

さて前圖、白三と五が絶妙の手所。

故に前圖上方の黒六が必要の理。

處で黒も本圖の下方までは行かないから、變だなど氣づき——

等で本圖上方黒五までの治まりであらうが、何んにしても黒大變な損。

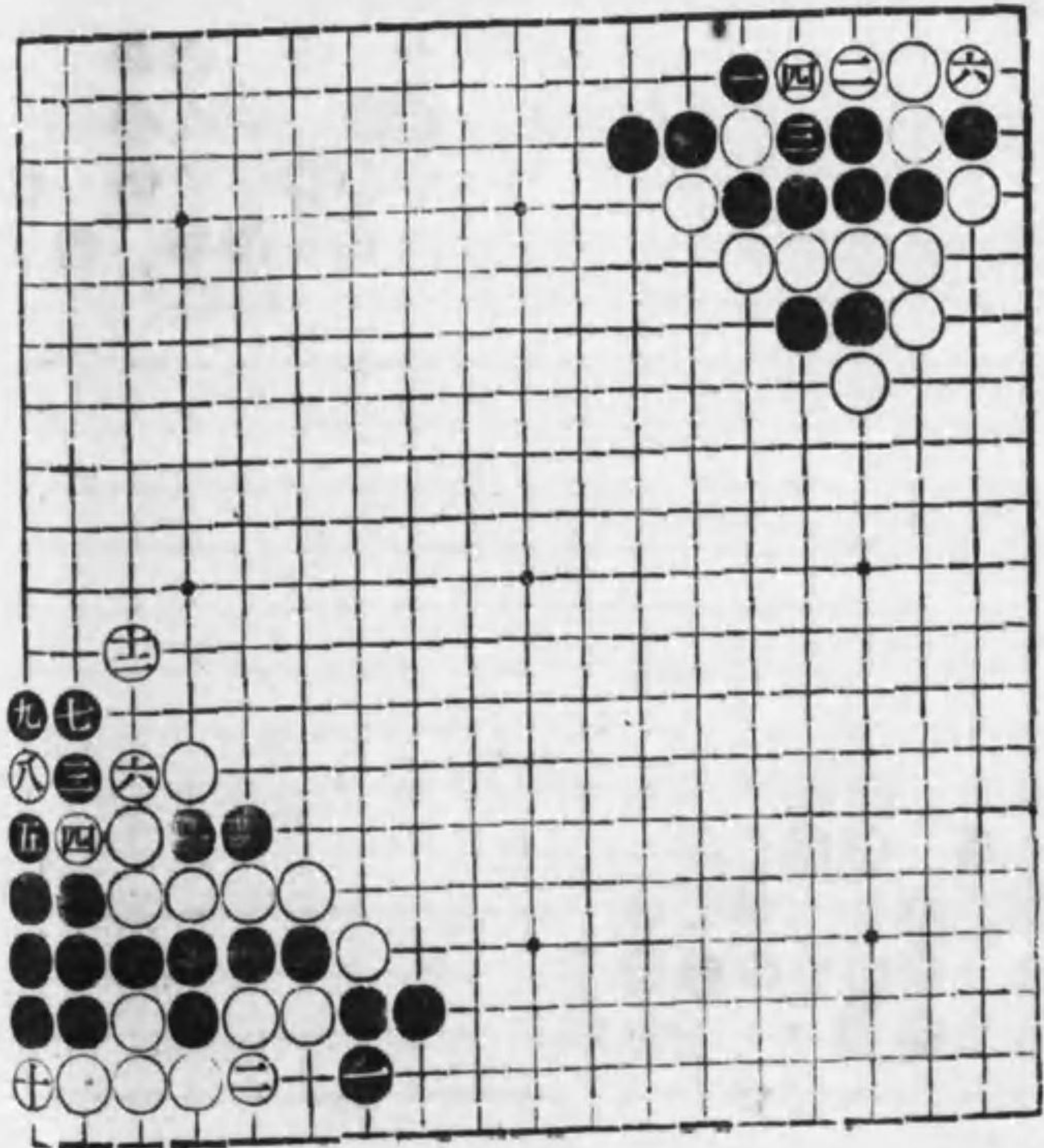


一五一

なほ前圖續行であつて、
前圖黒五を本圖上方黒一だ
と――

白二以下六で、黒五は一
の下に粘、と成つて黒先手
だが、先手に替へられない
即ち黒一は損な手所。

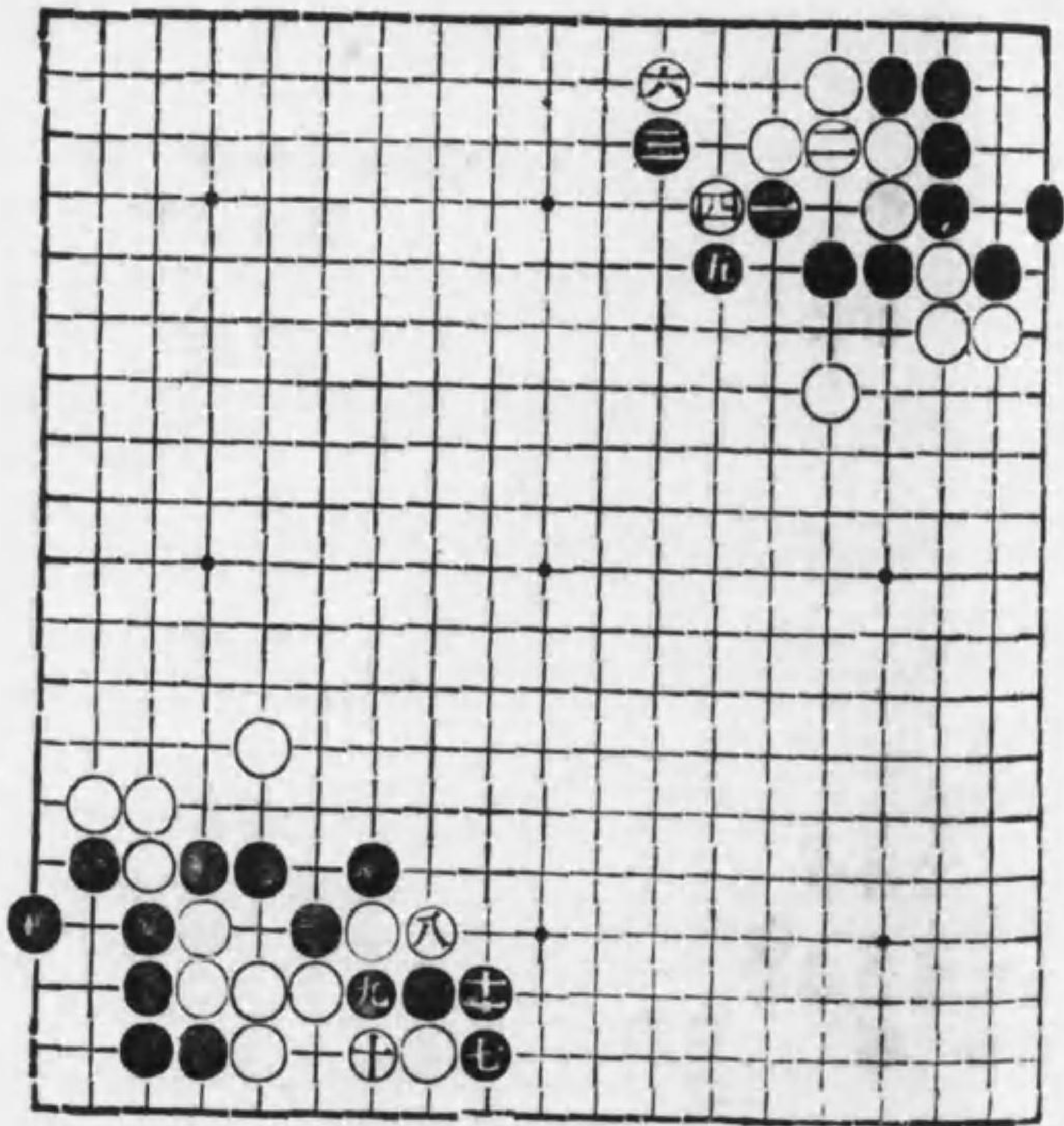
また下圖黒一以下三なら
延いて白十に黒十一は八に
粘、そして白十二で終り。



本圖、黒三が巧い手所。
そして白六に――

下圖黒七で以下黒十一と
成つて、要するに上圖黒三
と、黒三の一手に白は不結
果。

で黒一の前に白一と其點必
要である。



右側、黒三は一石二鳥と
でも云ふ——

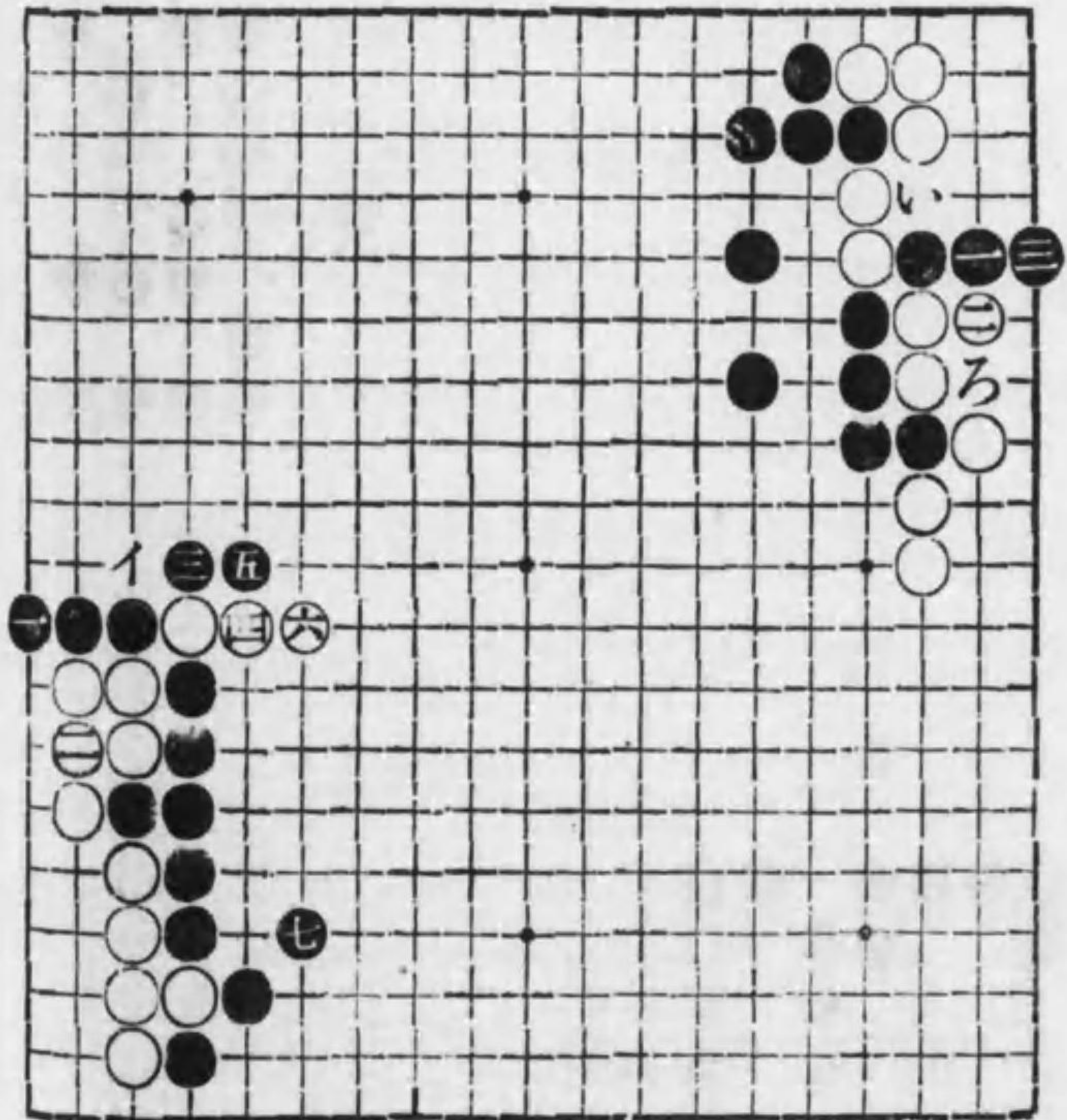
即ち(い)と(ろ)の何れか
は獲れ、黒三は輕妙の手所
である。

左側黒一も以下黒七と、

上下整調。巧い手所である

觀られよ、白(イ)とは切
れない。

また黒七と其處を強化
と。



一五四

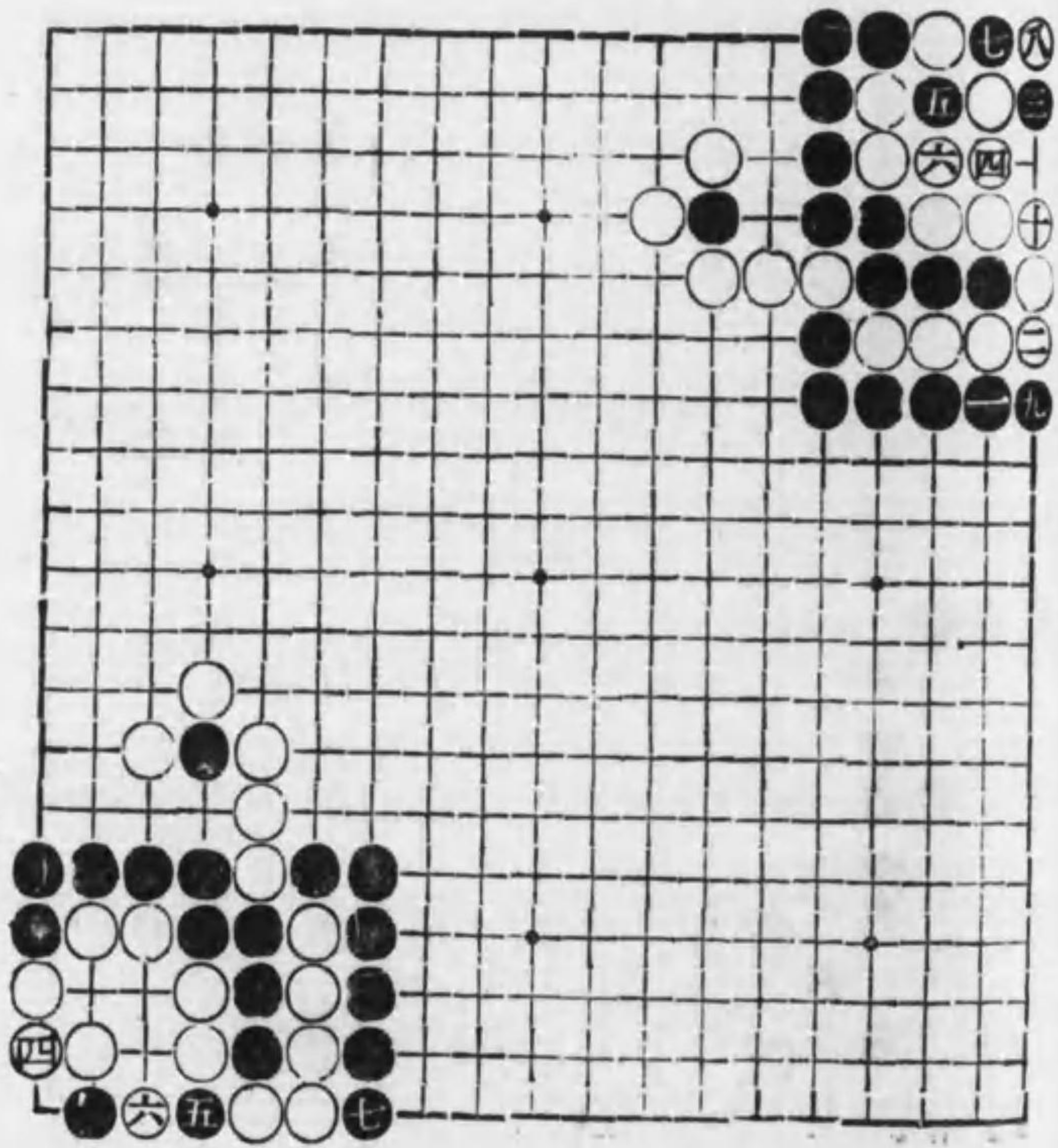
上圖、黒三が其他に無い
妙絶の——

以下先づ白八に黒九は劫
立て、そして黒十一と七の
所に劫取り。

で黒快勝の手所。

白四を下圖四なら、以下
黒七と成つて白五には粘げ
ない、これまた黒五が妙で
ある。

等で白四は五、次に黒四
と劫が。白に可。



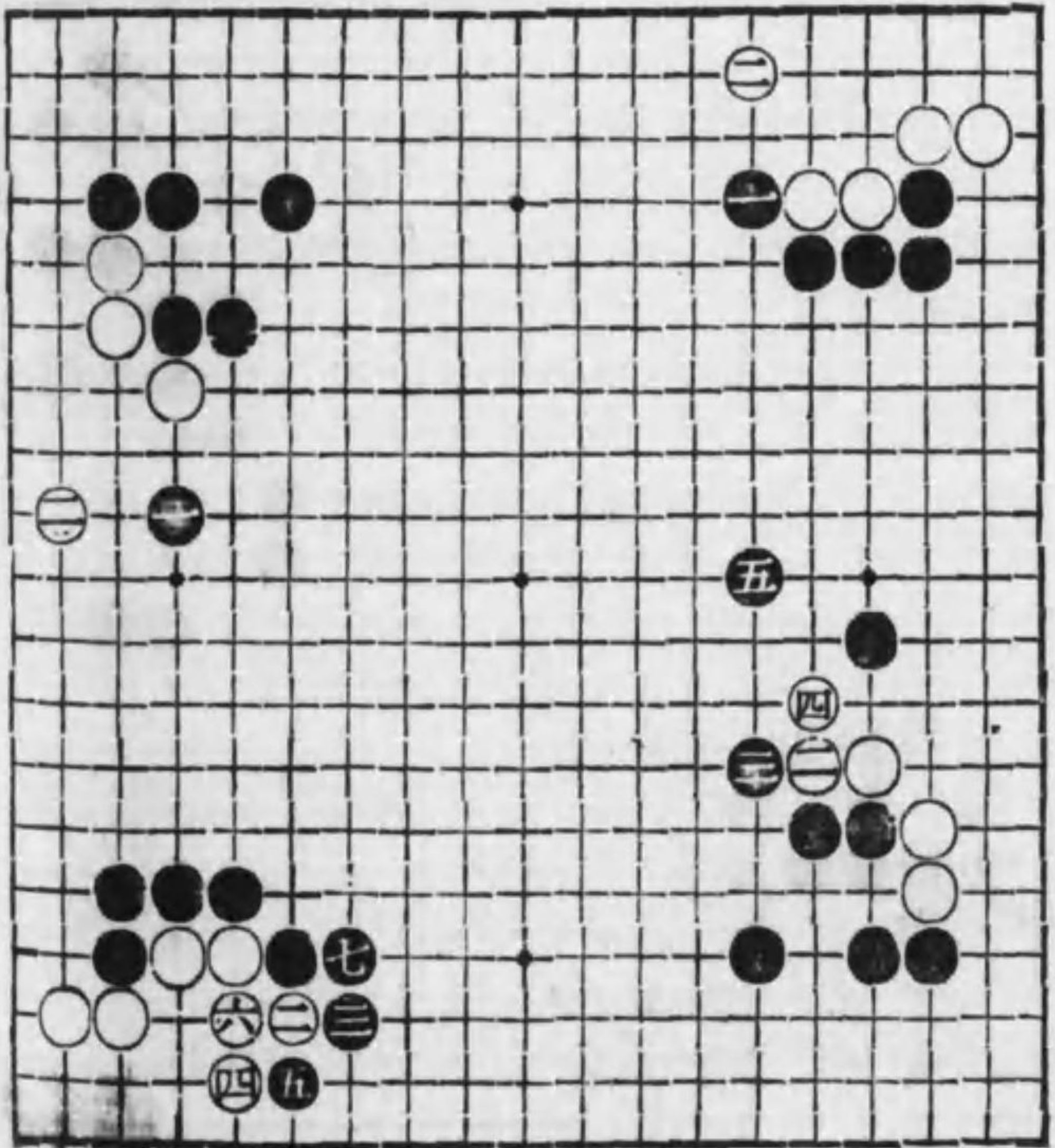
一五五

上圖右、黒一に白二は軽い佳類。

白二を下圖左の二だと、以下黒七で、白は重い思ひの黒は強化好展である。

上圖左、黒一に白二は軽い佳類。

白二を下圖右の二だと、以下黒五で、白は重い思ひの前途も、行路難である。



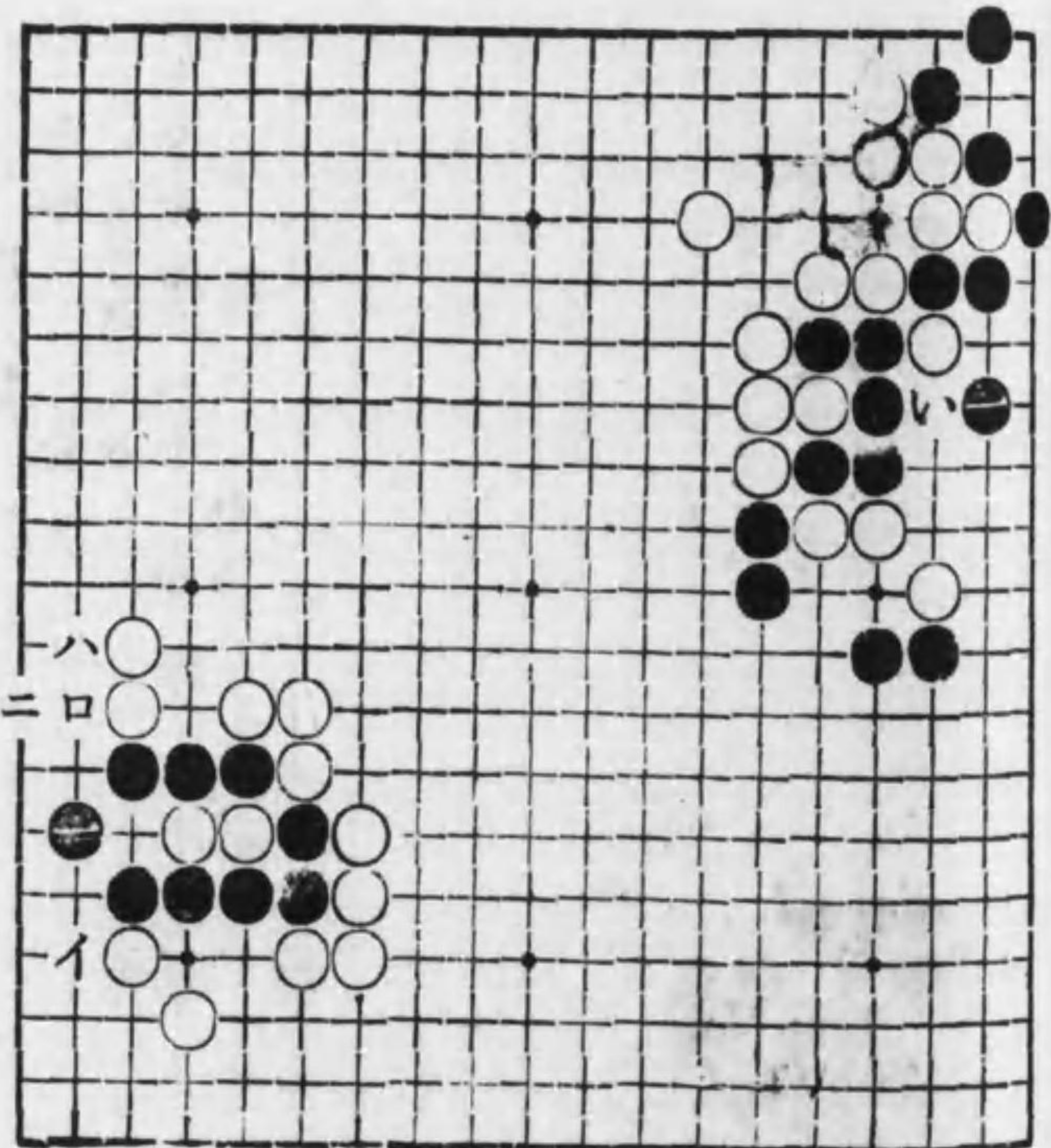
一五六

右側、黒一は絶対的の常識手所。

例へば黒一を(い)だと、白一で黒大敗である。

また下圖黒一も夫れが絶対的の活點。

そして白(イ)、次に黒(ロ)白(ハ)、黒(ニ)と成るもの本圖も常識手所。



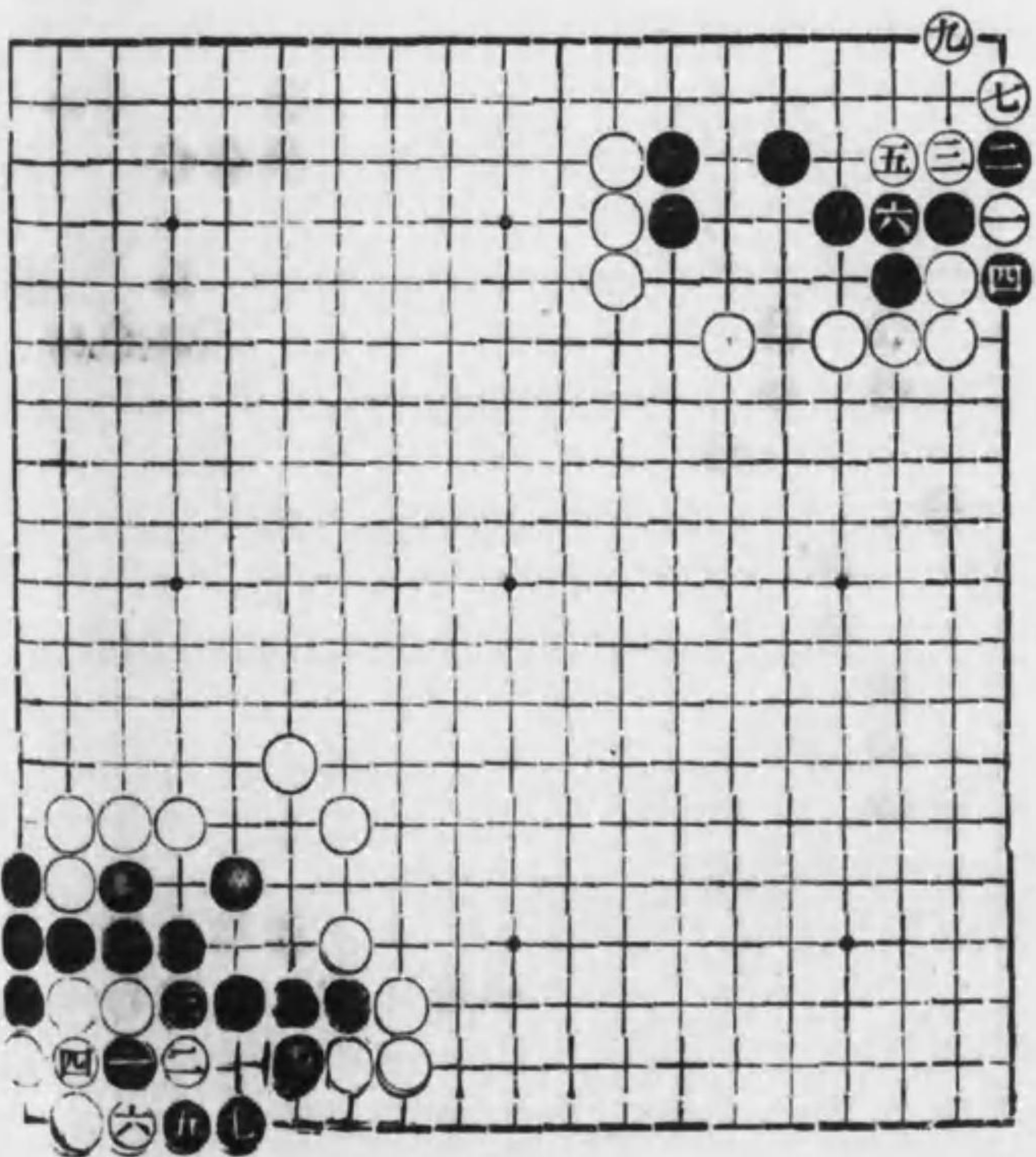
一五七

上圖、白一に黒二だと、先づ白七と成つて、黒八を假令ば一に粘ぎなら、白九と白活。

されば黒二は三の所と知られよ。

處で下圖の如き黒の構へなら、即ち上圖白九と成つても――

黒一と五が取分巧い、白奪取の手所。と注意せられよ。



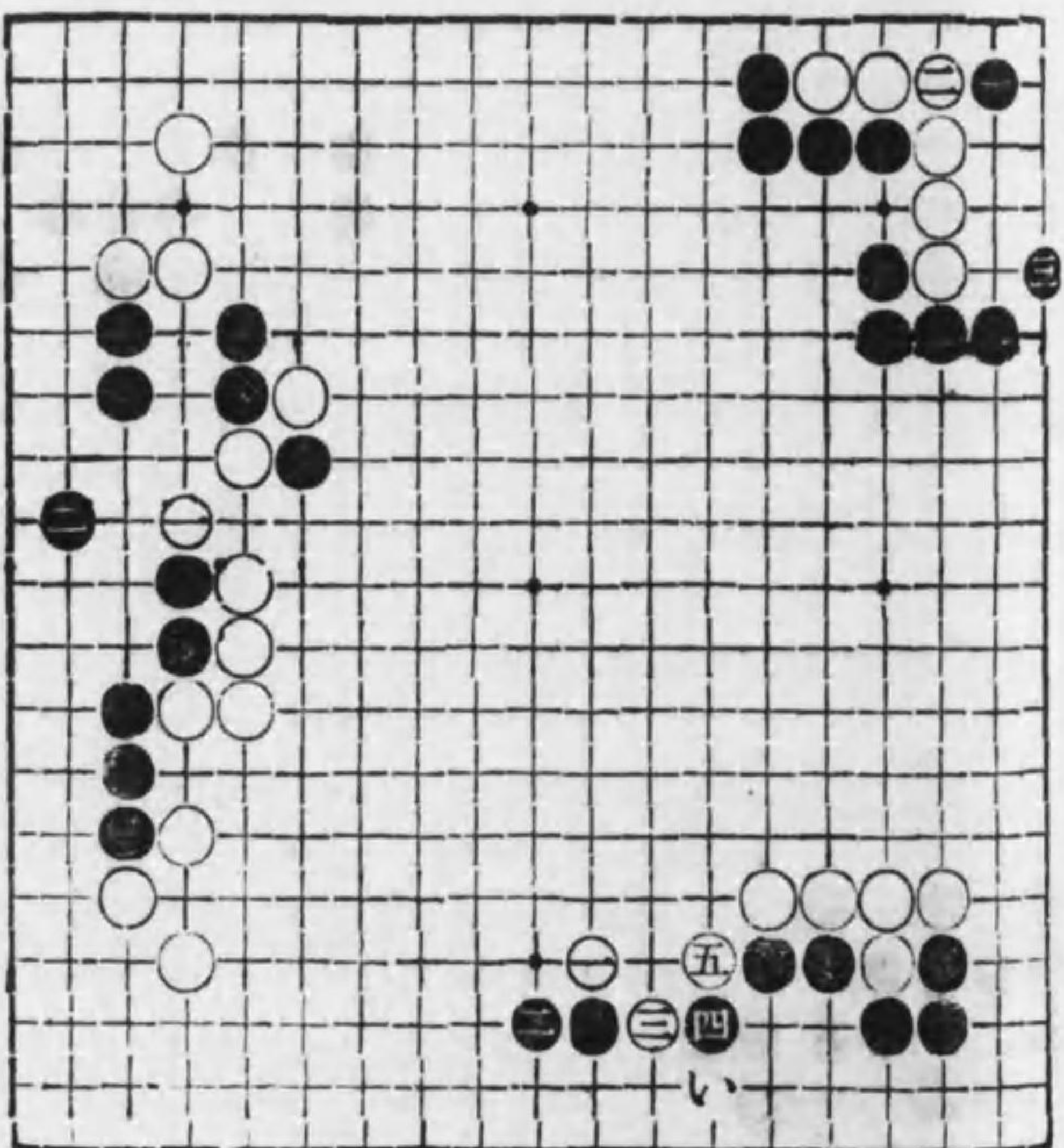
上圖、黒一と三は其間が確實連絡、簡單に白奪取の手所である。

下圖白一に黒二だと、以下白五に見る黒悪化、白五が巧い手所。

白三を五だと黒(五)で、即ち――

左側白一に黒二と、黒二が上下連絡に妙。

と黒(い)は同じで白三を五は拙い手所。



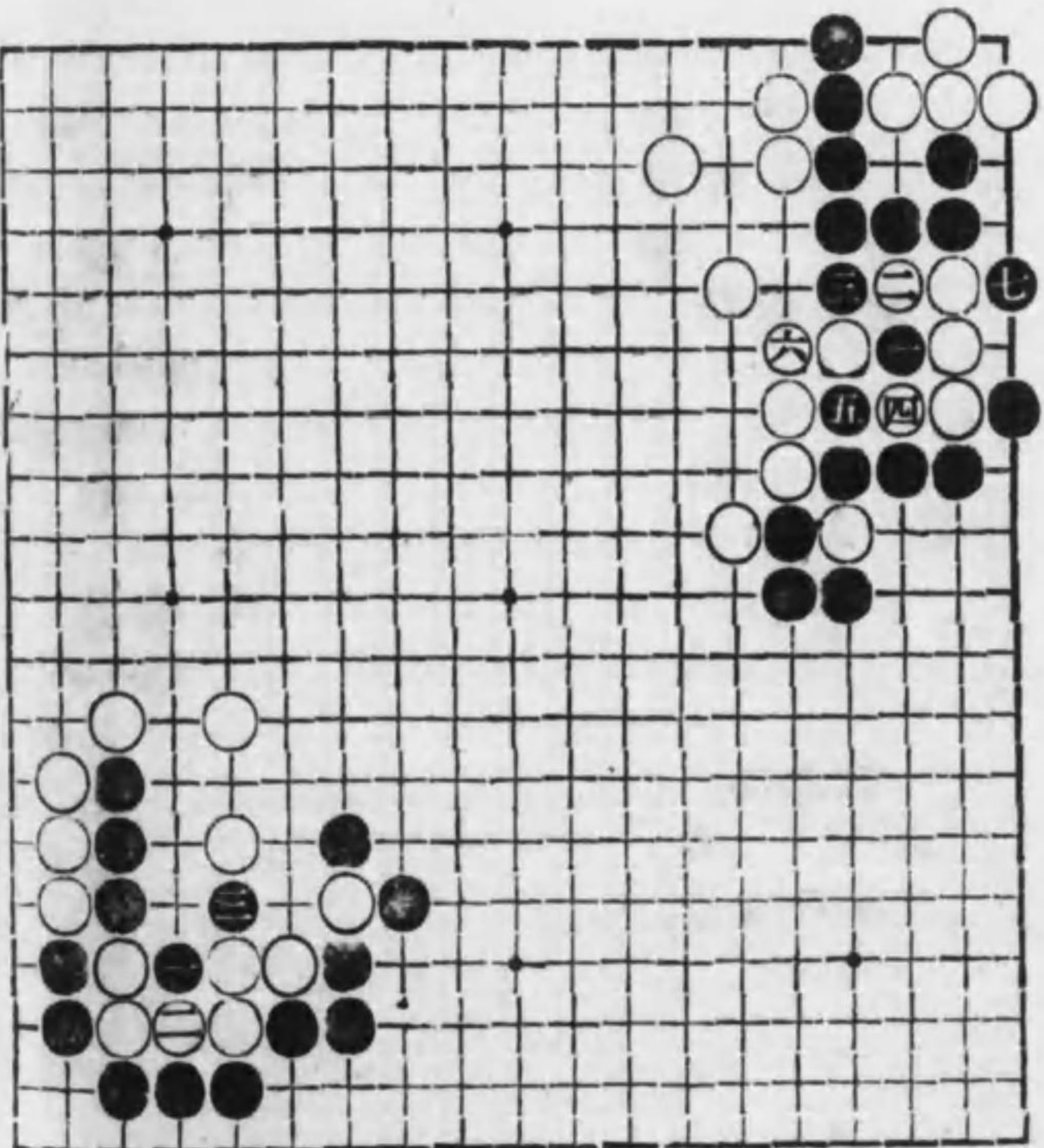
上圖、黒一以下七は黒巧
い上下合體に妙

即ち隅の黒は白に取られ
て、夫れを奪返しの手段で
ある。

下圖、黒一も一で黒三子
奪返しの手所――

次に白二なら黒三といふ
要領である。

黒一を二だと、白一で黒
悪いも悪い俗手で不成功
と解る筈。



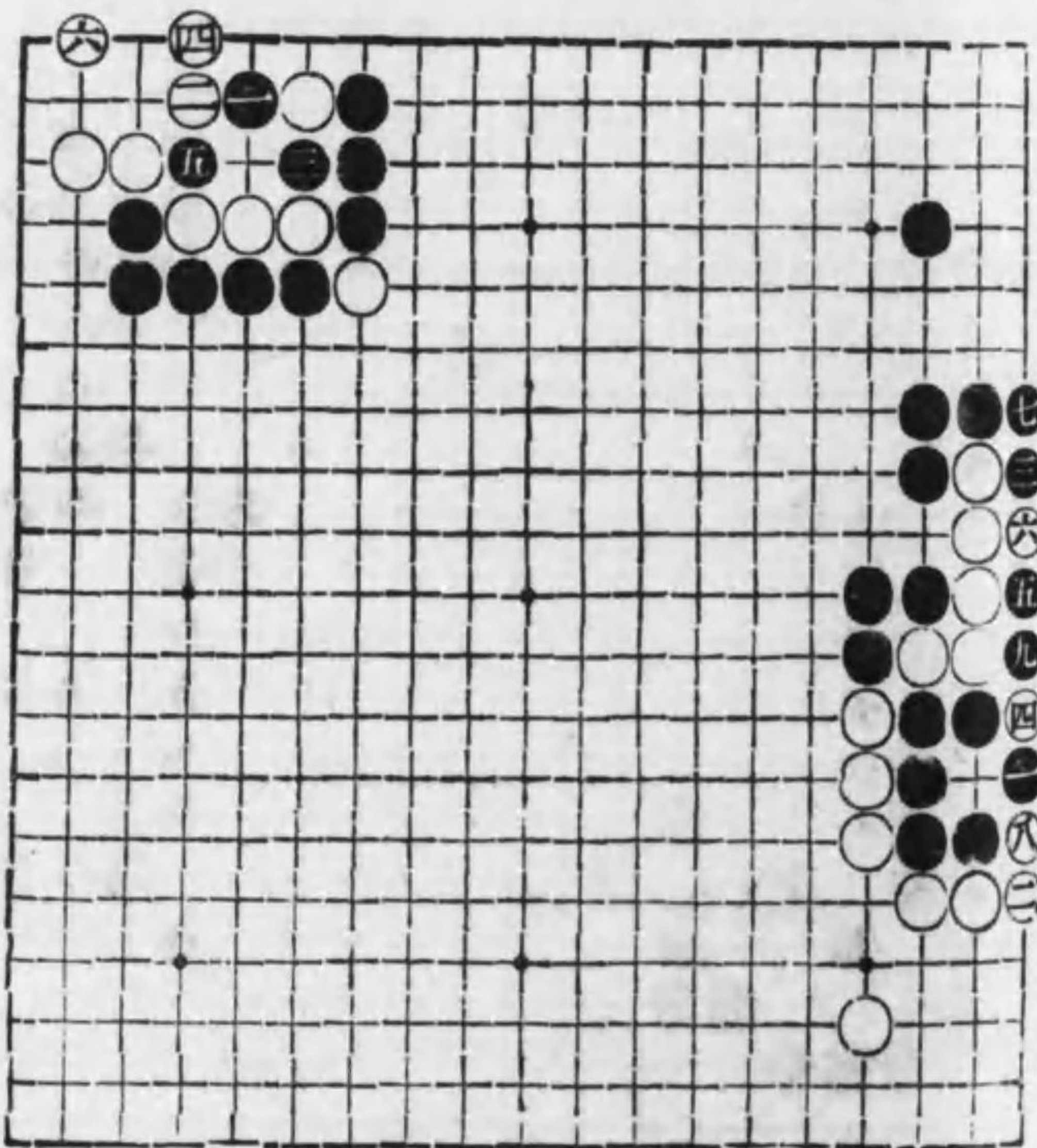
右側、黒一は巧い手所、
應用範圍も廣い。

白二は以下黒九で白は取
られ。と判る筈。

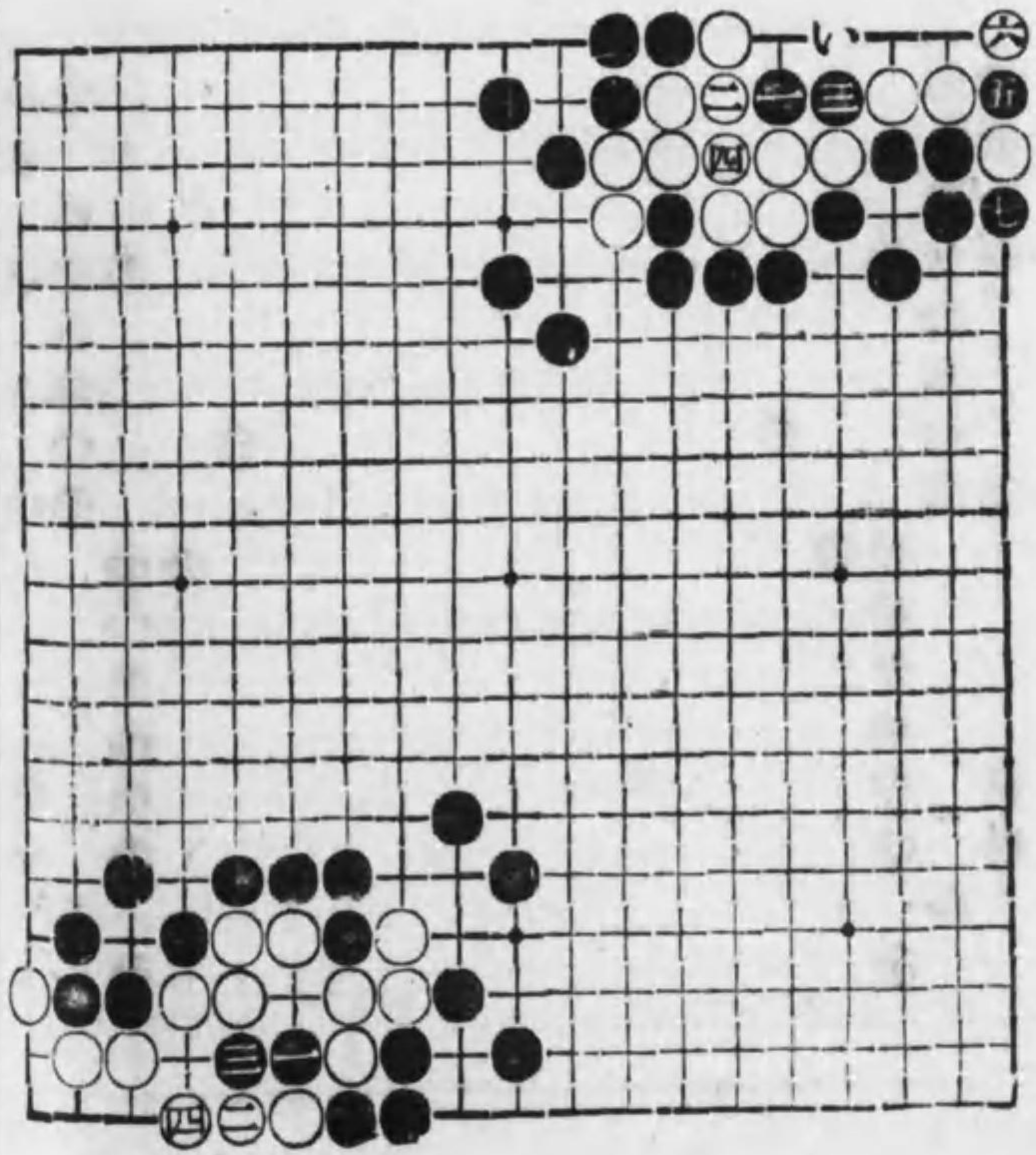
されば白二を九だと、次
に黒三白六黒七白二で平和
のセキ。

だが白二を九の時、黒二
で劫争も黒にある。等も參
照せられよ。

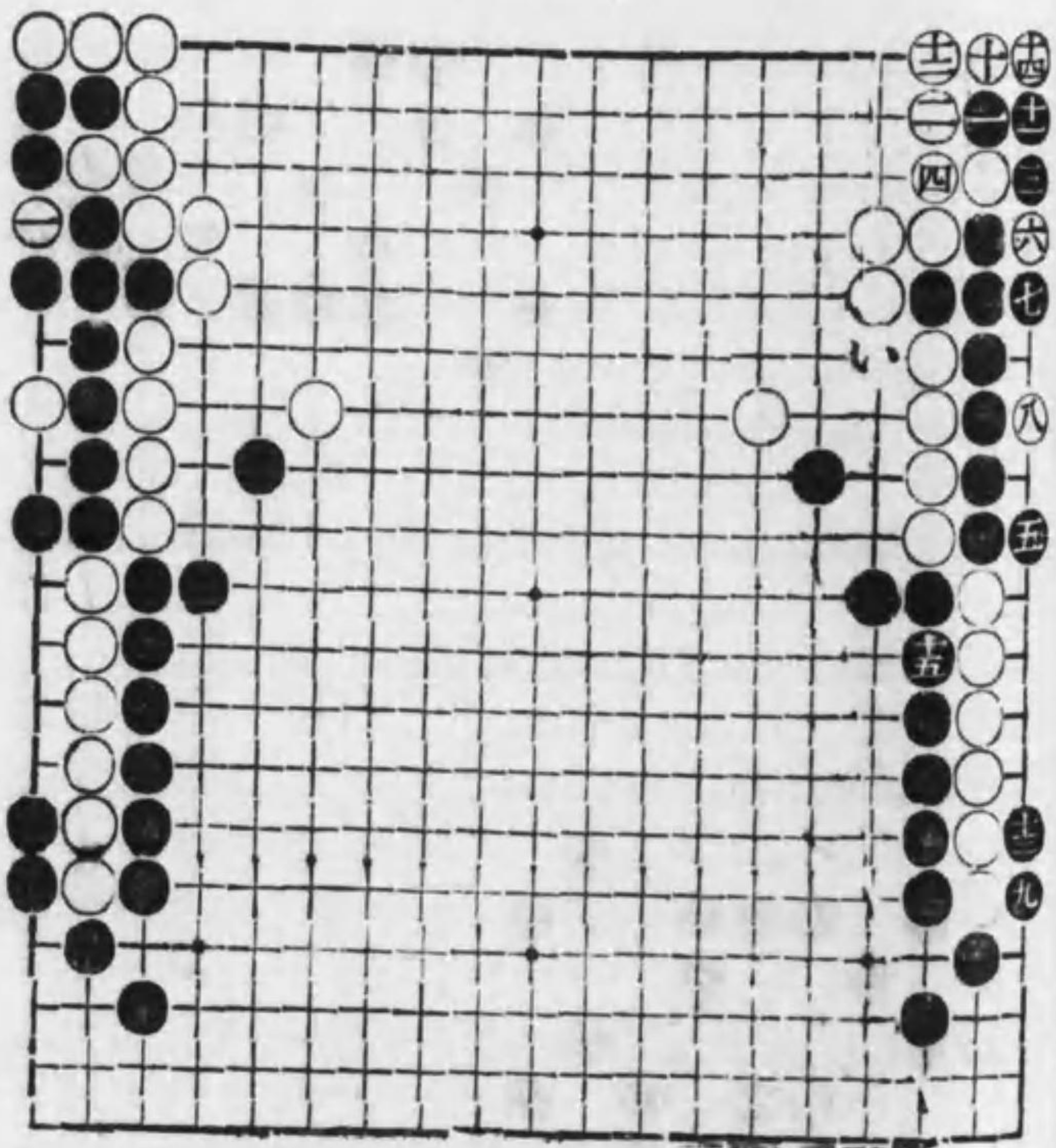
左隅黒一に白六までは其
他に無い。



上圖、黒一は白二を三なら、黒二で白を全滅し。されば黒七までの、次に白(い)黒五と成る劫争の他は無。が黒一は劫争と成つて妙の一手である。下圖黒一は以下白四で、何んにも成らない輕卒の手所。

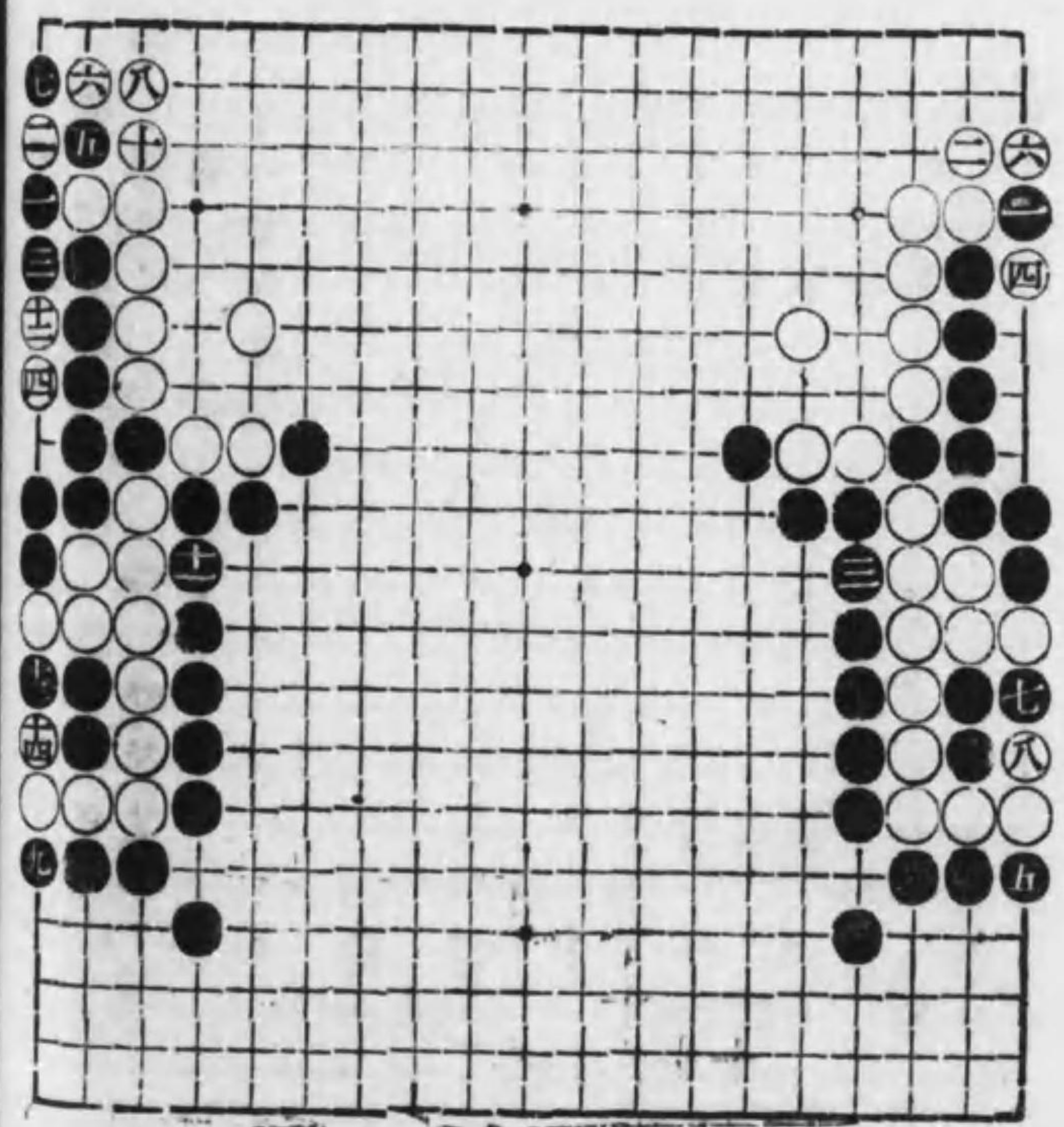


本圖黒一は右上隅であつて、白二を三なら黒四。夫れは問題に成らない白惡果。即ち(い)の點を見て以下黒十五と成つて—左側に轉じ、更に白一と黒三子打抜。次に黒その白一を取り。即ち黒攻合勝ちである、右側黒一が旨い手所。と判る筈。



右側、黒一を五だと、白四で要するに黒攻合敗けの自滅。

で黒一が先づ以下白八と成つて、次に黒七の左に打込み、黒一手攻合勝ちに妙處で白にも巧い白二を左側二で、以下白十四の次は黒十五を十三の右。そして白十六を二と劫手段の白六が妙。

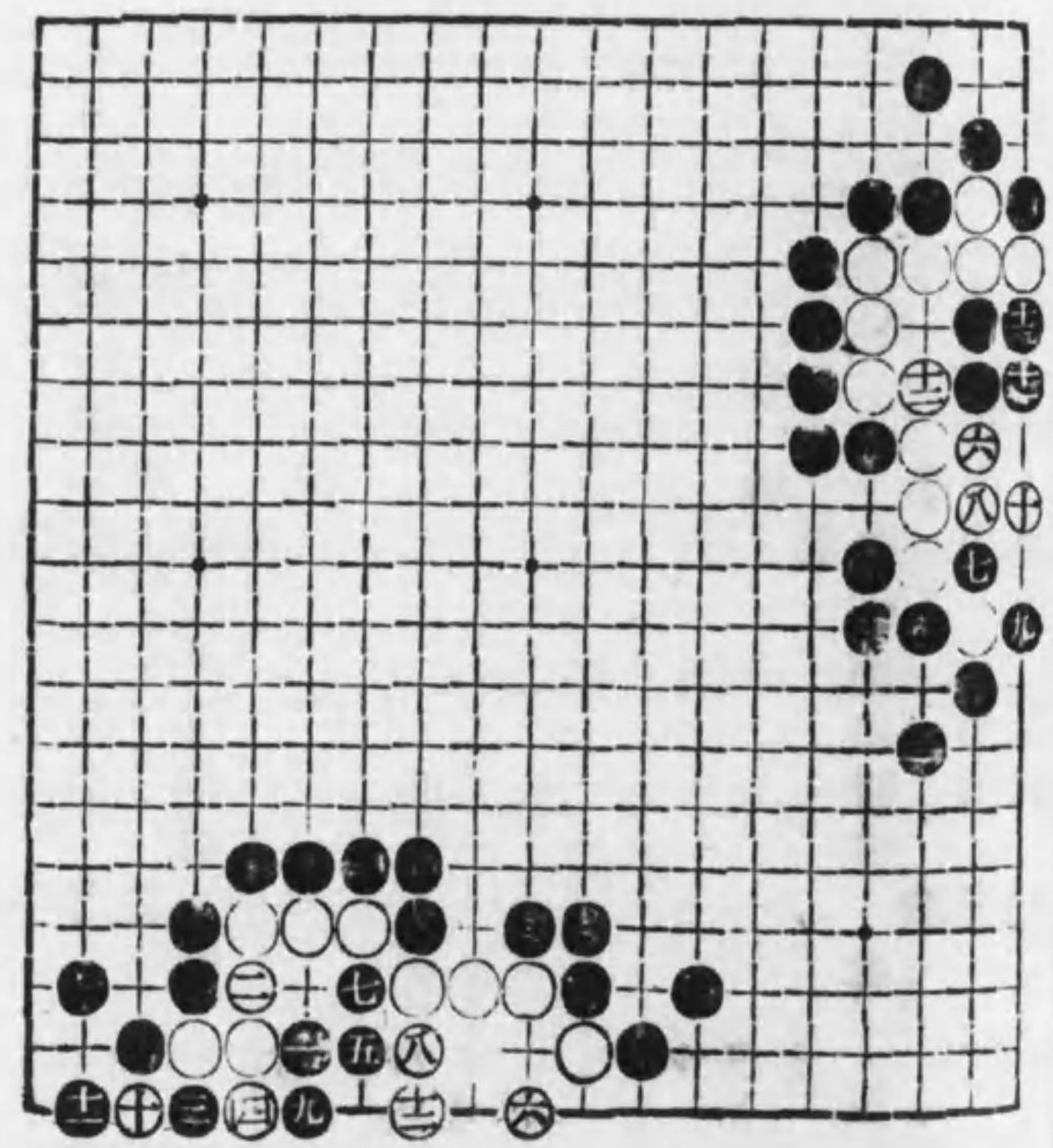


一六四

下圖、黒一に白二を五は黒二で白全滅。

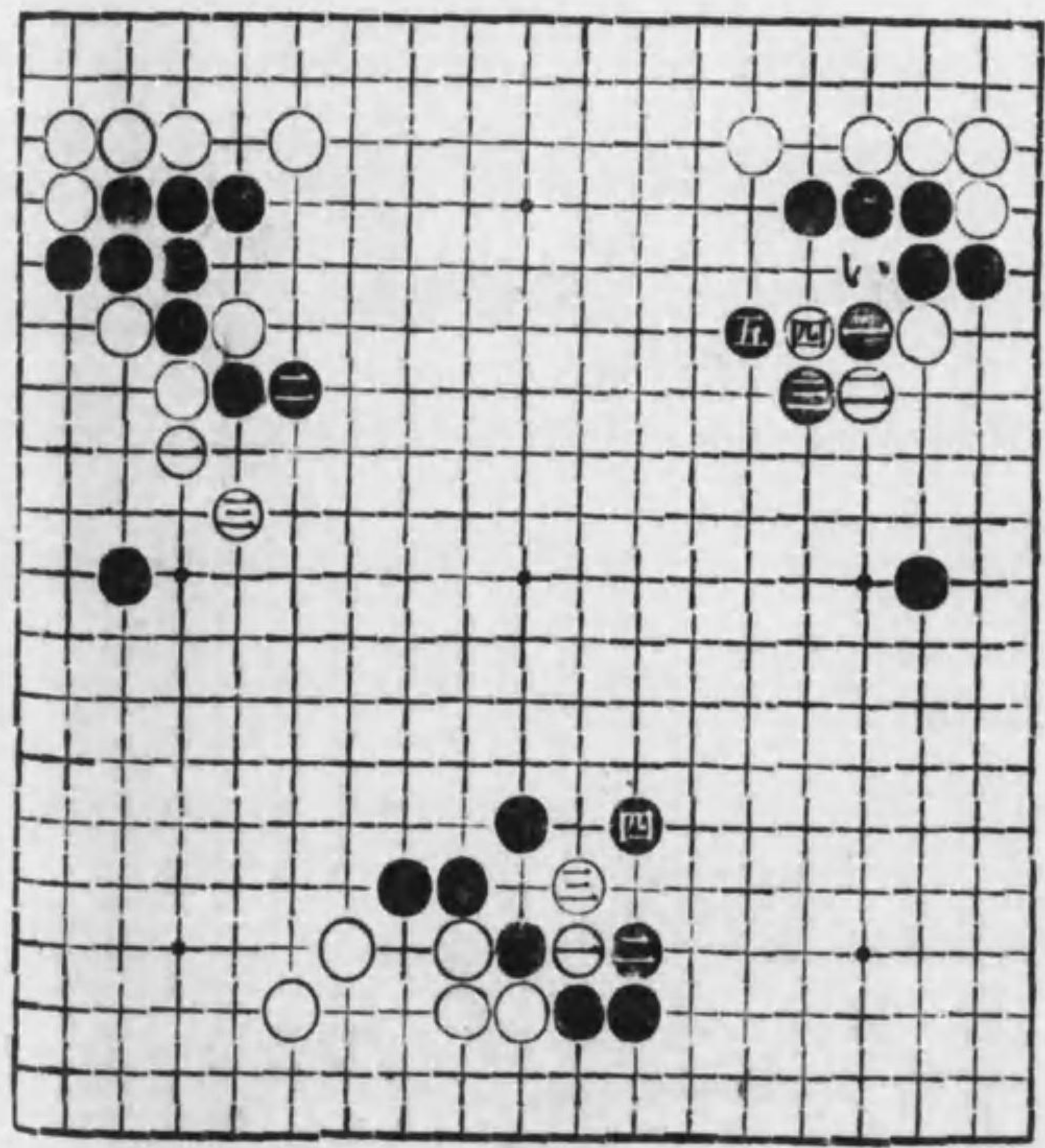
等で以下白十二、そして黒三に劫取りと成る他は無。が黒一と五は巧い手所である。

なほ白六を右側六だと、以下黒十三と此れも白全滅。黒十三は其處で白セキ活きの所。白十二を十三は黒十二。

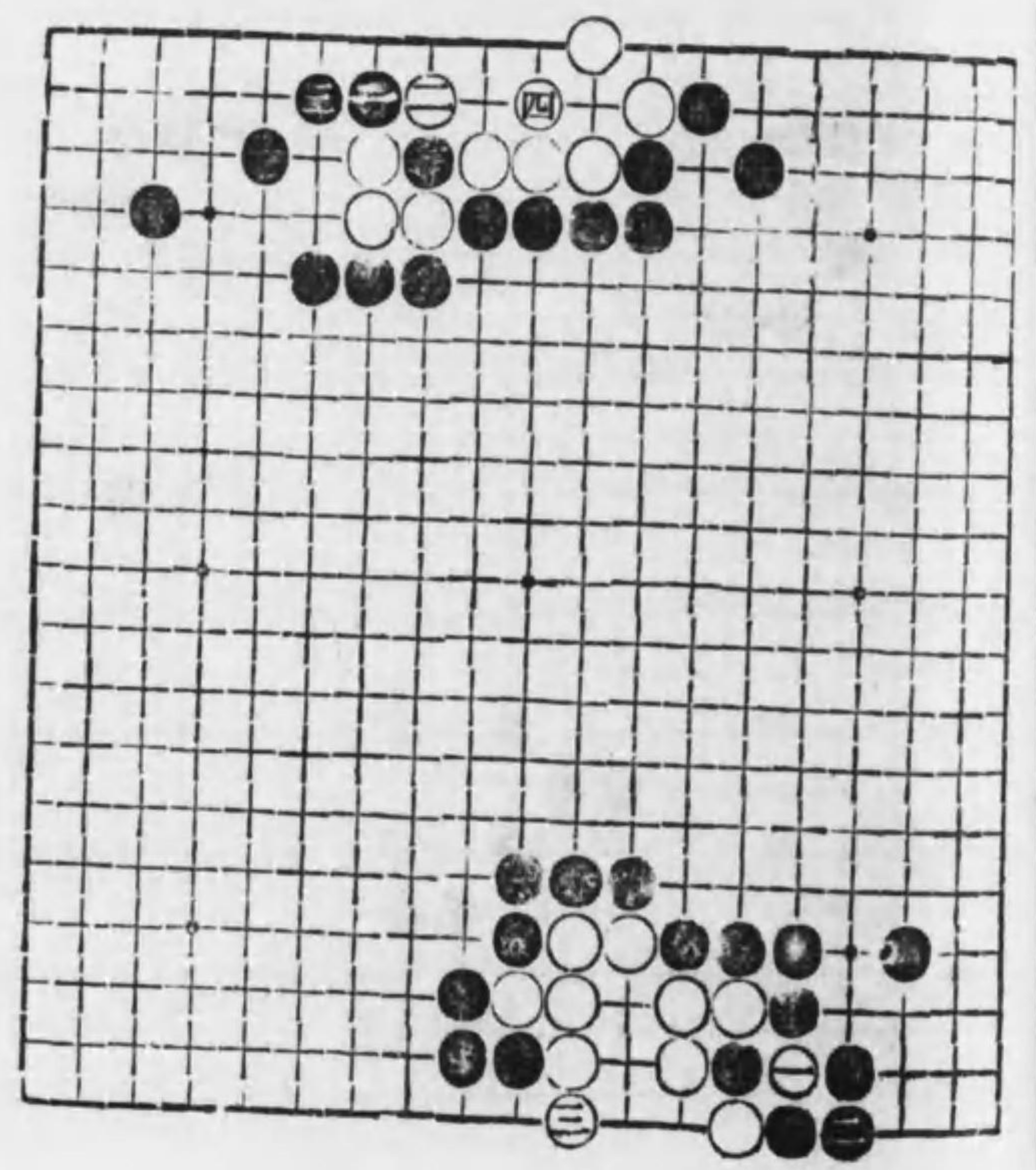


一六五

右側、黒一は必要、また白二に黒三、白四に黒五。と其黒三手は常識の手所。黒五を(い)だと左側白三と成つて、以下の推移も黒不結果。と観られやう。なほ下圖の如きでも白一に黒二、白三に黒四が黒旨い手所。と覺えられ度いもの。

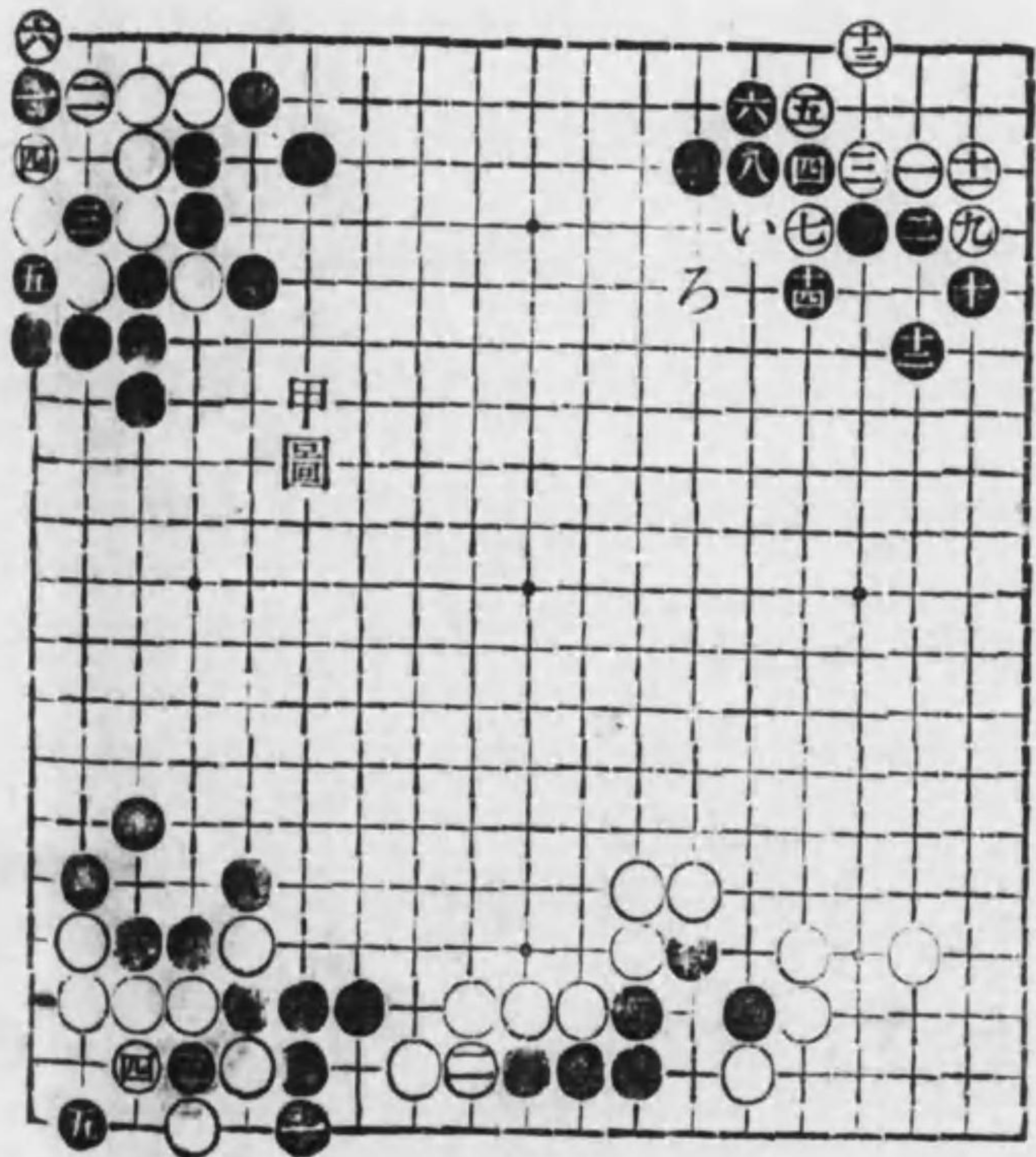


上圖、黒一以下白四は、黒先手に白地を減じ、黒一が妙。とは白二を三なら黒二で白は自滅。と解る筈。下圖白一の劫取りに、黒二は次に白三、そして黒劫争。が—— 黒樂である花見劫。とは黒劫に負けても害が無い要領。



上圖右の白一より黒十四までは、白先手活きの要領併し白(い)なら、黒(ろ)で白を取れ、其處は定石處で下圖一帶の關係だと黒一と三が五で白を取れ巧い手月。白二を五は黒二で渡り。

黒三を甲圖一は以下白六と白活。



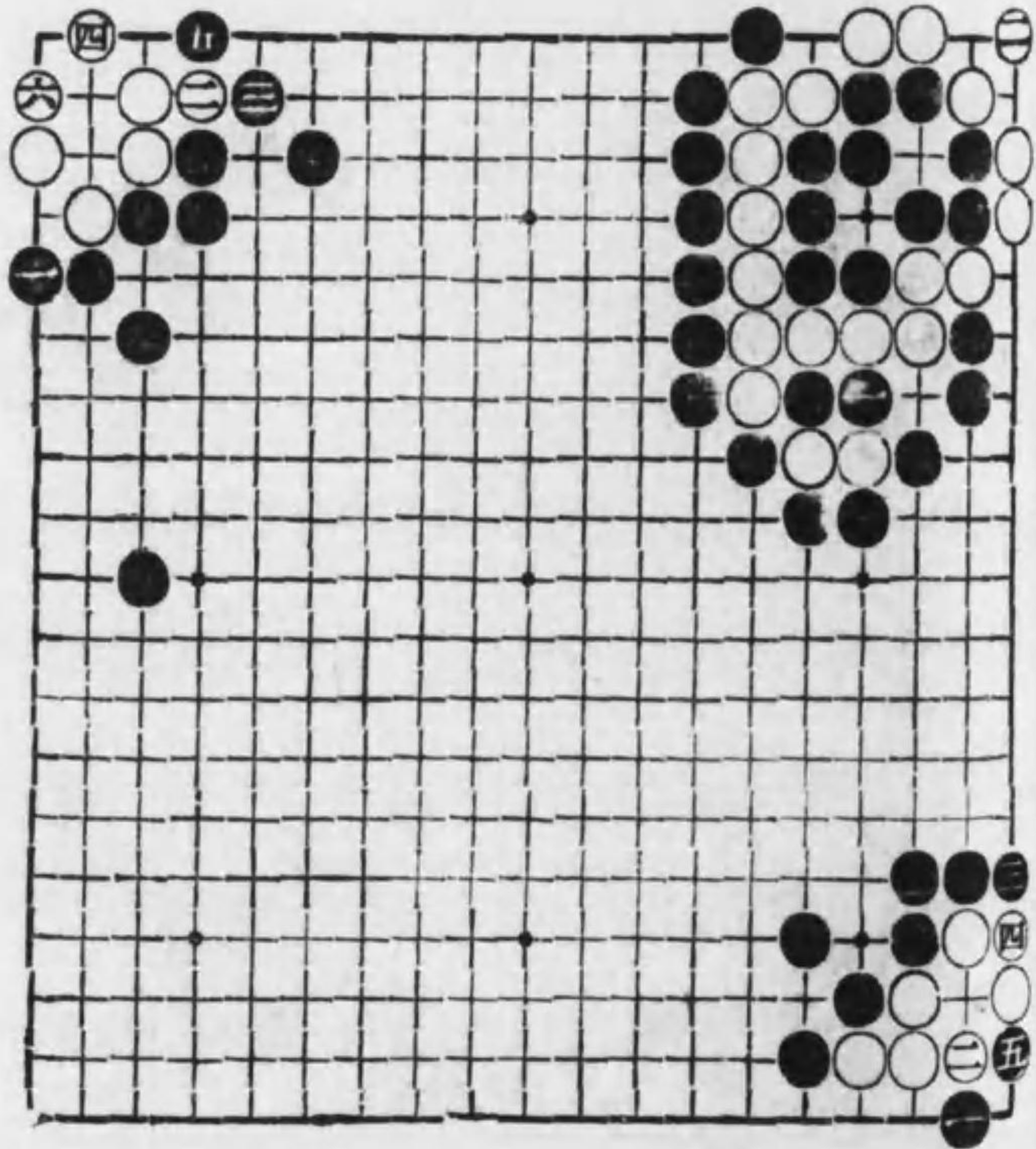
甲圖

上圖右の如きは稀に現はれ

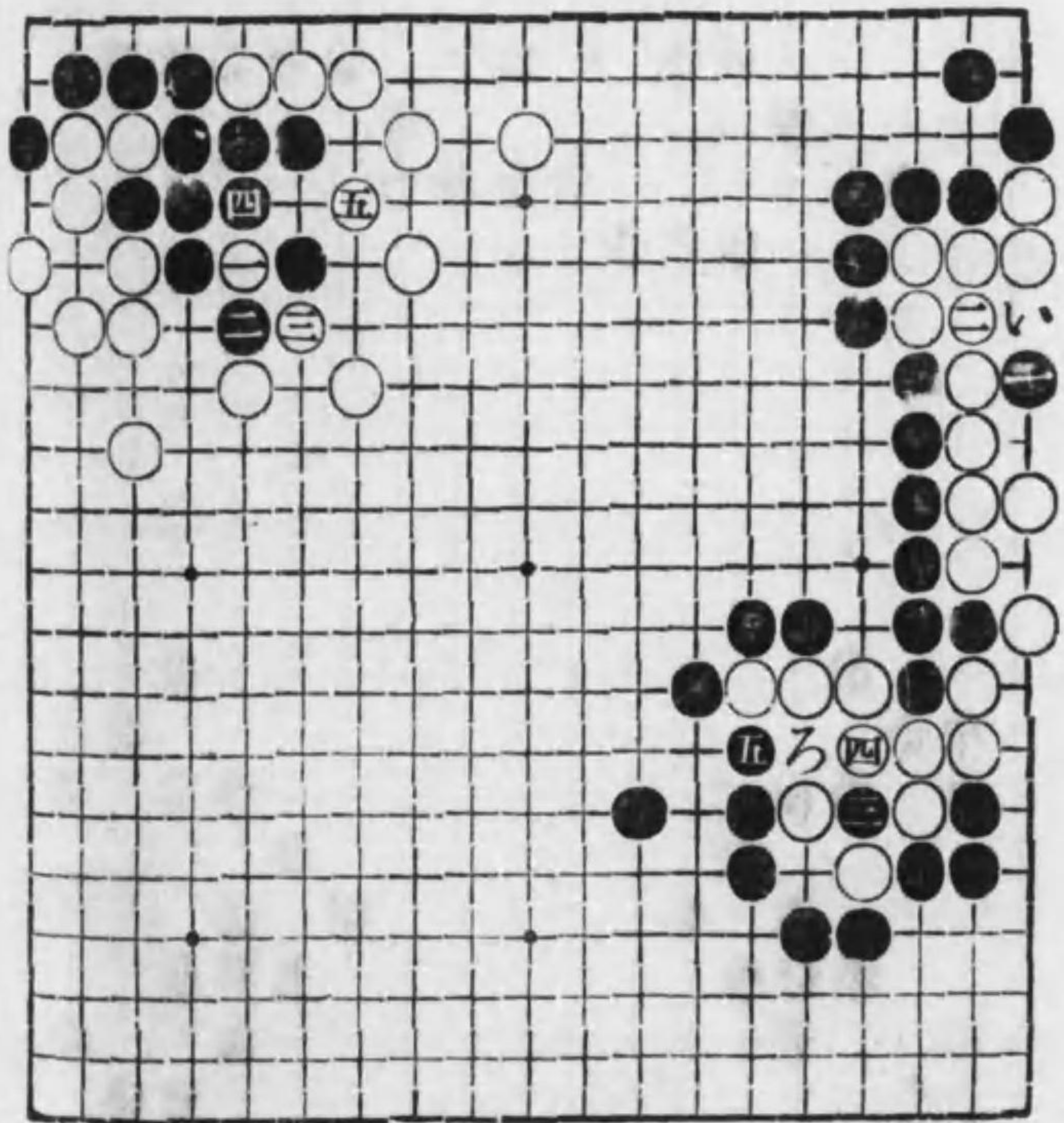
だが黒一白二と二が活點面白い欠眼活きである。と覺えて損のない一題ではある。

上圖左の黒一以下白六は眼二つに白を活かし黒巧い侵分の手所。

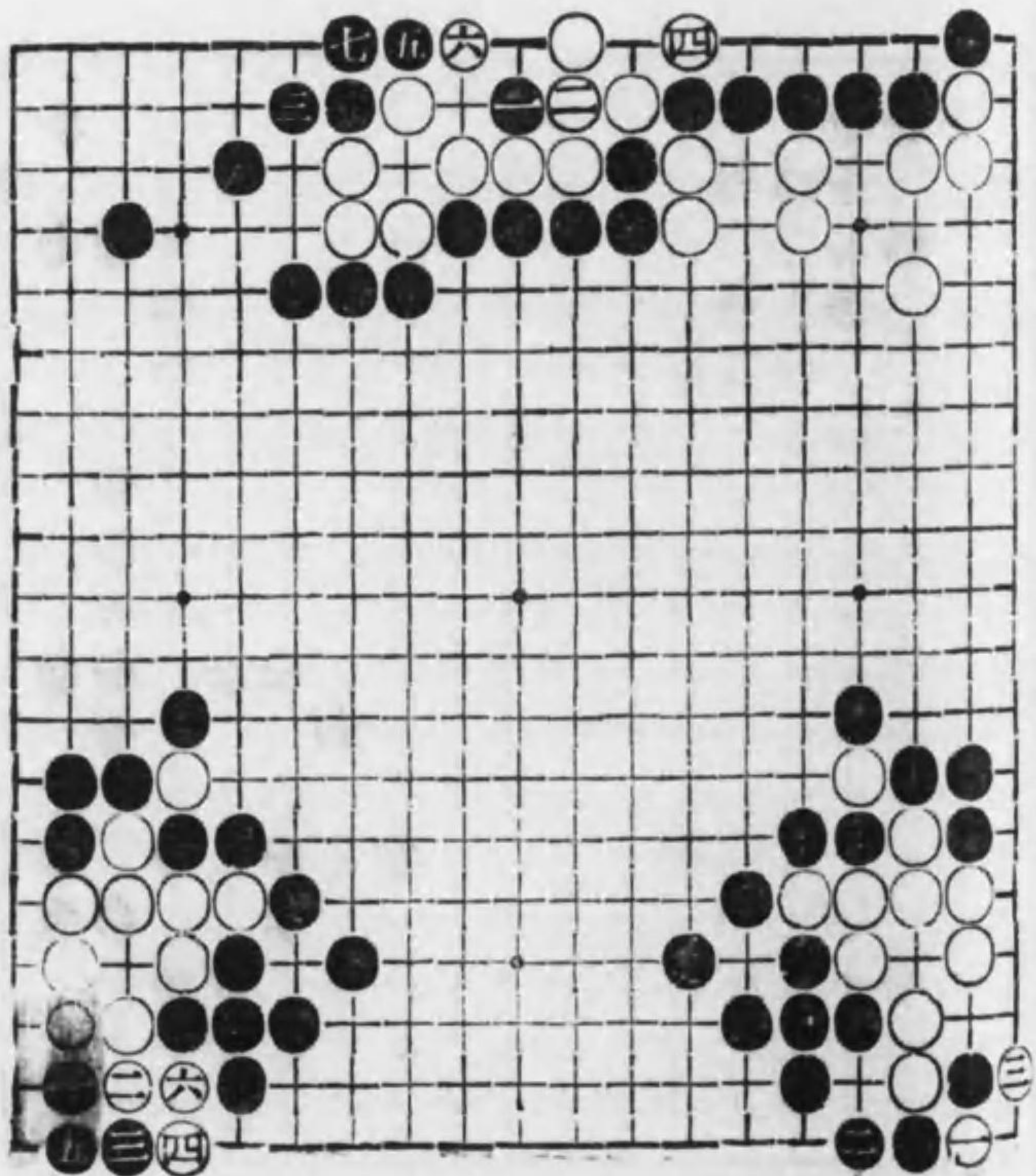
下圖黒一以下五は夫れで劫争の黒一が妙。



右側、黒一は先づ白を一
 眼に妙。次いで黒三も巧い
 白塵殺の眼取りである。
 即ち黒一を(い)は白二で
 黒拙い。また黒三を五だと
 白(ろ)で白確實一眼。
 更に上圖白一は以下白五
 で黒全滅に妙。白一を二は
 俗悪の手所。
 以上にも巧拙俗妙。



上圖は百六十七頁にも出
 て参照せられ度い。
 即ち右方の關係なら、黒
 一白二と替つて黒三が以下
 に見る、黒攻合敗けたが、
 巧い黒の大利である。
 下圖左は、黒一以下七で
 白を取れ、黒一が妙處で
 白にも右圖の劫手段、白一
 が妙。と併觀せられよ。

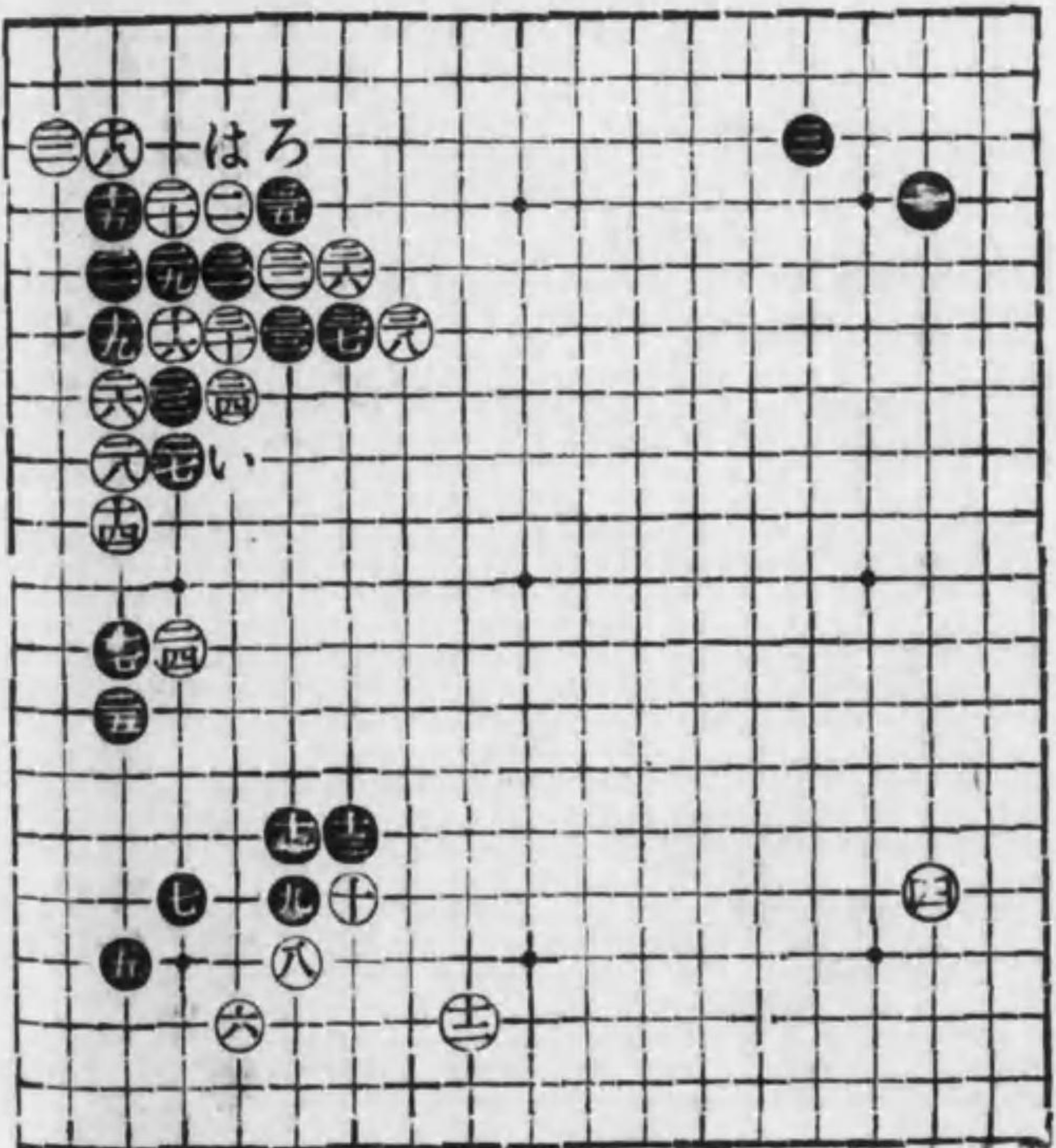


本譜は天明年間、酒井大學頭、主催の本因坊烈元、安井仙知、兩八段の實戦であつて、白三十八は――

黒(い)と征の防ぎ。また次に黒(ろ)に白(は)と――

即ち白三十八は一舉兩防實に巧い手所。

處で次譜に白大損じ、見損じとは――



即ち白四十八も絶妙であつたのに――

白五十四を(い)だと、黒

(ろ)白(は)と成つて――

その白(い)と(は)が、白

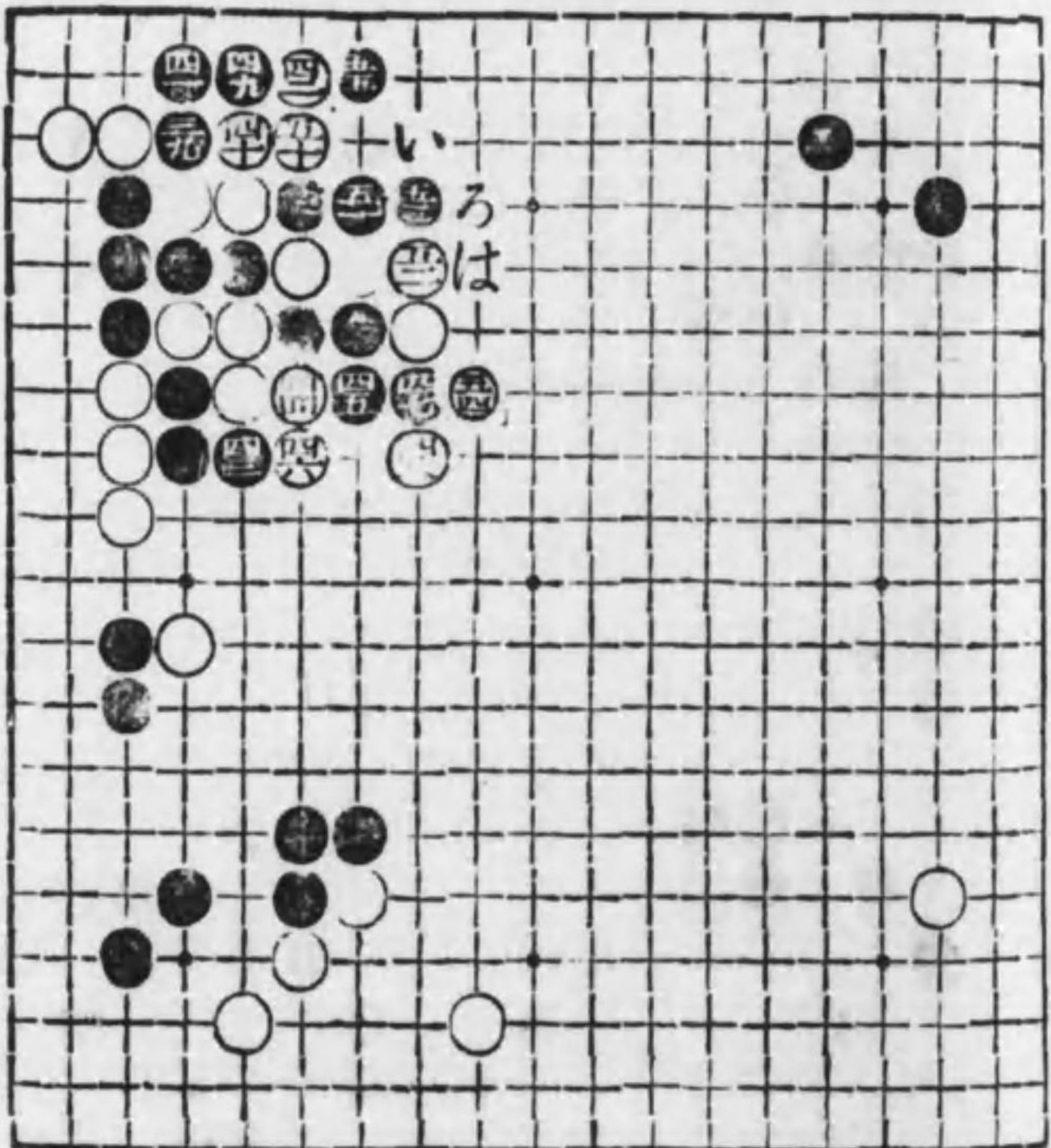
大勝の手所。

即ち黒五十五までは白の

悪果だからである。更に次

譜を観賞せられよ。殊に白

(は)の一手は絶妙。



白五十四を(い)が先づ白の巧い手所。

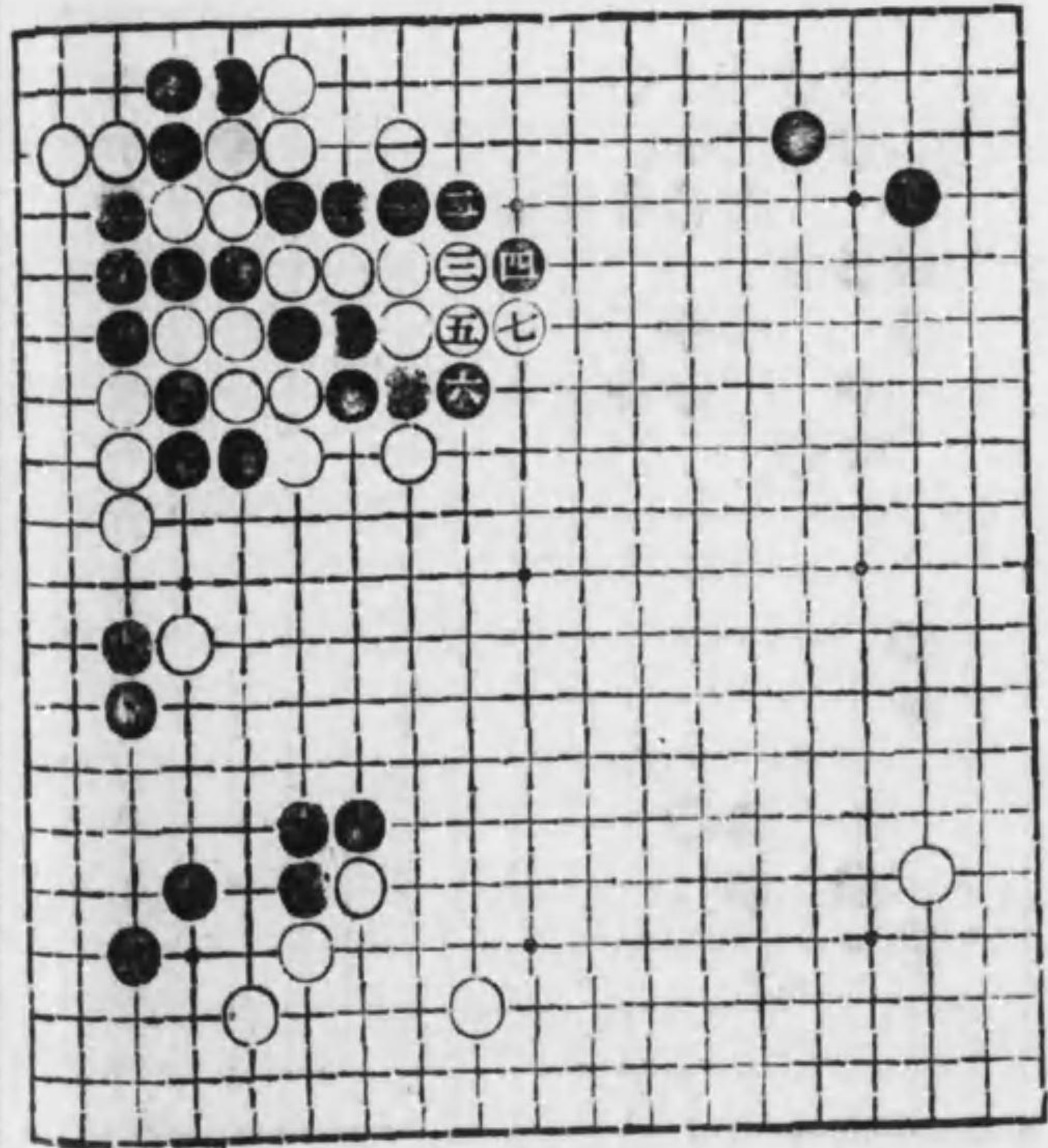
と言つた白(い)は本圖白一であつて、また白(は)の

絶妙は白三の所。

即ち白三は黒四に白五、

黒六に白七。と出て征に取られない——

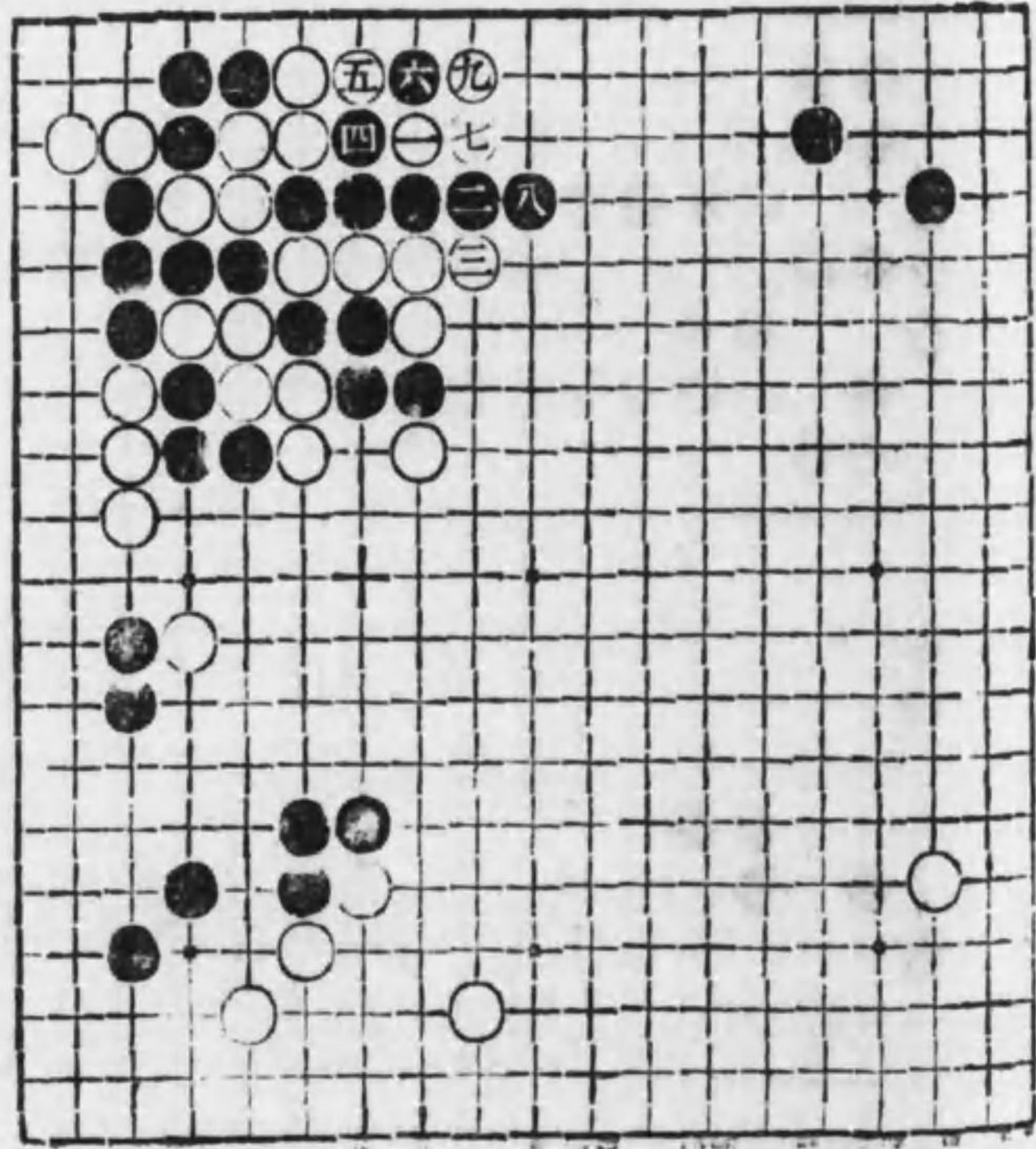
見られよオ下陣の方に白丸白一手在るからである。



なほ白三の時、黒四でも以下白九と成つて、黒惡果の白一の妙手である。

そして白三の方、依然として黒に取られない、重ねていふ白三の絶妙。

これを本因坊が目損じ、本因坊も苦笑の外はなかつた。とある。



上圖、黒一は以下白八と劫争の黒巧い手。白六は

黒六と黒に切られて悪いからである。

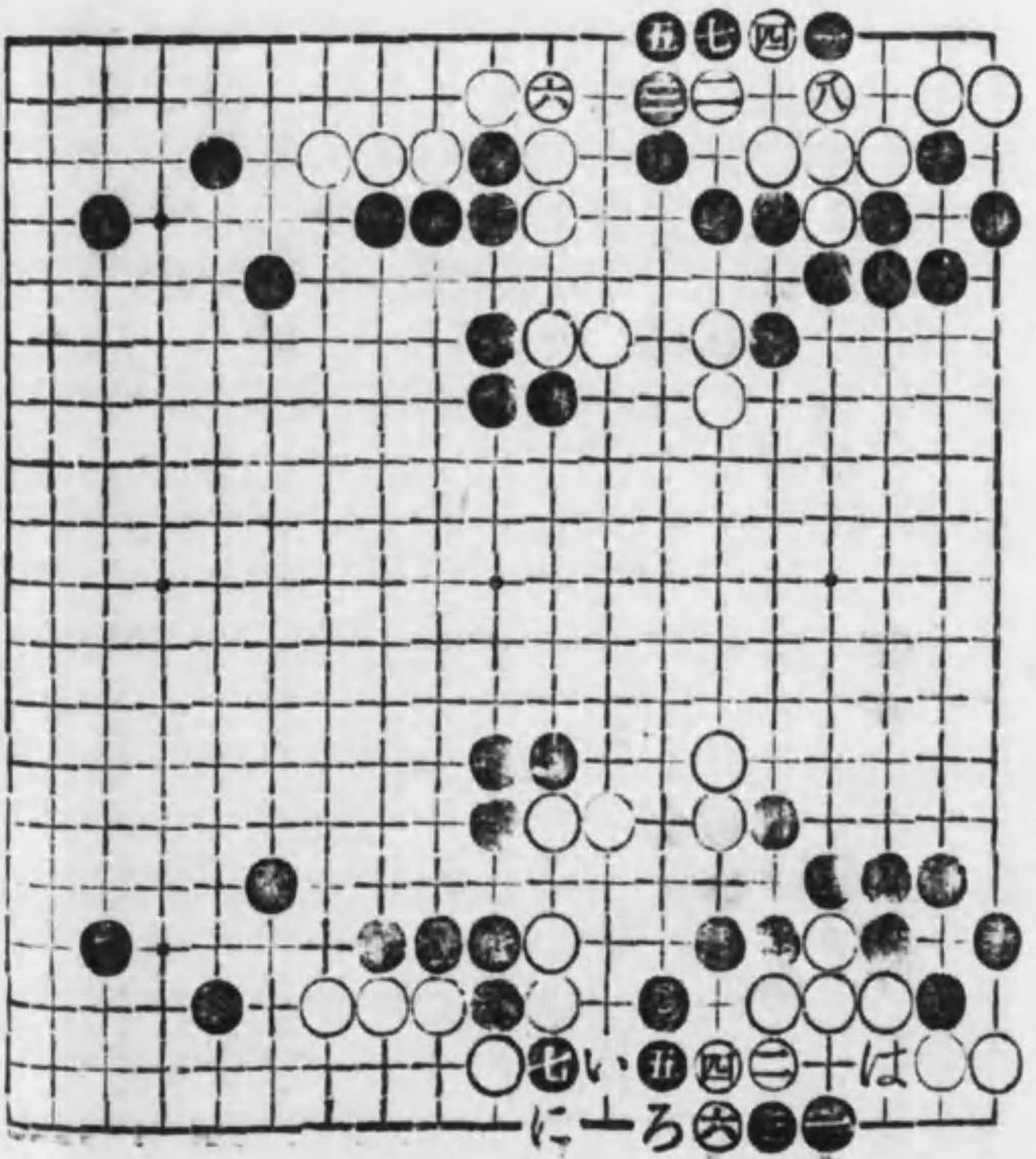
白二を下圖二だと、以下

黒七と成つて、即ち白(い)

は黒(ろ)。黒(ろ)は――

(は)と(に)斯くては上圖

より白黒果。と解る筈。



上圖、黒一は其他に無い以下黒五と黒活きに妙。

黒一で(い)だと、白(ろ)

また黒(は)なら白(に)。と

此れは白巧い手所。

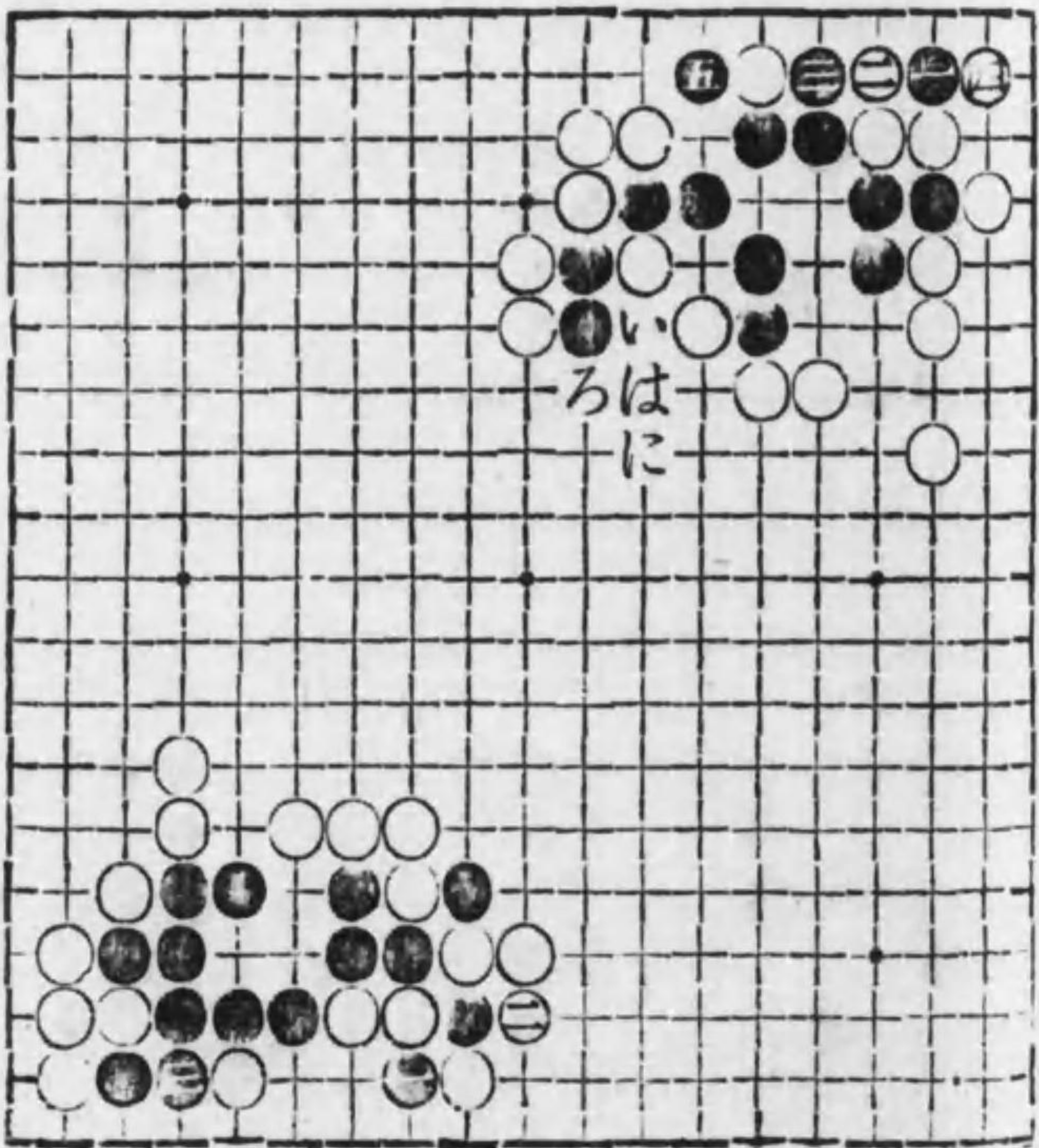
なほ黒一を三だと、白五で

黒拙い自滅である。と解る

筈。

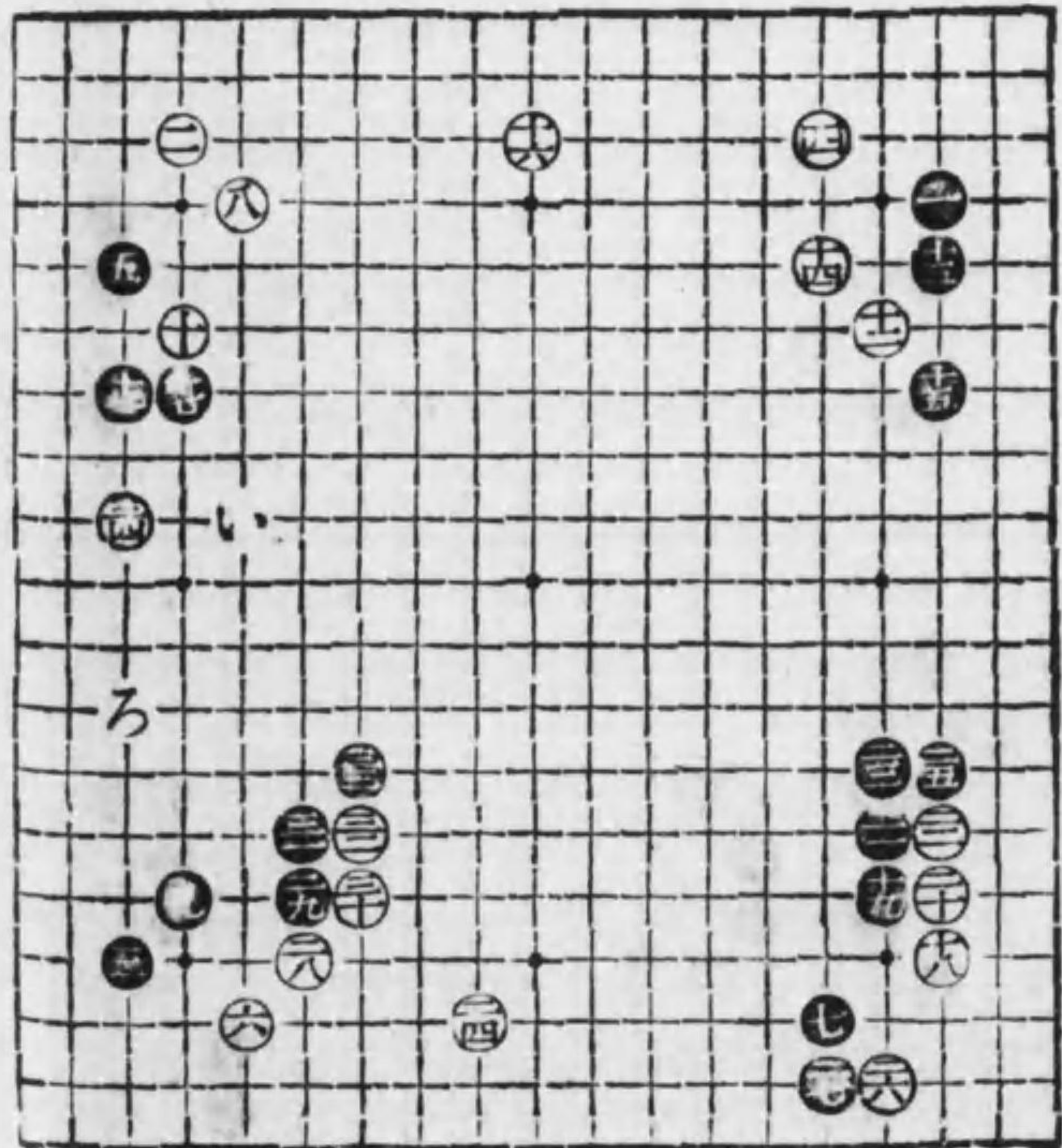
下圖黒一も以下三で黒活

きに妙。



本譜は天保年間、玄庵因碩で有名な八段井上因碩、これも時の名人本因坊丈和と大平頼で有名な七段赤星因徹、因徹先番の對局であつて妙手類々――

先づ白三十四は、次に黒(い)なら白(ろ)で一舉勝勢即ち黒地が白地に劣勢だからの巧い打込。

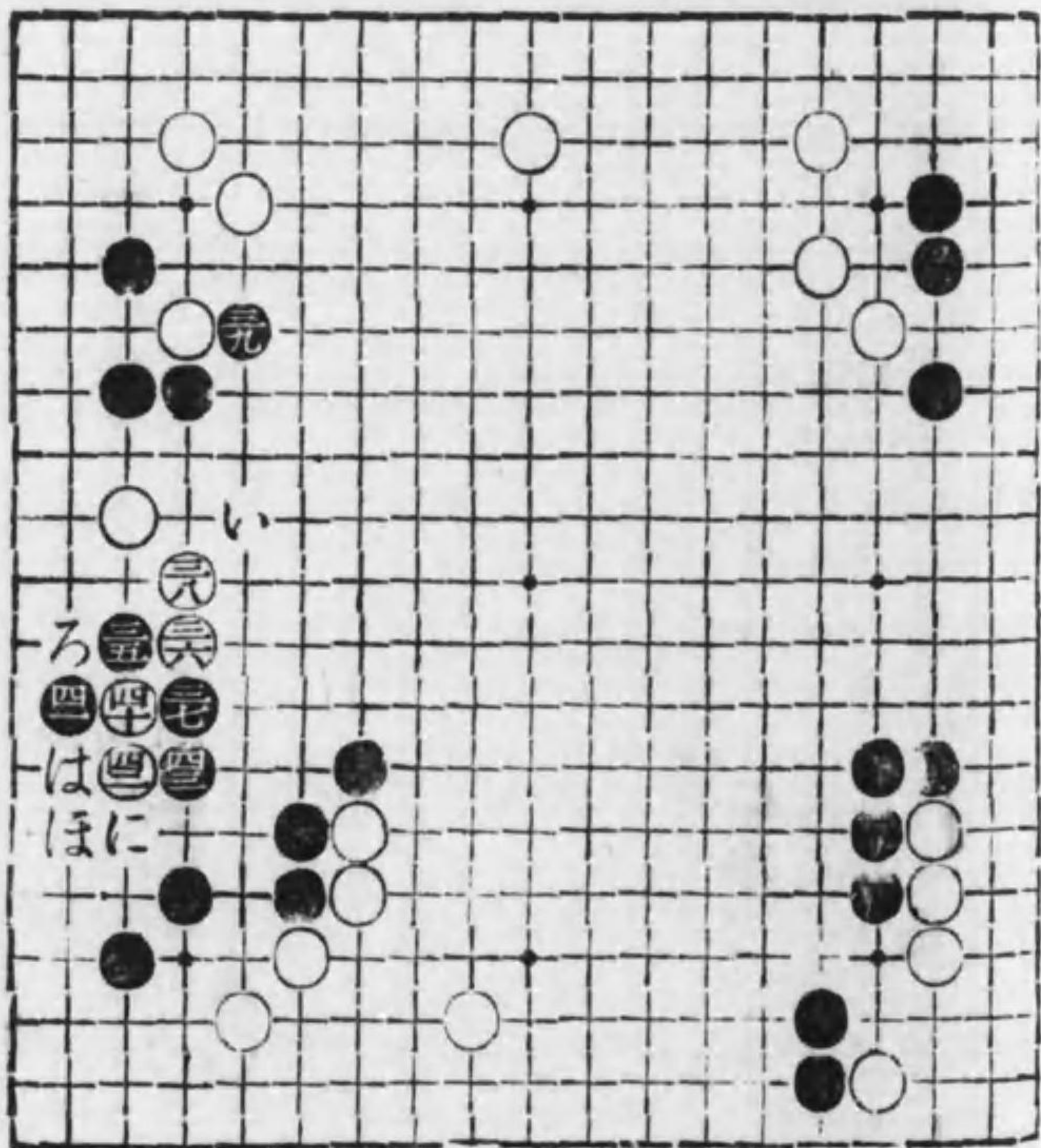


流石に黒も三十五で、黒三十五を(い)だと白四十と替つて、其白二子は取れない黒の敗勢である。

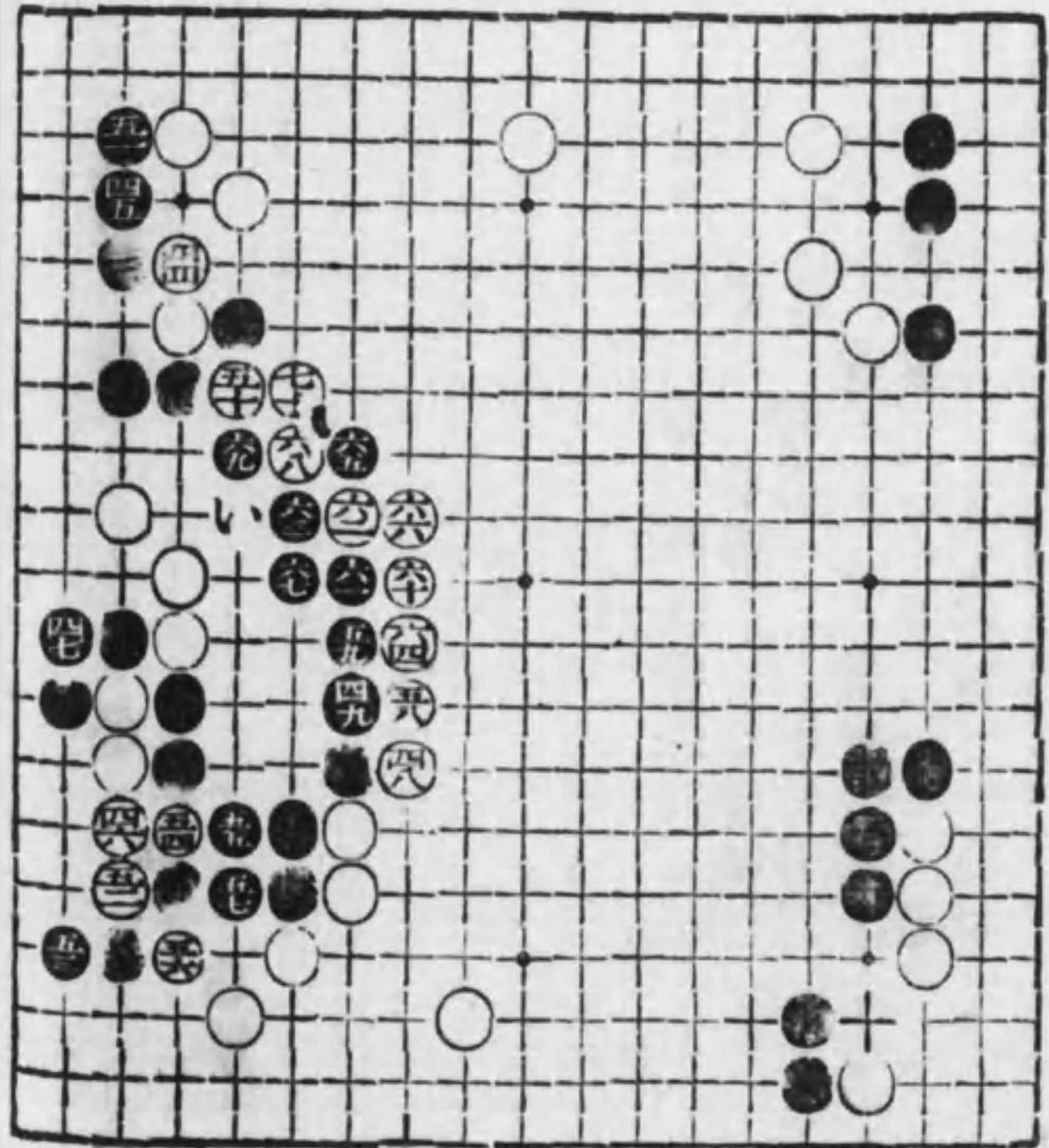
また黒四十一、四十三も巧い手所。

とは次に白(ろ)なら、黒(は)白(に)黒(ほ)まで。

と白を活かさぬ要領である。



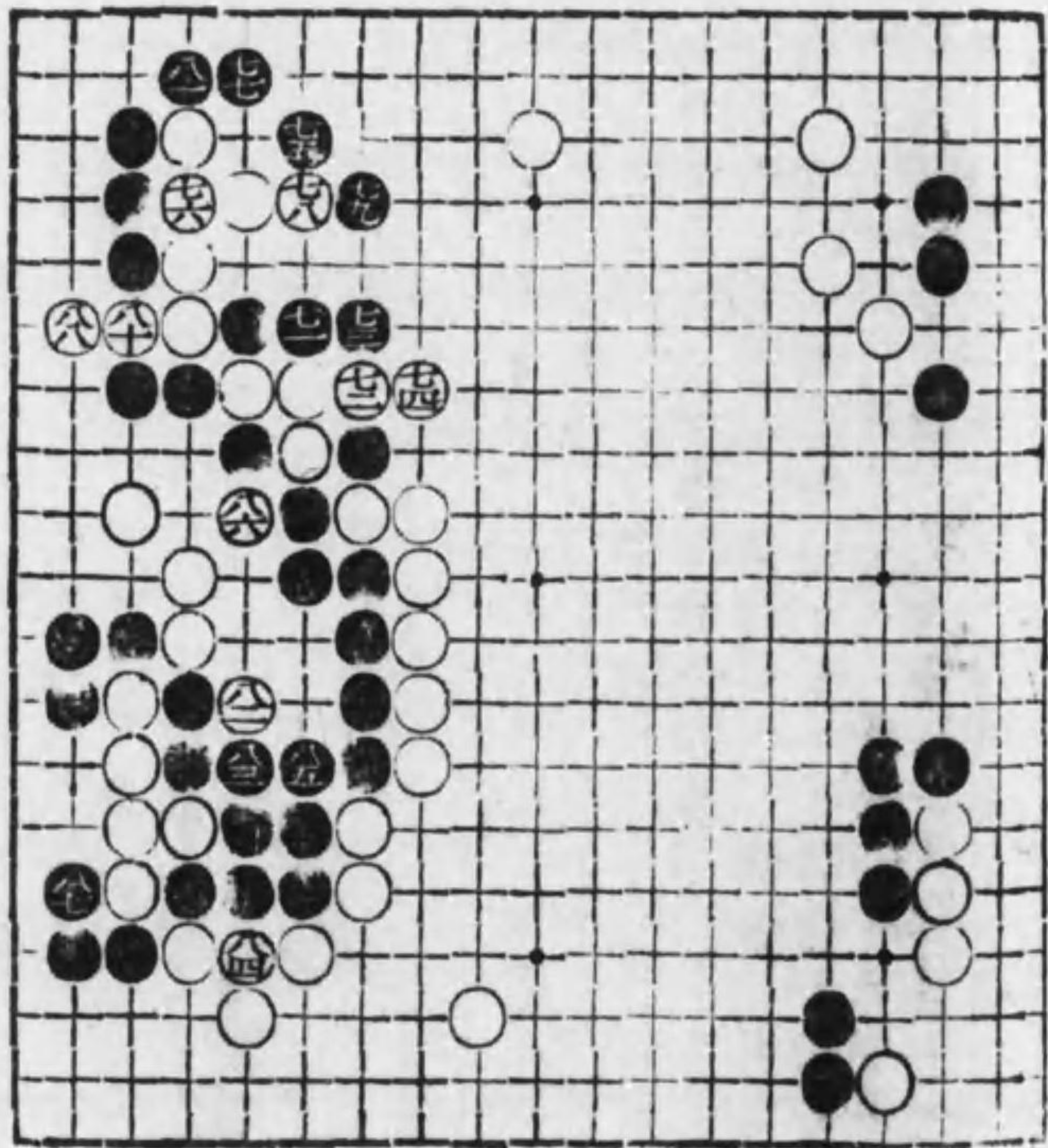
なほ前譜續行であつて、
 白四十六を四十七だと前述
 黒(ほ)までの白拙い手所。
 白四十六は以下白七十と
 成つて殊に白六十が巧い、
 一舉上邊から中央に白地擴
 大に妙。
 そして白(い)と手段も残
 つて。と解る等。即ち次譜
 白八十二より八十六まで。



本譜は黒七十一から、黒
 七十一を――

八十六だと白七十一で黒
 負け。

で以下先づ黒七十五と成
 つて、黒七十五は次に白七
 十八なら、黒七十六。と黒
 七十五の巧い手所である。
 が本局は黒負けであつた
 即ち前譜白五十四以下の捨
 石が妙。

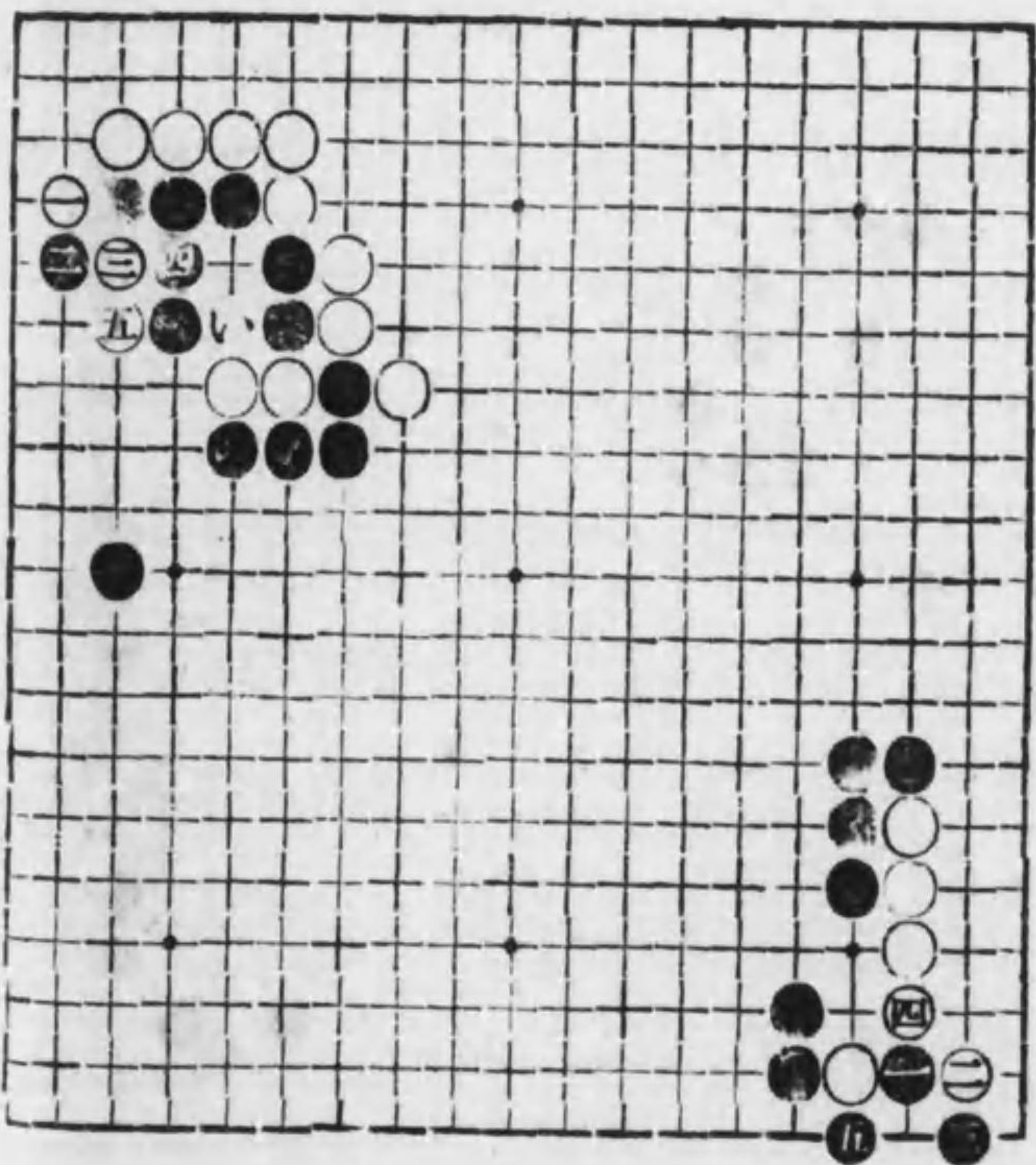


下圖は、前譜にも見られ
黒一以下五で、黒三と五が
巧い劫争の手所である。

上圖は、白一が妙。

即ち次に黒二なら、以下
白五まで白(い)と、それに
黒が困るからである。

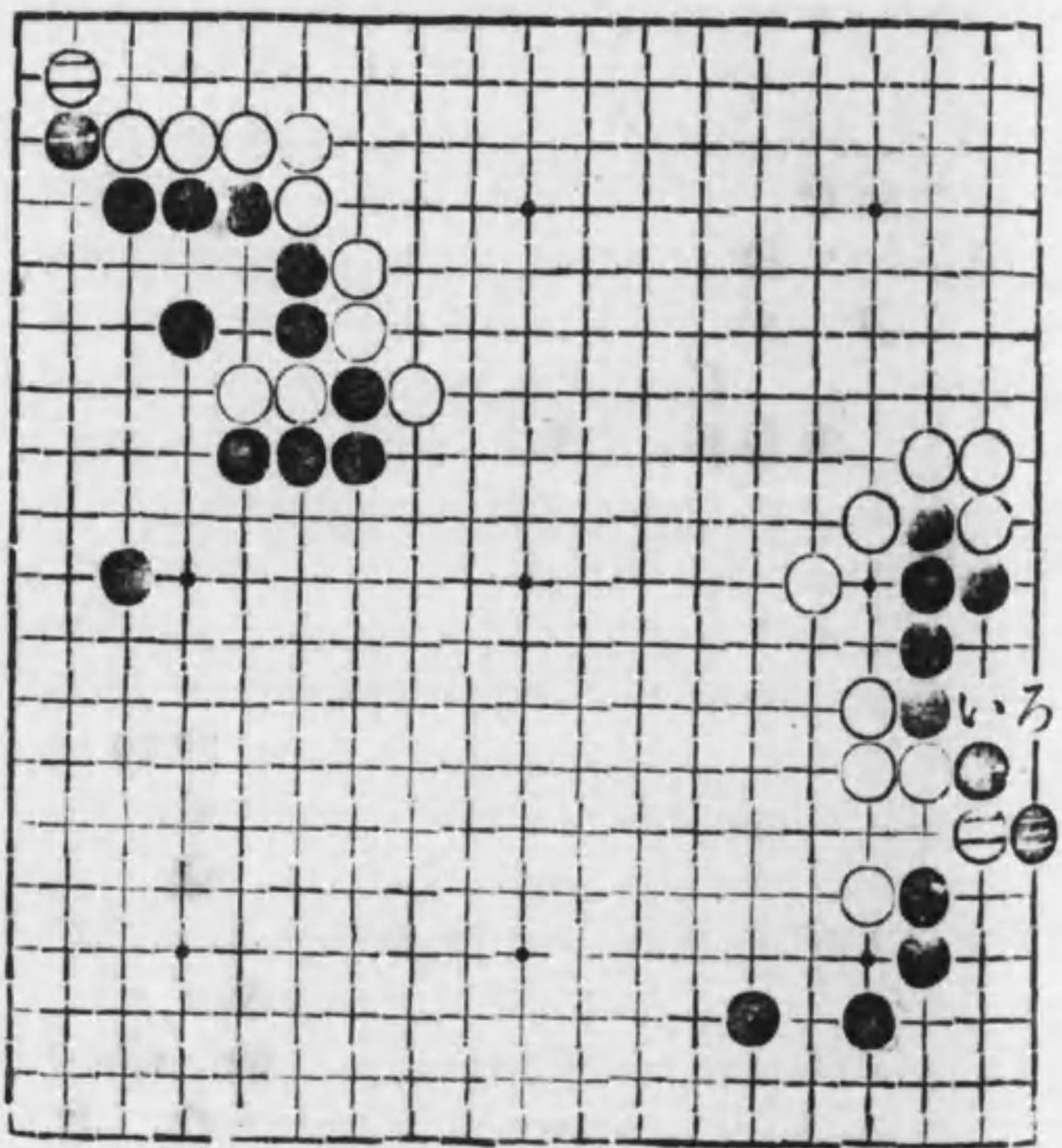
白三で先づ(い)も好手順
と味到されたいもの。



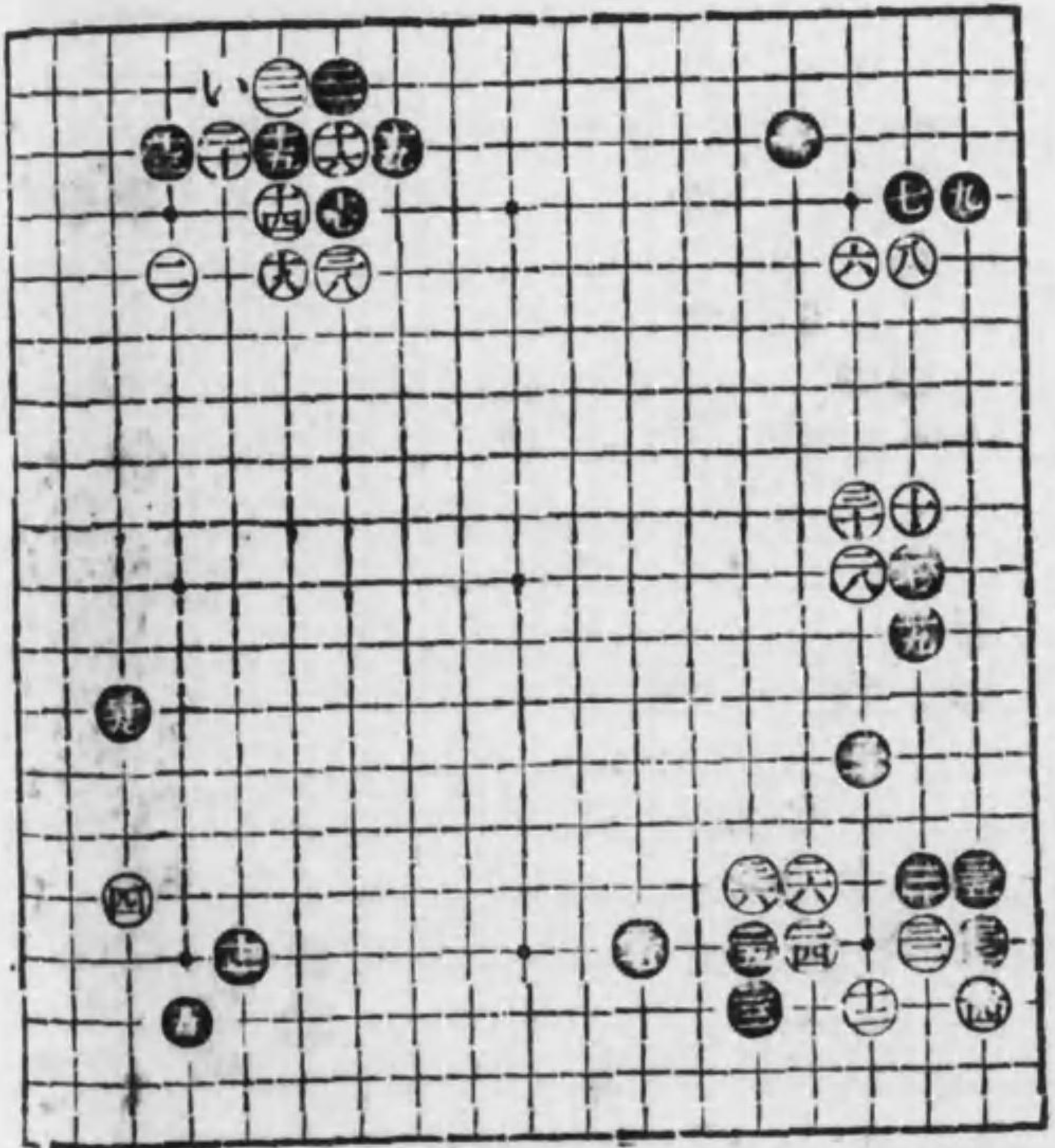
なほ上圖、黒一は白二と
替つて、即ち前圖白一以下
の手段解消に巧い手所。

白二を受けないなら、黒
二で其一手は二十目からの
大。

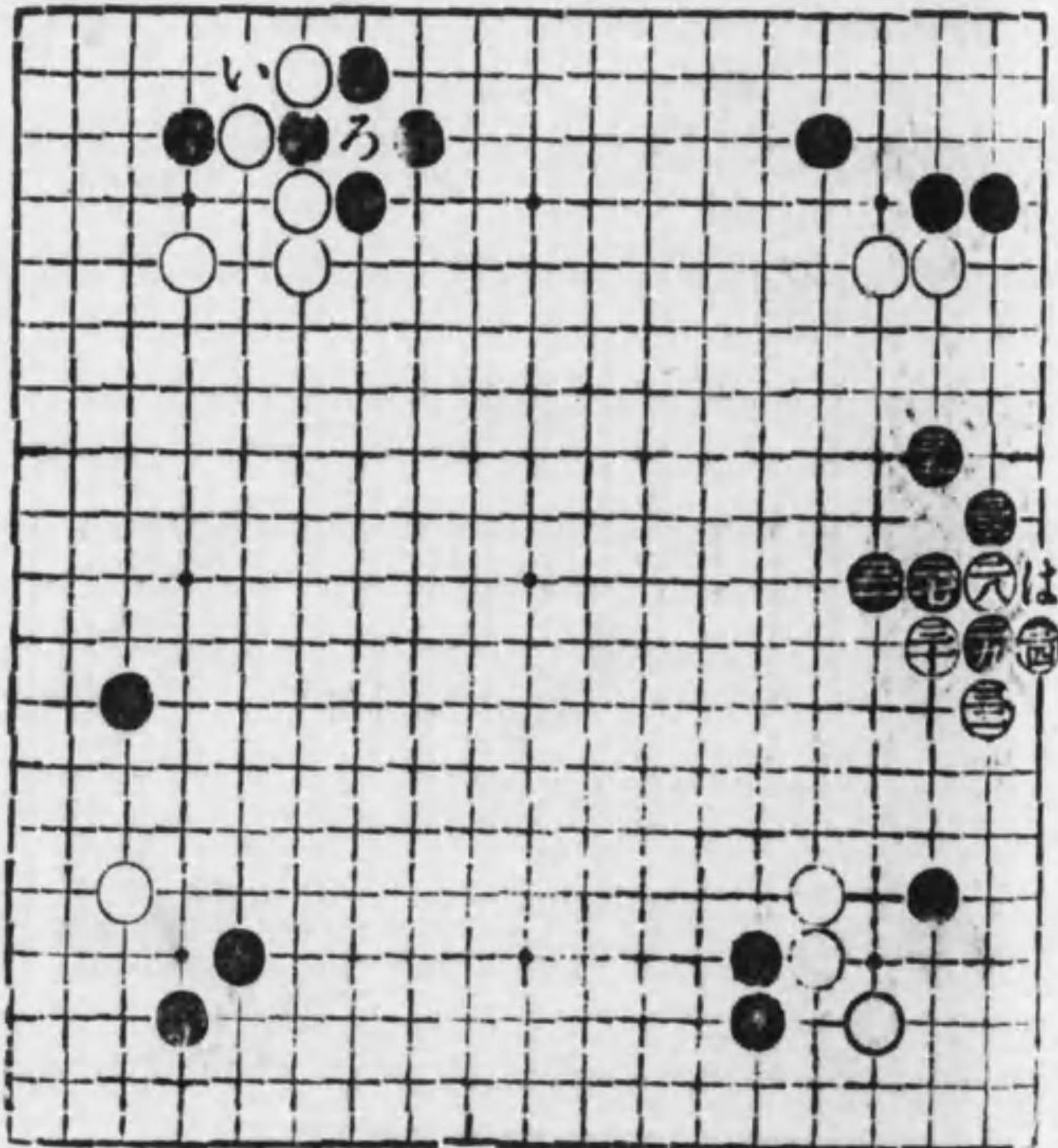
右側黒一と三は、黒五子
絶望でない渡りに妙。但し
次に白(い)なら、黒(ろ)と
劫争である。



本譜は弘化年間、本因坊秀和八段、太田雄藏七段、太田氏先番であつて、氏は氏獨特、即ち一と三等、それに名高い剛力無双。先づ黒二十三、また黒二十七も(い)の劫争利用である、巧い積極的手所。等で以下黒三十九まで、黒好成績である。

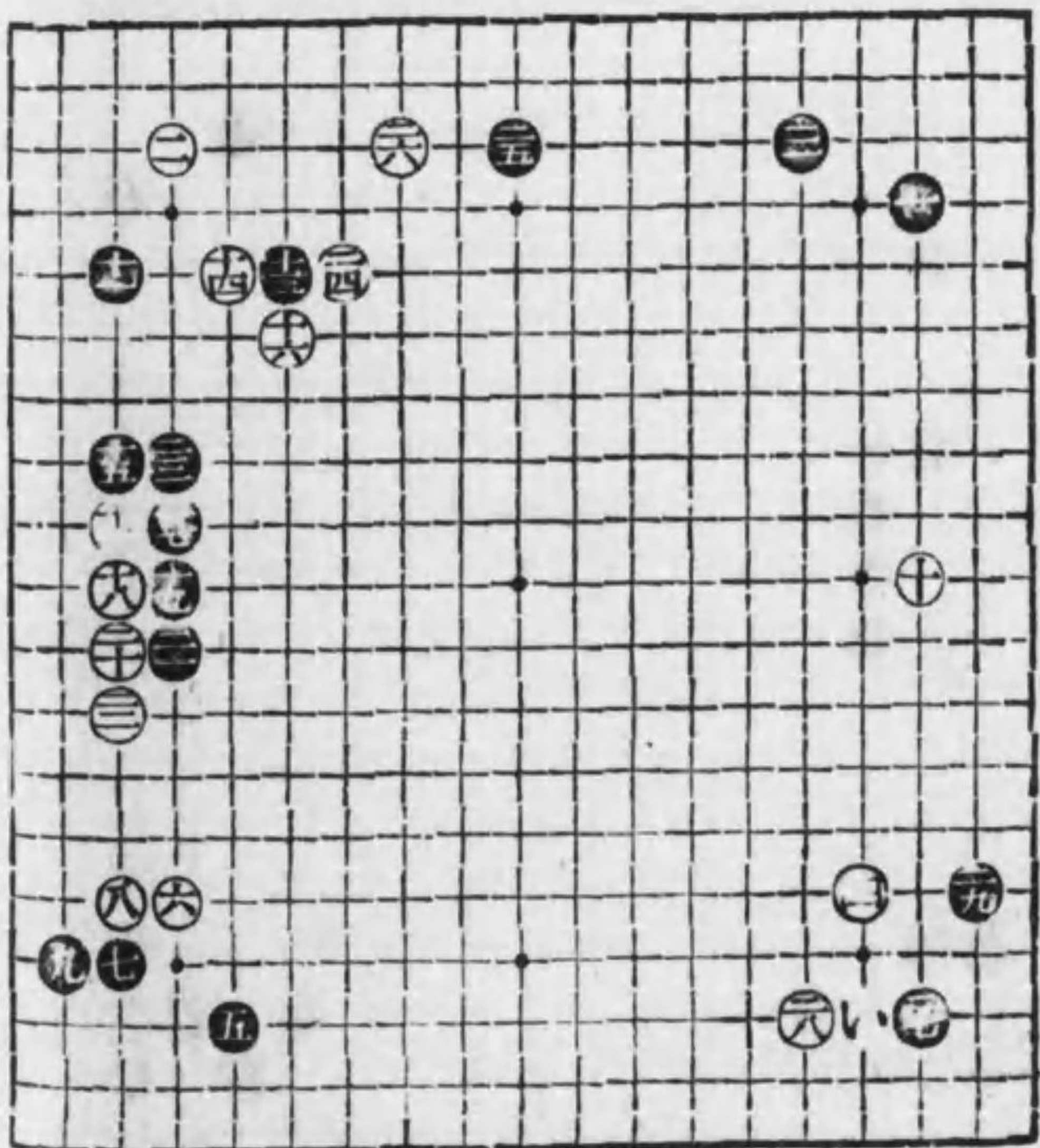


殊に黒二十七は、白二十八を本圖二十八なら黒二十九—として以下黒三十五までの變化も、黒待望の好展である。然し黒三十三で(い)白(ろ)黒三十三。等も黒巧い劫争である。即ち—次に白劫を(ろ)の左に粘げば黒(は)と白二十八の子取。と此れも黒待望の變化。



本譜も前同様の兩先生對局であつて秀和先番である
先づ黒十五が以下白二十
六と成つて、原理布石に黒
巧い手所。

また黒二十七も二十七を
(い)でない夫れが巧い手所
黒二十九と成つて大體黒
勝、其原理は次圖に明瞭で
ある。



先づ前譜白二十六までの
方は白丸白四手に現はれた
白四手で甚だ不利な圍い。
黒十三と白十六は黒不利
だが、夫れでは取返しにつ
かない。

また下方黒二十七は以下
白三十四と、白は大規模に
反し、黒は此際見榮えのな
い構え。と判断、悟る等。

